Nikon

デジタルカメラ

D780

活用ガイド

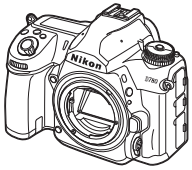
- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」（xxxviiiページ）も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに保管してください。

Jp

カメラと付属品を確認する

万一、付属品がそろっていない場合は、ご購入店にご連絡ください。

❏ カメラ本体



❏ ボディーキャップBF-1B



❏ 接眼目当てDK-31（カメラに装着済み）



❏ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b（端子カバー付）

❏ バッテリーチャージャー MH-25a（電源プラグ（直付け型）付）

❏ アイピースキャップDK-5

❏ USBケーブルUC-E24

❏ ストラップAN-DC21

❏ 保証書

❏ 使用説明書

- SDカードは別売です。
- レンズキットの場合はレンズも付属しています。別紙でレンズの使用説明書が入っている場合もあります。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。

D780 Model Name: N1722

ニコンダウンロードセンターについて

デジタルカメラやニッコールレンズ、スピードライトなどの説明書、ファームウェアおよびNX Studioなどのソフトウェアをダウンロードできます。

https://downloadcenter.nikonimglib.com/



本書について

■■ 文中のマークについて

本書では、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

☑	カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことなどを記載しています。
ヒント	カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
🕮	本書で関連情報が記載されているページです。

■■ 表記について

- このカメラではSDメモリーカードを使用します。本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- 本書では、スマートフォンおよびタブレットを「スマートフォン」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。本書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

⚠安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは🕮xxxviiiをご覧ください。

目 次

カメラと付属品を確認する ii
本書について iv
メニュー一覧 xxxii
安全上のご注意 xxxviii
ご確認ください xliv

各部の名称と機能 1

各部の名称 1
カメラ本体 1
電源スイッチ 7
表示パネル 8
ファインダー 9
ライブビュー画面（静止画 / 動画） 12
タッチパネル 14

撮影前の準備 21

カメラの準備をする 21
ストラップを取り付ける 21
バッテリーを充電する 22
バッテリーを入れる 24
レンズを取り付ける 25
SD カードを入れる 27
日付と時刻を設定する 30

バッテリーと SD カードの残量を確認する 33
バッテリー残量について 33
SD カード表示と記録可能コマ数について 34

撮影と再生の基本操作 36

静止画を撮影する（AUTO オート） 36
ファインダーを見ながら撮影する
（ファインダー撮影） 36
画像モニターを見ながら撮影する
（ライブビュー撮影） 40
動画を撮影する（AUTO オート） 45
動画撮影時に静止画を撮影する 50
撮影した画像を確認する 51
動画を再生する 53
画像を削除する 56

ボタンなどを使ったカメラの操作方法 57

MENU ボタンの使い方 57
メニュー項目の設定 58
i ボタン（i メニュー）の使い方 63
静止画撮影時の i メニュー 65
動画撮影時の i メニュー 66
再生時の i メニュー 67

Info ボタンの使い方 68
ファインダー撮影時 68
ライブビュー撮影時 69
撮影モードダイヤルの使い方 71
撮影モードの設定方法 72
レリーズモードダイヤルの使い方 73
レリーズモードの設定方法 73
フォーカスモードセレクターの使い方 75
AF モードボタンの使い方 76
AF モードの設定方法 77
AF エリアモードの設定方法 78
AF-ON ボタンの使い方 82
AE-L AF-L ボタンの使い方 82
AE ロック 83
フォーカスロック 83
AE ロック / フォーカスロックの方法 83
?/O-n（WB）ボタンの使い方 86
ホワイトバランスの設定方法 86
ISO（FORMAT）ボタンの使い方 91
ISO 感度の設定方法 91
感度自動制御機能の設定方法 93

ボタンの使い方 94
露出補正の設定方法 94
（**QUAL**）ボタンの使い方 95
画質モードの設定方法 95
画像サイズの設定方法 97
（）ボタンの使い方 99
測光モードの設定方法 99
（）ボタンの使い方 101
フラッシュモードの設定方法 101
調光補正の設定方法 103
BKT ボタンの使い方 104
Pv ボタンの使い方 105
Fn ボタンの使い方 106

撮影機能を設定する 107

撮影モードを設定する 107
撮影モード **P**、**S**、**A**、**M** を使う 109
ユーザーセッティングモード **U1**、**U2** を使う 115
スペシャルエフェクトモードを使う 119
撮影する画像の画質やサイズを設定する（撮像範囲、画質モード、画像サイズ） 129
撮像範囲に関する設定を変更する 129
画質モードを変更する 134
画像サイズを変更する 137

ピントの合わせ方を設定する（フォーカス）..... 139
フォーカスモードを切り換える..... 139
AF モードを変更する..... 140
AF エリアモードを変更する 145
フォーカスポイントを自分で選ぶ..... 159
マニュアルフォーカスで撮影する..... 162
画像の明るさに関する設定を行う（測光・露出）..... 166
明るさを測る方法を設定する..... 166
長時間露出で撮影する（撮影モード **M** のみ）..... 170
露出を固定して撮影する..... 173
露出補正して画像の明るさを調整する..... 175
シャッターをきるときの動作を設定する（レリーズモード）..... 178
1 コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、
レリーズモードを変更する 178
セルフタイマーを使って撮影する（ひ）..... 183
ミラーアップして撮影する（Mup）..... 185
光に対する感度を設定する（ISO 感度）..... 187
ISO 感度を変更する..... 187
感度自動制御機能を使う..... 190

光源に合わせて見た目に近い色で撮影する
（ホワイトバランス）..... 195
ホワイトバランスを合わせる 195
ホワイトバランスを微調整する 200
色温度を設定する 204
プリセットマニュアルで基準となる白を設定する... 209
明るさや WB などを変えながら撮影する
（オートブラケティング）..... 224
オートブラケティングの設定方法 225
AE ブラケティング、
フラッシュブラケティングの撮影方法 226
WB ブラケティングの撮影方法..... 232
ADL ブラケティングの撮影方法..... 238
画像の仕上がりを調整する（ピクチャーコントロール）..... 243
ピクチャーコントロールを選ぶ 243
ピクチャーコントロールを調整する 245
カスタムピクチャーコントロールを登録する..... 250
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する
（アクティブ D- ライティング、HDR）..... 254
アクティブ D- ライティングで撮影する 254
HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う 256

動画撮影と編集の機能 262

動画撮影時の撮像範囲について 262
画像サイズ / フレームレートおよび動画の画質について 264
スローモーション動画について 266
動画撮影時のご注意とヒント 268
動画を編集する 271
動画の必要な部分を残す 272
動画の 1 フレームを JPEG 画像として保存する 277
動画にインデックスマークを追加する 278

撮影の便利な機能 279

2 枚の SD カードに記録する（スロット 2 の機能） 279
同時記録した画像の削除 281
ボタン操作で基本的な機能を初期設定に戻す
（ツーボタンリセット） 282
静止画撮影メニュー項目 282
動画撮影メニュー項目 284
その他の撮影関連の機能 285

複数の画像を重ねて 1 枚の画像として写し込む（多重露出）..... 287
多重露出の設定項目 287
多重露出の撮影方法 290
i ボタンを使う..... 296
多重露出撮影を終了するには 297
設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）..... 298
インターバルタイマー撮影の設定項目 298
インターバルタイマー撮影の開始 303
インターバルタイマー撮影を一時停止するには 312
インターバルタイマー撮影を再開するには 313
インターバルタイマー撮影を途中で終了するには... 314
静止画をつないで動画にする（タイムラプス動画）..... 315
タイムラプス動画の設定項目 315
タイムラプス動画の撮影方法 318
ピント位置を変えながら連続撮影する
（フォーカスシフト撮影）..... 328
フォーカスシフト撮影の設定項目 329
フォーカスシフト撮影の撮影方法 331
電子シャッターを使って撮影する
（サイレント撮影（静止画 Lv））..... 340
ネガフィルムを反転表示して撮影する
（ネガフィルムデジタイズ）..... 343
i メニューの項目を変更する（i メニューのカスタマイズ）..... 347

非 CPU レンズを使う（レンズ情報手動設定）..... 349
レンズ情報の登録方法..... 351
手動設定済みレンズ情報の選択方法..... 352

画像の再生 353

画像を再生する..... 353
1 コマ表示モード..... 353
サムネイル表示モード..... 354
カレンダー表示モード..... 355
画像再生時のボタン操作..... 356
再生時にタッチパネルでできること..... 358
i ボタンを使う..... 361
画像情報を表示する..... 366
標準表示..... 367
露出情報..... 368
ハイライト表示..... 368
RGB ヒストグラム..... 369
撮影情報..... 371
位置情報表示..... 373
統合表示..... 374
画像を拡大表示する..... 376
拡大表示中の操作方法..... 376
プロテクトで画像を削除できないように保護をする..... 378
画像にレーティングを設定する..... 380

画像を選んで送信指定する 381
画像を削除する 383
ボタン操作で画像を削除する 383
複数の画像をまとめて削除する 385

パソコンやテレビとの接続 389

パソコンと接続する 389
USB ケーブルで接続する 389
無線 LAN（Wi-Fi）で接続する 394
HDMI 対応機器と接続する 396
テレビと接続する 397
外部レコーダーと接続する 397

ネットワークへ接続する 402

カメラのネットワークシステム図 402
スマートフォンと接続する 403
SnapBridge アプリについて 403
SnapBridge アプリを使ってできること 404
スマートフォンと無線接続するには 405
Wi-Fi モード（Wi-Fi で接続） 406
Bluetooth 接続 415

パソコンと Wi-Fi 接続する 430
Wi-Fi 接続してできること 430
Wireless Transmitter Utility について 430
カメラとパソコンの接続方法について 431
アクセスポイントモードの接続設定 433
インフラストラクチャーモードの接続設定 439
パソコンに画像を送信する 447
ネットワーク接続を解除 / 再接続する 451
WT-7 を装着してネットワーク接続する 453
WT-7 について 453
WT-7 を使ってできること 454
WT-7 を使ってネットワーク接続するには 456
内蔵無線機能使用時のトラブルシューティング 457

スピードライトをカメラに装着して撮影する 459

フラッシュ撮影の方法 459
一灯撮影 459
増灯撮影 459
別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影） 460
カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する 463
フラッシュモードを設定する 465
フラッシュモードの設定方法 468

調光補正してフラッシュの発光量を変更する 469
調光補正の設定方法 470
FV ロックして調光量を固定する 471
カメラに装着したスピードライトの設定を確認する 474
各発光モードの表示について 474

複数のスピードライトをワイヤレスで制御する 477

増灯撮影とは 477
増灯撮影の方法について 478
電波でリモートフラッシュを制御する 479
電波制御の準備をする 479
増灯発光モードを設定して撮影する 484
電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる 493
光でリモートフラッシュを制御する 494
SB-5000 または SB-500 を使用して撮影する 495
電波制御のリモートフラッシュと、光制御のリモートフラッシュを同時に使用する 506
フラッシュインフォ画面で増灯撮影時のスピードライトの設定を確認する 507
各発光モードの表示について 507

初期設定一覧 511
再生メニューの初期設定 511
静止画撮影メニューの初期設定 512
動画撮影メニューの初期設定 516
カスタムメニューの初期設定 518
セットアップメニューの初期設定 524
▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能 529
削除 530
再生フォルダー設定 530
再生画面設定 531
画像コピー 532
画像のコピー方法 533
撮影直後の画像確認 538
削除後の次再生画像 539
縦位置自動回転 540
スライドショー 540
スライドショーを再生する 541
レーティング 543

静止画撮影メニュー：静止画撮影で使える便利な機能 544
静止画撮影メニューのリセット 545
記録フォルダー設定 545
フォルダーグループ名変更 545
フォルダー番号指定 546
既存フォルダーから選択 548
ファイル名設定 550
スロット 2 の機能 551
撮像範囲 551
画質モード 551
画像サイズ 551
RAW 記録 552
圧縮方式 552
記録ビットモード 552
ISO 感度設定 553
ホワイトバランス 553
ピクチャーコントロール 553
カスタムピクチャーコントロール 554
色空間 554
アクティブ D- ライティング 555

長秒時ノイズ低減 556
高感度ノイズ低減 557
ヴィネットコントロール 558
回折補正 559
自動ゆがみ補正 560
フリッカー低減 561
フラッシュ発光 563
　　発光モード 564
　　ワイヤレス設定 565
　　増灯発光モード 566
　　電波リモートフラッシュ情報 566
オートブラケティング 567
多重露出 569
HDR（ハイダイナミックレンジ） 569
インターバルタイマー撮影 569
タイムラプス動画 570
フォーカスシフト撮影 570
サイレント撮影（静止画 Lv） 570

動画撮影メニュー：動画撮影で使える便利な機能 571
動画撮影メニューのリセット 572
ファイル名設定 572
動画記録先 572
撮像範囲 573
DX 自動切り換え 573
画像サイズ / フレームレート 573
動画の画質 574
動画記録ファイル形式 574
ISO 感度設定 575
ホワイトバランス 576
ピクチャーコントロール 577
カスタムピクチャーコントロール 577
アクティブ D- ライティング 577
高感度ノイズ低減 578
回折補正 578
フリッカー低減 579
電子手ブレ補正 580
マイク感度 581
アッテネーター 582

録音帯域 582
風切り音低減 583
ヘッドホン音量 583
タイムコード 584
カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定 586
カスタムメニューのリセット 590
a：オートフォーカス 590
a1：AF-C モード時の優先 590
a2：AF-S モード時の優先 591
a3：AF ロックオン 592
a4：3D- トラッキング時の顔認識 592
a5：オートエリア AF 時の顔と瞳認識 593
a6：AF 点数 594
a7：縦 / 横位置フォーカスポイント切換 595
a8：半押し AF レンズ駆動 597
a9：フォーカスポイント循環選択 597
a10：フォーカスポイント表示の設定 598
フォーカスポイント照明 598
マニュアルフォーカス時の表示 598
ダイナミック AF モード時のアシスト表示 599
a11：ローライト AF 599
a12：AF 設定時のフォーカスリング操作 600

b：露出・測光 601
b1：露出設定ステップ幅 601
b2：露出補正簡易設定 602
b3：マルチパターン測光 603
b4：中央部重点測光範囲 603
b5：基準露出レベルの調節 604
c：AE ロック・タイマー 605
c1：シャッターボタン AE ロック 605
c2：半押しタイマー 605
c3：セルフタイマー 606
c4：モニターのパワーオフ時間 606
d：撮影・記録・表示 607
d1：低速連続撮影速度 607
d2：連続撮影コマ数 607
d3：連動レリーズモード設定 608
d4：露出ディレーモード 608
d5：電子先幕シャッター 609
d6：M モード時のシャッタースピード延長 610
d7：連番モード 611
d8：EFFECTS 時の元画像保存 613
d9：露出プレビュー（Lv） 614

d10：格子線表示.....615
d11：ピーキング表示.....615
d12：イルミネーター点灯.....616
d13：連続撮影中の表示（Lv）.....616
d14：光学手ブレ補正.....617
e：フラッシュ・BKT 撮影..... 618
e1：フラッシュ撮影同調速度 618
e2：フラッシュ時シャッタースピード制限 620
e3：フラッシュ使用時の露出補正 620
e4：ϟ 使用時の感度自動制御 621
e5：モデリング発光.....621
e6：BKT の順序.....622
f：操作..... 623
f1：i メニューのカスタマイズ.....623
メモリーカード情報表示..... 624
レリーズモード情報表示..... 624
Bluetooth 通信機能..... 625
Wi-Fi 通信機能..... 625
f2：i メニューのカスタマイズ（Lv）.....626
f3：カスタムボタンの機能 628

f4：OK ボタンの機能 635
ファインダー撮影時 635
ライブビュー撮影時 635
再生時 636
f5：コマンドダイヤルの設定 637
回転方向の変更 637
メインとサブの入れ換え 637
絞り値の設定方法 638
再生 / メニュー画面で使用 639
サブコマンドダイヤルで画像送り 640
f6：ボタンのホールド設定 641
f7：インジケーターの＋ / －方向 642
f8：☀ スイッチの機能 642
g：動画 643
g1：i メニューのカスタマイズ 643
マルチセレクターによるパワー絞り 644
マルチセレクターによる露出補正 644
g2：カスタムボタンの機能 645
g3：AF 速度 650
g4：AF 追従感度 652
g5：ハイライト表示 653
表示パターン 653
ハイライト表示のしきい値 653

セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定..... 654
カードの初期化（フォーマット）.....656
ユーザーセッティングの登録.....657
ユーザーセッティングのリセット.....657
言語（Language）.....657
地域と日時.....658
モニターの明るさ.....658
モニターのカラーカスタマイズ.....659
水準器表示.....661
インフォ画面の表示設定.....662
AF 微調節の設定.....663
AF 微調節の設定と微調節値の登録方法 665
未登録レンズ装着時の微調整値の設定方法 667
AF 微調節の自動設定..... 668
レンズ情報手動設定.....672
イメージセンサークリーニング.....673
クリーニングミラーアップ.....674
イメージダストオフデータ取得.....675
イメージダストオフデータ取得の手順..... 675
ピクセルマッピング.....679

画像コメント 681
コメント入力 681
コメント添付 681
著作権情報 682
撮影者名入力、著作権者名入力 682
著作権情報添付 683
電子音 684
電子音設定 684
音量 685
音の高さ 685
タッチ操作 686
タッチ操作の設定 686
1 コマ送り時のフリック操作 686
HDMI 686
位置情報 687
リモコン（WR）設定 688
LED ランプの点灯 688
リンクモード 689
リモコン（WR）の Fn ボタンの機能 691
機内モード 691

スマートフォンと接続 692
ペアリング（Bluetooth） 692
送信指定（Bluetooth） 693
Wi-Fi 接続 694
PC と接続 696
Wi-Fi 通信機能 696
接続設定 696
オプション 698
MAC アドレス 699
ワイヤレストランスミッター（WT-7） 700
ワイヤレストランスミッター 700
認証マークの表示 700
電池チェック 701
カードなし時レリーズ 702
メニュー設定の保存と読み込み 703
保存 707
読み込み 707
カメラの初期化 708
ファームウェアバージョン 708

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能 709
画像編集の操作方法 710
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する）..... 713
トリミング..... 719
リサイズ..... 720
複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する 720
D- ライティング..... 726
簡単レタッチ..... 727
赤目補正..... 728
傾き補正..... 729
ゆがみ補正..... 730
アオリ効果..... 732
モノトーン..... 733
画像合成..... 734
加算..... 734
比較明合成、比較暗合成 738
動画編集（始点 / 終点設定）..... 743
マイメニュー /最近設定した項目 744
マイメニュー：よく使うメニューを登録する..... 745
最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる..... 750

困ったときは 751

お問い合わせになる前に 751
故障かな？と思ったら 753
電源・表示関連 753
撮影関連 754
再生関連 762
Wi-Fi（無線 LAN）および Bluetooth 関連 764
その他 764
警告表示と警告メッセージ 765
警告表示 765
警告メッセージ 769

資料 773

全画面表示 773
ファインダー 773
インフォ画面 776
ライブビュー画面（静止画 / 動画） 780
表示パネル 784
使用できる F マウントレンズ 786
CPU レンズ 786
非 CPU レンズなど 792
フォーカスエイドの制限について 796

使用できるスピードライト 798
ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について 798
使用できるアクセサリー 808
カメラとパワーコネクター、AC アダプターの接続方法 814
本体充電 AC アダプターを使用して充電する 816
ソフトウェア / アプリケーション 819
カメラのお手入れについて 821
保管について 821
クリーニングについて 822
ローパスフィルターのお手入れについて 823
カメラとバッテリーの使用上のご注意 832
カメラの取り扱い上のご注意 832
バッテリーの使用上のご注意 836
チャージャーの使用上のご注意 839
本体充電 AC アダプターの使用上のご注意 839
主な仕様 840
ニコンデジタルカメラ D780 840
使用できる SD カード 860
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数 861
撮像範囲が［FX（36×24）］の場合 862
撮像範囲が［DX（24×16）］の場合 864

撮影可能コマ数（電池寿命）について 867
商標およびソフトウェアの著作権とライセンスについて 870
キットレンズの説明書 874
レンズキットのレンズについて 874
AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR 説明書 874
索引 887

メニュー一覧

このカメラには次のメニューがあります。各メニューの詳しい説明については、「活用ガイド」に記載されている「メニューガイド」の項目をご覧ください。なお、カメラの設定、装着されているレンズやスピードライトなどのアクセサリーによっては、表示されないメニューがあります。

再生メニュー
削除
再生フォルダー設定
再生画面設定
画像コピー
撮影直後の画像確認
削除後の次再生画像
縦位置自動回転
スライドショー
レーティング

静止画撮影メニュー
静止画撮影メニューのリセット
記録フォルダー設定
ファイル名設定
スロット2の機能
撮像範囲
画質モード
画像サイズ
RAW記録
ISO感度設定

静止画撮影メニュー
ホワイトバランス
ピクチャーコントロール
カスタムピクチャーコントロール
色空間
アクティブD-ライティング
長秒時ノイズ低減
高感度ノイズ低減
ヴィネットコントロール
回折補正
自動ゆがみ補正
フリッカー低減
フラッシュ発光
オートブラケティング
多重露出
HDR（ハイダイナミックレンジ）
インターバルタイマー撮影
タイムラプス動画
フォーカスシフト撮影
サイレント撮影（静止画Lv）

動画撮影メニュー
動画撮影メニューのリセット
ファイル名設定
動画記録先
撮像範囲
画像サイズ/フレームレート
動画の画質
動画記録ファイル形式
ISO感度設定
ホワイトバランス
ピクチャーコントロール
カスタムピクチャーコントロール
アクティブD-ライティング
高感度ノイズ低減
回折補正
フリッカー低減
電子手ブレ補正
マイク感度
アッテネーター
録音帯域
風切り音低減
ヘッドホン音量
タイムコード

カスタムメニュー		
カスタムメニューのリセット		
a オートフォーカス		
	a1	AF-Cモード時の優先
	a2	AF-Sモード時の優先
	a3	AFロックオン
	a4	3D-トラッキング時の顔認識
	a5	オートエリアAF時の顔と瞳認識
	a6	AF点数
	a7	縦/横位置フォーカスポイント切換
	a8	半押しAFレンズ駆動
	a9	フォーカスポイント循環選択
	a10	フォーカスポイント表示の設定
	a11	ローライトAF
	a12	AF設定時のフォーカスリング操作

カスタムメニュー		
b 露出・測光		
	b1	露出設定ステップ幅
	b2	露出補正簡易設定
	b3	マルチパターン測光
	b4	中央部重点測光範囲
	b5	基準露出レベルの調節
c AEロック・タイマー		
	c1	シャッターボタンAEロック
	c2	半押しタイマー
	c3	セルフタイマー
	c4	モニターのパワーオフ時間

カスタムメニュー		
d 撮影・記録・表示		
	d1	低速連続撮影速度
	d2	連続撮影コマ数
	d3	連動レリーズモード設定
	d4	露出ディレーモード
	d5	電子先幕シャッター
	d6	Mモード時のシャッタースピード延長
	d7	連番モード
	d8	EFFECTS時の元画像保存
	d9	露出プレビュー（Lv）
	d10	格子線表示
	d11	ピーキング表示
	d12	イルミネーター点灯
	d13	連続撮影中の表示（Lv）
	d14	光学手ブレ補正

カスタムメニュー		
e フラッシュ・BKT撮影		
	e1	フラッシュ撮影同調速度
	e2	フラッシュ時シャッタースピード制限
	e3	フラッシュ使用時の露出補正
	e4	ϟ使用時の感度自動制御
	e5	モデリング発光
	e6	BKTの順序
f 操作		
	f1	iメニューのカスタマイズ
	f2	iメニューのカスタマイズ（Lv）
	f3	カスタムボタンの機能
	f4	OKボタンの機能
	f5	コマンドダイヤルの設定
	f6	ボタンのホールド設定
	f7	インジケーターの＋/－方向
	f8	☀スイッチの機能

カスタムメニュー		
g 動画		
	g1	iメニューのカスタマイズ
	g2	カスタムボタンの機能
	g3	AF速度
	g4	AF追従感度
	g5	ハイライト表示

セットアップメニュー
カードの初期化（フォーマット）
ユーザーセッティングの登録
ユーザーセッティングのリセット
言語（Language）
地域と日時
モニターの明るさ
モニターのカラーカスタマイズ
水準器表示
インフォ画面の表示設定

セットアップメニュー
AF微調節の設定
レンズ情報手動設定
イメージセンサークリーニング
クリーニングミラーアップ
イメージダストオフデータ取得
ピクセルマッピング
画像コメント
著作権情報
電子音
タッチ操作
HDMI
位置情報
リモコン（WR）設定
リモコン（WR）のFnボタンの機能

セットアップメニュー
機内モード
スマートフォンと接続
PCと接続
ワイヤレストランスミッター (WT-7)
認証マークの表示
電池チェック
カードなし時レリーズ
メニュー設定の保存と読み込み
カメラの初期化
ファームウェアバージョン

画像編集メニュー
RAW現像
トリミング
リサイズ
D-ライティング
簡単レタッチ
赤目補正
傾き補正
ゆがみ補正
アオリ効果
モノトーン
画像合成
動画編集（始点/終点設定）

マイメニュー
マイメニュー登録
登録項目の削除
登録項目の順序変更
このタブの機能変更

安全上のご注意

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
この説明書をお読みになった後は、いつでも参照できるように保管してください。

⚠	**危険** 「死亡または重傷を負うおそれが大きい内容」です。
⚠	**警告** 「死亡または重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠	**注意** 「軽傷を負うことや財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

お守りいただく内容を、以下の図記号で区分しています。

⃠	は、してはいけない内容です。
❗	は、実行しなければならない内容です。

⚠警告

⃠ **禁止**	**歩きながらや運転・操縦しながらの操作はしない** 事故やけがの原因になります。
⃠ **分解禁止**	**分解、修理または改造をしない** **落下などによる破損で内部が露出したら、露出部に触らない** 感電やけがの原因になります。
❗ **実行**	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、直ちに電池や電源を取り外す** 放置すると、発火、やけどの原因になります。



禁止

水でぬらさない
ぬれた手で触らない
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電や発火の原因になります。



禁止

電源を入れたまま長時間直接触らない
低温やけどの原因になります。



禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使うと、爆発や火災の原因になります。



禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ない
失明や視力障碍の原因になります。



禁止

フラッシュや AF 補助光を運転者にむけて発光しない
事故の誘発につながります。



禁止

幼児の手の届くところに置かない
故障やけがの原因になります。
小さな付属品を誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。



禁止

ストラップ類を首に巻きつけない
事故の原因になります。



禁止

指定外の電池、充電器、AC アダプターは使わない
指定の電池、充電器、AC アダプターを使う際は、以下の点に注意する
- **コードやケーブルを傷つけたり、加工したりしない**
  重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、無理に曲げたりしない
- **海外旅行者用電子式変電圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わない**

発火、感電の原因になります。



禁止

充電時や AC アダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触らない
感電の原因になります。



接触禁止

高温環境や低温環境では、直接触らない
やけどや低温やけど、凍傷の原因になることがあります。

⚠注意



禁止

レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない
集光して、内部部品の破損や発火の原因になることがあります。
逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。
画角から太陽をわずかに外しても、発火の原因になります。



実行

使用が禁止されている場所では、電源を OFF にする
無線通信が禁止されている場所では、無線通信機能が作動しないようにする
医療機関や航空機内では、本機器が出す電磁波が、周囲の機器に悪影響を与えるおそれがあります。



実行 **長時間使わないときは、電池や AC アダプターを取り外す**
故障や発火の原因になります。



接触禁止 **フラッシュを人体やものに密着させて発光させない**
やけどや発火の原因になります。



禁止 **夏場の車内や直射日光の当たる所など高温環境に放置しない**
故障や発火の原因になります。



禁止 **AF 補助光を直接見ない**
視覚に悪影響を及ぼすことがあります。



禁止 **三脚などにカメラやレンズを取り付けたまま移動しない**
故障やけがの原因になります。

⚠危険（電池について）

禁止

電池は誤った使いかたをしない
注意事項を無視してお使いになると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
- 充電池は、専用の充電池以外を使わない
- 電池を火の中に入れたり、加熱したりしない
- 電池を分解しない
- 電池をネックレスやヘアピンなどの金属類に接触させてショート（短絡）しない
- 電池、または電池の入った製品に強い衝撃を与えたり、投げたりしない
- 電池に釘を刺したり、電池をハンマーで叩いたり、踏みつけたりしない

実行

指定の方法で充電する
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

実行

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受ける
放置すると、目に傷害を与える原因になります。

実行

航空機内に持ち込むときは、航空会社の指示に従う
超高度の気圧が低いところに放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

⚠警告（電池について）

 禁止	**電池を乳幼児の手の届く所に置かない** 飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。
 禁止	**電池をペットなどが触れる場所に置かない** 噛みつきなどにより、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
 禁止	**水につけたり、雨にぬらしたりしない** 発火や故障の原因になります。 ぬれてしまったら、乾いたタオルなどで十分にふき取ってください。
 禁止	**変色・変形、そのほか異状に気づいたら使わない** **リチャージャブルバッテリー EN-EL15b は、所定の時間を超えても充電が完了しなければ、充電を中止する** 放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
 実行	**使用済みの電池は、ビニールテープなどで接点部を絶縁する** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因になります。
 実行	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたら、すぐにきれいな水で洗い流す** 放置すると、皮膚のかぶれなどの原因になります。

ご確認ください

● 保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、直ちに購入店にご請求ください。

● カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。
https://www.nikon-image.com/support/

● 大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

● 本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。



- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15bには、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

● 説明書について

- 使用説明書、活用ガイドおよびオンラインマニュアルの一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 「使用説明書」が破損などで判読できなくなったときは、ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入できます（有料）。

● 著作権について

カメラで著作物を撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、個人として楽しむなどの目的であっても、実演や興行、展示物などは、撮影や録音が制限されている場合がありますのでご注意ください。

● 電波障害自主規制について

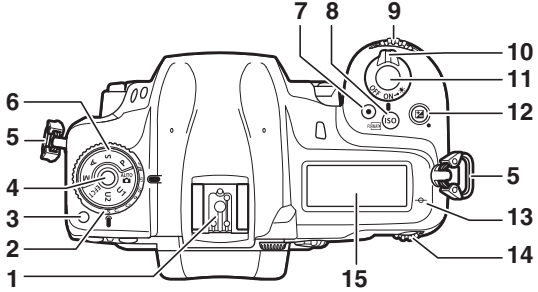
この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

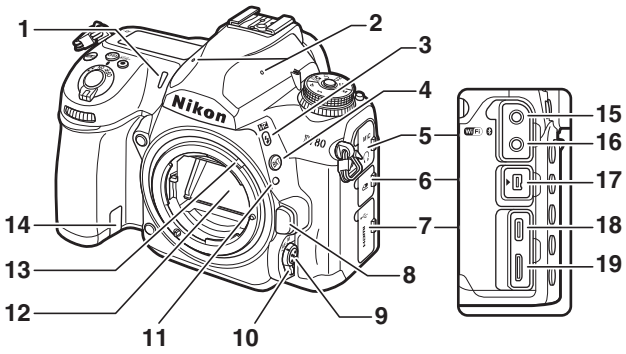
各部の名称と機能

各部の名称

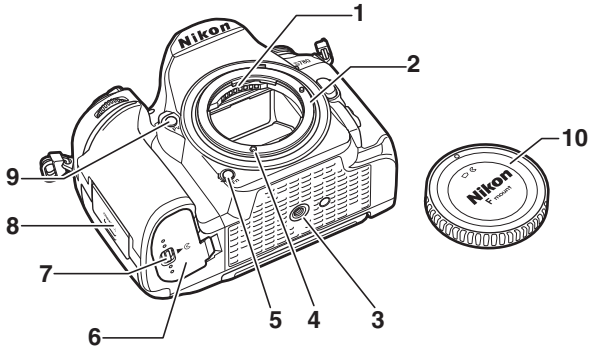
カメラ本体



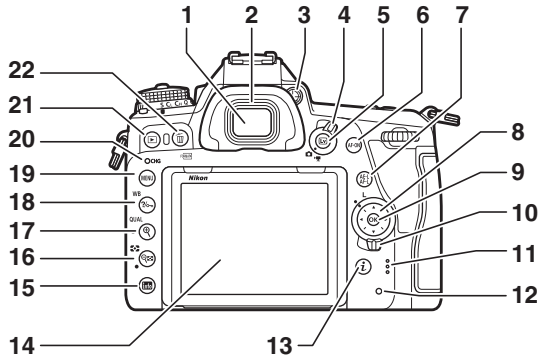
1	フラッシュ取り付け部（アクセサリーシュー）
2	レリーズモードダイヤル（🕮73）
3	レリーズモードダイヤルロックボタン（🕮73）
4	撮影モードダイヤルロックボタン（🕮72）
5	ストラップ取り付け部（吊り金具）（🕮21）
6	撮影モードダイヤル（🕮71）
7	動画撮影ボタン（🕮45）
8	**ISO**（FORMAT）ボタン（🕮91）
9	サブコマンドダイヤル
10	電源スイッチ（🕮7）
11	シャッターボタン（🕮36）
12	±ボタン（🕮94）
13	⊖ 距離基準マーク
14	メインコマンドダイヤル
15	表示パネル（🕮8、784）



1	セルフタイマーランプ
2	マイク（ステレオ）（🕮45）
3	ϟ（ϟ/⊡）ボタン（🕮101）
4	**BKT** ボタン（🕮104）
5	マイク/ヘッドホン端子カバー
6	アクセサリーターミナル端子カバー
7	USB/HDMI端子カバー
8	レンズ取り外しボタン（🕮26）
9	AFモードボタン（🕮76）
10	フォーカスモードセレクター（🕮75）
11	レンズ着脱指標（🕮25）
12	ミラー（🕮822）
13	露出計連動レバー
14	パワーコネクターカバー（🕮814）
15	外部マイク入力端子（🕮808）
16	ヘッドホン出力端子
17	アクセサリーターミナル（🕮808）
18	USB端子
19	HDMI端子



1	レンズ信号接点
2	レンズマウント（🕮25）
3	三脚ネジ穴
4	AFカップリング
5	**Fn**ボタン（🕮106）
6	バッテリー室カバー
7	バッテリー室開閉ノブ
8	SDカードカバー（🕮27）
9	**Pv**ボタン（🕮105）
10	ボディーキャップ（🕮25）



1	ファインダー接眼窓（🕮11）
2	接眼目当て
3	視度調節ダイヤル（🕮11）
4	ライブビューセレクター（🕮40、45）
5	Ⓛvボタン（🕮40、45）
6	**AF-ON**ボタン（🕮82）
7	艦ボタン（🕮82）
8	マルチセレクター（🕮58）
9	ⓄⓀボタン（🕮58）
10	フォーカスポイントロックレバー
11	スピーカー
12	SDカードアクセスランプ（🕮27、36）
13	**i**ボタン（🕮63）
14	チルト式画像モニター（🕮5、14）
15	**info**ボタン（🕮68）
16	⊖（⊡）ボタン（🕮99）
17	⊕（**QUAL**）ボタン（🕮95）
18	**?/**（**WB**）ボタン（🕮86）
19	**MENU**ボタン（🕮57）
20	チャージLED（🕮816）
21	▶ボタン（🕮51）
22	🗑（**FORMAT**）ボタン（🕮56）

☑ 端子カバーについて

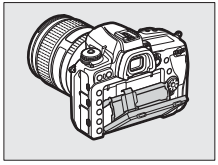
使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

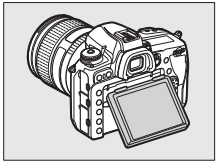
☑ スピーカーについてのご注意

スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。

☑ 画像モニターについて

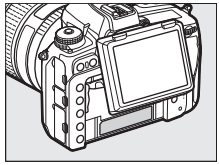
このカメラの画像モニターは、角度を変えて使用できます。





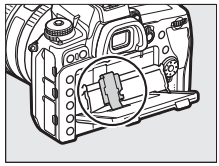
☑ 製品番号について

このカメラの製品番号は、画像モニターを開いて確認できます。



☑ チルト式画像モニター取り扱い上のご注意

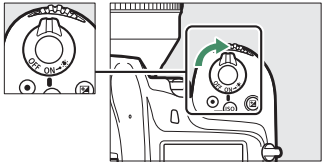
- 画像モニターの角度を変える場合は、可動範囲内でゆっくりと動かしてください。無理な力がかかると、カメラ本体や画像モニターの破損の原因となります。
- 画像モニターの内側には触れないでください。特に図で示した部分には触れないようにご注意ください。故障の原因となります。
- 画像モニターの内側に水などの液体がかからないようにご注意ください。故障の原因となります。
- 撮影時以外は、画像モニターをカメラ本体に収納することをおすすめします。



- 画像モニター部分を掴んで、カメラを持ち上げたりしないでください。カメラが破損することがあります。
- 三脚使用時には、画像モニターが三脚に接触しないように注意しながら角度を変えてください。

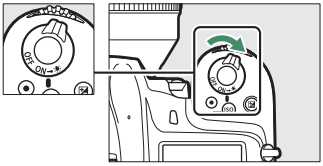
電源スイッチ

電源スイッチを矢印の方向に回して「ON」の位置にすると、カメラの電源がONになります。電源をOFFにするときは「OFF」の位置に合わせます。



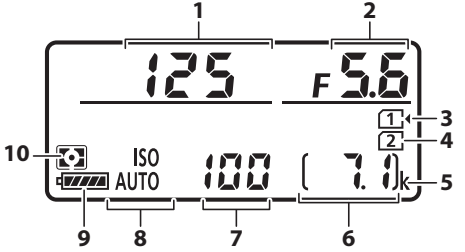
☑ 表示パネルのイルミネーター（照明）について

電源スイッチを☀マークの方向に回すと、表示パネルのイルミネーター（照明）が点灯します。電源スイッチを放すと、イルミネーターは数秒間点灯し続けます。ただし、シャッターをきるか、もう一度☀マークの方向に回すと消灯します。



表示パネル

ここでは初期設定で表示パネルに表示される内容のみ記載しています。
表示パネルの全点灯画面については、「資料」の「全画面表示」
(🕮773) をご覧ください。



1	シャッタースピード
2	絞り値
3	SDカードマーク（スロット1）(🕮34)
4	SDカードマーク（スロット2）(🕮34)
5	1000コマ以上補助表示（🕮34）
6	記録可能コマ数（🕮34、861）
7	ISO感度（🕮91）
8	ISO感度マーク（🕮91） 感度自動制御設定マーク（🕮93）
9	バッテリー残量表示（🕮33）
10	測光モード（🕮99）

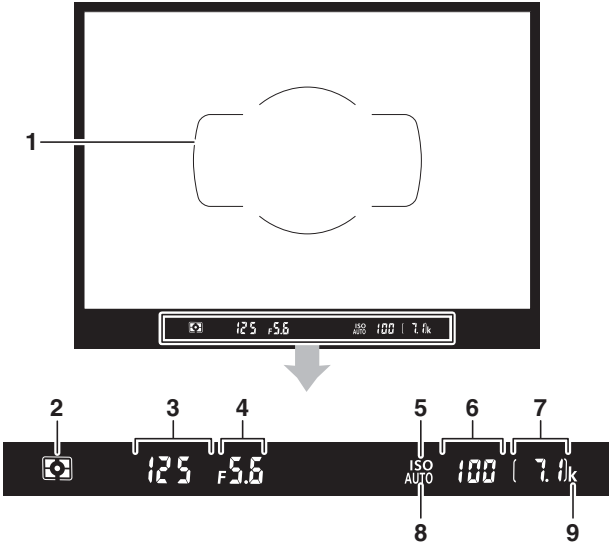
☑ 電源OFF時のパネル表示について

バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、表示パネルのSDカードマークと記録可能コマ数が点灯します。SDカードの種類によっては、電源がOFFのときにSDカードを挿入しても、まれにSDカードマークと記録可能コマ数が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。



ファインダー

ここでは初期設定でファインダーに表示される内容のみ記載しています。ファインダーの全点灯画面については、「資料」の「全画面表示」(🕮773) をご覧ください。



1 AFエリアフレーム (🕮36)
2 測光モード (🕮99)
3 シャッタースピード
4 絞り値
5 ISO感度マーク (🕮91)
6 ISO感度 (🕮91)
7 記録可能コマ数 (🕮34、861)
8 ISO-AUTOマーク (🕮93)
9 1000コマ以上補助表示 (🕮34)

☑ ファインダーについてのご注意

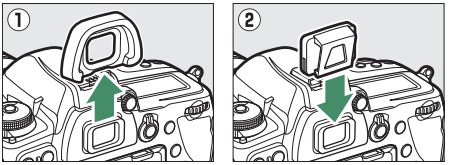
カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

☑ 高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

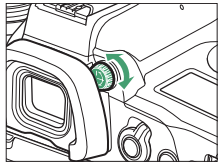
☑ ファインダーから顔を離して撮影するときは

- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします。
- アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し（①）、図のように取り付けます（②）。接眼目当てを取り外すときは、カメラをしっかりと支えてください。



ヒント：視度調節ダイヤルについて

ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回して、ファインダー内の表示が最もはっきり見えるように調節してください。





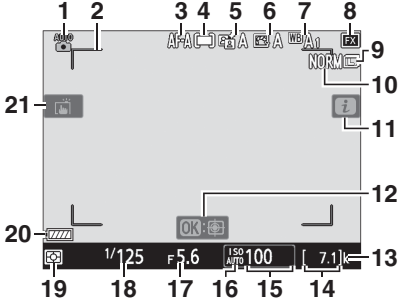
視度調節前　　視度調節後

ライブビュー画面（静止画/動画）

ライブビュー画面はLvボタンを押すと表示されます。静止画を撮影するときはライブビューセレクターを📷に、動画を撮影するときは🎥に切り換えてください。

■■ 静止画撮影時

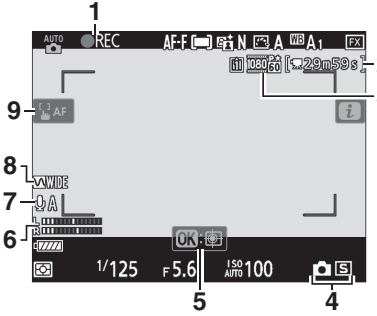
ここでは初期設定でライブビュー画面に表示される内容のみ記載しています。全点灯画面については、「資料」の「全画面表示」（🕮773）をご覧ください。



1	撮影モード（🕮71）	7	ホワイトバランス（🕮86）
2	AFエリアフレーム（🕮40）	8	撮像範囲
3	AFモード（🕮76）	9	画像サイズ（🕮97）
4	AFエリアモード（🕮78）	10	画質モード（🕮95）
5	アクティブD-ライティング	11	iメニュー（🕮63）
6	ピクチャーコントロール	12	ターゲット追尾AF

13 1000コマ以上補助表示（🕮34）
14 記録可能コマ数（🕮34、861）
15 ISO感度（🕮91）
16 ISO感度マーク（🕮91）
ISO-AUTOマーク（🕮93）
17 絞り値
18 シャッタースピード
19 測光モード（🕮99）
20 バッテリー残量表示（🕮33）
21 タッチ撮影機能（🕮14、65）

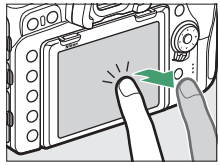
■■ 動画撮影時



1 録画中マーク（🕮45）
動画記録禁止マーク
2 動画記録残り時間（🕮45）
3 画像サイズ/フレームレート/画質
4 静止画撮影のレリーズモード（🕮73）
5 ターゲット追尾AF
6 音声レベルインジケーター（🕮45）
7 マイク感度
8 録音帯域
9 AFエリアフレーム（🕮45）

タッチパネル

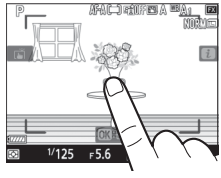
- このカメラの画像モニターはタッチパネルになっており、指で画面に触れることによって操作できます。



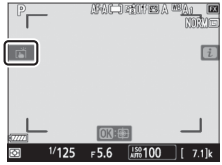
- タッチパネルを使ってできることは次の通りです。
  - ピントを合わせる/シャッターをきる（🕮14）
  - 設定を変更する（🕮15）
  - 再生画面を切り換える（🕮16）
  - 動画を再生する（🕮17）
  - iメニューを設定する（🕮18）
  - 文字を入力する（🕮18）
  - メニューを設定する（🕮19）

■■ ピントを合わせる/シャッターをきる

- ライブビュー撮影時に画像モニターをタッチすると、その場所にピントを合わせます（タッチAF）。
- 静止画撮影時に画像モニターをタッチして指を放すと、シャッターがきれます（タッチシャッター）。

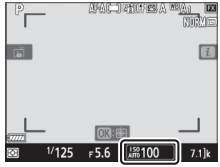


- をタッチすると、タッチAFやタッチシャッターの設定を変更できます。

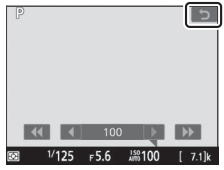


▮▮ 設定を変更する

- 枠が表示されたアイコンにタッチすると、設定を変更できます。
- アイコンやスライドバーにタッチして項目や数値を選びます。

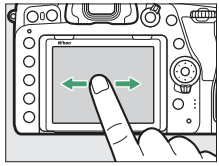


- ↩をタッチするかⓀボタンを押すと設定を決定して前の画面に戻ります。

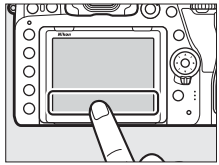


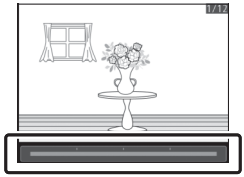
■■ 再生画面を切り換える

- 1コマ表示時に左右にフリックすると、前後の画像を表示します。

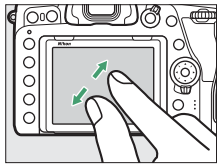


- 1コマ表示時に画面下部をタッチすると、フレームアドバンスバーが表示されます。フレームアドバンスバーに触れたまま指を左右にスライドすると、前後の画像を高速で切り換えられます。

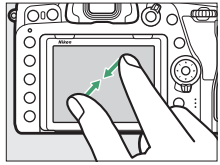




- 1コマ表示時に広げる操作をするか、画像モニターを素早く2回タッチすると、拡大表示します。拡大表示した状態でさらに広げる操作をすると拡大率が上がり、つまむ操作をすると拡大率が下がります。

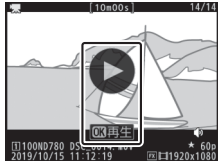


- 拡大表示中に画像モニターでスライド操作をすると、見たい部分に移動できます。
- 拡大表示中に画像モニターを素早く2回タッチすると、拡大表示を解除します。
- 1コマ表示時につまむ操作をすると、サムネイル表示します。サムネイル表示で広げる/つまむ操作をすると、表示コマ数（4コマ/9コマ/72コマ）が切り替わります。
- 72コマ表示時につまむ操作をすると、サムネイル表示からカレンダー表示に切り替わります。72コマ表示に切り換えるには、広げる操作をします。



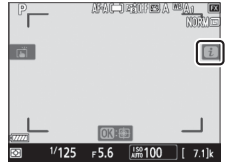
■■ 動画を再生する

- 🎥が表示されている画像で、操作ガイドにタッチすると再生します。
- 再生中に画像モニターをタッチすると一時停止します。もう一度タッチすると再生を再開します。
- 再生中に↩にタッチすると、再生を終了して1コマ表示モードに戻ります。



i メニューを設定する

- ライブビュー撮影時に画像モニターのiをタッチするとiメニュー（🕮63）が表示されます。



- 設定したい項目をタッチすると、設定項目の内容を変更できます。



文字を入力する

- 文字入力画面が表示された場合、キーボードエリアで文字をタッチして入力できます。

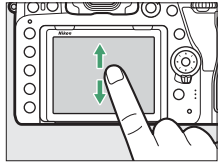


1	入力エリア
2	キーボードエリア
3	文字種変更

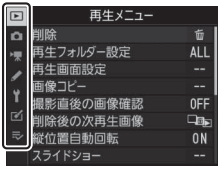
- 入力エリアをタッチするか◀▶をタッチすると、文字の入力位置を移動できます。
- 文字種変更アイコンをタッチすると、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。

メニューを設定する

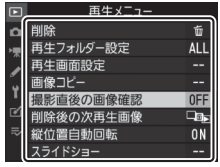
- **MENU**ボタンを押してメニュー画面を表示したとき、上下にスライドすると画面がスクロールします。



- 画面左端のアイコンにタッチすると、選んだアイコンのメニュー画面が表示されます。



- メニュー項目にタッチすると、設定項目の内容を変更できます。アイコンやスライドバーにタッチして項目や数値を選びます。



- ↩にタッチすると、設定を変更しないで前の画面に戻ります。



☑ タッチパネルについてのご注意

- このカメラのタッチパネルは静電式です。爪でタッチしたり、手袋などをはめたままタッチしたりすると反応しないことがあります。
- 先のとがった硬いもので押さないでください。
- タッチパネルを必要以上に強く押したり、こすったりしないでください。
- 市販の保護フィルムを貼ると反応しないことがあります。
- タッチパネルに指が触れたまま、別の指でタッチすると、適切に動作しないことがあります。

ヒント：タッチ操作の有効/無効について

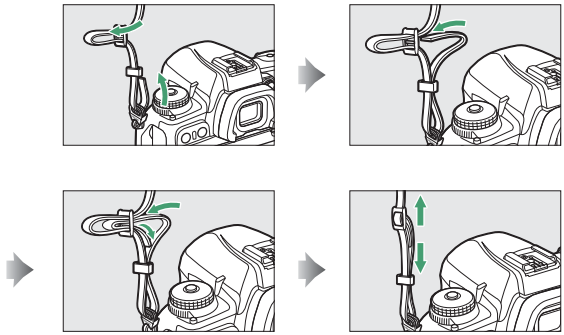
セットアップメニュー［**タッチ操作**］で、タッチ操作の有効/無効を切り換えられます。

撮影前の準備

カメラの準備をする

ストラップを取り付ける

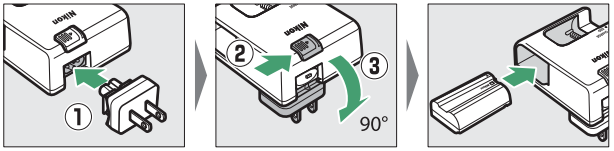
付属または別売ストラップの取り付け手順は次の通りです。



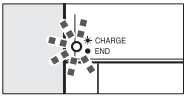
バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15bは、お使いになる前に付属のバッテリーチャージャー MH-25aを使ってフル充電してください。

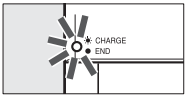
- チャージャーに電源プラグ（直付け型）を取り付けた後（①）、電源プラグ回転ロックを矢印の方向にスライドさせながら（②）、電源プラグを90°回転させ、しっかりと固定させます（③）。



- フル充電するには約2時間35分かかります（残量のないバッテリーの場合）。



充電中（点滅）



充電完了（点灯）

☑ バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（🕮xxxviii）、「カメラとバッテリーの使用上のご注意」（🕮832）をお読みになり、記載事項をお守りください。

☑ チャージャーの「CHARGE」ランプが速く点滅する場合

チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合は、次の原因と対処方法をご確認ください。

- **バッテリーのセットミス**：電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- **指定温度外での使用**：チャージャーを指定温度範囲内（0℃～40℃）でお使いください。

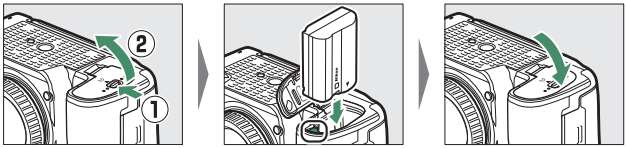
上記の処置をしても不具合が続く場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

☑ 付属の電源プラグ（直付け型）についてのご注意

付属の電源プラグは、バッテリーチャージャー MH-25a以外の機器に接続しないでください。この電源プラグは、日本国内専用（AC100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）https://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

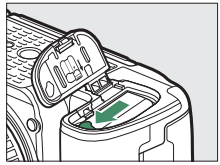
バッテリーを入れる

- バッテリーをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かって固定されます。



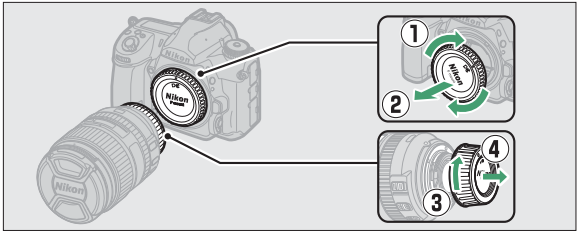
■■ バッテリーを取り出すには

電源をOFFにしてからバッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。

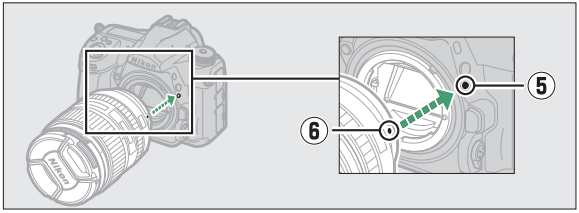


レンズを取り付ける

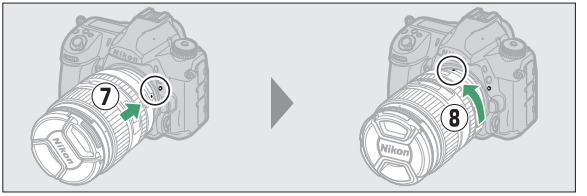
- 本書では、主にAF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VRのレンズを使用して説明しています。
- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。
- レンズをカメラに取り付けるときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。
  - カメラのボディーキャップを取り外し（①、②）、レンズのリアキャップを取り外す（③、④）



  - カメラの指標（⑤）とレンズの指標（⑥）を合わせる。



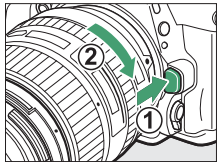
- カチッと音がするまで矢印の方向にレンズを回す（⑦、⑧）。



- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

☑ 絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意
絞りリングのあるCPUレンズ（🕮791）を取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。

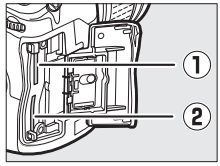
■■ レンズを取り外すには



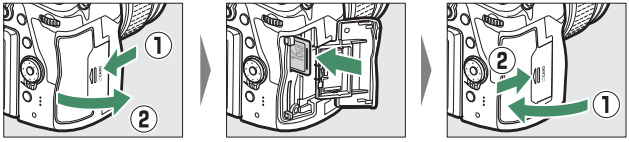
- カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら（①）、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し（②）、引き抜いてください。
- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズのリアキャップをそれぞれ取り付けてください。

SDカードを入れる

- SDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- このカメラは、スロット1（①）とスロット2（②）のSDカードスロットを装備しており、2枚のSDカードを使用することができます。SDカードを1枚だけ使用するときは、スロット1に入れてください。

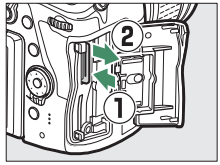


- SDカードは正しい向きでカチッと音がするまで、まっすぐ挿入してください。



■■ SDカードを取り出すには

SDカードアクセスランプの消灯を確認し、電源をOFFにしてからSDカードカバーを開けてください。SDカードを奥に押し込んで放すと（①）、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください（②）。

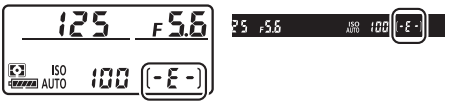


☑ SDカード取り扱い上のご注意

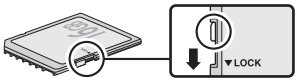
- カメラの使用後はSDカードが熱くなっていることがあります。SDカードの取り出しの際はご注意ください。
- SDカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やカメラやSDカードの故障の原因となります。
  - SDカードの着脱をしないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- SDカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

☑ SDカードが入っていないときの表示について

SDカードが入っていないときは、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に[- E -]マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、表示パネルの[- E -]マークが点灯します。



SDカードの書き込み禁止スイッチについて

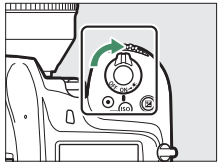


- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告メッセージが表示され、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。

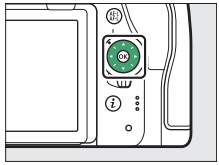
日付と時刻を設定する

カメラの内蔵時計を合わせます。画像に正しい日時を記録するために、お使いになる前に次の手順で日時を設定してください。

1 カメラの電源をONにする



- ご購入後、初めて電源をONにすると、日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。



- 設定項目の変更や決定にはマルチセレクターおよびⓄⓀボタンを使います。

2 日付と時刻を設定する



- マルチセレクターの▲または▼を押して、選択中の項目の数値を合わせ、◀または▶で項目を移動します。
- 日付と時刻の設定を完了したら、Ⓚボタンを押します。
- 設定した日付と時刻は、セットアップメニュー［**地域と日時**］の［**日時の設定**］で変更できます。

CLOCKマークについて

表示パネルでCLOCKが点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー［**地域と日時**］の［**日時の設定**］で日時設定をしてください。カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクターとACアダプターを接続すると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約1カ月の間時計を動かすことができます。

ヒント：スマートフォンと日時を同期する

SnapBridgeアプリを使用すると、カメラと接続したスマートフォンと日時を同期することができます。詳しくはSnapBridgeアプリのヘルプをご覧ください。

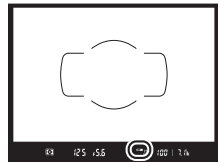
バッテリーとSDカードの残量を確認する

撮影を始める前に、バッテリーの残量と記録可能コマ数を確認してください。

バッテリー残量について

撮影を始める前にバッテリーの残量を確認してください。バッテリーの残量は、表示パネルまたはファインダー内表示で確認できます。





表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
（点滅）	（点滅）	バッテリーが消耗して撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

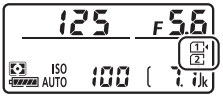
SDカード表示と記録可能コマ数について

表示パネルまたはファインダー内表示でSDカードの記録可能コマ数（これから撮影できる枚数）を確認できます。





- 表示パネルには、使用中のスロットが図のように表示されます（例：スロット1とスロット2の両方にSDカードが入っている場合）。



- 初期設定では、静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］が［**順次記録**］に設定されています。スロット1とスロット2の両方にSDカードを入れると、スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。

- カメラにSDカードが2枚入っている場合、スロット1の記録可能コマ数が表示されます。スロット1のカードの残量がなくなった場合は、スロット2の記録可能コマ数が表示されます。
- 記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは、1000を意味する「k」マークが点灯します。たとえば「[1.4] k」と表示されている場合、1400枚以上の撮影が可能です。
- SDカードの残量がなくなった場合やSDカードがロックされている場合など、何らかのエラーが発生したときは、エラーが発生したSDカードが入っているスロットのアイコンが点滅します。

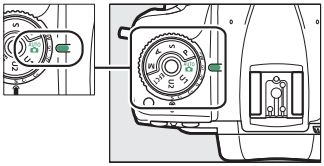
撮影と再生の基本操作

静止画を撮影する（AUTO オート）

撮影モードAUTO（オート）を使うと、カメラまかせの簡単な操作で静止画撮影を楽しむことができます。静止画撮影にはファインダーを見ながら撮影する方法（ファインダー撮影）と、画像モニターを見ながら撮影する方法（ライブビュー撮影）があります。

ファインダーを見ながら撮影する（ファインダー撮影）

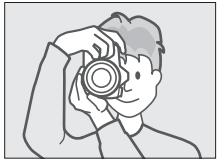
1 カメラ上面の撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回してAUTOに合わせる



2 カメラを構える

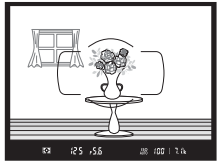
脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。





3 構図を決める

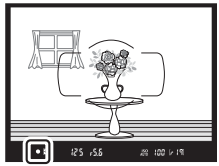
- **ファインダーを見ながら構図を決めてください。**
- 被写体をAFエリアフレーム内に配置します。



4 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる



- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

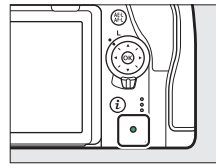


ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

- ピントが合った位置には、フォーカスポイントが表示されます。

5 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

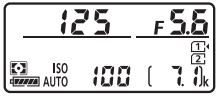


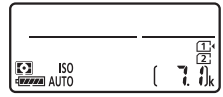


SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。**SDカードアクセスランプ点灯中に、SDカードやバッテリーの取り出し、ACアダプター（別売）の取り外しは行わないでください。**

ヒント：ファインダー撮影時の半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルの一部の表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］で変更できます。



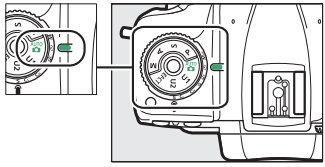




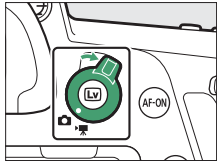
半押しタイマーがオンのとき　　半押しタイマーがオフのとき

画像モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

1 カメラ上面の撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回して📷AUTOに合わせる

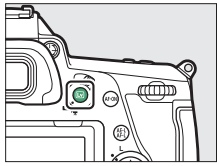


2 ライブビューセレクターを📷（静止画ライブビュー）に合わせる



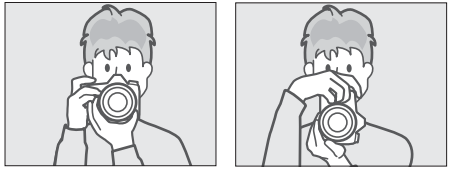
3 Lvボタンを押す

ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。



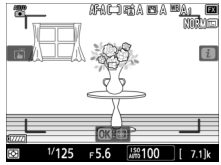
4 カメラを構える

右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



5 構図を決める

- 被写体を画面の中央付近に配置します。
- 初期設定では、カメラが人物を認識した場合、認識した顔または瞳の位置にフォーカスポイントが表示されます。



6 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。被写体が近すぎるなどピントが合わないときは、AFエリアフレームが赤色で点滅します。

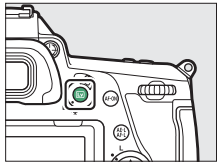


7 シャッターボタンを全押しして撮影する

撮影時は画像モニターが消灯します。



8 ボタンを押してライブビューを終了する



ライブビュー撮影時のご注意

- 画像モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
  - 動きのある被写体が歪む（電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む／カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む）
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、動画撮影メニューの［**フリッカー低減**］で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします（🕮10）。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- ライブビュー中は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

自動的にライブビューを終了する30秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します。

- カスタムメニュー c4［**モニターのパワーオフ時間**］の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。［**モニターのパワーオフ時間**］の［**ライブビュー表示**］を［**制限なし**］に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。

ヒント：露出プレビュー（Lv）について

カスタムメニュー d9［**露出プレビュー（Lv）**］を［**する**］にすると、ライブビュー撮影時に実際に撮影される静止画の露出（明るさ）を、画像モニターで確認できます。露出補正するときや、撮影モードを**M**にして撮影するときに便利です。

ヒント：タッチ操作について

ライブビューで静止画を撮影するとき、シャッターボタンの代わりにタッチ操作でピントを合わせたり、シャッターをきることができます（🕮14）。

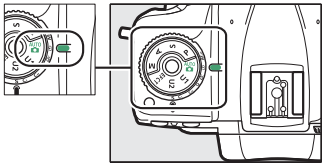
動画を撮影する（AUTOオート）

撮影モードAUTO（オート）を使うと、カメラまかせの簡単な操作で動画撮影を楽しむことができます。

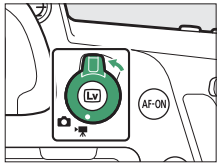
ヒント：動画撮影に関する表記について

本書では、撮影時にライブビューセレクターを🎥に合わせている状態を「動画撮影時」、動画撮影時に動画撮影ボタンを押して動画を記録している状態を「動画記録中」と表記しています。

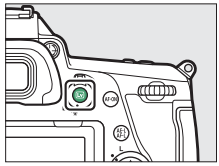
1 カメラ上面の撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回してAUTOに合わせる



2 ライブビューセレクターを🎥（動画ライブビュー）に合わせる

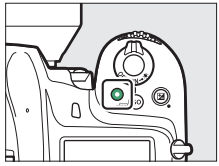


3 Lvボタンを押す

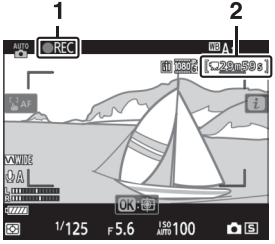


- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。
- ライブビュー中は、実際に撮影される動画や静止画の露出（明るさ）を画像モニターで確認できます。

4 動画撮影ボタンを押して、動画記録を始める



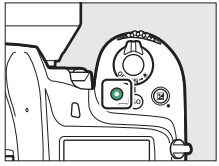
- 動画記録中は録画中マークが画像モニターに表示されます。SD カードに記録できる残り時間の目安も画像モニターで確認できます。



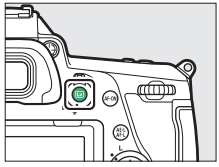
1 録画中マーク
2 動画記録残り時間

- 内蔵マイクで音声を記録します。動画記録中はマイクを指でふさがないようにしてください。
- 画面をタッチすると、タッチした位置にフォーカスポイントが移動してピントを合わせます。

5 もう一度動画撮影ボタンを押して、動画記録を終了する



6 Lvボタンを押してライブビューを終了する



☑ 動画撮影時のご注意

- 動画撮影時の画像モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
  - 動きのある被写体が歪む（電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む／カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む）
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
  - パワー絞り作動中、画面にちらつきが発生する
- 動画撮影時に、🔍（**QUAL**）ボタンで画面を拡大した場合、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）、色の変化が発生しやすくなります。
- 次のような場合は、動画記録は自動的に終了します。
  - 最長記録時間に達したとき
  - ライブビューセレクターを切り換えたとき
  - レンズを取り外したとき
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。

- 次のような場合は、動作音が録音されることがあります。
  - オートフォーカス作動中
  - パワー絞り作動中
  - 絞り値を変更した場合
  - VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
- 音声レベルインジケーターの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。

☑ 動画撮影時の残り時間のカウントダウンについて

- 自動的に動画撮影を終了する30秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、画像モニターの右上に表示されている動画記録残り時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

☑ 動画記録中の調整について

- ヘッドホンの音量は変更できません。
- マイク感度を🔇以外に設定すると、動画記録中にマイク感度を変更できます。🔇には変更できません。

ヒント：動画撮影時のピント合わせについて

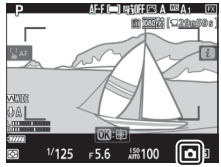
シャッターボタンを半押ししてピントを合わせることもできます。

動画撮影時に静止画を撮影する



動画撮影時にシャッターボタンを全押しすると、静止画を撮影できます。撮影される静止画のアスペクト比（横：縦）は、16：9になります。

- 静止画を撮影すると📷アイコンが点滅します。
- 動画記録中でも静止画は撮影できます。動画の記録は中断されません。



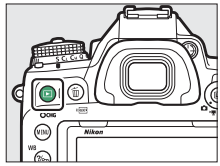
☑ 動画撮影時の静止画撮影について

- 1回の動画記録中に撮影できる静止画は、最大40コマです。
- ピントが合っていなくても撮影されます。
- 撮影される静止画の画像サイズは動画の画像サイズと同じです。
- 画質モードは［**FINE★**］に固定されます。
- レリーズモードを連続撮影にしている場合、撮影速度は［**画像サイズ/フレームレート**］の設定によって異なります。動画を記録している間は1コマ撮影になります。
- 再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］に設定していても、自動で再生されません。

撮影した画像を確認する

▶ボタンを押すと、撮影した静止画と動画を再生して確認できます。

1 ▶ボタンを押す

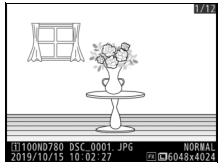


- 撮影した画像をカメラ背面の画像モニターに表示します。



- 表示中の画像がどちらのスロットのSDカードに入っているかは、画像の左下のSDカードマークで確認できます。

2 マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する



- 画面を左右にフリックしても画像を切り換えられます（🕮14）。

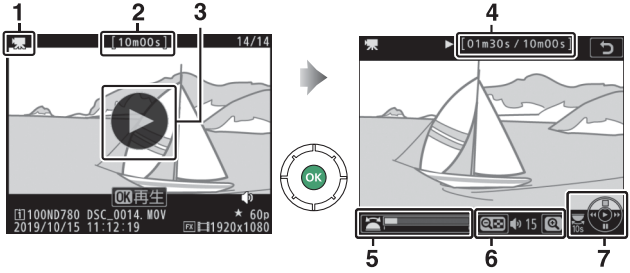
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

ヒント：撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターに表示します。

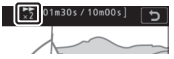
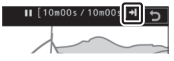
動画を再生する

動画には🎥マークが表示されています。Ⓚボタンを押すか、または画面上の▶アイコンをタッチして動画を再生します（プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます）。



1	🎥マーク
2	記録時間
3	▶アイコン
4	再生時間/記録時間
5	プログレスバー
6	音量設定
7	操作ガイド

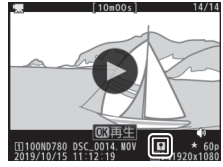
■■ 動画再生中の操作方法

操作	内容
一時停止する	マルチセレクターの㊦を押すと一時停止します。
再生を再開する	一時停止中または早戻し/早送り中に㊎ボタンを押すと動画再生を再開します。
早戻しする/早送りする	• 動画の再生中に◀を押すと早戻し、▶を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、早戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 • ◀を押し続けると、先頭フレームに移動し、▶を押し続けると、最終フレームに移動します。 • 先頭フレームには⏵アイコンが、最終フレームには⏭アイコンが、画面右上に表示されます。  
スロー再生する	一時停止中に㊦を押すとスロー再生します。
コマ戻しする/コマ送りする	• 一時停止中に◀▶を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 • ◀▶を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/10秒戻す	メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
先頭フレームに移動する/最終フレームに移動する	動画にインデックスマークがない場合にサブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。

操作	内容
インデックスマークに移動する	動画にインデックスマークがある場合にサブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。 • インデックスマークは、動画を一時停止中にiボタンを押して表示される［**動画編集**］画面で追加および削除できます。
音量を調節する	🔍（**QUAL**）ボタンを押すと音量が大きくなり、🔍（🔲）ボタンを押すと小さくなります。
動画を編集する	一時停止中にiボタンを押すと、［**動画編集**］画面を表示します。
再生終了	⏏または▶ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しすると、再生画面が終了して撮影できる状態になります。

ヒント：インデックスマーク

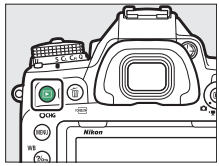
動画を一時停止中にiボタンを押して［**インデックスマーキング追加**］を選ぶと、インデックスマークを追加できます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の位置へ素早く移動できます。インデックスマークが設定された動画の場合、1コマ表示画面に🔖マークが表示されます。



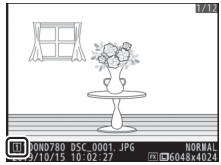
画像を削除する

表示中の画像を削除します。**削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。**

1 削除したい画像を表示する

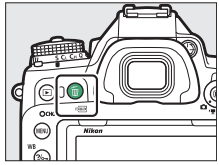


- ▶ボタンを押して画像モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀▶で削除したい画像を選びます。



- 削除する画像がどちらのスロットのSDカードに入っているかは、画像の左下のSDカードマークで確認できます。

2 画像を削除する



- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。

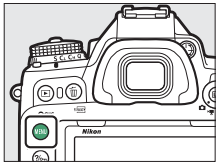


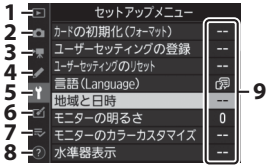
- 削除確認画面で▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。

ボタンなどを使ったカメラの操作方法

MENUボタンの使い方

MENUボタンを押すと、画像モニターにメニュー画面を表示します。



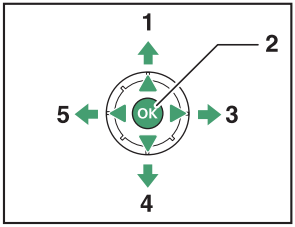


1	再生メニュー
2	静止画撮影メニュー
3	動画撮影メニュー
4	カスタムメニュー
5	セットアップメニュー
6	画像編集メニュー
7	マイメニュー / 最近設定した項目※
8	ヘルプあり表示
9	各項目の現在の設定

※どちらかに設定できます。初期設定は［**マイメニュー**］です。

メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセレクターとⓄⓀボタンを使います。

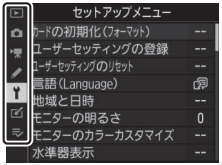


1	上に移動
2	決定する
3	次の画面に進む（右を選択または決定）
4	下に移動
5	前の画面に戻る（左を選択または取り消し）

1 メニューのタブを選ぶ

◀を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。

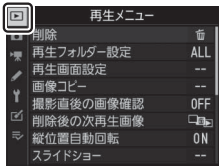




2 メニューを切り換える

▲▼を押して、メニューのタブを切り換えます。





3 選んだメニューに入る

▶を押して、選んだメニューに入ります。

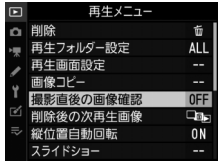




4 メニュー項目を選ぶ

▲▼で項目を選びます。

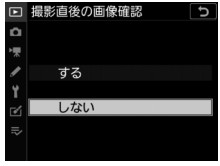




5 設定内容を表示する

▶を押して設定内容を表示します。

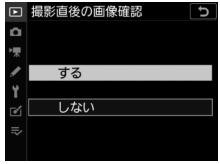




6 設定内容を選ぶ

▲▼で設定内容を選びます。





7 決定する



- ⓚボタンを押します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、**MENU**ボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

グレーで表示されるメニューについて

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。



入力画面の操作方法について

ファイル名設定や画像コメントなど、文字を入力するときに表示される画面での操作方法は次の通りです。

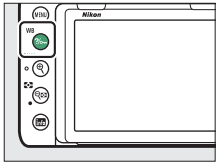


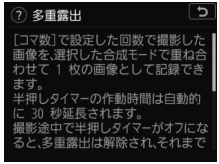
1 入力エリア
2 キーボードエリア
3 文字種変更

- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、OKボタンを押します。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動するには、メインコマンドダイヤルを回します。
- マルチセレクターで文字種変更アイコンにカーソルを移動させてOKボタンを押すと、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。文字種変更アイコンは項目によって表示されないことがあります。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除するには、削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑（RESET）ボタンを押します。
- 内容を確定し、文字入力を終了する場合は、🔍（**QUAL**）ボタンを押します。
- 文字の入力をキャンセルするには、**MENU**ボタンを押します。

ヒント：?（ヘルプあり表示）

- ヘルプがある場合に**?/O**（**WB**）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します。





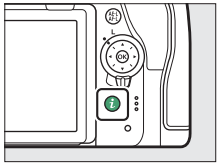
- 説明が2ページ以上ある場合は、マルチセレクターの▽を押して、次のページを表示してください。
- もう一度**?/O**（**WB**）ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

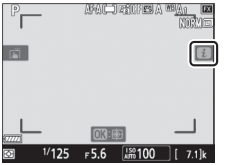
ヒント：タッチパネルでの設定について

メニューはタッチパネルで設定することもできます（🕮14）。

iボタン（iメニュー）の使い方

iボタンを押すか、ライブビュー時に画像モニターのiをタッチすると、iメニューが表示されます。





- 設定したい項目をマルチセレクターで選んでOKボタンを押すと、選択項目が表示されます。選択項目を選んでOKボタンを押すと、設定が変更されてiメニュー画面に戻ります。



- 設定を変更せずに1つ前の画面に戻るには、iボタンを押してください。
- ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時、および動画撮影時で表示される内容がそれぞれ異なります。

☑ 選択項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できない項目があります。この場合、設定できない項目のアイコンがグレーで表示されます。



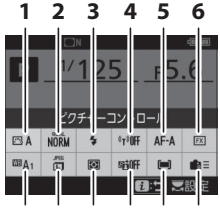
ヒント：コマンドダイヤルで設定する



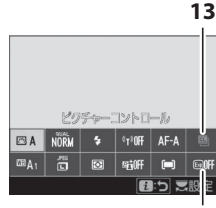
- **i**メニュー画面でメインコマンドダイヤルを回すと、選んでいる項目の設定を変更できます。設定した項目にさらに選択肢がある場合、サブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます。
- 項目によってはメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルのどちらでも設定できるものがあります。
- ⓞⓚボタンを押すと決定します。マルチセレクターで他の項目を選んだり、シャッターボタンを半押ししても設定が決定されます。

静止画撮影時のiメニュー

静止画撮影時にiボタンを押すと次の項目が表示されます。設定したい項目をマルチセレクターで選んでOKボタンを押すと、選択項目が表示され、設定を変更できます。



ファインダー撮影の場合



ライブビュー撮影の場合

1	ピクチャーコントロール
2	画質モード
3	フラッシュモード
4	Wi-Fi通信機能
5	AFモード
6	撮像範囲設定※1
7	ホワイトバランス
8	画像サイズ
9	測光モード
10	アクティブD-ライティング
11	AFエリアモード
12	カスタムボタンの機能※1
13	ネガフィルムデジタイズ※2
14	露出プレビュー※2

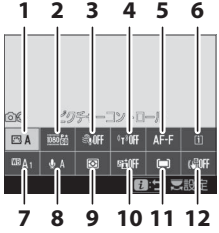
※1 ファインダー撮影時のみ表示されます。
※2 ライブビュー撮影時のみ表示されます。

ヒント：iメニューのカスタマイズについて

iメニューの項目はカスタムメニューで変更できます。ファインダー撮影時の項目はf1［**iメニューのカスタマイズ**］で、ライブビュー撮影時の項目はf2［**iメニューのカスタマイズ（Lv）**］でそれぞれ設定できます。

動画撮影時のiメニュー

動画撮影時にiボタンを押すと次の項目が表示されます。設定したい項目をマルチセレクターで選んでOKボタンを押すと、選択項目が表示され、設定を変更できます。



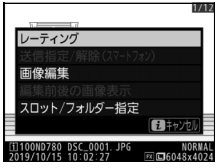
1	ピクチャーコントロール
2	画像サイズ/フレームレート/画質
3	風切り音低減
4	Wi-Fi通信機能
5	AFモード
6	動画記録先
7	ホワイトバランス
8	マイク感度
9	測光モード
10	アクティブD-ライティング
11	AFエリアモード
12	電子手ブレ補正

ヒント：iメニューのカスタマイズについて

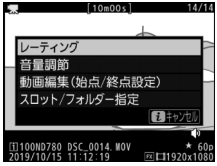
動画撮影時のiメニュー項目は、カスタムメニューg1［**iメニューのカスタマイズ**］で変更できます。

再生時のiメニュー

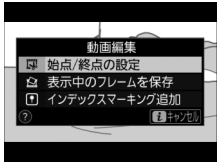
再生画面や動画再生時などにiボタンを押すと、状況に応じたiメニューが表示されます。



静止画選択時



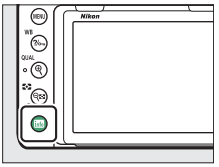
動画選択時



動画再生一時停止時

INFOボタンの使い方

INFOボタンを使うと、画像モニターに撮影に関する情報を表示したり、画面表示を切り換えたりすることができます。



ファインダー撮影時

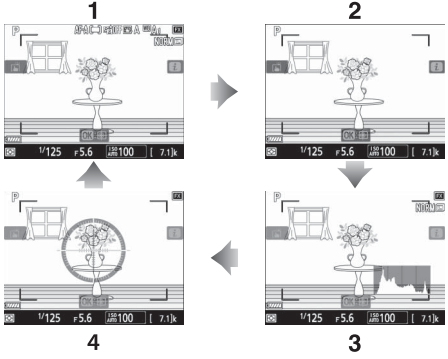
INFOボタンを押すと、画像モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます。



ライブビュー撮影時

Info ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

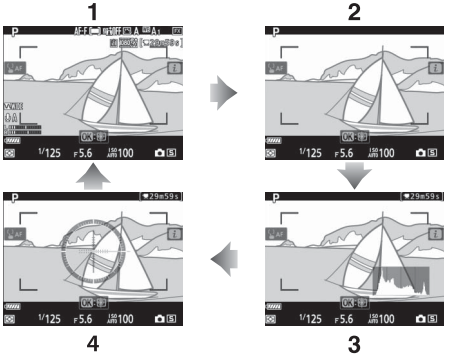
■ ライブビューセレクターを📷に合わせているとき



1 情報表示あり
2 シンプル表示
3 ヒストグラム※
4 水準器表示

※撮影モードを**P**、**S**、**A**、または**M**に設定し、カスタムメニュー d9［**露出プレビュー（Lv）**］を［**する**］にしたときに表示されます。ただし、多重露出撮影時に静止画撮影メニュー［**多重露出**］の［**確認撮影**］が［**する**］のときは表示されません。

■■ ライブビューセレクターを ● に合わせているとき



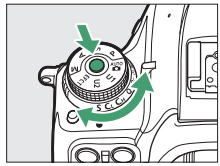
1	情報表示あり
2	シンプル表示
3	ヒストグラム
4	水準器表示

撮影モードダイヤルの使い方

撮影モードダイヤルを回すと、撮影モードを変更できます。シャッタースピードと絞りのそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。

撮影モードの設定方法

カメラ上面の撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回します。



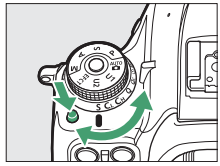
モード		内容
AUTO	**オート**	カメラまかせの簡単な操作で撮影を楽しむことができます（📖36、45）。
P	**プログラムオート**	シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート**	シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A	**絞り優先オート**	絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル**	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。
U1/U2	**ユーザーセッティングモード**	よく使う機能（ユーザーセッティング）を登録できます。撮影モードダイヤルを切り換えるだけで、登録した内容で撮影できます。
EFCT	**スペシャルエフェクトモード**	特殊な効果のついた画像を撮影できます。

レリーズモードダイヤルの使い方

レリーズモードダイヤルを回すと、シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

レリーズモードの設定方法

カメラ上面のレリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回します。

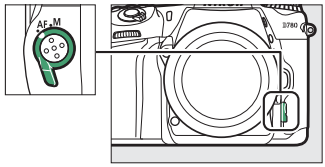


モード		内容
S	**1コマ撮影**	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL	**低速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、最大約3コマ/秒（初期設定）で連続撮影します。 • 連続撮影速度はカスタムメニュー d1［**低速連続撮影速度**］で設定します。1コマ/秒～6コマ/秒の間で設定できます。ただし、ライブビュー撮影時は、4コマ/秒以上に設定していても最大約3コマ/秒で撮影されます。

モード		内容
CH	**高速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、最大約7コマ/秒で連続撮影します。 • ライブビュー撮影時に静止画撮影メニュー［**サイレント撮影（静止画Lv）**］が［**する**］の場合、静止画撮影メニュー［**RAW記録**］の［**記録ビットモード**］を［**14ビット記録**］にすると約8コマ/秒、［**12ビット記録**］にすると約12コマ/秒で連続撮影します。
Q	**静音撮影**	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。
QC	**静音連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、最大約3コマ/秒で連続静音撮影します。
⏲	**セルフタイマー撮影**	セルフタイマー撮影ができます。
MUP	**ミラーアップ撮影**	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

フォーカスモードセレクターの使い方

オートフォーカスで撮影するときはフォーカスモードセレクターを**AF**に、マニュアルフォーカスで撮影するときは**M**に合わせます。

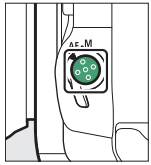


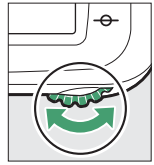
AFモードボタンの使い方

AFモードボタンを使うと、AFモードとAFエリアモードを設定できます。AFモードではピント合わせの方法を、AFエリアモードではオートフォーカス時のフォーカスポイントの選択方法を設定します。

AFモードの設定方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。
選べる項目は、カメラの設定によって異なります。



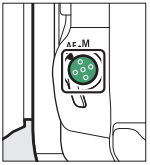




項目		内容
AF-A	［**AFモード自動切り換え**］	静止している被写体は**AF-S**で撮影し、動いている被写体は**AF-C**で撮影します。 • 静止画撮影時のみ選べます。
AF-S	［**シングルAF**］	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-C	［**コンティニュアスAF**］	スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しし続けている間はフォーカスロックはされず、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。
AF-F	［**フルタイムAF**］	カメラは常に被写体の動きや構図の変化に合わせてピントを合わせ続けます。シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行って、ピントが合った時点でフォーカスポイントが赤色から緑色に変わって点灯し、フォーカスがロックされます。 • 動画撮影時のみ選べます。

AFエリアモードの設定方法

AFモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回します。選べる項目は、AFモードの設定によって異なります。

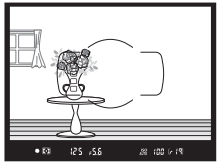






■■ ファインダー撮影時

項目	内容
［**シングルポイントAF**］	選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。 • 静止している被写体の撮影に適しています。
［**ダイナミックAF（9点）**］/［**ダイナミックAF（21点）**］/［**ダイナミックAF（51点）**］	撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。AFモードが**AF-A**または**AF-C**の場合に選べます。 • 不規則な動きをする被写体の撮影に適しています。点数が多いほど広い範囲でピントを合わせることができます。

項目	内容
［**3D-トラッキング**］	選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。AFモードが**AF-A**または**AF-C**の場合に選べます。 • 左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています（例：テニス）。
［**グループエリアAF**］	撮影者が選んだフォーカスポイント（グループ）を使ってピント合わせをします。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。 • スナップ撮影や、動きのある被写体、［**シングルポイントAF**］ではとらえにくい被写体の撮影などに適しています。
［**オートエリアAF**］	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。 

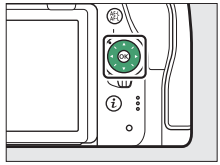
■■ ライブビュー撮影時

項目		内容
[PIN]	［**ピンポイントAF**］	［**シングルポイントAF**］よりも小さいフォーカスポイントを使って、より狭い範囲にピンポイントでピントを合わせることができます。 • 建築物などの静止している被写体の撮影や、スタジオでの商品撮影や接写に適しています。 • 静止画撮影時にAFモードが**AF-S**の場合のみ選べます。
[□]	［**シングルポイントAF**］	撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。 • 静止している被写体の撮影に適しています。
[WIDE S]	［**ワイドエリアAF（S）**］	［**シングルポイントAF**］よりも広い範囲（エリア）で被写体をとらえてピント合わせを行います。 • スナップ撮影や、動きのある被写体、［**シングルポイントAF**］ではとらえにくい被写体の撮影などに適しています。
[WIDE L]	［**ワイドエリアAF（L）**］	
[⁘]	［**ダイナミックAF**］	撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。 • スポーツの撮影など、［**シングルポイントAF**］では被写体をとらえにくい動きのある被写体の撮影に適しています。 • 静止画撮影時にAFモードが**AF-A**または**AF-C**の場合のみ選べます。

項目		内容
[▬]	［**オートエリアAF**］	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してAFエリアフレーム内でピントを合わせます。 • シャッターチャンスを優先した撮影、人物撮影、スナップ撮影などに適しています。 • 静止画撮影時にカメラが人物の顔を認識した場合、顔に黄色の枠（フォーカスポイント）が表示されます。瞳を認識できるときは、瞳に黄色の枠が表示されます（瞳AF/顔認識AF）。

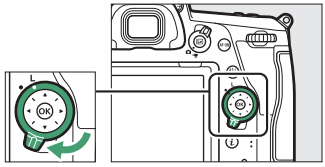
■■ フォーカスポイントを自分で選ぶ

AFエリアモードが［**オートエリアAF**］以外の場合は、フォーカスポイントを自分で選べます。フォーカスポイントの位置は、マルチセレクターの▲▼◀▶またはななめを押して変更します。

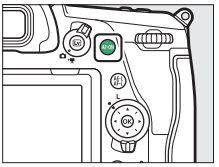


ヒント：フォーカスポイントをロックするには

フォーカスポイントロックレバーを回して**L**の位置に合わせると、フォーカスポイントをロック（固定）できます。ロックを解除するには、フォーカスポイントロックレバーを●の位置に合わせます。



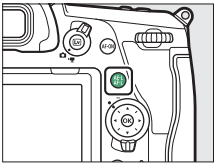
AF-ONボタンの使い方



オートフォーカス撮影時に**AF-ON**ボタンを押すとピント合わせを行います。

- **AF-ON**ボタンの機能は変更することができます。静止画撮影時の機能はカスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で、動画撮影時の機能はg2［**カスタムボタンの機能**］で設定します。

AE-L/AF-Lボタンの使い方



オートフォーカスで静止画を撮影するときにAE-L/AF-L（AE/AFロック）ボタンを押すと、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。

- AE-L/AF-Lボタンの機能は変更することができます。静止画撮影時の機能はカスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で、動画撮影時の機能はg2［**カスタムボタンの機能**］で設定します。

AEロック

被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影できます。AEロックする場合、測光モードは［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］に設定することをおすすめします。

フォーカスロック

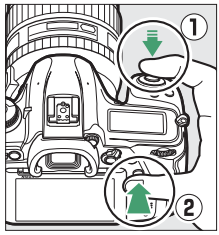
AFモードが**AF-A**または**AF-C**の場合にフォーカスを固定したいときに使用します。フォーカスロックする場合、AFエリアモードを［**オートエリアAF**］以外に設定してください。

AEロック/フォーカスロックの方法

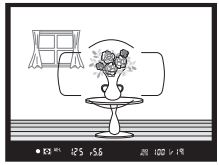
1 露出とピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

2 シャッターボタンを半押ししたまま（①）、AE-L/AF-Lボタンを押す（②）

- AE-L/AF-Lボタンを押している間は、露出とピントが固定（ロック）されます。構図を変えても露出は変わりません。



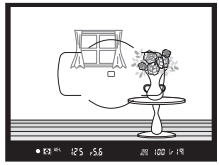
- ファインダー内表示または画像モニターに**AE-L**マークが点灯します。



3 AE-L/AF-Lボタンを押したまま、構図を決めて撮影する



被写体との距離は変えないでください。AEロック/フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんロックを解除し、ピントを合わせ直してください。



ヒント：AFモードがAF-Sの場合のフォーカスロックについて
シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。AF-ONボタンを押してピントを固定することもできます。

ヒント：シャッターボタンの半押しで露出を固定するには
カスタムメニュー c1［**シャッターボタンAEロック**］を［**する（半押し）**］に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます。

ヒント：ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは
- AF-ONボタンを押してフォーカスロックを行った場合は、AF-ONボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後にシャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

?/🔑（WB）ボタンの使い方

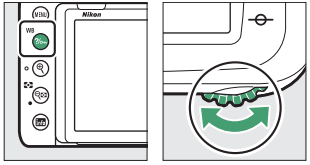
撮影時に?/🔑（WB）ボタンを使うと、ホワイトバランスの設定ができます。ホワイトバランスは、光源に合わせて見た目に近い色で撮影するための機能です。

☑ ?/🔑（WB）ボタンについて

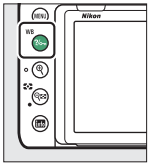
?/🔑（WB）ボタンは、撮影モードやカメラの状態によって使用できない場合があります。

ホワイトバランスの設定方法

?/🔑（WB）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。



設定した項目にさらに選択肢がある場合、**?/**（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます。









図の座標が表示されている場合は、**?/**（**WB**）ボタンを押しながらマルチセレクターを操作するとホワイトバランスの微調整を行えます。

- ◀▶を押すとブルーおよびアンバー方向、▲▼を押すとグリーンおよびマゼンタ方向の調整が行えます。



- [**色温度設定**] を選んでいる状態で◀▶を押すと桁数が選べます。▲▼を押して色温度を指定できます。



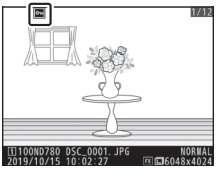
- **?/**（**WB**）ボタンを放すと、設定した調整値で撮影できます。

項目	内容
WB A［オート］	カメラが自動的にホワイトバランスを調節し、ほとんどの光源に対応できます。
WB A0［白を優先する］	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残さずに白く補正します。
WB A1［雰囲気を残す］	電球下の環境で撮影する場合、やや電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
WB A2［電球色を残す］	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
☀A［自然光オート］	自然光下での撮影に適したホワイトバランスに調整され、自然光下ではWB A（［オート］）より見た目に近い色味で撮影できます。
☀［晴天］	晴天の屋外での撮影に適しています。
☁［曇天］	曇り空の屋外での撮影に適しています。
［晴天日陰］	晴天の日陰での撮影に適しています。
［電球］	白熱電球下での撮影に適しています。

項目	内容
［蛍光灯］	それぞれの光源下での撮影に適しています。
［ナトリウム灯混合光］	
［電球色蛍光灯］	
［温白色蛍光灯］	
［白色蛍光灯］	
［昼白色蛍光灯］	
［昼光色蛍光灯］	
［高色温度の水銀灯］	
［フラッシュ］	スタジオ用大型ストロボなどを使って撮影する場合に適しています。
［色温度設定］	色温度を直接指定できます。
PRE ［プリセットマニュアル］	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます。

ヒント：画像をプロテクトする

再生時に**?**/**O-n**（**WB**）ボタンを使うと、画像にプロテクト（保護）を設定できます。画像を誤って削除することを防ぎます。



ヒント：ヘルプを表示する

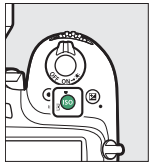
ヘルプがある場合に**?**/**O-n**（**WB**）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します（🕮62）。

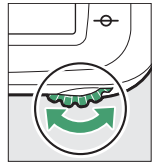
ISO（FORMAT）ボタンの使い方

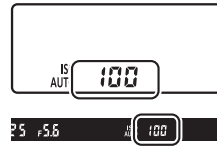
ISO（FORMAT）ボタンを使うと、光に対する感度（ISO感度）の設定ができます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する感度自動制御機能も設定できます。

ISO感度の設定方法

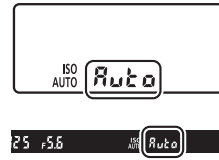
ISO（FORMAT）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。







- ISO感度はISO 100～51200の間で設定できます。また、ISO 100から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 51200から約0.3段～約2段の範囲での増感ができます。
- 撮影モードがおよび**EFCT**（以外）の場合、ISO 100～51200のほかに**Auto**（[**オート**]）も選べます。**Auto**にすると、カメラが自動的にISO感度を決定します。



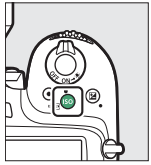
ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

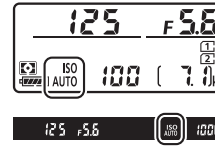
感度自動制御機能の設定方法

撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**のとき、**ISO**（FORMAT）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、設定したISO感度で適正露出が得られない場合にカメラが自動的にISO感度を変更するかどうかを設定できます。

- 感度自動制御機能を有効にすると、表示パネルとファインダー内表示に**ISO AUTO**が表示されます。**ISO AUTO**が点灯しているときは、［**ISO感度**］で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されると**ISO AUTO**が点滅し、制御されたISO感度が表示されます。







ヒント：上限感度を設定するには

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合、撮影時にISO感度が高くなりすぎないように、上限感度を設定することもできます。制御上限感度は静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］にある［**感度自動制御**］の［**制御上限感度**］で設定できます。

ボタンの使い方

（露出補正）ボタンを使うと、カメラが制御する適正露出値を意図的に変更できます。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。



−1段補正



露出補正なし



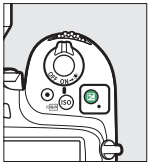
＋1段補正

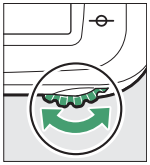
ボタンについて

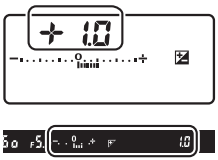
ボタンは、撮影モードやカメラの状態によって使用できない場合があります。

露出補正の設定方法

ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。







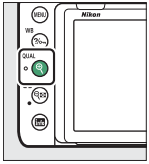
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは−側に補正してください。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

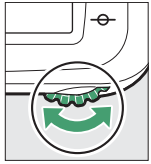
（QUAL）ボタンの使い方

（**QUAL**）ボタンを使うと、記録する画像の画質モードとJPEG画像の画像サイズを設定できます。

画質モードの設定方法

ファインダー撮影時に、（**QUAL**）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。



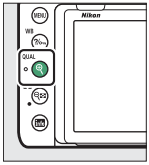




項目	内容
[**RAW+FINE★**]	RAW（NEF）とJPEGの2種類の画像を同時に記録します。JPEG画像は、画質とサイズのどちらを優先するかを選べます。★がある項目は画質優先、★がない項目はサイズ優先で圧縮します。
[**RAW+FINE**]	
[**RAW+NORMAL★**]	
[**RAW+NORMAL**]	
[**RAW+BASIC★**]	
[**RAW+BASIC**]	
[**RAW**]	RAW（NEF）画像を記録します。
[**FINE★**]	JPEG画像を記録します。画質は高い順にFINE、NORMAL、BASICです。★がある項目は画質優先、★がない項目はサイズ優先で圧縮します。
[**FINE**]	
[**NORMAL★**]	
[**NORMAL**]	
[**BASIC★**]	
[**BASIC**]	

画像サイズの設定方法

ファインダー撮影時に、（**QUAL**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回します。







JPEG画像のサイズは［**サイズL**］、［**サイズM**］、［**サイズS**］のいずれかに設定できます。画像のピクセル数は撮像範囲との組み合わせで変わります。

撮像範囲	画像サイズ		
	［サイズL］	［サイズM］	［サイズS］
［**FX（36×24）**］	6048×4024	4528×3016	3024×2016
［**DX（24×16）**］	3936×2624	2944×1968	1968×1312
［**1:1（24×24）**］	4016×4016	3008×3008	2000×2000
［**16:9（36×20）**］	6048×3400	4528×2544	3024×1696

ヒント：ライブビュー撮影時の拡大表示

ライブビュー中に（**QUAL**）ボタンを押すと、拡大表示できます。

- （**QUAL**）ボタンを押すごとに拡大率が上がり、（）ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ（グレーの枠）が表示されます。
- 拡大表示中は、マルチセレクターを操作すると、見たい部分に移動できます。
- ライブビュー撮影時に画質モードおよび画像サイズを変更する場合は、静止画撮影メニューの［**画質モード**］および［**画像サイズ**］で設定します。



（）ボタンの使い方

（）ボタンを使うと、画面内のどの部分の明るさをどのように測定するかを決めるための測光モードを設定できます。

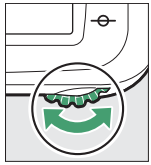
✓ （）ボタンについて

（）ボタンは、撮影モードやカメラの状態によって使用できない場合があります。

測光モードの設定方法

（）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。







項目		内容
◙	［**マルチパターン測光**］	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。見た目に近い画像が得られます。
◉	［**中央部重点測光**］	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。
⊡	［**スポット測光**］	フォーカスポイントに重なるφ4mm 相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。
⊡*	［**ハイライト重点測光**］	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

ϟ（ϟ±）ボタンの使い方

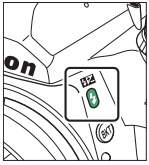
ϟ（ϟ±）ボタンを使うと、カメラに別売スピードライトを装着してフラッシュ撮影するときの、フラッシュモードと調光補正の設定ができます。フラッシュモードではフラッシュの効果を、調光補正ではフラッシュの発光量を設定します。

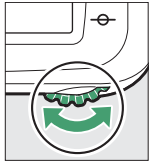
ϟ（ϟ±）ボタンについて

ϟ（ϟ±）ボタンは、撮影モードやカメラの状態によって使用できない場合があります。

フラッシュモードの設定方法

ϟ（ϟ±）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。



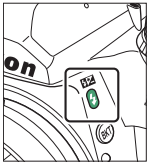




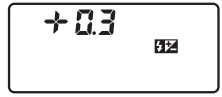
項目		内容	撮影モード
ϟ	[**通常発光**]（先幕シンクロ）	通常のフラッシュ撮影の場合はこのモードに設定します。	AUTO、**P**、**S**、**A**、**M**、**EFCT**（、以外）
ϟ◉	[**赤目軽減発光**]（赤目軽減）	撮影前にフラッシュが発光して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	AUTO、**P**、**S**、**A**、**M**、**EFCT**（、以外）
ϟ SLOW	[**通常発光+スローシャッター**]（スローシンクロ）	通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	**P**、**A**
ϟ◉ SLOW	[**赤目軽減+スローシャッター**]（赤目軽減スローシンクロ）	赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	**P**、**A**
ϟ REAR	[**後幕発光**]（後幕シンクロ）	シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。	**P**、**S**、**A**、**M**
⊘	[**発光禁止**]	発光しません。	AUTO、**P**、**S**、**A**、**M**、**EFCT**

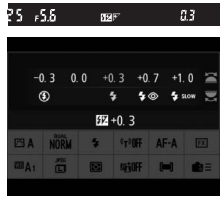
調光補正の設定方法

ϟ（ϟZ）ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回します。



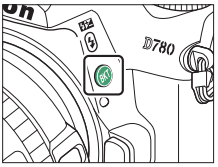






- 被写体をより明るく照らしたいときは＋側に、被写体に光が強く当たりすぎないようにしたいときは－側に補正してください。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

BKTボタンの使い方



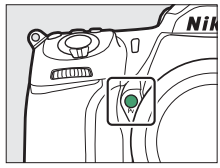
BKTボタンを使うと、オートブラケティング撮影時の撮影コマ数や補正ステップなどを設定できます。オートブラケティングは、明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影する機能です。

- **BKT**ボタンの機能は、カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で変更できます。

☑ BKTボタンについて

BKTボタンは、撮影モードやカメラの状態によって使用できない場合があります。

Pvボタンの使い方



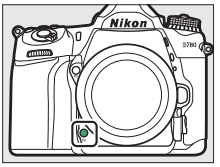
撮影時に**Pv**ボタンを押し続けるとレンズの絞り羽根が絞り込まれ、設定されている絞り値のおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

- 別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニュー e5［**モデリング発光**］を［**しない**］に設定してください。
- **Pv**ボタンの機能は変更することができます。静止画撮影時の機能はカスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で、動画撮影時の機能はg2［**カスタムボタンの機能**］で設定します。

Pvボタンについて

Pvボタンは、撮影モードやカメラの状態によって使用できない場合があります。

Fnボタンの使い方



撮影時に**Fn**ボタンを押すと、よく使う機能を素早く呼び出せます。

- **Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、割り当てた機能の設定を変更できます。項目によってはメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルで設定する場合があります。
- **Fn**ボタンの静止画撮影時の機能はカスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で、動画撮影時の機能はg2［**カスタムボタンの機能**］で変更できます。
- **Fn**ボタンの初期設定は［**撮像範囲選択**］です。

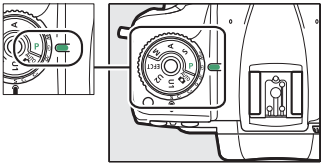
Fnボタンについて

Fnボタンは、撮影モードやカメラの状態によって使用できない場合があります。

撮影機能を設定する

撮影モードを設定する

撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回すと、次の撮影モードを設定できます。



モード		内容
AUTO	**オート**（🕮36、45）	カメラまかせの簡単な操作で撮影を楽しむことができます。
P	**プログラムオート**（🕮109）	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート**（🕮110）	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。

モード		内容
A	**絞り優先オート**（🕮111）	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル**（🕮113）	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。
U1/U2	**ユーザーセッティングモード**（🕮115）	よく使う機能（ユーザーセッティング）を登録できます。撮影モードダイヤルを切り換えるだけで、登録した内容で撮影できます。
EFCT	**スペシャルエフェクトモード**（🕮119）	特殊な効果のついた画像を撮影できます。

☑ 使用レンズについてのご注意

- CPUレンズ（G タイプ、Eタイプレンズを除く）の絞りリングは、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。
- 撮影モードが**P**または**S**のときに非CPUレンズを装着すると、撮影モードを自動的に**A**に切り換えて制御します。このとき、インフォ画面の撮影モードは**A**になります。

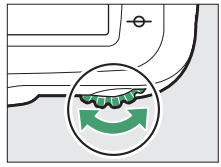
撮影モードP、S、A、Mを使う

■P（プログラムオート）

被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

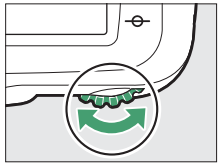
ヒント：プログラムシフトについて

撮影モード**P**では、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回すと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられる「プログラムシフト」が行えます。プログラムシフト中は、ファインダー内表示にプログラムシフトマーク（**S**）が表示されます。

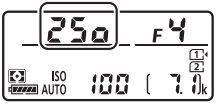


- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマークが表示されなくなるまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたり、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

■■S（シャッター優先オート）



シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードは、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回して設定します。

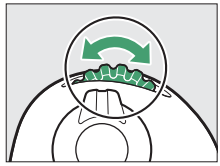


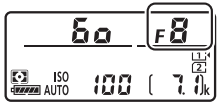


- シャッタースピードは1/8000（8000）～30秒（30''）、x 200に設定できます。

■A（絞り優先オート）

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞り値を設定するには、半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回します。







- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。

ヒント：非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着してセットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値（開放F値）を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

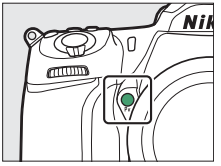
- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（**AF**、開放絞りは**AF**）となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。





ヒント：被写界深度のプレビュー

Pvボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

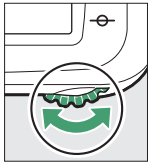


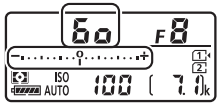
■M（マニュアル）

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、🕮170）で撮影する場合には、この撮影モードを使います。半押しタイマーがオンのときに、露出インジケーターを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。

- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは、1/8000（8000）～30秒（30''）およびbuLb（バルブ）、--（タイム）、x200に設定できます。
- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。

シャッタースピードの設定：

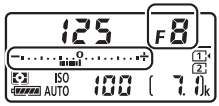






絞り値の設定：







ヒント：AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

ヒント：シャッタースピードの延長について

カスタムメニュー d6［**Mモード時のシャッタースピード延長**］を［**する**］に設定すると、シャッタースピードを最長900秒（15分）まで設定できます。

ヒント：露出インジケーターについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b1［**露出設定ステップ幅**］の設定によって変化します）。

	［露出設定ステップ幅］が［1/3段］のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	3 1/3段以上 オーバーの場合
表示パネル			
ファインダー内表示			

- インジケーター表示の＋/－方向は、カスタムメニュー f7［**インジケーターの＋/－方向**］で変更できます。

ヒント：露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合や、ライブビューでの露出制御範囲を超えた場合には、露出インジケーターが点滅して警告します。

ユーザーセッティングモードU1、U2を使う

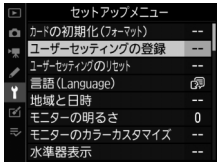
ユーザーセッティングを登録する

1 登録したい撮影機能を設定する

次の撮影機能を登録できます。

- 静止画撮影メニュー項目（一部の項目を除く）
- 動画撮影メニュー項目（一部の項目を除く）
- カスタムメニュー項目
- 撮影モード、シャッタースピード（撮影モード**S**、**M**）、絞り値（撮影モード**A**、**M**）、プログラムシフト（撮影モード**P**）、露出補正、調光補正など

2 セットアップメニューの［ユーザーセッティングの登録］を選ぶ



MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**ユーザーセッティングの登録**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

3 設定を登録したいユーザーセッティングモードを選ぶ

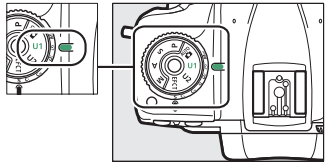
［**U1に登録**］または［**U2に登録**］のいずれかを選んで、▶を押します。

4 ユーザーセッティングを登録する

▲または▼で、［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに現在の設定内容が登録されます。

5 登録したユーザーセッティングで撮影する

撮影モードダイヤルを**U1**または**U2**に合わせると、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。



ヒント：U1、U2に登録できない撮影メニュー項目

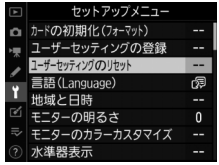
次のメニュー項目は**U1**、**U2**に登録できません。

- 静止画撮影メニュー
  - ［**記録フォルダー設定**］
  - ［**撮像範囲**］
  - ［**カスタムピクチャーコントロール**］
  - ［**多重露出**］
  - ［**インターバルタイマー撮影**］
  - ［**タイムラプス動画**］
  - ［**フォーカスシフト撮影**］
- 動画撮影メニュー
  - ［**撮像範囲**］
  - ［**カスタムピクチャーコントロール**］

■ 登録したユーザーセッティングをリセットする

1 セットアップメニューの［ユーザーセッティングのリセット］を選ぶ

MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**ユーザーセッティングのリセット**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。



2 リセットしたいユーザーセッティングモードを選ぶ

［**U1をリセット**］または［**U2をリセット**］のいずれかを選んで、▶を押します。

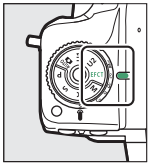
3 ユーザーセッティングをリセットする

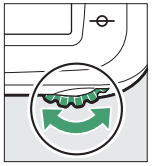
▲または▼で、［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに登録された設定内容が、初期設定（撮影モード**P**）に戻ります。

スペシャルエフェクトモードを使う

■■ スペシャルエフェクトモードの設定方法

撮影モードダイヤルを**EFCT**に合わせた後、メインコマンドダイヤルを回して設定を変更します。







項目		内容
	［**ナイトビジョン**］	意図的に高感度で撮影して、モノトーン（白黒）で表現します。暗闇での撮影に適しています。 • オートフォーカスでピントが合いにくい場合は、フォーカスモードセレクターを**M**に合わせて、マニュアルフォーカスで撮影してください。
VI	［**極彩色**］	画像全体の色を強調し、コントラストがはっきりした写真にします。
POP	［**ポップ**］	画像全体の色を鮮やかにし、明るい雰囲気にします。
	［**フォトイラスト**］	輪郭を強調し、色数を減らすことでイラスト風に表現します。 • ライブビューにすると、（［**フォトイラスト**］）の効果を設定できます（🕮122）。 • 動画撮影の場合は、コマ送りのような動画として記録されます。

項目		内容
	［**トイカメラ風**］	色の濃さと周辺減光量を調整し、トイカメラで撮影したように表現します。 • ライブビューにすると、（［**トイカメラ風**］）の効果を設定できます（🕮123）。
	［**ミニチュア効果**］	ミニチュア（模型）を接写したように表現します。高いところから見下ろして撮影する場合に適しています。 • ライブビューにすると、（［**ミニチュア効果**］）の効果を設定できます（🕮124）。 • 動画撮影の場合は、早送り動画として記録されます。 • 動画撮影の場合は音声は記録されません。
	［**セレクトカラー**］	選んだ色のみをカラーで残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）で表現します。 • ライブビューにすると、（［**セレクトカラー**］）の効果を設定できます（🕮126）。
	［**シルエット**］	背景が明るいシーンで、被写体を意図的にシルエットで表現します。
	［**ハイキー**］	全体的に明るめの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に明るいトーンで表現します。光に満ちた華やいだ雰囲気になります。
	［**ローキー**］	全体的に暗めの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に暗いトーンで表現します。深く落ち着き、ハイライト部分が引き立った雰囲気になります。

ヒント：三脚の使用について

暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

ヒント：スペシャルエフェクトモードについて

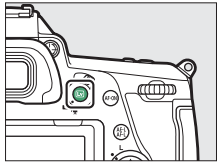
- 、**VI**、**POP**、、、、または のときに、画質モード［**RAW**］で撮影すると［**FINE★**］のJPEGで画像が記録され、RAWとJPEGを同時に記録する画質モードで撮影するとJPEG画像のみが記録されます。
- カスタムメニュー d8［**EFFECTS時の元画像保存**］を［**する**］にすると、**VI**、**POP**、、、、または で撮影したときに、JPEG画像のほかに特殊効果をつける前の元画像としてRAW画像も保存します。［**しない**］にすると、特殊効果をつけて撮影したJPEG画像だけを保存します。
- 動画記録中は、スペシャルエフェクトモードを変更できません。
- 撮影モードが または のときにレリーズモードを**CL**（低速連続撮影）または**CH**（高速連続撮影）に設定した場合、連続撮影速度が遅くなります。
- 撮影モードが または のときは、ライブビューの表示の更新は遅くなります。

■■ （フォトイラスト）の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードでを選んだ後、ライブビューで効果を設定します。

1 ボタンを押す

画像モニターに被写体が表示されます。



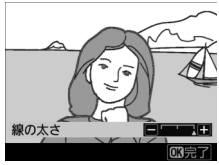
2 ボタンを押す

フォトイラストの設定画面が表示されます。



3 線の太さを設定する

マルチセレクターのを押すと細くなり、を押すと太くなります。



4 決定する

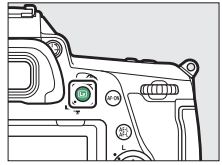
ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。

■ （トイカメラ風）の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードでを選んだ後、ライブビューで効果を設定します。

1 ボタンを押す

画像モニターに被写体が表示されます。



2 ボタンを押す

トイカメラ風の設定画面が表示されます。



3 色の濃さと周辺減光を設定する

- マルチセレクターのまたはを押して、設定したい項目を選びます。
- [**色の濃さ**]：を押すと色が濃くなり、を押すと薄くなります。
- [**周辺減光**]：を押すと減光効果が強くなり、を押すと弱くなります。



4 決定する

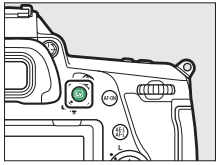
ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。

■ （ミニチュア効果）の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードでを選んだ後、ライブビューで効果を設定します。

1 ボタンを押す

画像モニターに被写体が表示されます。



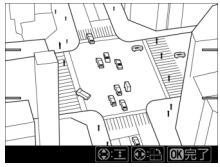
2 フォーカスポイントを被写体に重ねる



- マルチセレクターで、ぼかさないではっきりと見せたい部分にフォーカスポイントを移動します。
- シャッターボタンを半押しして、ピントが合う部分を確認します。
- （**QUAL**）ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピントを細部まで確認できます。（）ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- 拡大表示中は効果が一時解除されます。

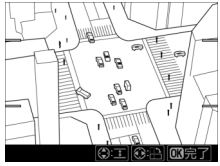
3 ⓞⓚボタンを押す

ミニチュア効果の設定画面が表示されます。



4 効果をかける方向と幅を設定する

- ◀または▶を押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。
- ▲または▼を押すと、効果をかける幅を設定できます。



5 決定する

ⓞⓚボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。

ヒント：ミニチュア効果での動画撮影について

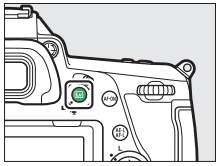
動画の記録時間は撮影にかかる時間よりも短くなります。たとえば、動画撮影メニューの［**画像サイズ/フレームレート**］が1920×1080、30pの場合、約1分の動画ファイルを作成するためには約15分の撮影時間が必要です。

■■ 🖉（セレクトカラー）の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで🖉を選んだ後、ライブビューで効果を設定します。

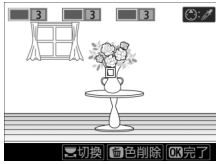
1 Ⓛⓥボタンを押す

画像モニターに被写体が表示されます。



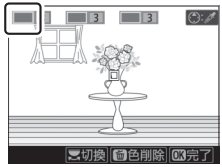
2 ⓞⓚボタンを押す

セレクトカラーの設定画面が表示されます。



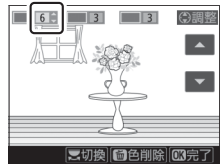
3 残したい色を抽出する

- カメラを動かして画面中央の枠を残したい色の被写体に重ねます。
- （**QUAL**）ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。（）ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- マルチセレクターのを押すと、画面中央の枠に重ねた被写体の色が抽出され、色の枠に表示されます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーン（白黒）で表示されます。



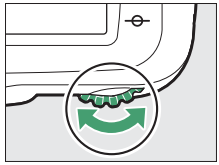
4 抽出する色の感度を設定する

またはを押して、抽出する色の感度を［**1**］～［**7**］から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。

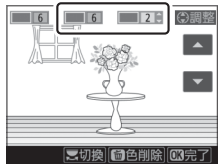


5 抽出する色を追加する

- メインコマンドダイヤルを回して別の色の枠を選び、手順3～4と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。



- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、🗑（FORMAT）ボタンを押し続けます。確認画面で［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、全ての色をリセットします。



6 決定する

OKボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。

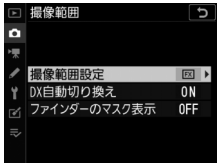
セレクトカラー設定時のご注意

- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

撮影する画像の画質やサイズを設定する（撮像範囲、画質モード、画像サイズ）

撮像範囲に関する設定を変更する

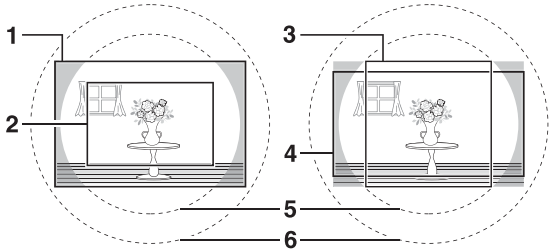
静止画撮影メニューで［**撮像範囲**］を選んだときに表示されるメニューで、撮像範囲に関する設定を変更できます。



■■ 撮像範囲設定

撮像範囲を切り換えられます。設定できる撮像範囲は次の通りです。

項目		内容
FX	[**FX（36×24）**]	35mm判カメラに準じた画角のFXフォーマットで画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。
DX	[**DX（24×16）**]	DXフォーマットで画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。
1:1	[**1:1（24×24）**]	アスペクト比（縦横比）が1：1の画像を記録します。
16:9	[**16:9（36×20）**]	アスペクト比（縦横比）が16：9の画像を記録します。



1 FX（36×24）
2 DX（24×16）
3 1:1（24×24）
4 16:9（36×20）
5 DXレンズのイメージサークル
6 35mm判カメラ用レンズのイメージサークル

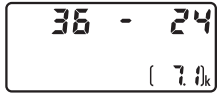
「ケラレ」について

DXレンズは通常の35mm判カメラ用レンズに比べ、イメージサークルが小さくなっています。このため、DXレンズを装着して［**DX自動切り換え**］を［**しない**］に設定して［**撮像範囲設定**］を［**DX（24×16）**］以外にして撮影すると、画面周辺部が黒くなることがあります。これを「ケラレ」といいます。ファインダー上ではケラレがないように見えても、撮影した画像を再生すると周辺部が暗くなっていることや、充分な解像度が得られないことがあります。

ヒント：ボタンとコマンドダイヤルで撮像範囲を設定する

カスタムメニューf3［**カスタムボタンの機能**］で任意のボタンに［**撮像範囲選択**］を割り当てると、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して撮像範囲を設定できます。

- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます（🕮130）。
- ［**撮像範囲選択**］を割り当てたボタンを押すと、表示パネルやファインダー内表示で撮像範囲の設定を確認できます。



撮像範囲	表示
［**FX（36×24）**］	36 - 24
［**DX（24×16）**］	24 - 16
［**1:1（24×24）**］	24 - 24
［**16:9（36×20）**］	36 - 20

- 撮像範囲の［**DX自動切り換え**］を［**する**］に設定してDXレンズを装着している場合、［**撮像範囲選択**］を割り当てたボタンでは撮像範囲は切り換えられません。

ヒント：撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズでも、［**撮像範囲**］の設定により、撮影画像のピクセル数が変化します。

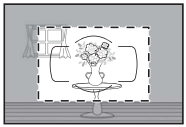
■■ DX自動切り換え

DXレンズを装着したときに自動的に撮像範囲を［**DX（24×16）**］（DXフォーマット）に切り換えるかどうかを設定できます。

項目	内容
［**する**］	DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を［**DX（24×16）**］に切り換えます。
［**しない**］	自動的に切り換えません。

■■ ファインダーのマスク表示

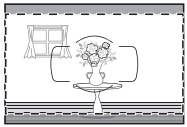
［**する**］にすると、撮像範囲が［**FX（36×24）**］以外のときに記録されない部分を薄暗く表示します。



DX (24×16)



1 : 1 (24×24)



16 : 9 (36×20)

画質モードを変更する

記録する画像の画質モードを選びます。

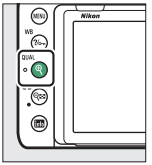
項目	内容
[**RAW+FINE★**]	RAWとJPEGの2種類の画像を同時に記録します。 • JPEG画像は、画質とサイズのどちらを優先するかを選べます。★がある項目は画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。★がない項目はサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。 • カメラではJPEG画像のみを再生します。JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。 • RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
[**RAW+FINE**]	
[**RAW+NORMAL★**]	
[**RAW+NORMAL**]	
[**RAW+BASIC★**]	
[**RAW+BASIC**]	
[**RAW**]	RAW画像を記録します。
[**FINE★**]	JPEG画像を記録します。画質は高い順にFINE、NORMAL、BASICです。 • ★がある項目は画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。★がない項目はサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
[**FINE**]	
[**NORMAL★**]	
[**NORMAL**]	
[**BASIC★**]	
[**BASIC**]	

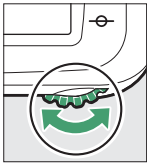
ヒント：RAW画像について

- ファイルの拡張子はNEFになります。
- RAW画像からJPEG画像などの汎用性の高い画像ファイルフォーマットに変換することをRAW現像と呼びます。RAW現像の際に、露出補正やホワイトバランス、ピクチャーコントロールなどの設定を調整できます。
- RAW現像では、RAW画像そのものは加工されないため、いろいろな設定で繰り返しRAW現像を行っても、RAW画像そのものの品質は維持されます。
- RAW現像は、カメラの画像編集メニュー［**RAW現像**］で行うか、パソコンでニコンソフトウェアNX Studioを使用すると行えます。NX Studioはニコンダウンロードセンターから無料でダウンロードできます。

■■ 画質モードの設定方法

ファインダー撮影時に、🔍（**QUAL**）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。







ヒント：静止画撮影メニュー［画質モード］について

画質モードは、静止画撮影メニュー［**画質モード**］でも設定できます。ライブビュー撮影時に画質モードを変更する場合は、静止画撮影メニュー［**画質モード**］で設定してください。

ヒント：RAW画像とJPEG画像の同時記録について

RAWとJPEGを同時に記録する画質モードを選んでいる場合に、静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］を［**RAW+JPEG 分割記録**］に設定すると、RAW画像がスロット1のカードに、JPEG画像がスロット2のカードに記録されます。

画像サイズを変更する

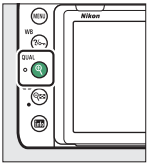
記録するJPEG画像の画像サイズを選びます。JPEG画像の画像サイズは［**サイズL**］、［**サイズM**］、［**サイズS**］のいずれかに設定できます。画像のピクセル数は、撮像範囲（🕮129）との組み合わせで変わります。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ（出力解像度**300dpi**の場合）※
［**FX（36×24）**］	**L**（6048 × 4024ピクセル）	約51.2×34.1 cm
	M（4528 × 3016ピクセル）	約38.3×25.5 cm
	S（3024 × 2016ピクセル）	約25.6×17.1 cm
［**DX（24×16）**］	**L**（3936 × 2624ピクセル）	約33.3×22.2 cm
	M（2944 × 1968ピクセル）	約24.9×16.7 cm
	S（1968 × 1312ピクセル）	約16.7×11.1 cm
［**1:1（24×24）**］	**L**（4016 × 4016ピクセル）	約34.0×34.0 cm
	M（3008 × 3008ピクセル）	約25.5×25.5 cm
	S（2000 × 2000ピクセル）	約16.9×16.9 cm
［**16:9（36×20）**］	**L**（6048 × 3400ピクセル）	約51.2×28.8 cm
	M（4528 × 2544ピクセル）	約38.3×21.5 cm
	S（3024 × 1696ピクセル）	約25.6×14.4 cm

※ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cmで計算しています。

■■ 画像サイズの設定方法

ファインダー撮影時に、⊕（**QUAL**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回します。







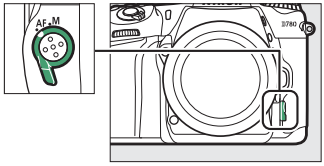
ヒント：静止画撮影メニュー［画像サイズ］について

JPEGの画像サイズは、静止画撮影メニュー［**画像サイズ**］でも設定できます。ライブビュー撮影時に画像サイズを変更する場合は、静止画撮影メニュー［**画像サイズ**］で設定してください。

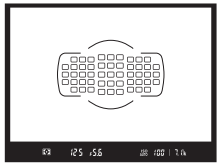
ピントの合わせ方を設定する（フォーカス）

フォーカスモードを切り換える

フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせるとオートフォーカス、**M**に合わせるとマニュアルフォーカスに切り替わります。



ファインダー撮影時、このカメラは51点のフォーカスポイントを使用してフォーカスを合わせます。



AFモードを変更する

AFモードでは、オートフォーカス時のピントの合わせ方を選べます。

■■ ファインダー撮影時

項目		内容
AF-A	［**AFモード 自動切り換え**］	静止している被写体は**AF-S**で撮影し、動いている被写体は**AF-C**で撮影します。
AF-S	［**シングルAF**］	静止している被写体の撮影に適しています。 シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。 • 初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです。
AF-C	［**コンティニュアスAF**］	ファインダー内のピント表示（●）がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けます。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。 シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカスに切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。 • 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです。

ヒント：予測駆動フォーカスについて

AFモードを**AF-C**に設定しているときや**AF-A**に設定していて**AF-C**で撮影しているときに、シャッターボタンを半押しするか、**AF-ON**ボタンを押してピントを合わせる場合、被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

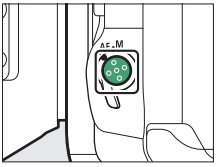
■■ ライブビュー撮影時

項目		内容
AF-A	［**AFモード 自動切り換え**］	静止している被写体は**AF-S**で撮影し、動いている被写体は**AF-C**で撮影します。 • 静止画撮影時のみ選べます。
AF-S	［**シングルAF**］	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスポイントが赤色から緑色に変わって点灯し、フォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはフォーカスポイントが赤に点滅してシャッターがきれません。 • 初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです。
AF-C	［**コンティニュアスAF**］	スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けている間はフォーカスロックはされず、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。 • 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです。

項目		内容
AF-F	［**フルタイムAF**］	カメラは常に被写体の動きや構図の変化に合わせてピントを合わせ続けます。シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行って、ピントが合った時点でフォーカスポイントが赤色から緑色に変わって点灯し、フォーカスがロックされます。 • 動画撮影時のみ選べます。

■■ AFモードの変更方法

AFモードを設定するには、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。

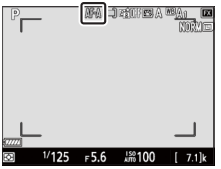


- ファインダー撮影時は、表示パネルおよびファインダー内表示にAFモードが表示されます。





- ライブビュー撮影時または動画撮影時は、画像モニターにAFモードが表示されます。



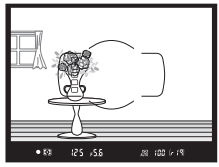
AFエリアモードを変更する

AFエリアモードでは、オートフォーカス時にフォーカスポイントをどのように選択するか設定できます。

■■ ファインダー撮影時

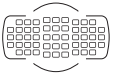
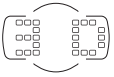
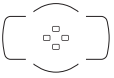
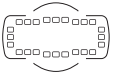
項目	内容
［**シングルポイントAF**］	フォーカスポイントを自分で選べます（🕮159）。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。 • 静止している被写体の撮影に適しています。
［**ダイナミックAF（9点）**］/［**ダイナミックAF（21点）**］/［**ダイナミックAF（51点）**］	撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。AFモードが**AF-A**または**AF-C**の場合に選べます。 • **ダイナミックAF（9点）**：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体をとらえやすい撮影に適しています（例：陸上競技やモータースポーツ）。 • **ダイナミックAF（21点）**：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています（例：フィールドスポーツ）。 • **ダイナミックAF（51点）**：被写体の動きが速く、選んだフォーカスポイントで被写体をとらえにくい場合の撮影に適しています（例：野鳥撮影）。

項目	内容
[**3D-トラッキング**]	51点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾します。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。AFモードが**AF-A**または**AF-C**の場合に選べます。 • 左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています（例：テニス）。 • カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度フォーカスポイントで被写体にピントを合わせてください。
[**グループエリアAF**]	撮影者が選んだフォーカスポイント（グループ）を使ってピント合わせをします。広い範囲で被写体をとらえるため、誤って背景にピントが合ってしまうことが起こりにくくなります。 • スナップ撮影や、動きのある被写体、[**シングルポイントAF**]ではとらえにくい被写体の撮影などに適しています。 • 人物の顔を認識します。その場合は、認識した顔を優先してピントを合わせます。

項目	内容
［**オートエリアAF**］	 カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。 • 人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます（顔認識AF）。動きのあるポートレート撮影も構図や表情に集中して撮影できます（🕮155）。 • シャッターチャンスを優先した撮影、人物撮影、スナップ撮影などに適しています。 • AFモードが**AF-S**のときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを一瞬表示します。**AF-C**に設定しているとき、または**AF-A**に設定していて**AF-C**で撮影しているときは、使用するフォーカスポイント1点を表示します。

☑ AFエリアモードの表示について

表示パネルおよびファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	表示パネル	ファインダー内表示	ファインダー内表示（設定時）
［シングルポイントAF］	S	S	
［ダイナミックAF（9点）］※	d 9	d 9	
［ダイナミックAF（21点）］※	d21	d21	
［ダイナミックAF（51点）］※	d51	d51	
［3D-トラッキング］	3d	3d	
［グループエリアAF］	GrP	GrP	
［オートエリアAF］	Auto	Auto	

※実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

ヒント：3D-トラッキング機能について
AFエリアモードを［**3D-トラッキング**］にすると、半押ししていったんピントが合った時点で、選んだフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

ヒント：フォーカスポイントを素早く選ぶには
カスタムメニュー a6［**AF点数**］を［**スキップ**］に設定すると、マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数が約1/4になります。フォーカスポイントを素早く移動させることができます。

ヒント：AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のAFエリアモードついて
AF-S/AF-Iテレコンバーターを使用して合成絞り値がF5.6より暗い場合、AFエリアモードを［**3D-トラッキング**］または［**オートエリアAF**］に設定していても、［**シングルポイントAF**］に変更されます。

■■ ライブビュー撮影時

項目		内容
[ ] PIN	［**ピンポイントAF**］	［**シングルポイントAF**］よりも小さいフォーカスポイントを使って、より狭い範囲にピンポイントでピントを合わせることができます。 • ［**シングルポイントAF**］よりもピント合わせに時間がかかることがあります。 • 建築物などの静止している被写体の撮影や、スタジオでの商品撮影や接写に適しています。 • 静止画撮影時にAFモードが**AF-S**の場合のみ選べます。
[ ]	［**シングルポイントAF**］	撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。 • 静止している被写体の撮影に適しています。
WIDE-S	［**ワイドエリアAF（S）**］	［**シングルポイントAF**］よりも広い範囲（エリア）で被写体をとらえてピント合わせを行います。 • スナップ撮影や、動きのある被写体、［**シングルポイントAF**］ではとらえにくい被写体の撮影などに適しています。 • 動画撮影で、動きのある被写体を撮影する場合やパン・チルトを行う場合にも、なめらかで安定したピント合わせが行えます。 • フォーカスポイント内に複数の被写体がある場合、手前の被写体を優先してピントを合わせます。 • ［**ワイドエリアAF（L）**］は［**ワイドエリアAF（S）**］よりも広い範囲で被写体をとらえます。
WIDE-L	［**ワイドエリアAF（L）**］	

項目		内容
[⁘]	［**ダイナミックAF**］	撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。 • スポーツの撮影など、［**シングルポイントAF**］では被写体をとらえにくい動きのある被写体の撮影に適しています。 • 静止画撮影時にAFモードが**AF-A**または**AF-C**の場合のみ選べます。
[▬]	［**オートエリアAF**］	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してAFエリアフレーム内でピントを合わせます。 • シャッターチャンスを優先した撮影、人物撮影、スナップ撮影などに適しています。 • 静止画撮影時にカメラが人物の顔を認識した場合、顔に黄色の枠（フォーカスポイント）が表示されます。瞳を認識できるときは、瞳に黄色の枠が表示されます（瞳AF/顔認識AF）。動きのあるポートレート撮影も構図や表情に集中して撮影できます（🕮155）。 • ⓄⓀボタンを押すと、ターゲット追尾AFを使用できます（🕮158）。

ライブビュー時のオートフォーカスについてのご注意

- 次の被写体はオートフォーカスでピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
  - 画面の長辺側と平行な線の被写体
  - 明暗差の少ない被写体
  - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
  - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
  - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
  - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
  - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
  - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- ピントが合わなくてもフォーカスポイントが緑色で点灯する場合があります。
- AF-SやAF-P以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、充分なピント精度が出ない場合があります。

ヒント：フォーカスポイントが⊡のように表示されている場合

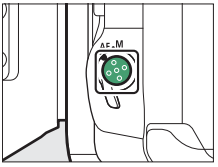
［**オートエリアAF**］設定時を除き、フォーカスポイント中央に点が表示されているときは、フォーカスポイントが画面の中央にあることを示しています。

ヒント：フォーカスポイントを素早く選ぶには

カスタムメニュー a6［**AF点数**］を［**スキップ**］に設定すると、マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数が約1/4になります。フォーカスポイントを素早く移動させることができます。［**ピンポイントAF**］および［**ワイドエリアAF（L）**］の場合は［**スキップ**］に設定しても選べるフォーカスポイントの数は変化しません。

■■ AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すとAFエリアモードを設定できます。

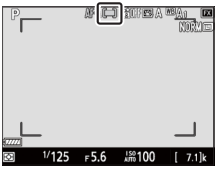


- ファインダー撮影時は、表示パネルおよびファインダー内表示にAFエリアモードが表示されます。

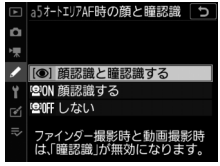




- ライブビュー撮影時または動画撮影時は、画像モニターにAFエリアモードが表示されます。



■■ 顔認識AFと瞳AF



AFエリアモードが［**オートエリアAF**］の場合、顔を認識する顔認識AFを使って撮影できます。ライブビュー撮影で静止画を撮影するときは、人物の顔と瞳の両方を認識する瞳AFで撮影することもできます。顔認識AFおよび瞳AFの設定は、カスタムメニュー a5［**オートエリアAF時の顔と瞳認識**］で行います。

ファインダー撮影時



- ［**顔認識と瞳認識する**］または［**顔認識する**］に設定していると、カメラが人物の顔を認識した場合、認識した顔を優先してピントを合わせます。
- カメラが顔を認識した人物が一時的に横や後ろを向いたりしても、追尾してフォーカスポイントが移動します。
- 再生時にⓄⓀボタンを押すと、ピントを合わせた顔を中心に画像が拡大されます。

ライブビュー撮影時



- [**顔認識と瞳認識する**] に設定していると、カメラが人物の顔を認識した場合、顔に黄色の枠（フォーカスポイント）が表示されます。静止画撮影時に瞳を認識できるときは、左右どちらかの瞳に黄色の枠が表示されます。
- [**顔認識する**] に設定していると、人物の顔を認識した場合、顔に黄色の枠が表示されます。
- AFモードを**AF-S**に設定しているとき、または**AF-A**に設定していて**AF-S**で撮影しているときに、ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。
- 複数の顔や瞳を認識した場合は、フォーカスポイントに◀および▶が表示されます。マルチセレクターの◀▶を押してピントを合わせたい顔や瞳を選ぶことができます。
- カメラが顔を認識した人物が一時的に横や後ろを向いたりしても、追尾してフォーカスポイントが移動します。
- 再生時にⓄⓀボタンを押すと、ピントを合わせた顔や瞳を中心に画像が拡大されます。

瞳AFと顔認識AFについてのご注意

- 動画撮影時は瞳認識を行いません。
- 次のような場合は、瞳AFおよび顔認識AFが正常に行われないことがありますので、ご注意ください。
  - 顔が画面に対して大きい/小さい場合
  - 顔が明るすぎる/暗すぎる場合
  - メガネやサングラスをかけている場合
  - 髪の毛で目や顔が隠れている場合
  - 人物の動きが大きすぎる場合

ターゲット追尾AF

ライブビュー撮影時にAFエリアモードが［**オートエリアAF**］の場合、フォーカスポイントを指定した被写体に追尾させることができます。

- ⓚボタンを押すと、フォーカスポイントの形が変わってターゲット選択画面になります。



- 追尾させたい被写体にフォーカスポイントを合わせ、ⓚボタンを押すか**AF-ON**ボタンを押すと被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。
- もう一度ⓚボタンを押すと追尾を終了します。
- （）ボタンを押すと、ターゲット追尾AFを終了します。

ターゲット追尾AFについてのご注意

次のような場合は、追尾動作が正常に行われないことがありますので、ご注意ください。

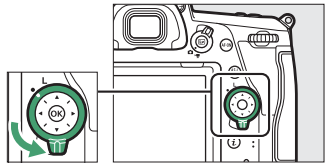
- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

フォーカスポイントを自分で選ぶ

AFエリアモードが［**オートエリアAF**］以外の場合、フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

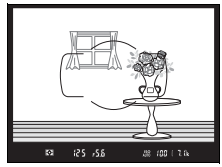
1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

フォーカスポイントロックレバーを回して●の位置に合わせるとロックが解除されます。

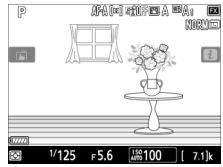


2 半押しタイマーがオンのときに、マルチセレクターでフォーカスポイントを選ぶ

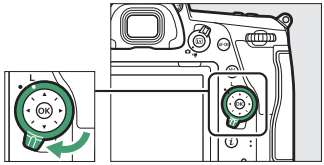
- ファインダー撮影時はAFエリアフレーム内の51点を選べます。



- ライブビュー撮影時は画像モニター全画面の任意の位置にフォーカスポイントを移動できます。



- ⓄⓀボタンを押すと、中央部のフォーカスポイントが選ばれます。
- フォーカスポイントロックレバーを回して**L**の位置に合わせると、フォーカスポイントをロック（固定）します。



ヒント：フォーカスロックについて

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体を撮影するときには、AE-L/AF-Lボタンを押してピントを固定（フォーカスロック）して撮影することもできます（🕮83）。

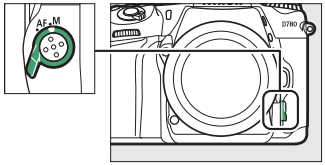
ヒント：オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合っていなくてもカメラがピントが合っていると判断し（ファインダー撮影時にピント表示（●）が点灯、またはライブビュー撮影時にフォーカスポイントが緑色で点灯した状態になり）、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカスでピントを合わせるか、フォーカスロックを利用してください。

- 白壁や背景と同色の服を着ている人物など、被写体の明暗差がはっきりしない場合
- オリの中の動物など、フォーカスポイント内に遠くのものと近くのものが混在する被写体
- ビルの窓やブラインドなど、連続した繰り返しパターンの被写体
- 太陽を背景にした日陰の人物など被写体の明暗差が極端に異なる場合
- 遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など背景に対して被写体が小さい場合
- 一面の花畑など、絵柄が細かい場合

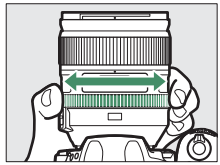
マニュアルフォーカスで撮影する

使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。



- **AFレンズを使用している場合**：カメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。
  - AF-Sレンズやフォーカスモード切り換えスイッチのあるAF-Pレンズを使用している場合は、レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。カメラのフォーカスモードセレクターを切り換える必要はありません。
- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合**：マニュアルフォーカスレンズを使用すると、常にマニュアルフォーカスで撮影できます。

ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。

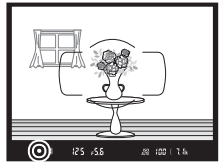


AF-S/AF-Pレンズ以外のAFレンズでマニュアルフォーカスをする場合のご注意

必ずカメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。フォーカスモードセレクターが**AF**のままマニュアルフォーカスをすると、カメラやレンズの故障の原因になります。

■■ フォーカスエイドによるピント合わせ

マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内および画像モニター内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。



- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます。

ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	ピント合わせができません。

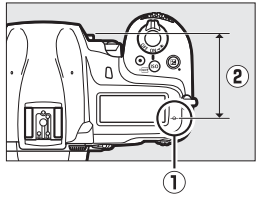
- オートフォーカスの苦手な被写体（🕮161）では、ピントが合っていなくてもピント表示（●）が点灯することがあります。ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。ライブビュー撮影時は拡大表示してピントが合っていることを確認してください。
- ピント合わせがしづらい場合は、三脚のご使用をおすすめします。

ヒント：AF-Pレンズ使用時のマニュアルフォーカスについて

AF-Pレンズを使ってマニュアルフォーカスでピントを合わせるときに、ファインダー内のピント表示が点滅した場合、それ以上同じ方向にフォーカスリングを回しても、ピントは合いません（ライブビュー撮影時には、画像モニターのフォーカスポイントが点滅します）。

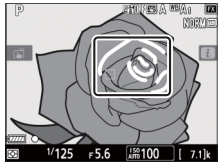
ヒント：距離基準マークとフランジバックについて

距離基準マーク⊖（①）は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。また、レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法をフランジバック（②）といいます。このカメラのフランジバックは46.5mmです。



ヒント：ピーキング表示（フォーカスピーキング）

- ライブビュー撮影時にマニュアルフォーカスでピントを合わせている場合、カスタムメニュー d11［**ピーキング表示**］を［**しない**］以外に設定すると、ピントが合っている部分（ピーキング）の輪郭に色を付けて表示できます。
- 被写体の輪郭を検出できないときは、ピントが合っていてもピーキング表示ができないことがあります。その場合は拡大表示してピントが合っていることを確認してください。



画像の明るさに関する設定を行う（測光・露出）

明るさを測る方法を設定する

適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。測光モードでは、画面内のどの部分の明るさをどのように測定するかを設定します。

- **P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適した測光モードが自動的に選ばれます。

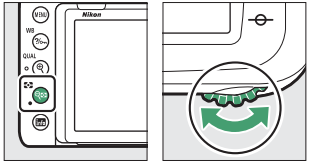
項目		内容
▣	［**マルチパターン測光**］	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
◎	［**中央部重点測光**］	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 • 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、［**中央部重点測光**］をおすすめします。 • 測光範囲はカスタムメニュー b4［**中央部重点測光範囲**］で変更できます。非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E ED使用時はφ12 mm相当になります。

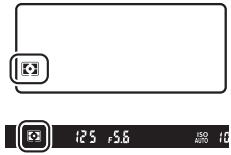
項目		内容
⊡	［**スポット測光**］	フォーカスポイントに重なるφ4mm相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、AFエリアモード（🕮145）が［**オートエリアAF**］のときや、非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E ED使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。
⊡*	［**ハイライト重点測光**］	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

■■ 測光モードの設定方法

（）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。

- 表示パネルおよびファインダー内表示に測光モードが表示されます。





ヒント：[マルチパターン測光] とレンズの組み合わせについて

測光モードが［**マルチパターン測光**］のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

- **CPUレンズ**
  - **「3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ」**：G、EまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
  - **「RGBマルチパターン測光Ⅲ」**：G、EまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。
- **非CPUレンズ**
  - セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズ情報を設定すると、「RGBマルチパターン測光」になります。レンズ情報を設定しない場合は、［**中央部重点測光**］になります。

ヒント：[ハイライト重点測光] とレンズの組み合わせについて

測光モードが［**ハイライト重点測光**］のときは、一部のCPUレンズ（G、E、Dタイプ以外のAFレンズ、AI-Pニッコールレンズ）または非CPUレンズを使用すると、自動的に［**中央部重点測光**］に変更されます。

長時間露出で撮影する（撮影モードMのみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



シャッタースピードをBulbに設定し、絞り値をF25にして
35秒間の長時間露出撮影した場合の画像

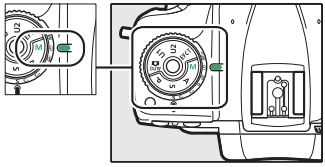
撮影方法	内容
バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

- 長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚、別売のワイヤレスリモートコントローラー、リモートコードなどが必要です。

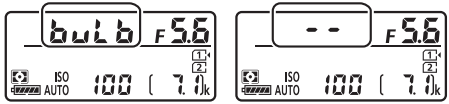
1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 撮影モードダイヤルをMに合わせる

撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、**M**に合わせます。



3 メインコマンドダイヤルを回し、シャッタースピードを bulb（バルブ）または- -（タイム）にする



シャッタースピードを**bulb**または**- -**に設定すると、露出インジケーターは表示されません。

4 ピントを合わせて、長時間露出撮影を開始する

- **バルブ撮影**：シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。
- **タイム撮影**：シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、長時間露出撮影を開始します。

5 長時間露出撮影を終了する

- **バルブ撮影**：シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。
- **タイム撮影**：もう一度シャッターボタンを全押しします。

ヒント：長時間露出について

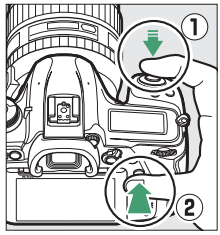
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします（🕮10）。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。
- 静止画撮影メニューの［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定すると、画像に発生するむらや輝点が低減されます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いいただくことをおすすめします。

露出を固定して撮影する

AE ロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 測光モードで［中央部重点測光］または［スポット測光］を選ぶ（🕮166）

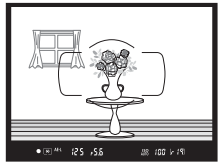
2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、AE-Lボタンを押して、露出を固定する



- AE-Lボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示に**AE-L**マークが点灯します。

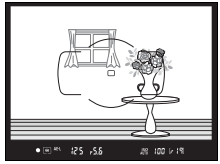


- オートフォーカス撮影時は、フォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。



3 AE-L/AF-Lボタンを押したまま、構図を決めて撮影する





ヒント：測光エリアについて

- ［**スポット測光**］で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合（🕮166）は、選択中のフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- ［**中央部重点測光**］に設定した場合は、ファインダー中央部（φ12 mmの円内）を重点的に測光した露出が記憶されます。

ヒント：AEロック中のカメラ操作について

AE-Lボタンを押している間も以下の操作ができます。

撮影モード	操作
P	プログラムシフト（🕮109）
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 表示パネルやファインダー内表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

露出補正して画像の明るさを調整する

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変更することです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（🕮166）を［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］に設定すると効果的です。



−1段補正



露出補正なし

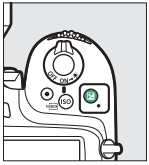


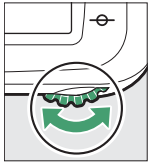
＋1段補正

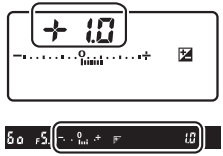
■■ 露出補正の設定方法

ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。

- 表示パネルおよびファインダー内表示に露出補正値が表示されます。

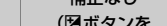
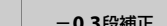
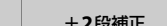
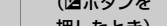
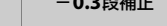
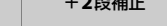




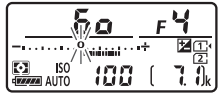


- 露出補正は、±5段の範囲で設定できます。
- 補正ステップは、初期設定では1/3段ステップです。ステップ幅は、カスタムメニューb1［**露出設定ステップ幅**］で変更できます。

- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正してください。
- ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。

表示部	補正なし（ボタンを押したとき）	－0.3段補正	＋2段補正
表示パネル			
ファインダー内表示			

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マークと露出補正インジケーターが表示されます。撮影モードが**M**以外の場合、表示パネルに表示された露出補正インジケーターの**0**が点滅します。





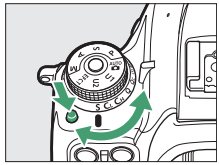
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

ヒント：撮影モードMでの露出補正について
撮影モードが**M**のときは、露出のインジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

ヒント：別売スピードライト使用時の露出補正
別売スピードライト使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とスピードライトの発光量の両方に補正が行われ、画像全体の明るさが変わりますが、背景の明るさだけを補正することもできます（カスタムメニュー e3［**フラッシュ使用時の露出補正**］）。

シャッターをきるときの動作を設定する（レリーズモード）

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを変更する



レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回すと、シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

- レリーズモードのアイコンをレリーズモードダイヤル指標に合わせてください。

モード		内容
S	**1コマ撮影**	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL	**低速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、最大約 3コマ/秒（初期設定）で連続撮影します。 • 連続撮影速度はカスタムメニュー d1［**低速連続撮影速度**］で設定します。1コマ/秒～6コマ/秒の間で設定できます。ただし、ライブビュー撮影時は、4コマ/秒以上に設定していても最大約3コマ/秒で撮影されます。
CH	**高速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、最大約7コマ/秒で連続撮影します。動きのある被写体などに使用すると便利です。 • ライブビュー撮影時に静止画撮影メニュー［**サイレント撮影（静止画Lv）**］が［**する**］の場合、静止画撮影メニュー［**RAW記録**］の［**記録ビットモード**］を［**14ビット記録**］にすると最大約8コマ/秒、［**12ビット記録**］にすると最大約12コマ/秒で連続撮影します。

モード		内容
Q	**静音撮影**	シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。ミラーダウンのタイミングを遅らせることができ、ミラーダウンする音も1コマ撮影と比べて静かなため、1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。 • 静音撮影時には、セットアップメニュー［**電子音**］の［**電子音設定**］の設定にかかわらず、電子音も鳴りません。
Qc	**静音連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、最大約3コマ/秒で連続静音撮影します。
⏲	**セルフタイマー撮影**	セルフタイマー撮影ができます（🕮183）。
Mup	**ミラーアップ撮影**	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます（🕮185）。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

連続撮影についてのご注意

- SDカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度SDカードアクセスランプが点灯します。SDカードアクセスランプの点灯中にカメラからSDカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとSDカードに不具合が生じるおそれがあります。
- SDカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がSDカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがSDカードに記録されて終了します。

ヒント：連続撮影可能コマ数について

- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が記録可能コマ数表示部に表示されます。



- ただし、「r00」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。カメラの設定や撮影条件によって増減することがあります。
- 電源をONにした直後は、連続撮影可能コマ数が一時的に少なく表示されることがあります。
- ライブビュー時は、画像モニターで連続撮影可能コマ数を確認できます。

ヒント：連続撮影速度について

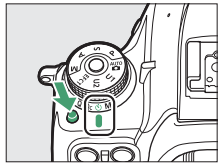
連続撮影速度は、AFモードが**AF-C**、撮影モードが**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、その他が初期設定のときの値です。次の場合などは連続撮影速度が遅くなることがあります。

- シャッタースピードが低速の場合
- 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］を［**する**］にして、感度が自動制御されているとき
- ISO感度を高感度（Hi 0.3～Hi 2）に設定している場合
- 静止画撮影メニュー［**フリッカー低減**］の［**フリッカー低減機能**］が［**有効**］のときに、フリッカーが検出されている場合
- レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
- バッテリーの残量が少ないとき
- 一部のレンズを使用したとき
- 非CPUレンズ装着時およびカスタムメニュー f5［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定した場合

セルフタイマーを使って撮影する（⏲）

1 レリーズモードダイヤルを⏲（セルフタイマー撮影）に合わせる

レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、⏲に合わせます。



2 構図を決め、ピントを合わせる

AFモードが**AF-S**でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



3 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。

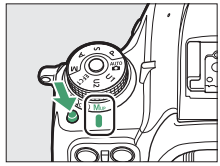


- レリーズモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。
- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔はカスタムメニュー c3［**セルフタイマー**］で設定できます。

ミラーアップして撮影する（MUP）

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを**MUP**（ミラーアップ撮影）に合わせます。



- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせた後、全押しするとミラーアップします。ミラーアップ時は表示パネルに「rdy」が表示されます。
- もう一度シャッターボタンを全押しすると撮影できます。



ミラーアップ中のご注意

- ファインダーで構図を確認できません。
- オートフォーカスと測光は使えません。

ヒント：ミラーアップ撮影について

- 三脚の利用をおすすめします。
- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押してください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。
- ミラーアップ開始後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。
- ライブビュー撮影時は、シャッターボタンを一度全押しするだけで撮影できます。

光に対する感度を設定する（ISO感度）

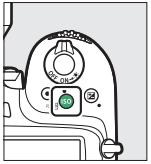
ISO感度を変更する

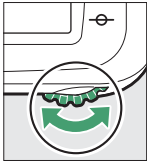
撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。ISO感度はISO 100～51200の間で設定できます。また、ISO 100から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 51200から約0.3段～約2段の範囲での増感ができます。

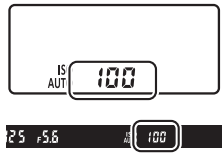
■■ ISO感度の設定方法

ISO（FORMAT）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。

- 表示パネルとファインダー内表示にISO感度が表示されます。







- 撮影モードが📷AUTOおよび**EFCT**（🖼以外）の場合、ISO感度の**Auto**（[**オート**]）も選べます。**Auto**にすると、カメラが自動的にISO感度を決定します。
- 補正ステップは、初期設定では1/3段ステップです。ステップ幅は、カスタムメニューb1［**露出設定ステップ幅**］で変更できます。

ヒント：静止画撮影メニュー［ISO感度設定］について

ISO感度は静止画撮影メニューの［**ISO感度設定**］でも設定できます。



ヒント：ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

- 高感度ノイズ低減機能を有効にすると、高感度撮影時のノイズを低減できます。静止画撮影メニューおよび動画撮影メニューの［**高感度ノイズ低減**］で設定できます。

ヒント：増感域の高感度（Hi 0.3～Hi 2）に設定した場合

ISO感度を［**Hi 0.3**］に設定すると、ISO 51200に対して約0.3段分増感し（ISO 64000相当）、［**Hi 2.0**］では約2段分の増感になります（ISO 204800相当）。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

ヒント：減感域の低感度（Lo 0.3～Lo 1）に設定した場合

ISO感度を［**Lo 0.3**］に設定すると、ISO 100に対して約0.3段分減感します（ISO 80相当）。［**Lo 1.0**］では約1段分の減感になります（ISO 50相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合や、スローシャッターを使用したい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、ハイライト側に階調とびが発生することがあります。通常の撮影では［**100**］以上をお使いください。

感度自動制御機能を使う

感度自動制御機能は、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のときに設定したISO感度で適正露出が得られない場合、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

■■ 感度自動制御の設定方法

1 静止画撮影メニューの［**ISO感度設定**］で［感度自動制御］を選んでマルチセレクターの▶を押す



2 ［**する**］を選ぶ



- ［**する**］を選んでⓄKボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- ［**しない**］を選ぶと、［**ISO感度**］で設定したISO感度に固定されます。

3 感度の制御方法を設定する

• カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。

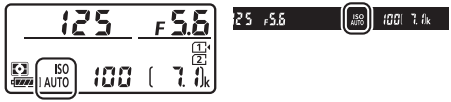


項目	内容
［**制御上限感度**］	感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 2）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
［**使用時の制御上限感度**］	別売スピードライトを使用した場合の上限感度（200～Hi 2）を設定できます。［**フラッシュなしの設定と同じ**］を選ぶと、［**制限上限感度**］と同じ設定になります。

項目	内容
［**低速限界設定**］	撮影モード**P**または**A**で感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを1/4000～30秒から設定できます。また、［**オート**］に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。たとえば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。 • ［**オート**］を選んで㉁を押すと、補正値の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するときに、より高速側または低速側になるように調整できます。高速で移動する被写体を撮影する場合は、補正値を高速側に設定するとブレを軽減できます。 • ISO感度を上欄の［**制御上限感度**］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

• ㊗ボタンを押して設定します。

［**感度自動制御**］を［**する**］にすると、表示パネルおよびファインダー内表示に**ISO AUTO**が表示されます。**ISO AUTO**が点灯しているときは、［**ISO感度**］で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されると**ISO AUTO**が点滅し、制御されたISO感度が表示されます。



感度自動制御についてのご注意

- [**制御上限感度**] で設定したISO感度よりも [**ISO感度**] で設定したISO感度が高い場合、[**ISO感度**] で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時のシャッタースピードはカスタムメニュー e1 [**フラッシュ撮影同調速度**] とe2 [**フラッシュ時シャッタースピード制限**] で設定した範囲内に制限されます。[**低速限界設定**] のシャッタースピードをこの範囲外に設定した場合は、シャッタースピードの下限はe2 [**フラッシュ時シャッタースピード制限**] で設定したシャッタースピードに制限されます。
- レンズ情報を登録していない非CPUレンズ使用時は、低速限界設定が1/30秒に固定されます。
- 別売スピードライトの装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります (🕮460、465)。

ヒント：感度自動制御の設定について

[**感度自動制御**] の設定は、**ISO** (RAW) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して変更することもできます (🕮93)。

光源に合わせて見た目に近い色で撮影する（ホワイトバランス）

ホワイトバランスを合わせる

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定のオート（WB A）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

- **P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適したホワイトバランスが自動的に選ばれます。

項目	設定される色温度※	内容
WB A ［オート］		カメラが自動的にホワイトバランスを調節し、ほとんどの光源に対応できます。別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
WB A_0 ［白を優先する］	約3500～8000K	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残さずに白く補正します。
WB A_1 ［雰囲気を残す］	約3500～8000K	電球下の環境で撮影する場合、やや電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
WB A_2 ［電球色を残す］	約3500～8000K	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。

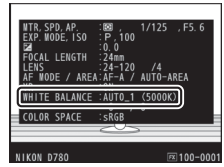
項目	設定される色温度※	内容
☀A［自然光オート］	約4500～8000K	自然光下での撮影に適したホワイトバランスに調整され、自然光下ではWBA（［オート］）より見た目に近い色味で撮影できます。
☀［晴天］	約5200K	晴天の屋外での撮影に適しています。
☁［曇天］	約6000K	曇り空の屋外での撮影に適しています。
⌂［晴天日陰］	約8000K	晴天の日陰での撮影に適しています。
☀［電球］	約3000K	白熱電球下での撮影に適しています。
［蛍光灯］		それぞれの光源下での撮影に適しています。
［ナトリウム灯混合光］	約2700K	
［電球色蛍光灯］	約3000K	
［温白色蛍光灯］	約3700K	
［白色蛍光灯］	約4200K	
［昼白色蛍光灯］	約5000K	
［昼光色蛍光灯］	約6500K	
［高色温度の水銀灯］	約7200K	

項目	設定される色温度※	内容
WB ［フラッシュ］	約5400K	スタジオ用大型ストロボなどを使って撮影する場合に適しています。
K ［色温度設定］	約2500～10000K	色温度を直接指定できます。 • **?**/Qual（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度を設定できます。
PRE ［プリセットマニュアル］		撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます。 • **?**/Qual（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、プリセットマニュアルデータの保存場所を選べます。 • **?**/Qual（**WB**）ボタンを長押しすると、プリセットマニュアル取得モードになります（🕮209）。

※微調整が0の場合の値です。

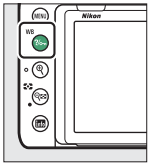
ヒント：WB Aで撮影するときの色温度について

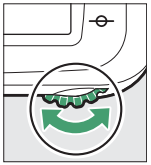
- ホワイトバランスをWB A（［**オート**］）に設定して撮影した場合、カメラが判断した色温度の値を再生画面の撮影情報で確認できます。ホワイトバランスの［**色温度設定**］で色温度を調整する場合に参考にできます。
- 撮影情報を表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］のチェックボックスをオン☑にしてください。



■■ ホワイトバランスの設定方法

?/🔑（**WB**）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとホワイトバランスを設定できます。







設定した項目にさらに選択肢がある場合、**?/🔑**（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます。









☑ スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、WB A（[**オート**]）に設定していても適正なホワイトバランスが得られないことがあります。その場合は、WB ϟ（[**フラッシュ**]）モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

ヒント：[ホワイトバランス] について

ホワイトバランスは、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューでも設定できます。

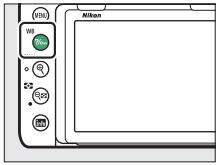
ヒント：☀A（[自然光オート]）について

人工光下で撮影するときに☀A（[**自然光オート**]）を選択していると、適正なホワイトバランスが得られないことがあります。WBA（[**オート**]）または光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。

ホワイトバランスを微調整する

■■ ボタン操作で設定する場合

図の座標が表示されている場合は、**?**/🔑（**WB**）ボタンを押しながらマルチセレクターを操作するとホワイトバランスの微調整を行えます。







- ◀▶を押すとブルーおよびアンバー方向、▲▼を押すとグリーンおよびマゼンタ方向の調整が行えます。
- **?**/🔑（**WB**）ボタンを放すと、設定した調整値で撮影できます。

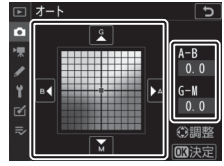
■ メニューで設定する場合

1 静止画撮影メニューの［ホワイトバランス］で、設定したいホワイトバランスを選び、微調整画面が表示されるまで⊛を押す



［**プリセットマニュアル**］での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」（🕮223）をご覧ください。

2 微調整値を設定する



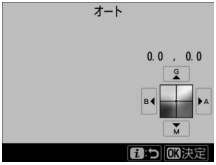
- マルチセレクターを操作すると、座標上のカーソルが移動します。A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、設定段数を各方向6段階まで微調整できます。設定した段数は、画面の右側に表示されます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を0.25段単位で行えます。1段は濃度約0.05に相当します。

3 微調整値を決定する

㊗ボタンを押して微調整値を決定すると、メニューに戻ります。

ヒント：*i*メニューでホワイトバランスを微調整する

*i*メニューで［**ホワイトバランス**］を選んで㊗ボタンを押すと、ホワイトバランスの選択項目が表示されます。設定したいホワイトバランスを選び（［**色温度設定**］以外）、調整画面が出るまで㊦を押すと、ホワイトバランスを調整できます。画像モニターを見ながら色味を調整できます。



ヒント：ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを☀（［**電球**］）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ヒント：ミレッド（MIRED）について

色温度の逆数を百万（10^6）倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差（M：ミレッド）

- 4000K－3000K＝1000 K：83 M
- 7000K－6000K＝1000 K：24 M

色温度を設定する

ボタン操作で設定する場合（アンバーおよびブルー方向のみ）

ホワイトバランスが［**色温度設定**］に設定されている状態で、**?**/**Q**（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すかマルチセレクターを操作すると色温度を指定できます。



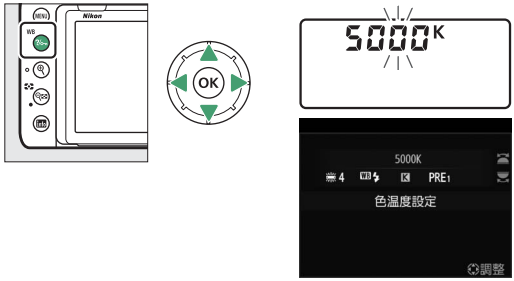
- **?**/**Q**（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、ミレッド単位で色温度が切り替わります。







- **?/🔑（WB）**ボタンを押しながらマルチセレクターの◀▶を押すと、色温度を1桁ずつ選べます。▲▼を押すと選んだ桁の数値を設定できます。



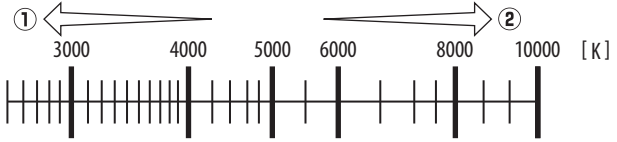
- A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度のみ設定できます。
- **?/🔑（WB）**ボタンを放すと、設定した調整値で撮影できます。

色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ（[**蛍光灯**]）、（[**フラッシュ**]）に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

ヒント：色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり（①）、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります（②）。



ヒント：色温度の設定について

一般的に、画像に赤みを感じた場合（撮影した画像に青みを帯びさせたい場合）は低い数値を設定し、画像に青みを感じた場合（撮影した画像に赤みを帯びさせたい場合）は高い数値を選びます。

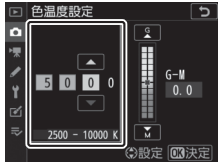
■ メニューで設定する場合

A（アンバー）およびB（ブルー）方向とG（グリーン）およびM（マゼンタ）方向の両方の色温度を設定できます。

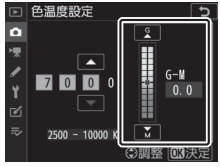
1 静止画撮影メニューの［ホワイトバランス］で、［色温度設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す

2 色温度を設定する

- ◀▶を押してA（アンバー）およびB（ブルー）方向の色温度の桁を選び、▲▼を押して数値を設定します。

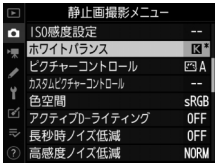


- ◀▶を押してG（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度にカーソルを移動し、▲▼を押して数値を設定します。



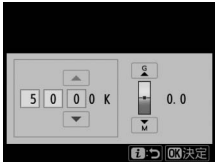
3 色温度を決定する

- ⓞⓚボタンを押して色温度を決定すると、メニューに戻ります。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を0以外に設定すると、Kにアスタリスク（✱）が表示されます。



ヒント：iメニューで色温度を設定する

iメニューで［**ホワイトバランス**］を選んでⓞⓚボタンを押すと、ホワイトバランスの選択項目が表示されます。［**色温度設定**］を選んでを押すと、色温度を設定できます。



プリセットマニュアルで基準となる白を設定する

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明や特殊照明下で、前記の（[**オート**]）や（[**電球**]）などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

最大6種類のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）をカメラに保存できます。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

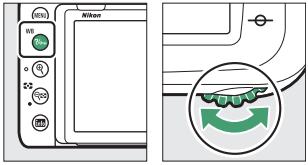
保存方法	内容
プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（🕮210）。ライブビュー時には、画像モニターに表示中の被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス、🕮216）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	SDカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（🕮221）。

■■ ファインダー撮影時

プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードが**M**の場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（🕮114）。

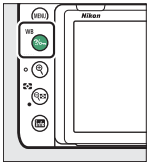
1 ?/🔑（WB）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してPREを選ぶ



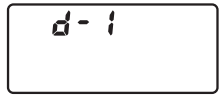


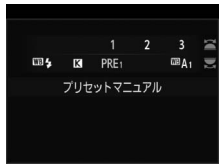
2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

?/（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。









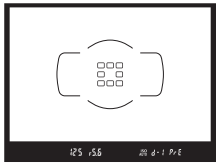
3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん?/🔑（**WB**）ボタンから指を放し、再度?/🔑（**WB**）ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、表示パネルとファインダー内表示に**PrE**の文字がそれぞれ数秒間点滅します。





- プリセットマニュアル取得モードになると取得エリアが図のように表示され、中央に固定されます。



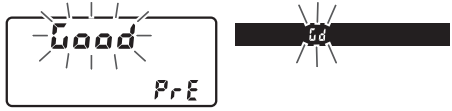
4 PrEの点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する



- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体を取得エリアに合わせてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、手順2で選んだ保存場所に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。SDカードに画像は記録されません。

5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、表示パネルに**Good**の文字が、ファインダー内表示に**Gd**の文字が、それぞれ点滅します。シャッターボタンを半押しすると、プリセットマニュアル取得モードが終了し、撮影が可能になります。



- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内表示に**no Gd**の文字が、それぞれ点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順4）に戻ります。



プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ファインダー撮影時）

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］で設定した時間が過ぎると解除されます。

ヒント：プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ファインダー撮影時）

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません。

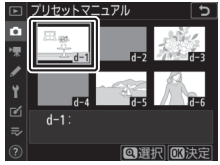
- タイムラプス動画撮影時
- 多重露出撮影時

ヒント：ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（表示パネルとファインダー内表示で**PrE**が点滅します）。

ヒント：プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータd-1～d-6は、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- 静止画撮影メニューから［**ホワイトバランス**］の［**プリセットマニュアル**］を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが表示されます。マルチセレクターでプリセットマニュアルデータを選んでⓀボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。



ヒント：iメニューからプリセットマニュアル取得モードにする

ホワイトバランスの設定としてプリセットマニュアルが選ばれている状態でiメニューを表示し、［**ホワイトバランス**］を選んでⓀボタンを長押しするとプリセットマニュアル取得モードになります。



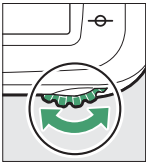
■■ ライブビュー撮影時（スポットホワイトバランス）

ライブビュー撮影時には、ファインダー撮影時よりも小さい範囲からプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス）。被写体の一部に白、またはグレーの部分があれば、あらかじめプリセットマニュアル取得用の被写体を用意する必要はなく、望遠レンズ装着時にも、レンズを交換せずにそのままプリセットマニュアルデータを取得できます。

- 別売スピードライトを使用してプリセットマニュアルデータを取得する場合は、「**ファインダー撮影時**」（🕮210）の手順で行ってください。

1 ?/🔑（WB）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してPREを選ぶ

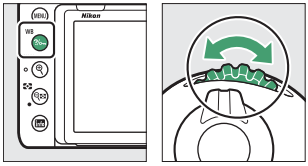






2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

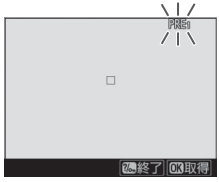
?/（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



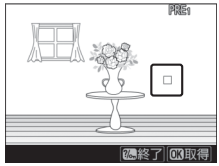


3 プリセットマニュアル取得モードにする

いったん**?/**（**WB**）ボタンから指を放し、再度**?/**（**WB**）ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、画像モニターに**PRE**が点滅します。



4 PREの点滅中に、マルチセレクターを操作して、□を被写体の白またはグレーの部分に重ねる

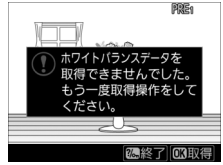


- 🔍（**QUAL**）ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、□で選んだ部分を細部まで確認できます。
- □は画像モニターをタッチしても移動できます。タッチすると□が移動し、その位置でプリセットマニュアルデータを取得します。取得後は、手順6に進んでください。

5 ⓚボタンを押すか、シャッターボタンを全押しして、プリセットマニュアルデータを取得する



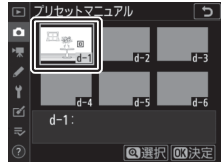
- プリセットマニュアルデータの取得に成功すると、取得したホワイトバランスが表示に反映されます。



- プリセットマニュアルデータが取得できなかった場合は、画像モニターにメッセージが表示されて手順4の状態に戻ります。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。

6 ?/🔑（WB）ボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了する

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー［**ホワイトバランス**］の［**プリセットマニュアル**］を選ぶと、ライブビューで取得したプリセットマニュアルデータを確認できます。ホワイトバランスを取得した範囲には白い枠が表示されます。



プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ライブビュー撮影時）

ライブビュー撮影時のプリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニュー c4［**モニターのパワーオフ時間**］の［**ライブビュー表示**］で設定した時間になります。

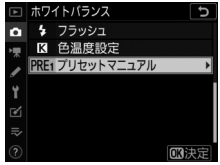
プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ライブビュー撮影時）

多重露出撮影時は、プリセットマニュアルデータを取得できません。

■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選んだプリセットマニュアルデータの保存場所に、SDカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

1 静止画撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選んでマルチセレクターの▶を押す



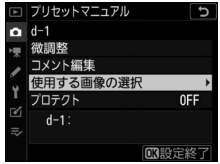
2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動してd-1～d-6の中からコピー先を選びます。
- 🔍（**QUAL**）ボタンを押すと設定画面が表示されます。



3 ［使用する画像の選択］を選ぶ

［**使用する画像の選択**］を選んで▶を押すと、SDカード内の画像が一覧表示されます。



4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ



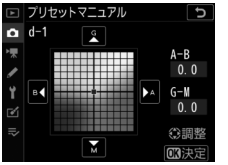
- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、🔍（**QUAL**）ボタンを押している間、拡大して確認できます。

5 ホワイトバランスデータをコピーする

- ⓚボタンを押すとSDカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選んだ画像に画像コメントがある場合、画像コメントもコピーされます。

ヒント：プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で［**微調整**］を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます（🕮200）。



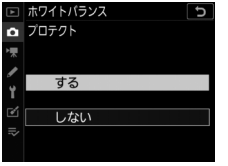
ヒント：プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

設定画面で［**コメント編集**］を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにコメント（最大36文字）を入力できます。コメントの入力方法は、「入力画面の操作方法について」（🕮61）をご覧ください。



ヒント：プリセットマニュアルデータを保護する（プロテクト）

設定画面で［**プロテクト**］を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにプロテクト（保護）を設定できます。プロテクトの設定画面で［**する**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。［**プロテクト**］が［**する**］のときは、プリセットマニュアルデータの設定内容を変更できません。



明るさやWBなどを変えながら撮影する（オートブラケティング）

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

- オートブラケティング撮影は、撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**のときに行えます。

オートブラケティングの設定方法

オートブラケティングの種類は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］の［**オートブラケティングのセット**］で設定できます。



項目	内容
［**AE・フラッシュブラケティング**］	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
［**AEブラケティング**］	露出値（AE）を変えながら撮影します。
［**フラッシュブラケティング**］	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
［**WBブラケティング**］	ホワイトバランス（🕮195）の色温度を変えながら撮影します。
［**ADLブラケティング**］	アクティブD-ライティング（🕮254）の効果の度合いを変えながら撮影します。

AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法

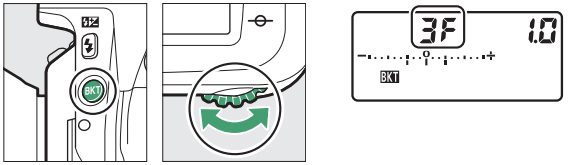
露出値やフラッシュの発光量を変えながら撮影します。AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法は次の通りです。



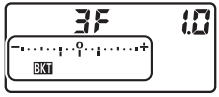
露出補正なし　　−1段補正　　+1段補正

1 撮影コマ数と補正ステップを設定する

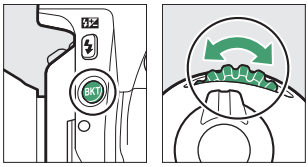
- **BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



• **OF**以外に設定すると、表示パネルに**BKT**マークとAE・フラッシュブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示に**BKT**が表示されます。



• **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。



• 補正ステップは、カスタムメニューb1［**露出設定ステップ幅**］が［**1/3段**］の場合、0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）、2.0（2段）、3.0（3段）から選ぶことができます。補正ステップを2.0または3.0に設定した場合、撮影コマ数は最大5枚です。手順1で撮影コマ数を7枚または9枚に設定していても、自動的に5枚に変更されます。

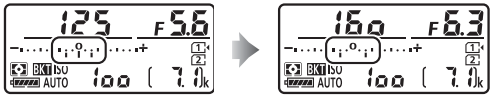
• 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル		AE・フラッシュブラケティングインジケーター	撮影コマ数	撮影順序
0F	0.3	− ····o···· +	0	0
+3F	0.3	− ····o··· +	3	0/＋0.3/＋0.7
−3F	0.3	− ···o··· +	3	0/－0.7/－0.3
+2F	0.3	− ····o··· +	2	0/＋0.3
−2F	0.3	− ···o··· +	2	0/－0.3
3F	0.3	− ···o··· +	3	0/－0.3/＋0.3
5F	0.3	− ··o··· +	5	0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7
7F	0.3	− ·o··· +	7	0/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0
9F	0.3	− ·o··· +	9	0/－1.3/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0/＋1.3

2 撮影する



- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 表示パネルには、AE・フラッシュブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、AE・フラッシュブラケティングインジケーター上から消えます。



撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7

1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正（🕮175）を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング撮影について

- [**コマ数**]と[**補正ステップ**]は、静止画撮影メニュー[**オートブラケティング**]でも設定できます。
- 連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを全押しし続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にSDカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のSDカードに交換すれば残りを撮影できます。

ヒント：AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて

[**AE・フラッシュブラケティング**]では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは[**AEブラケティング**]を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは[**フラッシュブラケティング**]を選びます。フラッシュブラケティングはi-TTL調光時および絞り連動外部自動調光（㊎A）時（別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ）に使用できます（🕮462、798）。

ヒント：AEブラケティング

AEブラケティングでは、撮影モードによって補正される内容（シャッタースピード、絞り値）が異なります。

撮影モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2

※1 静止画撮影メニュー[**ISO感度設定**]の[**感度自動制御**]が[**する**]のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると自動的にISO感度が変化します。

※2 静止画撮影メニュー[**ISO感度設定**]の[**感度自動制御**]が[**する**]のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブラケティングでシャッタースピードを変化させます。

■ AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を**OFF**にしてください（**BKT**マークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮282）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

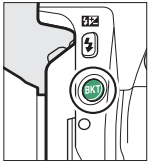
WBブラケティングの撮影方法

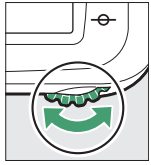
ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。WBブラケティングの撮影方法は次の通りです。

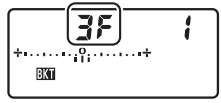
- 連続撮影時は、連続撮影の設定にかかわらず、WBブラケティングで設定した撮影コマ数が記録されます。

1 撮影コマ数と補正ステップを設定する

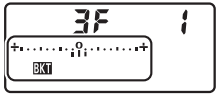
- **BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。





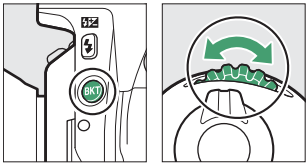


- **0F**以外に設定すると、表示パネルに**BKT**マークとWBブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示に**BKT**が表示されます。





- **BKT**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。



- 補正ステップは、1（1段）、2（2段）、3（3段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります（🕮200）。

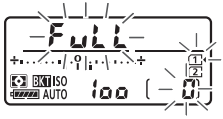
• 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル		WB ブラケティング インジケーター	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
0F	1		0	1段	0
b3F	1		3	B方向1段	0/B1/B2
A3F	1		3	A方向1段	0/A2/A1
b2F	1		2	B方向1段	0/B1
A2F	1		2	A方向1段	0/A1
3F	1		3	各方向1段	0/A1/B1
5F	1		5	各方向1段	0/A2/A1/B1/B2
7F	1		7	各方向1段	0/A3/A2/A1/B1/B2/B3
9F	1		9	各方向1段	0/A4/A3/A2/A1/B1/B2/B3/B4

2 撮影する



- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値にWBブラケティングの補正ステップが加算されます。
- WBブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、表示パネルに**FuLL**が、ファインダー内表示に**FuL**が点滅し、シャッターがきれません（表示パネルの残量のないSDカードのアイコンも点滅します）。新しいSDカードに交換すると撮影できます。





WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

WBブラケティング撮影について

- ［**コマ数**］と［**補正ステップ**］は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］でも設定できます。
- WBブラケティングでは、色温度（A（アンバー）からB（ブルー）への横方向）の補正のみを行います（🕮200）。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。

■■ WBブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を**OFF**にしてください（**BKT**マークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮282）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

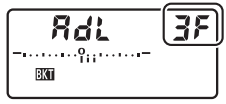
ADLブラケティングの撮影方法

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。
ADLブラケティングの撮影方法は次の通りです。

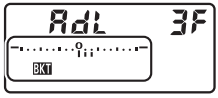
1 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。





- **OF**以外に設定すると、表示パネルに**BKT**マークとADLブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示に**BKT**が表示されます。





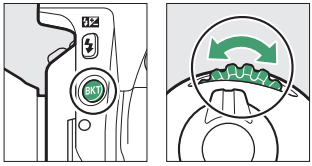
- 設定した撮影コマ数により、ブラケティングの内容が次のように異なります。

撮影コマ数	ブラケティングの内容
2コマ	［**しない**］→（手順2で設定するアクティブD-ライティングの度合い）
3コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］
4コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］→［**強め**］
5コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］→［**強め**］→［**より強め**］

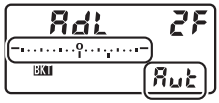
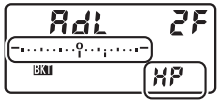
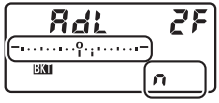
- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順3に進んでください。

2 撮影コマ数を2コマにしたときのアクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。



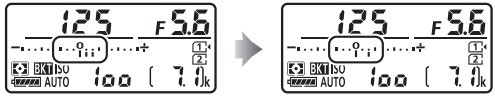
• アクティブD-ライティングの度合いは、表示パネルのADLブラケティングインジケーターで確認できます。

アクティブD-ライティングの度合い	表示パネル
自A ［オート］	
自HP ［より強め］	
自H ［強め］	
自N ［標準］	
自L ［弱め］	

3 撮影する



- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 表示パネルには、ADLブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、ADLブラケティングインジケーター上から消えます。



撮影コマ数：3　　1コマ撮影した状態

ヒント：ADLブラケティング撮影について

- ［**コマ数**］と［**効果の度合い**］は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］でも設定できます。
- 連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを全押しし続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にSDカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のSDカードに交換すれば残りを撮影できます。

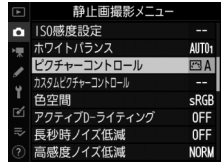
ADLブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を**0F**にしてください（**BKT**マークが消灯します）。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮282）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。

画像の仕上がりを調整する（ピクチャーコントロール）

ピクチャーコントロールを選ぶ

記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。ピクチャーコントロールは、静止画撮影メニューおよび動画撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］（🕮553、577）で設定できます。



- **P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適したピクチャーコントロールが自動的に選ばれます。

項目		内容
A	［**オート**］	［**スタンダード**］をもとに、色合いや階調をカメラが自動的に調整します。 • 人物を撮影するシーンでは、［**スタンダード**］に比べて人物の肌を柔らかく表現した画像になります。 • 屋外のシーンでは、［**スタンダード**］に比べて青空や草木などの色が鮮やかな画像になります。
SD	［**スタンダード**］	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。ほとんどの撮影状況に適しています。
NL	［**ニュートラル**］	素材性を重視した自然な画像になります。撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
VI	［**ビビッド**］	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。

項目		内容
MC	[**モノクローム**]	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
PT	[**ポートレート**]	人物の肌がなめらかで自然な画像になります。
LS	[**風景**]	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
FL	[**フラット**]	シャドー部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
01 ～ **20**	[**Creative Picture Control**]（クリエイティブピクチャーコントロール）	色合いや階調、彩度などを細やかに作りこんだ多彩な効果により、さまざまな雰囲気を表現して撮影できます。[**ドリーム**] や [**モーニング**] など、全部で20種類があります。

ヒント：[ピクチャーコントロール] について

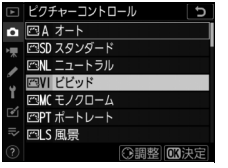
動画撮影メニューの [**ピクチャーコントロール**] を [**静止画の設定と同じ**] に設定すると、静止画撮影メニューで設定したピクチャーコントロールで動画を撮影します。

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールの設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

ピクチャーコントロールの一覧画面で、マルチセレクターの▶を押します。



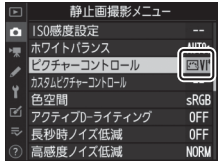
2 ピクチャーコントロールを調整する



- ▲▼で調整する項目（🕮247）を選びます。◀▶を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を設定します。
- 設定できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- [**クイックシャープ**] を選んで◀▶を押すと、[**輪郭強調**]、[**ミドルレンジシャープ**]、[**明瞭度**] のレベルをバランスよく調整します。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

3 設定する

㊗ボタンを押して設定します。ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンの横にアスタリスク（✱）が表示されます。



ピクチャーコントロールの調整項目

項目		内容
［**適用度**］		Creative Picture Controlの効果をどれだけ適用するかを調整します。
［**クイックシャープ**］		［**クイックシャープ**］を調整すると、画像のシャープさを調整する［**輪郭強調**］、［**ミドルレンジシャープ**］、［**明瞭度**］の各項目をバランスよく調整します。各項目を個別に調整することも可能です。
	［**輪郭強調**］	［**輪郭強調**］：画像の精緻な部分や、被写体の輪郭部分のシャープさを調整します。
	［**ミドルレンジシャープ**］	［**ミドルレンジシャープ**］：［**輪郭強調**］と［**明瞭度**］の中間の細かさの模様や線に対してシャープさを調整します。
	［**明瞭度**］	［**明瞭度**］：画像の階調や明るさを維持しながら、画像全体や太めの線のシャープさを調整します。
［**コントラスト**］		画像のコントラストを調整できます。
［**明るさ**］		白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
［**色の濃さ（彩度）**］		画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。
［**色合い（色相）**］		画像の色合いを調整できます。
［**フィルター効果**］		白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。
［**調色**］		印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色の項目（［**B&W**］以外）を選んで▶を押すと、さらに色の濃淡を選べます。
［**色の濃淡**］		適用するCreative Picture Controlの色の濃さを調整できます。

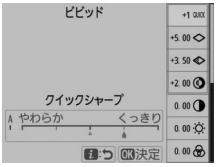
［フィルター効果］について

［**フィルター効果**］には、次のような効果があります。

項目	内容
［**Y**］（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。
［**O**］（オレンジ※）	
［**R**］（赤※）	
［**G**］（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

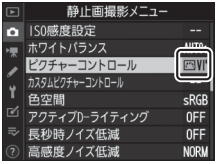
※市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。

i メニューからピクチャーコントロールを調整する



i メニューで［**ピクチャーコントロール**］を選んでⓄボタンを押すと、ピクチャーコントロールの選択項目が表示されます。調整したいピクチャーコントロールを選んでⒼを押すと設定を変更できます。

- ⒹⒼで調整する項目を選びます。ⒻⒽを押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を調整します。
- 調整できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- 🗑（RESET）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。
- Ⓞボタンを押すと調整値を決定して **i** メニュー画面に戻ります。
- ピクチャーコントロールを微調整すると、ピクチャーコントロールのアイコンにアスタリスク（✱）が表示されます。



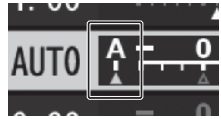
ピクチャーコントロール調整時の△マークについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される△マークは、前回調整した値を示しています。



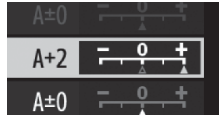
調整項目の［A］（オート）について

- ［**A**］（オート）がある項目では、［**A**］を選ぶと自動で調整されます。
- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。



ヒント：［Aオート］を選んでいる場合

［**オート**］の調整レベルを［**A－2**］～［**A＋2**］から選べます。



カスタムピクチャーコントロールを登録する

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

項目	内容
［**編集と登録**］	カスタムピクチャーコントロールを登録または編集します。
［**登録名変更**］	登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更します。
［**削除**］	登録したカスタムピクチャーコントロールを削除します。
［**メモリーカードを使用**］	登録したカスタムピクチャーコントロールをSDカードに保存したり、SDカードに保存したカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。

■■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの［カスタムピクチャーコントロール］を選んでマルチセレクターの▶を押す

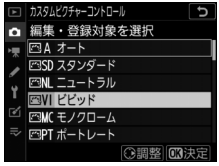


2 ［編集と登録］を選ぶ

［**編集と登録**］を選んで▶を押すと、［**編集・登録対象を選択**］画面が表示されます。



3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ



- ピクチャーコントロールを選んで⊛を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合はⓄKボタンを押します。［**登録先の選択**］画面が表示されます（手順5へ）。

4 ピクチャーコントロールを調整する



- 項目の内容や調整方法は［**ピクチャーコントロール**］と同じです。
- Ⓞ Kボタンを押すと［**登録先の選択**］画面が表示されます。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

5 登録先を選ぶ

C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選びます。

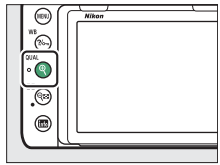


6 登録名を編集する



- 登録先を選んで⊛を押すと、［**登録名変更**］画面が表示されます。
- 初期状態では、「（元になったピクチャーコントロール名）-XX」が入力エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮61）をご覧ください。

7 ⊕（QUAL）ボタンを押す



- 登録名の編集が終了します。



- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

ヒント：元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

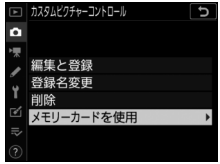


ヒント：カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

ヒント：カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールについて

［**カスタムピクチャーコントロール**］の［**メモリーカードを使用**］を使うと、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーできます。また、SDカード内のカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録したり、削除したりできます（SDカードはスロット1に入れてください。スロット2に入っているSDカードは認識されません）。



- ［**カメラに登録**］：SDカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録（インポート）できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。
- ［**メモリーカードから削除**］：SDカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。
- ［**メモリーカードにコピー**］：カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピー（エクスポート）できます。SDカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んでⓄⓀボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがSDカードにコピーされます。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する（アクティブD-ライティング、HDR）

アクティブD-ライティングで撮影する

静止画撮影メニューおよび動画撮影メニューの［**アクティブD-ライティング**］を使うと、白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードを［**マルチパターン測光**］に設定して撮影することをおすすめします。



［**しない**］



［**オート**］

■■ アクティブD-ライティングの設定項目

項目		内容
暗A	［**オート**］	撮影シーンに応じて自動的にアクティブD-ライティングの効果の度合いを設定します。
暗H+	［**より強め**］	効果の度合いは、強い順に［**より強め**］、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］から選択できます。
暗H	［**強め**］	
暗N	［**標準**］	
暗L	［**弱め**］	
［**しない**］		アクティブD-ライティングを設定しません。

☑ 動画撮影時のアクティブD-ライティングについて

静止画撮影メニューのアクティブDライティングが［**オート**］のときに、動画撮影メニューで［**静止画の設定と同じ**］を選んだ場合は、［**標準**］と同じ設定になります。

☑ アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- 撮影モードが**M**のときは、［**オート**］に設定していても［**標準**］相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- ISO感度が高感度（Hi 0.3～Hi 2）および感度自動制御でISO感度が高感度に制御された場合は機能しません。

HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う

静止画撮影メニューの［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］を使うと、1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成し輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録できます。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。



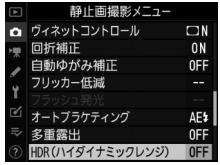
■■ HDRの設定項目

項目	内容
［**HDRモード**］	• ［**する（連続）**］：解除するまで連続してHDR撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度［**HDRモード**］を選んで［**しない**］に設定してください。 • ［**する（1回）**］：1回撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。 • ［**しない**］：HDRモードを解除します。
［**HDR強度**］	HDRの強度を設定します。［**オート**］に設定すると、撮影シーンに応じて自動的にHDRの強度を設定します。
［**合成前の画像を保存（RAW）**］	［**する**］に設定すると、合成する2コマの画像をそれぞれRAW形式で保存します。

■■ HDRの撮影方法

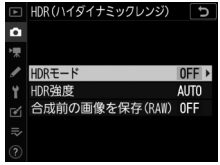
HDRモードを設定したときは、測光モードを［**マルチパターン測光**］に設定して撮影することをおすすめします。

1 静止画撮影メニュー［HDR（ハイダイナミックレンジ）］を選んでマルチセレクターの▶を押す

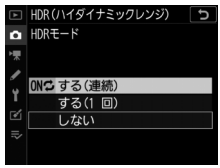


2 ［HDRモード］を設定する

- ［**HDRモード**］を選んで▶を押します。

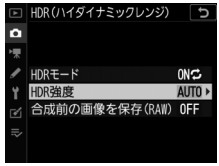


- ▲▼を押してHDRモードを設定し、Ⓚボタンを押します。



3 [HDR強度] を設定する

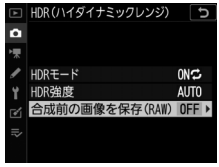
- [**HDR強度**] を選んで▶を押します。



- ▲または▼を押してHDR強度を設定し、Ⓚボタンを押します。
- [**オート**] に設定すると、撮影シーンに応じて自動的にHDRの強度を設定します。



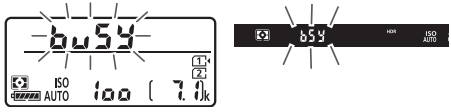
4 [合成前の画像を保存（RAW)] を設定する



- [**合成前の画像を保存（RAW)**] を選んで、▶を押します。
- ▲▼を押して項目を選び、Ⓚボタンを押します。
- [**する**] を選ぶと、合成する2コマの画像をそれぞれRAW形式で保存します。

5 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、表示パネルに**buSY**が、ファインダー内表示に**bSY**が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。



- ［**する（連続）**］の場合、［**HDRモード**］で［**しない**］を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが［**する（1回）**］の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除されます。

RAWを含む画質モードについて

RAWを含む画質モードでHDR撮影した場合、合成画像はJPEGになります。

HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が大きい場合は、正しく合成されない場合があります。撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影がでたり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。また、HDRの効果が出にくい場合があります。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］のときや、非CPU レンズ装着時に［**HDR強度**］を［**オート**］に設定すると、HDRの強度は［**標準**］相当の度合いに固定されます。
- 別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモードを連続撮影に設定した場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、**Bulb**（バルブ）または**Time**（タイム）に設定できません。

HDRモードの制限について

次の場合など、HDRモードとは同時に使用できない機能や設定があります。

- **P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モード
- フリッカー低減
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影
- ネガフィルムデジタイズ撮影

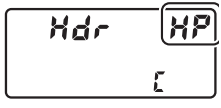
ヒント：BKTボタンとコマンドダイヤルでHDRモードとHDR強度を設定する

カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］の［**BKTボタン**］を［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］に設定すると、**BKT**ボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の［**HDRモード**］と手順3の［**HDR強度**］を設定できます。

- **BKT**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回してHDRモードを**oFF**（［**しない**］）、**1**（［**する（1回）**］）、**C**（［**する（連続）**］）から選んでください。



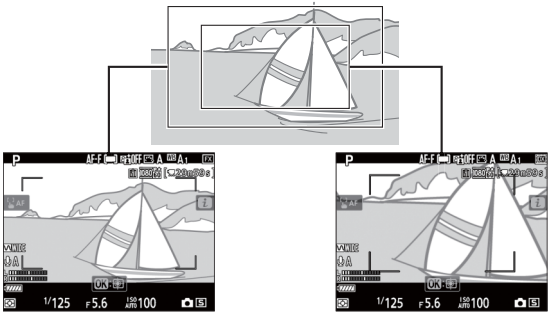
- HDRモードが**1**（［**する（1回）**］）または**C**（［**する（連続）**］）のときに、**BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、HDR強度が切り替わります。



動画撮影と編集の機能

動画撮影時の撮像範囲について

動画撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］で撮像範囲を変更できます。［**FX**］に設定した場合はFXベースの（動画）フォーマットに、［**DX**］に設定した場合はDXベースの（動画）フォーマットになります。動画撮影時の撮像範囲は次の図のようになります。



FX　　DX

- 撮像範囲のサイズは、FXベースの（動画）フォーマットとDXベースの（動画）フォーマットでは異なります。それぞれの撮像範囲のサイズは次の通りです。

フォーマット	サイズ
FXベースの（動画）フォーマット	約35.9×20.2 mm
DXベースの（動画）フォーマット	約23.5×13.2 mm

- 動画撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］を［**する**］に設定してDXレンズを装着した場合は、DXベースの（動画）フォーマットになります。
- 動画撮影メニュー［**電子手ブレ補正**］を選んで［**する**］に設定しているときは、画角が小さくなるため少し拡大されます。

画像サイズ/フレームレートおよび動画の画質について

動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。［**動画の画質**］では、動画の画質を［**高画質**］と［**標準**］から選べます。それぞれの設定時の最大ビットレートと最長記録時間は次の通りです。

項目※1		最大ビットレート		最長記録時間
		高画質	標準	
2160 60p	［**3840×2160 30p**］※2	144Mbps	—※3	29分59秒※6
2160 25p	［**3840×2160 25p**］※2			
2160 24p	［**3840×2160 24p**］※2			
1080 120p	［**1920×1080 120p**］※4、5			
1080 100p	［**1920×1080 100p**］※4、5			
1080 60p/1080 50p	［**1920×1080 60p**］	56Mbps	28Mbps	
1080 50p/1080 50p	［**1920×1080 50p**］			
1080 60p/1080 30p	［**1920×1080 30p**］	28Mbps	14Mbps	
1080 25p/1080 25p	［**1920×1080 25p**］			
1080 24p/1080 24p	［**1920×1080 24p**］			

項目※1		最大ビットレート		最長記録時間
		高画質	標準	
1080	[**1920×1080 30p 4倍スロー**] ※4、5、7	36Mbps	—※3	3分
1080	[**1920×1080 25p 4倍スロー**] ※4、5、7			
1080	[**1920×1080 24p 5倍スロー**] ※4、5、7	29Mbps		

※1 120p：119.88コマ/秒（fps）、100p：100コマ/秒、60p：59.94コマ/秒、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

※2 4K UHD動画として記録されます。

※3 画質は［**高画質**］に固定されます。

※4 撮像範囲は［**FX**］に固定されます。また、AFエリアモードが［**オートエリアAF**］の場合に顔認識を行いません。

※5 撮影モードが🎥または🎞の場合、1920×1080 120p、1920×1080 100p、または1920×1080 スローを選ぶと、以下の設定で撮影されます。

- ［**1920×1080 120p**］または［**1920×1080 30p 4倍スロー**］のとき：［**1920×1080 30p**］
- ［**1920×1080 100p**］または［**1920×1080 25p 4倍スロー**］のとき：［**1920×1080 25p**］
- ［**1920×1080 24p 5倍スロー**］のとき：［**1920×1080 24p**］

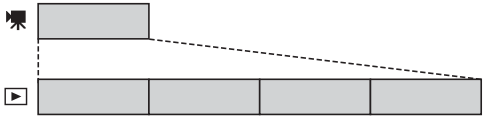
※6 動画は最大8個のファイルに分割されて記録されることがあります。その場合、各ファイルのファイルサイズは最大で4GBです。1回の撮影で作成されるファイルの数と1ファイルあたりの記録時間は、動画撮影メニュー［**動画の画質**］の設定によって異なります。ただしこのカメラで初期化した32GBを超えるカードを使用した場合は、1回の動画撮影でファイルサイズが4GBを超えた場合でもファイルは分割されず1つのファイルに記録されます。

※7「スローモーション動画について」（🕮266）をご覧ください。

スローモーション動画について

動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］で［**1920×1080 30p 4倍スロー**］、［**1920×1080 25p 4倍スロー**］、または［**1920×1080 24p 5倍スロー**］を選ぶとスローモーション動画を撮影できます。音声は記録されません。

- たとえば［**1920×1080 30p 4倍スロー**］の場合、120pのフレームレートの画像を30pの動画として記録します。約10秒間撮影した動画は、約40秒かけて再生されます。スポーツでのボールのインパクトの瞬間など、一瞬の出来事をゆっくりと見ることができます。



- 画像のフレームレートと、動画を記録および再生するときのフレームレートは次の通りです。

画像サイズ/フレームレート	画像のフレームレート※	動画を記録・再生するときのフレームレート※
［**1920×1080 30p 4倍スロー**］	120p	30p
［**1920×1080 25p 4倍スロー**］	100p	25p
［**1920×1080 24p 5倍スロー**］	120p	24p

※120p：119.88コマ/秒（fps）、100p：100コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

スローモーション動画撮影時のご注意

- スローモーション動画の撮像範囲（🕮129）は、装着レンズや動画撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］の設定にかかわらず、［**FX**］に固定されます。
- スローモーション動画の画質は高画質に固定されます。
- 次の機能など、スローモーション動画撮影中は使用できなくなる機能があります。
  - フリッカー低減
  - 電子手ブレ補正
  - タイムコード出力

動画撮影時のご注意とヒント

動画撮影時には次のことにご注意ください。

- 使用しているSDカードの書き込み速度によっては、最長記録時間（🕮264）に満たないで記録が自動的に終了する場合があります。
- 動画撮影時は、AFエリアモードが顔認識AFの場合に認識できる人数が少なくなります。
- （動画記録禁止）マークが表示されているときは、動画記録できません。
- 動画撮影時は測光モードを［**スポット測光**］に設定できません。
- 動画撮影時は、別売のスピードライトは発光しません。

ヒント：動画撮影時の撮影モードについて

- 撮影モード**P**、**S**で画像が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりする場合は、ライブビューを終了してからもう一度ライブビューを開始するか、撮影モードを**A**にして、絞りの調整を行ってください。
- 動画撮影時に絞り値、シャッタースピード、ISO感度を設定できるかどうかは、撮影モードによって異なります。

撮影モード	絞り値	シャッタースピード	ISO感度※2
P、**S**※1	—	—	—※3
A	○	—	—※3
M	○	○	○※4
その他の撮影モード	—	—	—

※1 撮影モードが**S**の場合は、**P**に設定したときと同じ露出制御になります。

※2 動画撮影メニューの［**電子手ブレ補正**］が［**する**］のときにISO感度が高感度（Hi 0.3～Hi 2）になった場合は、ISO 51200に制限されます。

※3 動画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**制御上限感度**］でISO感度の上限を設定できます。

※4 動画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**Mモード時の感度自動制御**］を［**する**］に設定した場合、［**制御上限感度**］でISO感度の上限を設定できます。

ヒント：動画記録中のホワイトバランスの変更について
動画記録中に**?**/**O**n（**WB**）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます。設定した項目にさらに選択肢がある場合、**?**/**O**n（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます（🕮195）。

ヒント：マニュアル露出での動画撮影について
撮影モード**M**で動画撮影する場合、シャッタースピードを1/25～1/8000秒の範囲で設定できます（動画のフレームレート（🕮264）によって、低速側の制限が異なります）。

ヒント：ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードについて
カスタムメニューg2［**カスタムボタンの機能**］の［**シャッターボタン**］を［**動画撮影**］に設定すると、別売のワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画記録の開始と終了を行えます。

ヒント：外部マイクについて
別売のステレオマイクロホンME-1またはワイヤレスマイクロホンME-W1を外部マイク入力端子に接続すると、外部マイクを使用して動画撮影することができます。

動画を編集する

次の機能を使って撮影した動画を編集できます。

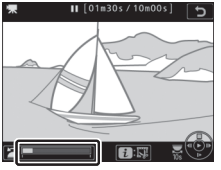
項目		内容
	[**始点/終点の設定**]	動画の必要な部分だけを残します。
	[**表示中のフレームを保存**]	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。
	[**インデックスマーキング追加**]	再生中の動画にインデックスマークを追加します。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の位置へ素早く移動できます（🕮278）。
	[**インデックスマーキング削除**]	動画に追加したインデックスマークを削除します（🕮278）。

動画の必要な部分を残す



1 1コマ表示モード（🕮353）で編集したい動画を表示する

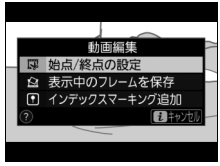
2 残したい範囲の冒頭部分（始点）で動画を一時停止する



- ⓞⓚボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの▽を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- ◁または▷、メインコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。

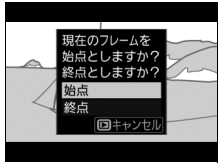
3 [始点/終点の設定] を選ぶ

iボタンを押して、[**始点/終点の設定**] を選んで㊙を押します。



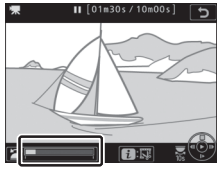
4 始点を選ぶ

[**始点**] を選んで㊗ボタンを押すと、そこから後ろの部分が残ります。



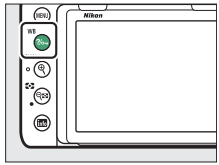


5 手順4で選んだ位置を調整する



- ◀または▶を押して、残したい部分の最初の位置を調整します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
- サブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。

6 残したい範囲の末尾の部分（終点）を選ぶ

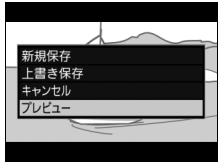


?/（**WB**）ボタンを押して▼（終点）に切り換え、手順5と同じ手順で▼（終点）の位置を調整します。



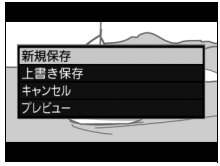
7 ▲を押して決定する

8 保存する動画を確認する



- [**プレビュー**] を選んでⓀボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには△を押します）。
- [**キャンセル**] を選んでⓀボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。

9 動画ファイルの保存方法を選ぶ



[**新規保存**] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。[**上書き保存**] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。

10 動画ファイルを保存する

Ⓚボタンを押します。

☑ 動画編集時のご注意

- SDカードに充分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [**始点/終点の設定**]では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

ヒント：動画の前半または後半だけを残すには

- 動画の前半だけを残したい場合は、手順4で[**終点**]を選んでⓄKボタンを押してから、手順6では**?**/**O**ₙ（**WB**）ボタンを押さずに手順7に進みます。
- 動画の後半だけを残したい場合は、手順6で**?**/**O**ₙ（**WB**）ボタンを押さずに手順7に進みます。

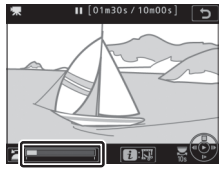
ヒント：画像編集メニュー[動画編集（始点/終点設定）]について

動画の切り出しおよび保存は、画像編集メニューの[**動画編集（始点/終点設定）**]でも行えます。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

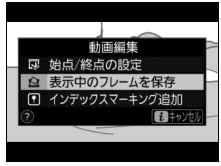
1 **保存したい位置で動画を一時停止する**

- 動画の再生中にマルチセレクターの㊦を押すと、一時停止します。
- ㊧または㊨を押すと、再生中の位置を調整できます。



2 **［表示中のフレームを保存］を選ぶ**

iボタンを押して、［**表示中のフレームを保存**］を選んでⓄⓀボタンを押すとJPEGの画像として保存します。

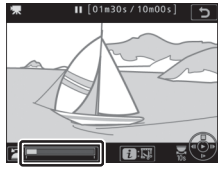


ヒント：［表示中のフレームを保存］で作成した画像について

- 動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］で設定した画像サイズで記録されます。
- 画像編集はできません。
- 再生時の画像情報（🕮366）で表示されない項目があります。

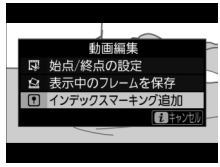
動画にインデックスマークを追加する

1 インデックスマークを付けたい位置で動画を一時停止する



- 動画の再生中にマルチセレクターの㊦を押すと、一時停止します。
- ◀または▶を押すと、再生中の位置を調整できます。

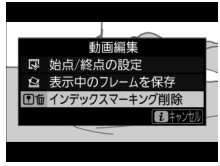
2 [インデックスマーキング追加] を選ぶ



- **i**ボタンを押して、[**インデックスマーキング追加**] を選んでⓄⓀボタンを押すとインデックスマークが付きます。
- インデックスマークは1つの動画に最大20個まで付けられます。

ヒント：インデックスマークを削除するには

動画の再生中または一時停止中に、サブコマンドダイヤルを回して削除したいインデックスマークまで移動し、**i**ボタンを押すとメニューが表示されます。[**インデックスマーキング削除**] を選んでⓄⓀボタンを押すと、インデックスマークが削除されます。



撮影の便利な機能

2枚のSDカードに記録する（スロット2の機能）

静止画撮影メニューの［**スロット2の機能**］を選ぶと、2つあるSDカードスロットの両方を使って画像を記録するときのスロット2の機能を設定できます。

項目		内容
	［**順次記録**］	スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。
	［**バックアップ記録**］	バックアップ用として同じ画像をスロット1、スロット2に記録します。
	［**RAW+JPEG分割記録**］	• RAWとJPEGを同時に記録する画質モードの場合、スロット1にRAW画像、スロット2にJPEG画像を記録します。 • その他の画質モードの場合は、同じ画質の画像をスロット1とスロット2の両方に記録します。

［RAW+JPEG分割記録］設定時のご注意

- 多重露出撮影時に静止画撮影メニュー［**多重露出**］の［**合成前の画像を保存（RAW）**］を［**する**］にした場合、およびHDR撮影時に静止画撮影メニュー［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］の［**合成前の画像を保存（RAW）**］を［**する**］にした場合は、画質モードの設定にかかわらず、画像合成前のRAW画像と画像合成後のJPEG画像がスロット1とスロット2の両方に記録されます。
- 撮影モードVI、POP、、、、または✐のときに、カスタムメニュー d8［**EFFECTS時の元画像保存**］を［**する**］にした場合は、画質モードの設定にかかわらず、特殊効果をつける前のRAW画像と特殊効果をつけて撮影したJPEG画像がスロット1とスロット2の両方に記録されます。

ヒント：［バックアップ記録］と［RAW+JPEG分割記録］について

- 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。

ヒント：動画を記録するスロットについて

動画撮影メニューの［**動画記録先**］で、記録するスロットを設定できます。

同時記録した画像の削除

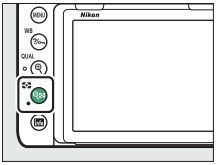
［**バックアップ記録**］で同時記録した画像および［**RAW+JPEG分割記録**］で分割記録した画像は、個別に削除したり両方のスロットから一度で削除できます。

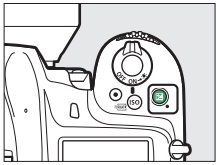


- 再生画面で同時記録または分割記録した画像を選び🗑（FORMAT）ボタンを押すと、削除確認の画面が表示されます。
- 個別に削除するときは、［**選択中の画像**］を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、現在選ばれている画像のみ削除されます。同時記録した画像は削除されません。
- ［**[1]と[2]の同一画像**］を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、両方のスロットから画像が削除されます。

ボタン操作で基本的な機能を初期設定に戻す（ツーボタンリセット）

（）ボタンとボタン（それぞれのボタンに緑色の●が付いています）を2秒以上同時に押すと、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。





静止画撮影メニュー項目

項目		初期設定
画質モード		NORMAL
画像サイズ		サイズL
ISO感度設定		
ISO感度	**P**、**S**、**A**、**M**	100
	P、**S**、**A**、**M**以外	オート
感度自動制御		する

項目	初期設定
ホワイトバランス	AUTO1 雰囲気を残す
微調整	A-B: 0、G-M: 0
ピクチャーコントロール	オート
アクティブD-ライティング	しない
フリッカー低減	
フリッカー低減機能	無効
フリッカー検出の表示	する
オートブラケティング	解除※1
多重露出	解除※2
HDR（ハイダイナミックレンジ）	解除※3
サイレント撮影（静止画Lv）	しない

※1 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュ、WBブラケティングの補正ステップは1になります。ADLブラケティングで撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いは、［**オート**］になります。

※2 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが［**する（連続）**］または［**する（1回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。［**コマ数**］、［**合成モード**］、および［**合成前の画像を保存(RAW)**］は初期設定には戻りません。

※3 HDRモードが［**する（連続）**］または［**する（1回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。［**HDR強度**］と［**合成前の画像を保存（RAW）**］は初期設定には戻りません。

動画撮影メニュー項目

項目	初期設定
ISO感度設定	
制御上限感度	51200
Mモード時の感度自動制御	する
MモードのISO感度	100
ホワイトバランス	静止画の設定と同じ
ピクチャーコントロール	静止画の設定と同じ
アクティブD-ライティング	しない
電子手ブレ補正	しない
ヘッドホン音量	15

その他の撮影関連の機能

機能			初期設定
フォーカスポイント※			中央
プログラムシフト			解除
露出補正			解除（0.0）
AE-L（ホールド）			解除
AFエリアモード	ファインダー撮影	、、、、	シングルポイントAF
		、、、、、、、、、、、	オートエリアAF
	ライブビュー撮影	、	シングルポイントAF
		、、、、、、、、、、、、、	オートエリアAF

機能				初期設定
AFモード	静止画撮影時	ファインダー撮影	AUTO、VI、POP、TOY、P、S、A、M	AF-A
				AF-S
		ライブビュー撮影	AUTO、VI、POP、TOY、P、S、A、M	AF-A
				AF-S
	動画撮影時		VI、POP、TOY、HDR	AF-S
				AF-C
			P、S、A、M	AF-F
測光モード				マルチパターン測光
フラッシュモード				通常発光
調光補正				解除（0.0）
FVロック				解除
マルチセレクターによるパワー絞り				無効
マルチセレクターによる露出補正				無効
露出ディレーモード				しない
露出プレビュー（Lv）				しない
ハイライト表示				しない

※AFエリアモードが［**オートエリアAF**］のときは、フォーカスポイントは表示されません。

複数の画像を重ねて1枚の画像として写し込む（多重露出）

静止画撮影メニューの［**多重露出**］を使うと、2～10コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録することができます。

多重露出の設定項目

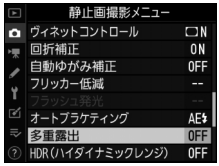
項目	内容
［**多重露出モード**］	• ［**する（連続）**］：解除するまで連続して多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度［**多重露出モード**］を選んで［**しない**］に設定してください。 • ［**する（1回）**］：多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。 • ［**しない**］：多重露出撮影を解除します。
［**コマ数**］	コマ数（露光回数）を設定します。

項目	内容
［**合成モード**］	• ［**加算**］：全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。 • ［**加算平均**］：重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。 - 各コマのゲインは、「1÷露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。 • ［**比較明合成**］：撮影した各画像を比較し、最も明るい部分を選択して合成します。  • ［**比較暗合成**］：撮影した各画像を比較し、最も暗い部分を選択して合成します。 
［**合成前の画像を保存（RAW）**］	• ［**する**］：合成した画像のほかに、多重露出で撮影した全てのコマをRAW画像として保存します。 • ［**しない**］：合成した画像のみ保存します。

項目	内容
［**確認撮影**］	• ［**する**］：ライブビューで多重露出撮影中、撮影したコマを合成して画像モニターに半透過で表示します。次のコマを撮影するときに構図が決めやすくなります。 • ［**しない**］：多重露出撮影中、撮影したコマは表示されません。
［**1コマ目の画像（RAW）の指定**］	SDカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選ぶことができます。

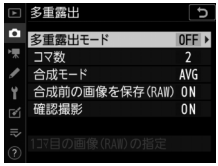
多重露出の撮影方法

1 静止画撮影メニューの［多重露出］を選んでマルチセレクターの▶を押す

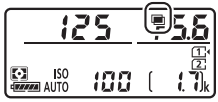


2 ［多重露出モード］を設定する

- ［**多重露出モード**］を選んで、▶を押します。
- ▲▼を押して多重露出モードを設定し、⊛ボタンを押します。

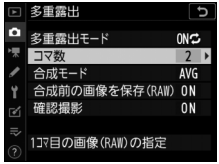


- ［**する（連続）**］または［**する（1回）**］を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに▬マークが点灯します。

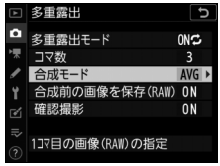


3 ［コマ数］（露光回数）を設定する

- ［**コマ数**］を選んで、▶を押します。
- ▲▼を押して露光回数を設定し、⊛ボタンを押します。

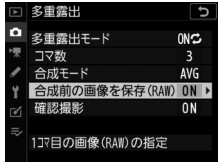


4 [合成モード] を設定する



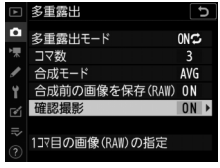
- [**合成モード**] を選んで、▶を押します。
- ▲▼を押して項目を選び、⊛ボタンを押します。

5 [合成前の画像を保存（RAW)] を設定する



- [**合成前の画像を保存(RAW)**] を選んで、▶を押します。
- ▲▼を押して項目を選び、⊛ボタンを押します。
- [**する**] を選ぶと、合成した画像のほかに多重露出で撮影した全てのコマをRAW画像として保存します。[**しない**] を選ぶと、合成後の画像のみを保存します。

6 [確認撮影] を設定する



- [**確認撮影**] を選んで、▶を押します。
- ▲▼を押して項目を選び、⊛ボタンを押します。
- [**する**] を選ぶと、ライブビューで多重露出撮影中、撮影したコマを合成して画像モニターに半透過で表示します。

7 [1コマ目の画像（RAW）の指定] を設定する



- 撮影済みの画像に重ねて写し込みたい場合は、[**1コマ目の画像（RAW）の指定**] を選んで⊛を押し、SDカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選びます。
- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、🔍（**QUAL**）ボタンを押している間、拡大して確認できます。
- 画像を選択したら、⊛ボタンを押します。
- 高感度（Hi 0.3～Hi 2）で撮影されたRAW画像を1コマ目に指定した場合、カスタムメニュー d5［**電子先幕シャッター**］を［**有効**］にしていても、多重露出撮影中は電子先幕シャッターが無効になります。

8 撮影を開始する





- 撮影を始めると、■マークが点滅します。
- 設定したコマ数を撮影してください。手順7の［**1コマ目の画像（RAW）の指定**］でSDカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選んだ場合は、2コマ目以降を撮影します。



- 多重露出撮影中にシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影コマ数を表示します。



- 多重露出モードが［**する（1回）**］の場合、手順3で設定したコマ数を撮影後に合成画像が保存されると、多重露出撮影が解除され、■マークが消灯します。
- ［**する（連続）**］の場合、［**多重露出モード**］で［**しない**］を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。

☑ RAWを含む画質モードについて

RAWを含む画質モードで多重露出撮影した場合、合成画像はJPEGになります。

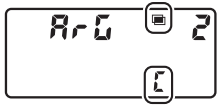
☑ 多重露出撮影時のご注意

- 多重露出撮影中に、画像の再生やメニュー画面の表示で画像モニターを点灯した場合、画像モニターが消灯してから操作のないまま30秒程度経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。
- 多重露出で撮影する場合、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。
- 連続撮影に設定しているときにシャッターボタンを全押しし続けると、多重露出で設定された撮影コマ数まで撮影し、合成画像を保存します。多重露出モードが［**する（1回）**］のときは、撮影が終了して合成画像が保存されると多重露出撮影を解除します。［**する（連続）**］のときは、撮影後に再度全押しすると、繰り返し多重露出撮影を行えます。
- セルフタイマー撮影時（🕮183）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3［**セルフタイマー**］の［**連続撮影間隔**］で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の［**撮影コマ数**］で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影設定および撮影データは1コマ目の内容になります。
- 多重露出撮影中は、SDカードを交換しないでください。
- 多重露出撮影中はSDカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選択できません。

ヒント：BKTボタンとコマンドダイヤルで多重露出モードとコマ数を設定する

カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］の［**BKTボタン**］を［**多重露出**］に設定すると、**BKT**ボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の［**多重露出モード**］と手順3の［**コマ数**］を設定できます。

- **BKT**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して**oFF**（［**しない**］）、**1**（［**する（1回）**］）、**C**（［**する（連続）**］）から選んでください。



- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、コマ数が切り替わります。



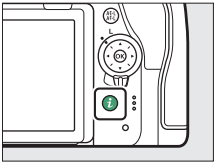
ヒント：多重露出の制限について

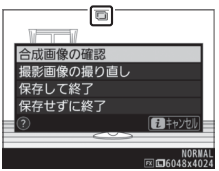
次の場合など、多重露出とは同時に使用できない機能や設定があります。

- **P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モード
- 動画撮影
- オートブラケティング撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影
- ネガフィルムデジタイズ撮影

iボタンを使う

多重露出撮影中に▶ボタンを押すと、撮影した画像を確認できます。多重露出撮影で最後に撮影したコマには🗗が表示され、このときにiボタンを押すと多重露出撮影時のiメニューが表示されます。

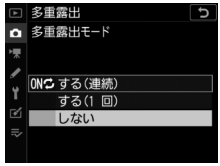




- 項目を選んで⊛ボタンを押すと、選んだ項目が実行されます。
- iボタンを押したときの設定は、タッチ操作でも行えます。

項目	内容
［**合成画像の確認**］	それまでに撮影したコマで合成画像を作成してプレビューします。
［**撮影画像の撮り直し**］	最後に撮影したコマを撮影し直せます。
［**保存して終了**］	それまでに撮影したコマで合成画像を作成し、保存して多重露出撮影を終了します。
［**保存せずに終了**］	合成画像を保存しないで多重露出撮影を終了します。 • ［**合成前の画像を保存(RAW)**］が［**する**］の場合は、撮影した画像を合成せずに1コマずつ保存します。

多重露出撮影を終了するには



設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を終了するには、多重露出モードを［**しない**］に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（［**合成モード**］を［**加算平均**］に設定していた場合は、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。

このほか、次の場合も、多重露出は終了されます。

- ツーボタンリセットを行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出撮影中に▶ボタンを押してから**i**ボタンを押し、［**保存して終了**］または［**保存せずに終了**］を選んだとき

設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）

静止画撮影メニューの［**インターバルタイマー撮影**］を使うと、設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます。インターバルタイマー撮影をするときは、レリーズモードを⏲または**MUP**以外に設定してください。

インターバルタイマー撮影の設定項目

項目	内容
［**撮影開始**］	インターバルタイマー撮影を開始します。［**開始日時の設定**］で［**即時**］を選んでいる場合は約3秒後に撮影を開始し、［**日時指定**］を選んでいる場合は設定した日時に撮影を開始します。撮影は、設定した撮影間隔とコマ数で繰り返されます。
［**開始日時の設定**］	インターバルタイマー撮影の開始方法を設定します。インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は［**即時**］を、開始日時を設定する場合は［**日時指定**］を選びます。
［**撮影間隔**］	撮影間隔（時、分、秒）を設定します。
［**撮影回数×1回のコマ数**］	撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定します。

項目	内容
［**露出平滑化**］	［**する**］を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。 • 輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。 • 撮影モード**M**で静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］が［**しない**］の場合、露出の平滑化は行いません。
［**サイレント撮影**］	［**する**］を選ぶと、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。 • ［**する**］に設定していても、完全に無音にはなりません。撮影時に絞りやオートフォーカスなどカメラの動作音がすることがあります（特に絞りをf/5.6よりも絞った（大きい数値にした）場合は、絞りによる動作音がします）。

項目	内容
［**撮影間隔優先**］	• ［**する**］：撮影モードが**P**または**A**のときに、露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影します。 - フラッシュ撮影はできません。 - ［**撮影回数×1回のコマ数**］のコマ数を2コマ以上に設定していても、自動的に1コマに変更されます。 - AFモードを**AF-S**に設定している場合、または**AF-A**に設定していて**AF-S**で撮影している場合は、カスタムメニュー a2［**AF-Sモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定してください。**AF-C**に設定している場合、または**AF-A**に設定していて**AF-C**で撮影している場合は、カスタムメニュー a1［**AF-Cモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定してください。 - 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］で［**感度自動制御**］を［**する**］にしたときの［**低速限界設定**］の設定値が、設定した撮影間隔より長い場合は、撮影間隔を優先して感度が自動制御されます。 • ［**しない**］：撮影間隔よりも露光時間を優先して撮影します。
［**撮影間隔毎のAF駆動**］	［**する**］を選ぶと、撮影してから次の撮影までの間に、カメラが自動でピント合わせを行います。

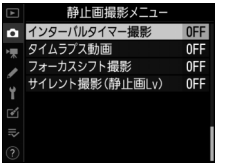
項目	内容
［**オプション**］	インターバルタイマー撮影に、別の機能をオプションとして組み合わせることができます。 • ［**AEブラケティング**］：インターバルタイマー撮影とAEブラケティングを同時に行えます。 • ［**タイムラプス動画**］：インターバルタイマー撮影した画像をつないで、アスペクト比（縦横比）が16：9のタイムラプス動画として記録できます。 - インターバルタイマー撮影した画像とタイムラプス動画が保存されます。 - 静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］が［**1:1（24×24）**］のときは撮影できません。 -［**タイムラプス動画**］を選んだときは、静止画撮影メニュー［**色空間**］の設定にかかわらず［**sRGB**］の色空間で撮影されます。 • ［**しない**］：オプションなしでインターバルタイマー撮影を行います。
［**撮影開始時の記録フォルダー**］	項目を選んでマルチセレクターの㊨を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度㊨を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。 • ［**新規フォルダー作成**］：インターバルタイマー撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。 • ［**ファイル番号リセット**］：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの［**地域と日時**］で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- インターバルタイマー撮影時は、カメラを三脚で固定し、レンズのVR（手ブレ補正）機能を無効にすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いください。
- ［**サイレント撮影**］が［**しない**］のときにファインダーから顔を離して撮影する場合は、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします（🕮10）。

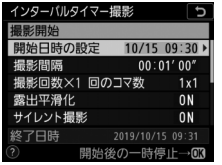
インターバルタイマー撮影の開始

1 静止画撮影メニューの［インターバルタイマー撮影］を選んでマルチセレクターの▶を押す

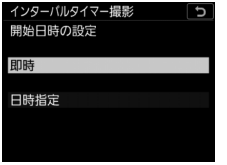


2 インターバルタイマー撮影の設定をする

- **開始方法を選ぶ**



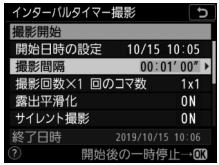
［**開始日時の設定**］を選んで▶を押す



開始方法を選んでOKボタンを押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、［**即時**］を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、［**日時指定**］を選びます。表示される画面で開始日時を設定してOKボタンを押します。

• 撮影間隔（インターバル）を設定する



［**撮影間隔**］を選んで▶を押す

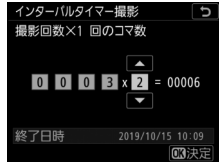


撮影間隔（時、分、秒）を設定してⓄⓀボタンを押す

• 撮影回数と1回のコマ数を設定する



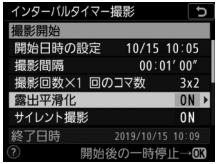
［**撮影回数×1回のコマ数**］を選んで▶を押す



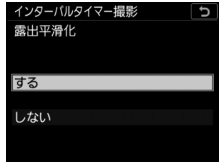
撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定して、ⓄⓀボタンを押す

- レリーズモードが**S**の場合、撮影コマ数を2コマ以上に設定すると、**CH**設定時と同じ速度で撮影します。
- ［**サイレント撮影**］が［**しない**］のときは、1回のコマ数によって設定できる撮影回数が異なります。

• **露出平滑化をするかどうかを選ぶ**



［**露出平滑化**］を選んで▶を押す

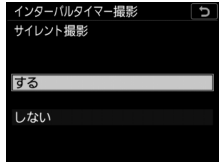


露出平滑化をするかどうかを選んでOKボタンを押す

• **サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ**



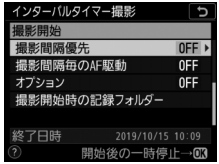
［**サイレント撮影**］を選んで▶を押す



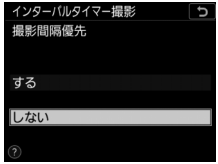
サイレント撮影をするかどうかを選んでOKボタンを押す

-［**する**］にした場合、撮影開始時と終了時にミラーアップ/ミラーダウンの音とシャッター音がします。

• 露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選ぶ

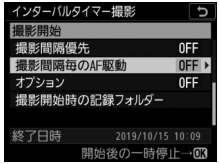


［**撮影間隔優先**］を選んで▶を押す

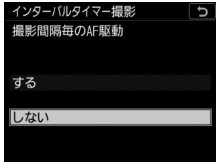


撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選んでOKボタンを押す

• 撮影間隔ごとにピント合わせを行うかどうかを選ぶ

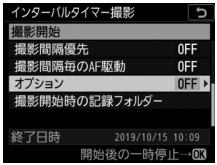


［**撮影間隔毎のAF駆動**］を選んで▶を押す

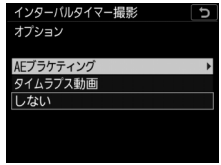


撮影してから次の撮影までの間に、ピント合わせを行うかどうかを選んでOKボタンを押す

• **オプションを設定する**



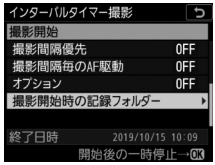
［**オプション**］を選んで▶を押す



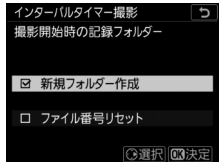
［**AEブラケティング**］または［**タイムラプス動画**］を選んで▶を押す

- ［**AEブラケティング**］の場合は［**コマ数**］と［**補正ステップ**］を、［**タイムラプス動画**］の場合は［**画像サイズ/フレームレート**］と［**動画記録先**］を設定します。

• **撮影開始時の記録フォルダーの設定をする**



［**撮影開始時の記録フォルダー**］を選んで▶を押す



各項目の設定をしてOKボタンを押す

3 [撮影開始] を選んでⓄⓀボタンを押す



- 手順2の［**開始日時の設定**］で［**即時**］を選んでいる場合は、約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2の［**開始日時の設定**］で［**日時指定**］を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。

インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回の撮影コマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間のほか、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、設定した［**撮影回数×1回のコマ数**］で撮影できないことがあります。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。
- 設定した開始日時が現在時刻後1分以内の場合や［**撮影間隔**］が［**00:00'00"**］の場合、シャッタースピードが**bULb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- ［**サイレント撮影**］で［**する**］を選んだ場合、および［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んだ場合は、カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、インターバルタイマー撮影中に半押しタイマーはオフになりません。
- SDカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるSDカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（🕮313）。

- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
  - 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやSDカードを交換しても、一時停止状態が持続します）
  - レリーズモードを⏲または**MUP**に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。

☑ 撮影コマ数について

レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

☑ インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約2秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

☑ インターバルタイマー撮影の制限について

次の場合など、インターバルタイマー撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- ライブビュー撮影
- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- フォーカスシフト撮影
- ネガフィルムデジタイズ撮影

［サイレント撮影］を［する］にした場合の制限について

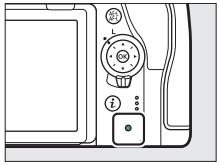
次の場合など、［**サイレント撮影**］を［**する**］に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 2
- フラッシュ撮影
- 露出ディレーモード
- 長秒時ノイズ低減
- フリッカー低減

インターバルタイマー撮影の設定について

電源をOFFにしたり、レリーズモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。

ヒント：インターバルタイマー撮影の待機状態について



インターバルタイマー撮影の待機状態では、SDカードアクセスランプが点滅します。撮影直前になると表示パネルのシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。
- ［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んだ場合は、インターバルタイマー撮影中にSDカードアクセスランプが点灯し続けます。

インターバルタイマー撮影を一時停止するには

インターバルタイマー撮影を一時停止するには、撮影待機中に㊗ボタンを押すか、静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で［**一時停止**］を選んで㊗ボタンを押します。ただし［**撮影間隔**］で設定した間隔が短いときは、**MENU**ボタンを押してもメニュー画面が表示されない場合があります。

- ［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んだ場合、撮影待機中に㊗ボタンを押すとインターバルタイマー撮影を途中で終了します。

インターバルタイマー撮影を再開するには

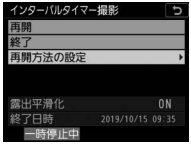
インターバルタイマー撮影の再開は、静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で行います。手順は次の通りです。

すぐに再開する場合



［**再開**］を選んでⓄKボタンを押す

再開する日時を設定する場合



［**再開方法の設定**］画面で［**日時指定**］を選び▶を押す



開始日時を設定してⓄKボタンを押す



［**再開**］を選んでⓄKボタンを押す

インターバルタイマー撮影を途中で終了するには

インターバルタイマー撮影を途中で終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で［**終了**］を選び、㊗ボタンを押します。ただし［**撮影間隔**］で設定した間隔が短いときは、**MENU**ボタンを押してもメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は㊗ボタンを押して一時停止してから、静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で［**終了**］を選んで㊗ボタンを押してください。

静止画をつないで動画にする（タイムラプス動画）

静止画撮影メニューの［**タイムラプス動画**］を使うと、設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。

タイムラプス動画の設定項目

項目	内容
［**撮影開始**］	タイムラプス動画撮影を開始します。約3秒後に撮影を開始し、設定した［**撮影時間**］内に設定した［**撮影間隔**］で撮影を繰り返します。
［**撮影間隔**］	撮影間隔（分、秒）を設定します。
［**撮影時間**］	撮影時間（時、分）を設定します。
［**露出平滑化**］	［**する**］を選ぶと、明るさの変化がなめらかになり、より自然な動画を記録します。 • 輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。 • 撮影モード**M**で静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］が［**しない**］の場合、露出の平滑化は行いません。

項目	内容
［**サイレント撮影**］	［**する**］を選ぶと、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。 • ［**する**］に設定していても、完全に無音にはなりません。撮影時に絞りやオートフォーカスなどカメラの動作音がすることがあります（特に絞りをf/5.6よりも絞った（大きい数値にした）場合は、絞りによる動作音がします）。
［**撮影範囲**］	• ［**撮像範囲設定**］：タイムラプス動画撮影時の撮像範囲を、［**FX**］または［**DX**］に設定できます。 • ［**DX自動切り換え**］：［**する**］にすると、DXレンズを装着したときに自動的に撮像範囲を［**DX**］に切り換えます。
［**画像サイズ/フレームレート**］	記録されるタイムラプス動画の画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定できます。

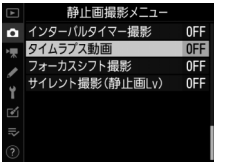
項目	内容
［**撮影間隔優先**］	• ［**する**］：撮影モードが**P**または**A**のときに、露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影します。 - AFモードを**AF-S**に設定している場合、または**AF-A**に設定していて**AF-S**で撮影している場合は、カスタムメニュー a2［**AF-Sモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定してください。**AF-C**に設定している場合、または**AF-A**に設定していて**AF-C**で撮影している場合は、カスタムメニュー a1［**AF-Cモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定してください。 - 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］で［**感度自動制御**］を［**する**］にしたときの［**低速限界設定**］の設定値が、設定した撮影間隔より長い場合は、撮影間隔を優先して感度が自動制御されます。 • ［**しない**］：撮影間隔よりも露光時間を優先して撮影します。
［**撮影間隔毎のAF駆動**］	［**する**］を選ぶと、撮影してから次の撮影までの間に、カメラが自動でピント合わせを行います。
［**動画記録先**］	SDカードを2枚使用している場合にタイムラプス動画を記録するスロットを設定します。

タイムラプス動画の撮影方法

タイムラプス動画撮影を開始する前に

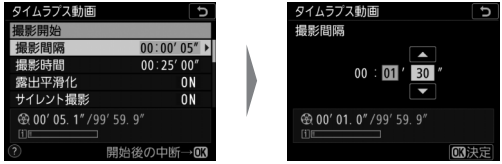
- 撮影モードが**EFCT**以外のときに撮影できます。
- タイムラプス動画撮影で撮影される静止画の画角は、動画撮影時と同じになります。
- 試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニュー［**地域と日時**］で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- タイムラプス動画撮影時は、カメラを三脚で固定し、レンズのVR（手ブレ補正）機能を無効にすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクターとACアダプター、または充分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ［**サイレント撮影**］が［**しない**］のときにファインダーから顔を離して撮影する場合は、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします（🕮10）。

1 静止画撮影メニュー［タイムラプス動画］を選んでマルチセレクターの▶を押す



2 タイムラプス動画の設定をする

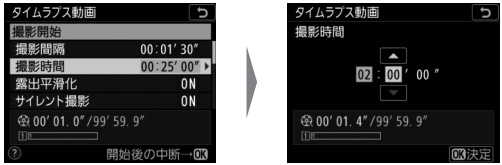
- **撮影間隔（インターバル）を設定する**



［**撮影間隔**］を選んで▶を押す　　撮影間隔（分、秒）を設定して⊛ボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

- **撮影時間を設定する**



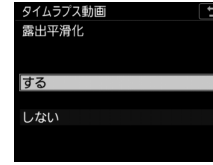
［**撮影時間**］を選んで▶を押す　　撮影時間（時、分）を設定して⊛ボタンを押す

- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

• **露出平滑化をするかどうかを選ぶ**



［**露出平滑化**］を選んで▶を押す



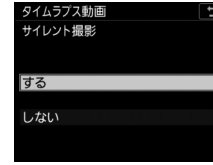
露出平滑化をするかどうかを選んでOKボタンを押す

-［**する**］を選ぶと、明るさの変化がなめらかになり、より自然な動画を記録します。

• **サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ**



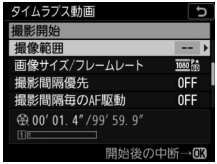
［**サイレント撮影**］を選んで▶を押す



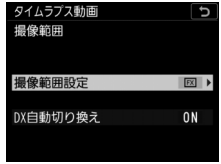
サイレント撮影をするかどうかを選んでOKボタンを押す

-［**する**］にした場合、撮影開始時と終了時にミラーアップ/ミラーダウンの音とシャッター音がします。

• **撮像範囲を設定する**



［**撮像範囲**］を選んで⊛を押す



［**撮像範囲設定**］または［**DX自動切り換え**］を選んで⊛ボタンを押す

- ［**撮像範囲設定**］を選んだ場合は［**FX**］または［**DX**］を、［**DX自動切り換え**］を選んだ場合は［**する**］または［**しない**］を選んでOKボタンを押します。

• **画像サイズ/フレームレートを設定する**

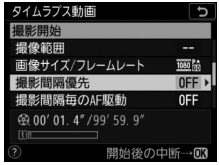


［**画像サイズ/フレームレート**］を選んで⊛を押す

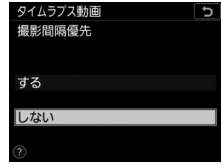


動画の画像サイズ/フレームレートを選んでOKボタンを押す

• **露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうか選ぶ**

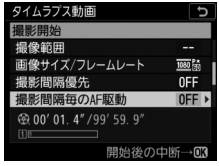


［**撮影間隔優先**］を選んで▶を押す

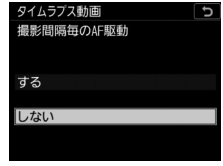


撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選んでOKボタンを押す

• **撮影間隔ごとにピント合わせを行うかどうか選ぶ**



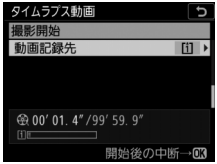
［**撮影間隔毎のAF駆動**］を選んで▶を押す



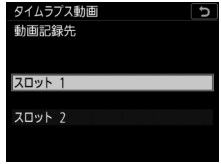
撮影してから次の撮影までの間に、ピント合わせを行うかどうかを選んでOKボタンを押す

-［**撮影間隔毎のAF駆動**］が［**する**］のときは、選んだAFモードに従って、毎回の撮影の直前にピント合わせを行います。

• **タイムラプス動画を記録するスロットを選ぶ**



［**動画記録先**］を選んで▶を押す



SDカードを2枚使用している場合にタイムラプス動画を記録するスロットを選んでOKボタンを押す

3 ［撮影開始］を選んでOKボタンを押す



- 約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2で設定した［**撮影時間**］内に、設定した［**撮影間隔**］で撮影を繰り返します。

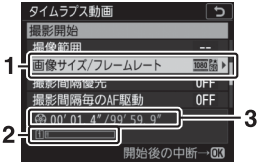
■■ タイムラプス動画撮影を途中で終了するには

タイムラプス動画撮影を途中で終了するには、撮影待機中に㊎ボタンを押すか、静止画撮影メニュー［**タイムラプス動画**］で［**終了**］を選んで㊎ボタンを押します。ただし［**撮影間隔**］で設定した間隔が短いときは、**MENU**ボタンを押してもメニュー画面が表示されない場合があります。

- タイムラプス動画撮影を終了すると、終了時点までの動画がSDカードに記録され、通常の撮影待機状態に戻ります。

☑ タイムラプス動画の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順2で設定する撮影時間を撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）に1を足した数が、記録コマ数（撮影回数）になります。
- タイムラプス動画で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数÷［**画像サイズ/フレームレート**］で選んだフレームレートで計算できます（たとえば、［**画像サイズ/フレームレート**］が［**1920×1080 24p**］のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。



1	動画の画像サイズ/フレームレート
2	SDカード使用状況
3	記録時間/最長記録時間

☑ 撮影直後の画像確認について

タイムラプス動画撮影中は、▶ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間表示されます。その場合、通常の再生時の操作は無効になります。また、撮影間隔が短いときは画像が表示されないことがあります。

タイムラプス動画撮影についてのご注意

- タイムラプス動画には音声は記録されません。
- 実際のタイムラプス動画撮影には、インターバル時間のほか、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、タイムラプス動画撮影を開始できません。
  - 設定した［**撮影時間**］が［**撮影間隔**］より短い場合
  - ［**撮影時間**］または［**撮影間隔**］が［**00:00'00"**］の場合
  - SDカードのメモリー残量がない場合
- タイムラプス動画撮影中は、▶ボタンを押しても画像の再生はできません。
- タイムラプス動画を撮影する場合、ホワイトバランスを**WB A**（［**オート**］）または**☀A**（［**自然光オート**］）以外に設定すると色味を固定することができます。
- タイムラプス動画撮影中は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- タイムラプス動画撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMIケーブルを接続すると、撮影が終了することがあります。その場合はその時点までの動画を記録してタイムラプス動画撮影を終了します。
- 次の場合は動画を記録せずに、タイムラプス動画撮影が終了します（タイムラプス動画撮影終了時の電子音は鳴りません）。
  - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
  - SDカードを取り出したとき

☑ タイムラプス動画撮影の待機状態について



- タイムラプス動画撮影の待機状態では、SDカードアクセスランプが点灯し、表示パネルにタイムラプス動画撮影中マークが点灯します。撮影直前になると表示パネルのシャッタースピード表示部にその回の残りの撮影時間を表示します（時間、分）。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影時間を表示します。

☑ タイムラプス動画撮影待機中の各種設定について

タイムラプス動画撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作を行うことができます。ただし、撮影時刻の約2秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

☑ タイムラプス動画の制限について

次の場合など、タイムラプス動画とは同時に使用できない機能や設定があります。

- スペシャルエフェクトモード
- ライブビュー撮影
- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- インターバルタイマー撮影
- フォーカスシフト撮影
- ネガフィルムデジタイズ撮影

［サイレント撮影］を［する］にした場合の制限について

次の場合など、［**サイレント撮影**］を［**する**］に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 2
- フラッシュ撮影
- 露出ディレーモード
- 長秒時ノイズ低減
- フリッカー低減

ピント位置を変えながら連続撮影する（フォーカスシフト撮影）

静止画撮影メニューの［**フォーカスシフト撮影**］を使うと、ピント位置を変えながら自動的に連続撮影を行うフォーカスシフト撮影が可能です。深度合成用の素材を撮影するときに便利です。素材として撮影した画像をパソコンに取り込んで、他社製の画像編集ソフトで合成することができます。

フォーカスシフト撮影の設定項目

項目	内容
［**撮影開始**］	撮影を開始します。撮影は、設定したフォーカスステップ幅で繰り返されます。
［**撮影回数**］	撮影回数を最大300回まで設定できます。
［**フォーカスステップ幅**］	フォーカスシフト撮影は、ピント位置を変更しながらステップ撮影を行います。ピント位置の変更幅を設定します。
［**待機時間**］	シャッターをきってから次にシャッターをきるまでの時間を秒単位で設定できます。 • ［**00**］に設定すると、最大3コマ/秒でシャッターがきれます。 • フラッシュを使用して撮影する場合は光量不足にならないように充電時間を考慮して設定してください。
［**露出固定**］	• ［**する**］：露出を1コマ目撮影時の設定に固定します。 • ［**しない**］：1コマごとに露出を合わせます。
［**サイレント撮影**］	［**する**］を選ぶと、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。 • ［**する**］に設定していても、完全に無音にはなりません。撮影時に絞りやオートフォーカスなどカメラの動作音がすることがあります（特に絞りをf/5.6よりも絞った（大きい数値にした）場合は、絞りによる動作音がします）。

項目	内容
［**撮影開始時の記録フォルダー**］	項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、オン☑とオフ☐を切り換えられます。 • ［**新規フォルダー作成**］：フォーカスシフト撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。 • ［**ファイル番号リセット**］：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

☑ フォーカスシフト撮影を開始する前に

- AF-SレンズまたはAF-Pレンズをお使いください。
- レリーズモードを⏲以外に設定してください。
- 撮影中に絞りが変化しない撮影モード**A**または**M**にして撮影することをおすすめします。📷および**EFCT**のときは撮影できません。
- 絞り値は、開放絞りから2～3段ほど絞った値で撮影することをおすすめします。
- ISO感度は、固定で撮影することをおすすめします。
- 試し撮りをすることをおすすめします。
- フォーカスシフト撮影時は、カメラを三脚で固定し、レンズのVR（手ブレ補正）機能を無効にすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いください。
- ［**サイレント撮影**］が［**しない**］のときにファインダーから顔を離して撮影する場合は、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします（🕮10）。

フォーカスシフト撮影の撮影方法

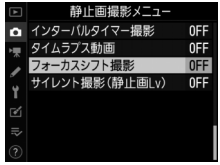
1 フォーカスモードセレクターをAFに設定する

マニュアルフォーカスレンズではフォーカスシフト撮影はできません。

2 被写体にピントを合わせる

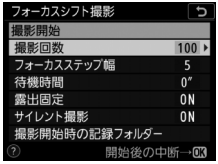
- 撮影開始のピント位置から無限遠方向に向かって自動撮影されます。撮影開始のピント位置は、被写体の最近接の部分より少し近側にずらしておくことをおすすめします。
- ピント合わせ後はカメラを動かさないでください。

3 静止画撮影メニューの［フォーカスシフト撮影］を選んでマルチセレクターの▶を押す



4 フォーカスシフト撮影の設定をする

- **撮影回数を設定する**



［**撮影回数**］を選んで▶を押す



撮影回数を設定して、⊛ボタンを押す

- 撮影回数は最大300回まで設定できます。
- 撮影回数は多めに設定しておくことをおすすめします。合成時には必要な画像を選んで使用してください。
- 昆虫などの小さい被写体をクローズアップ撮影する場合、100枚以上の画像が必要になることがあります。また、手前から遠くまでをカバーする風景を広角レンズで撮影する場合は、数枚で充分なこともあります。

• フォーカスステップ幅（ピント位置の間隔）を設定する



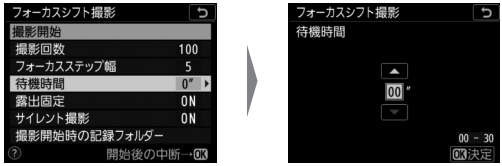
［**フォーカスステップ幅**］を選んで▶を押す



フォーカスステップ幅を設定して、OKボタンを押す

- フォーカスステップ幅は、▶を押すほど広くなり、◀を押すほど狭くなります。
- フォーカスステップ幅を大きな数値に設定すると、深度合成したときにピントの合っていない領域ができてしまうことがあります。通常は5以下に設定することをおすすめします。
- フォーカスステップ幅は何度か試して決めてください。

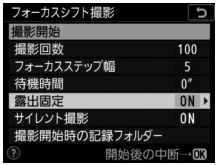
• 待機時間を設定する



［**待機時間**］を選んで▶を押す　　待機時間（秒）を設定して、⊛ボタンを押す

- シャッターをきってから次にシャッターをきるまでの時間を秒単位で設定できます。
- ［**00**］に設定すると最大3コマ/秒でシャッターがきれます。
- フラッシュを使用して撮影する場合は光量不足にならないように充電時間を考慮して設定してください。フラッシュを使用しない場合は、［**00**］に設定することをおすすめします。

• 露出を固定するかどうかを選ぶ



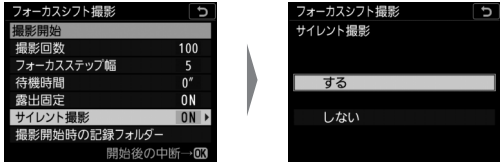
［**露出固定**］を選んで▶を押す



露出を固定をするかどうかを選んでOKボタンを押す

- 光源などの撮影環境が安定している場合は［**しない**］、風景などの光線条件が変化するような場合は［**する**］をおすすめします。
- ［**する**］を選ぶと、全てのコマが同じ露出になるように、露出を1コマ目撮影時の設定に固定します。ただし、輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は、［**しない**］にすることをおすすめします。

• **サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ**

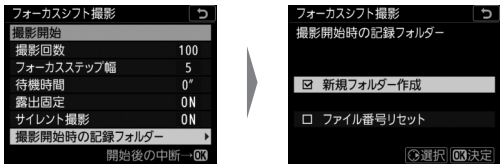


［**サイレント撮影**］を選んで▶を押す

サイレント撮影をするかどうかを選んでOKボタンを押す

- ［**する**］にした場合、撮影開始時と終了時にミラーアップ/ミラーダウンの音とシャッター音がします。

• **撮影開始時の記録フォルダーの設定をする**

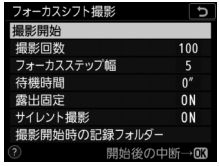


［**撮影開始時の記録フォルダー**］を選んで▶を押す

各項目の設定をしてOKボタンを押す

- 項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ□になります。
- ［**新規フォルダー作成**］のチェックボックスをオン☑にすると、フォーカスシフト撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。
- ［**ファイル番号リセット**］のチェックボックスをオン☑にすると、新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

5 [撮影開始] を選んでⓄボタンを押す



- 約3秒後に撮影を開始します。
- 撮影開始時のピント位置から無限遠に向かって連続撮影を行います。
- 設定した撮影回数に達するか、ピント位置が無限遠に達すると撮影を終了します。
- フォーカスシフト撮影を途中で終了するには、次の操作を行います。
  - 撮影待機中に静止画撮影メニュー［**フォーカスシフト撮影**］で［**終了**］を選び、Ⓞボタンを押す
  - 次の撮影までの間にシャッターボタンを半押しするか、Ⓞボタンを押す

☑ フォーカスシフト撮影についてのご注意

- 実際のフォーカスシフト撮影には、待機時間のほか、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した待機時間で撮影できないことがあります。
- フォーカスシフト撮影中は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。待機時間が充分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。
- シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合など、フォーカスシフト撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- フォーカスシフト撮影中にカメラの設定を変更すると、フォーカスシフト撮影が終了する場合があります。

☑ フォーカスシフト撮影待機中の各種設定について

フォーカスシフト撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作を行うことができます。ただし、撮影時刻の約2秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

ヒント：近接撮影を行う場合

近接撮影では焦点深度が浅くなるため、近接被写体のフォーカスシフト撮影を行う場合は、フォーカスステップ幅を狭めにし、撮影回数を多めにして撮影することをおすすめします。

ヒント：フォーカスシフト撮影の待機状態について

フォーカスシフト撮影の待機状態では、撮影直前になるとシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を表示します。



ヒント：フォーカスシフト撮影の制限について

- 次の場合、フォーカスシフト撮影はできません。
  - カメラの日時設定がされていない場合
  - AF-SまたはAF-Pレンズ以外のレンズが装着されている場合
  - SDカードが入っていない場合
- 次の場合など、フォーカスシフト撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。
  - ライブビュー撮影
  - 動画撮影
  - 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
  - セルフタイマー撮影
  - オートブラケティング撮影
  - 多重露出撮影
  - HDR（ハイダイナミックレンジ）
  - インターバルタイマー撮影
  - タイムラプス動画撮影
  - ネガフィルムデジタイズ撮影

ヒント：[サイレント撮影] を［する］にした場合の制限について

次の場合など、［**サイレント撮影**］を［**する**］に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 2
- フラッシュ撮影
- 露出ディレーモード
- 長秒時ノイズ低減
- フリッカー低減

電子シャッターを使って撮影する（サイレント撮影（静止画Lv））

静止画撮影メニュー［**サイレント撮影（静止画Lv）**］を［**する**］に設定すると、ライブビュー撮影時に電子シャッターを使用して、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。風景や静物など動きの少ない被写体を撮影する場合に適しています。

- 撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 連続撮影の場合、連続撮影速度が変更されます（🕮178）。

ヒント：サイレント撮影について

- ［**サイレント撮影（静止画Lv)**］を［**する**］に設定していても、完全に無音にはなりません。撮影時に絞りやオートフォーカスなどカメラの動作音がすることがあります（特に絞りをf/5.6よりも絞った（大きい数値にした）場合は、絞りによる動作音がします）。
- 画像モニターの表示に次のような現象が発生することがあり、これらの現象は静止画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
  - 動きのある被写体が歪む（電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む／カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む）
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- サイレント撮影中はシャッター音を消して撮影できますが、被写体の肖像権やプライバシーなどに充分ご配慮の上、お客様の責任においてお使いください。

ヒント：サイレント撮影の制限について

次の場合など、サイレント撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 2
- フラッシュ撮影
- 長秒時ノイズ低減
- フリッカー低減

ヒント：サイレント撮影で連続撮影するときの表示について

カスタムメニュー d13［**連続撮影中の表示（Lv）**］で、サイレント撮影で連続撮影をしているときに画像モニターを点灯するかどうかを設定できます。

ネガフィルムを反転表示して撮影する（ネガフィルムデジタイズ）

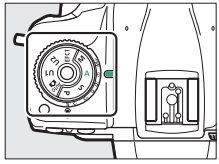
カラーネガフィルムやモノクロネガフィルムをポジに反転表示させて撮影できます。［**ネガフィルムデジタイズ**］は、ライブビュー撮影で静止画を撮影するときの**i**メニューで設定します。

1 撮影するネガフィルムを白やグレーなど無地の背景の前に固定する

- ネガフィルムデジタイズ撮影には、AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G EDなどのマイクロレンズおよびフィルムデジタイズアダプター ES-2をお使いいただくことをおすすめします。
- 自然光下での撮影、または、高演色性蛍光灯やライトボックスなどRa（平均演色評価数）の高い光源を使った撮影をおすすめします。

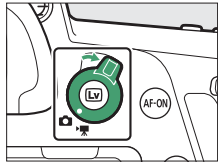
2 撮影モードダイヤルを回して**A**に合わせる

ISO感度はISO 100、絞り値はF8にすることをおすすめします。



3 ライブビューセレクターを📷に合わせて、Lvボタンを押す

ライブビューを開始します。



4 ライブビュー撮影時にiボタンを押して、[ネガフィルムデジタイズ]を選ぶ



- マルチセレクターで［**ネガフィルムデジタイズ**］を選んでOKボタンを押すと、表示が反転されます。
- フラッシュモードは⚡に変更されます。フラッシュ撮影を行う場合は、⚡以外に設定してください。

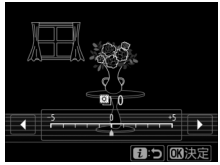
5 フィルムの種類を選ぶ

◀▶で［**カラーネガフィルム**］または［**モノクロネガフィルム**］を選んでOKボタンを押します。



6 ネガフィルムが撮像範囲内に収まるように構図を決める

7 明るさを補正する



- ⓞⓚボタンを押すと明るさの設定画面が表示されます。マルチセレクターの◀▶を押して明るさを調整できます。もう一度ⓞⓚボタンを押すと明るさの調整を終了します。
- ネガポジ反転画像を表示中に🔍（**QUAL**）ボタンを押すと、拡大表示できます。

8 撮影する

- 撮影した画像はJPEG画像として記録されます。
- ***i***ボタンを押すと、ネガフィルムデジタイズ撮影を終了します。

☑ ネガフィルムデジタイズについてのご注意

- フィルムのゴミや傷などの補正、およびフィルムの劣化によるむらの補正はできません。
- 画質モードを［**RAW**］に設定していても、記録される画像はJPEG形式になります。JPEG画像は［**RAW**］の場合［**FINE★**］で、それ以外の場合は画質モードで選んだJPEGの設定で保存されます。

☑ ネガフィルムデジタイズの制限について

次の場合など、ネガフィルムデジタイズとは同時に使用できない機能や設定があります。

- **A**以外の撮影モード
- 動画撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影

iメニューの項目を変更する（iメニューのカスタマイズ）



撮影時のiメニューで表示される項目は、カスタムメニューで変更できます。ファインダー撮影時の機能はf1［**iメニューのカスタマイズ**］、ライブビュー撮影時の機能はf2［**iメニューのカスタマイズ（Lv）**］、動画撮影時の機能はg1［**iメニューのカスタマイズ**］でそれぞれ設定します。iメニュー項目の設定方法は次の通りです。

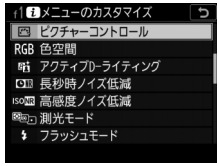
1 機能を割り当てたい場所を選んで㊗ボタンを押す

割り当てられる機能の一覧が表示されます。



2 割り当てたい機能を選んで㊗ボタンを押す

- 新しい機能が割り当てられ、手順1の画面に戻ります。
- 他の場所にも機能を割り当てたい場合は手順1、2を繰り返します。



3 MENUボタンを押す

設定を終了してメニュー画面に戻ります。

非CPUレンズを使う（レンズ情報手動設定）

このカメラでは、非CPUレンズ（🕮786）装着時も撮影モード**A**または**M**で撮影ができます。非CPUレンズを使用する場合、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの情報をカメラに登録すると、非CPUレンズを使って撮影するときに、次の機能が使用できるようになります。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
  - 別売のスピードライトのオートパワーズーム
  - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に＊印が付きます）
- **開放絞り値（開放F値）を設定して使用できる機能：**
  - レンズで設定した絞り値表示（表示パネル、ファインダー内表示）
  - スピードライトの絞り連動外部自動調光（㊎A）
  - 再生画面での絞り値表示（絞り値に＊印が付きます）

- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
  - RGB マルチパターン測光（レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では充分な精度が得られない場合があります。［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］に設定して撮影してください）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
  - ［**中央部重点測光**］
  - ［**スポット測光**］
  - i-TTL調光

☑ ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

レンズ情報の登録方法

1 セットアップメニューの［レンズ情報手動設定］を選んでマルチセレクターの㊨を押す



2 ［レンズNo.］を選ぶ

㊧㊨を押して、登録したいレンズNo.を選びます。



3 ［焦点距離（mm）］を選ぶ

㊧㊨を押して、レンズの焦点距離を選びます。



4 ［開放絞り値］を選ぶ

㊧㊨を押して、レンズの開放絞り値を選びます。



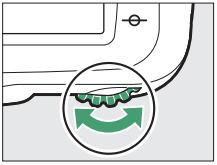
5 ㊮ボタンを押して、設定を終了する

レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。

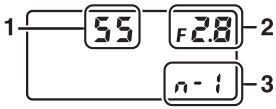
手動設定済みレンズ情報の選択方法

1 カスタムメニュー **f3**［カスタムボタンの機能］で任意のボタンに［手動設定済みレンズの選択］を割り当てる

2［手動設定済みレンズの選択］を割り当てたボタンを押しながらコマンドダイヤルを回す



表示パネルにレンズNo.が表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでコマンドダイヤルを回します。



1 焦点距離
2 開放絞り値
3 レンズNo.

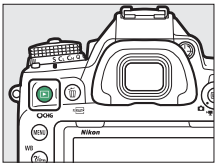
ヒント：ズームレンズ装着時について
非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

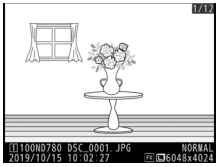
画像の再生

画像を再生する

1コマ表示モード

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が画像モニターに表示されます。

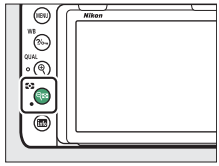


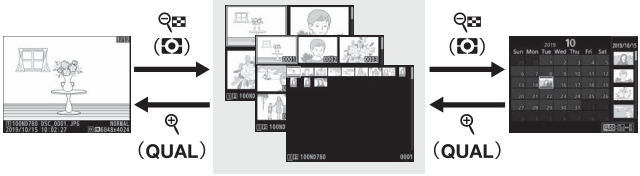


- マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
- ▲▼を押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます(🕮366)。

サムネイル表示モード

1コマ表示モードのときに（）ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

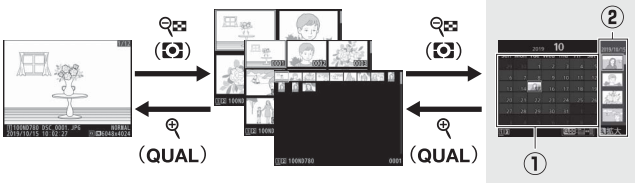




- 表示される画像の数は、（）ボタンを押すたびに4コマ、9コマ、72コマの順に増え、（**QUAL**）ボタンを押すたびに減ります。
- マルチセレクターの◆◆◆◆を押して画像を選びます。

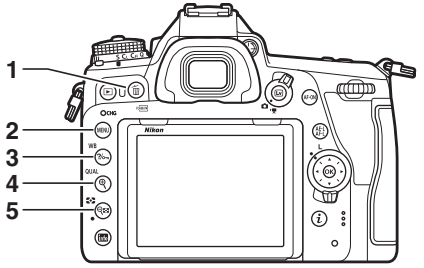
カレンダー表示モード

72コマ表示時に🔍（📷）ボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。



- カレンダー表示（①）でマルチセレクターの▲▼◀▶を押し撮影日を選んでから、🔍（📷）ボタンを押すと、黄色い枠が撮影日サムネイル表示（②）に移動します。撮影日サムネイル表示で▲▼を押すと、その日に撮影した画像が選べます。撮影日サムネイル表示からカレンダー表示に戻るには、もう一度🔍（📷）ボタンを押します。
- 撮影日サムネイル表示時は、🔍（**QUAL**）ボタンを押している間、拡大表示をします。
- カレンダー表示モードからサムネイル表示モードに切り換えるには、🔍（**QUAL**）ボタンを押します。

画像再生時のボタン操作



1	🗑（ⓇAMAIN）：画像を削除する（🕮383）
2	**MENU**：メニューに移る（🕮57）
3	**?/🔑**（**WB**）：画像を保護する（🕮378）
4	🔍（**QUAL**）：画像を拡大する（🕮376）
5	🔍▦（**⊡**）：サムネイル表示モードで画像を一覧表示する（🕮354）

☑ タッチパネルでの操作について

画像モニターで再生している場合、タッチ操作で再生画面を切り換えることができます（🕮14）。

☑ 縦位置で撮影した画像の場合

再生メニュー［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定している場合、縦位置で撮影された画像を縦位置で再生します。



ヒント：撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］で［**する**］が設定されているときは、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターに表示します。

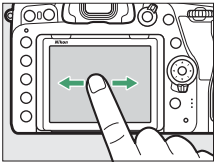
- レリーズモードが**CH**、**CL**、または**QC**のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

再生時にタッチパネルでできること

このカメラの画像モニターは、再生時に指で画面にタッチして次の操作ができます。

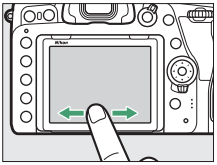
■■ 前後の画像を表示する

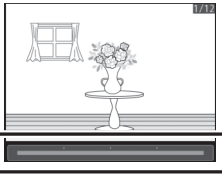
左右にフリックすると、前後の画像を表示します。



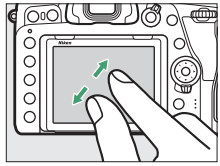
■■ 前後の画像を高速で切り換える

1コマ表示時に画面下部をタッチすると、フレームアドバンスバーが表示されます。フレームアドバンスバーに触れたまま指を左右にスライドすると、前後の画像を高速で切り換えられます。





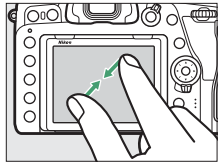
■■ 拡大表示する（静止画のみ）



1コマ表示時に広げる操作をするか、画面を素早く2回タッチすると、拡大表示（🕮376）します。

- さらに広げる操作をすると、拡大率が上がります。
- つまむ操作をすると、拡大率が下がります。
- 画面をスライドすると、見たい部分に移動できます。
- 画面を素早く2回タッチすると、拡大表示を解除します。

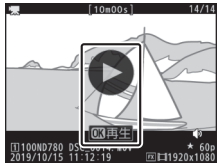
■■ サムネイル表示する



1コマ表示時につまむ操作をすると、サムネイル表示モード（🕮354）に切り替わります。

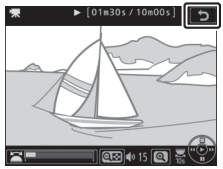
- 広げる/つまむ操作をすると、表示コマ数（4コマ/9コマ/72コマ）が切り替わります。
- 72コマ表示時につまむ操作をすると、サムネイル表示モードからカレンダー表示モードに切り替わります。再度72コマ表示時に切り換えるには、広げる操作をします。

■■ 動画を再生する



が表示されている画像で、操作ガイドにタッチすると再生します。

- 再生中に画面をタッチすると一時停止します。もう一度タッチすると再生を再開します。

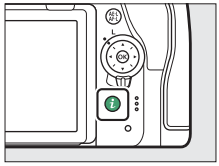


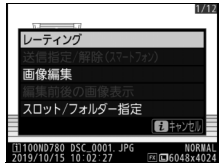
- 再生中ににタッチすると、再生を終了して1コマ表示モードに戻ります。
- タッチでは操作できない操作ガイドもあります。

iボタンを使う

1コマ表示モード、サムネイル表示モードまたは拡大表示時にiボタンを押すと、iメニューが表示されます。項目を選んでOKボタンまたはマルチセレクターの▶を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

再生画面に戻るには、もう一度iボタンを押してください。





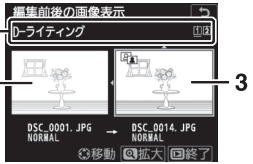
■■ 静止画選択時

項目	内容
［**簡易トリミング**］※1	画像の拡大表示された部分だけを切り抜きます。RGBヒストグラム表示（🕮369）の場合は選べません。
［**レーティング**］	選んだ画像にレーティングを設定します（🕮380）。
［**送信指定/解除（スマートフォン）**］	画像の送信指定を行えます（🕮381）。表示される項目は、現在カメラと接続している無線機器により異なります。
［**送信指定/解除（PC）**］	
［**送信指定/解除（WT）**］	
［**画像編集**］	選んだ静止画を編集できます（🕮709）。
［**編集前後の画像表示**］※2	画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。
［**スロット/フォルダー指定**］	スロットとフォルダーを切り換えられます。スロットを選んで▶を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んでOKボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
［**RGB切り換え**］※3	◀▶を押すと、ハイライト表示させる色を切り換えられます。

※1 拡大表示している場合のみ表示されます。
※2 編集後の画像（☑が表示されている画像）または編集元の画像を選択しているときのみ表示されます。
※3 ハイライト表示またはRGBヒストグラム表示にしたときのみ表示されます。

ヒント：[編集前後の画像表示] について

[**編集前後の画像表示**] を選ぶと、画像編集で作成した画像と画像編集の元画像を比較しながら、画像編集の効果を確認できます。



1	画像編集の内容
2	編集前の画像
3	編集後の画像

- 編集前の画像が左側、編集後の画像が右側に表示されます。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの◀▶で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲▼で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲▼で編集後の画像を切り換えられます。
- 🔍（**QUAL**）ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ⊛ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示します。
- ▶ボタンを押すと、再生画面に戻ります。
- プロテクトされている画像を編集した場合は、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合、編集前の画像は表示されません。

■■ 動画選択時

項目	内容
［**レーティング**］	選んだ動画にレーティングを設定します（🕮380）。
［**送信指定/解除（PC）**］	動画の送信指定を行えます（🕮381）。表示される項目は、現在カメラと接続している無線機器により異なります。
［**送信指定/解除（WT）**］	
［**音量調節**］	動画再生時の音量を調節できます。
［**動画編集（始点/終点設定）**］	選んだ動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残すことができます（🕮272）。
［**スロット/フォルダー指定**］	スロットとフォルダーを切り換えられます。スロットを選んで▶を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んでOKボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
［**RGB切り換え**］※	◀▶を押すと、ハイライト表示させる色を切り換えられます。

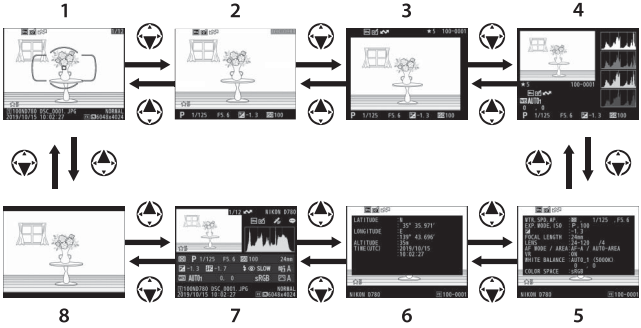
※ハイライト表示またはRGBヒストグラム表示にしたときのみ表示されます。

■■ 動画再生一時停止時

項目		内容
	[**始点/終点の設定**]	動画の必要な部分だけを残します（🕮272）。
	[**表示中のフレームを保存**]	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します（🕮277）。
	[**インデックスマーキング追加**]	再生中の動画にインデックスマークを追加します。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の位置へ素早く移動できます（🕮278）。
	[**インデックスマーキング削除**]	動画に追加したインデックスマークを削除します（🕮278）。

画像情報を表示する

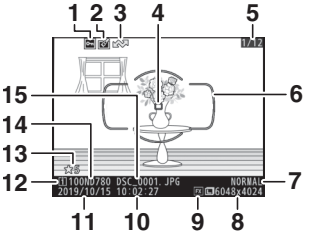
1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセレクターの▲▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



1	標準表示	5	撮影情報※1
2	露出情報※1	6	位置情報表示※2
3	ハイライト表示※1	7	統合表示※1
4	RGBヒストグラム※1	8	画像のみ表示※1

※1 再生メニュー［**再生画面設定**］で設定している場合のみ表示します。
※2 位置情報が記録された画像の場合のみ表示します。

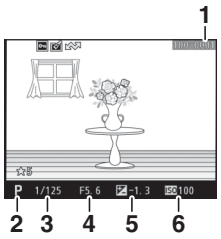
標準表示



1 プロテクト設定の有無（🕮378）
2 画像編集の有無（🕮709）
3 送信指定の有無（🕮381）
4 フォーカスポイント※（🕮36）
5 コマ番号/フォルダー内全画像数
6 AFエリアフレーム※
7 画質モード（🕮134）
8 画像サイズ（🕮137）
9 撮像範囲（🕮129）
10 撮影時刻（🕮658）
11 撮影日付（🕮658）
12 スロット（🕮279）
13 レーティング（🕮380）
14 フォルダー名（🕮545）
15 ファイル名（🕮550）

※再生メニュー［**再生画面設定**］で［**フォーカスポイント**］を設定した場合のみ表示します。

露出情報

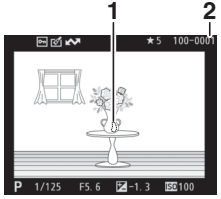


1	フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字（🕮545）
2	撮影モード（🕮107）
3	シャッタースピード（🕮110、113）
4	絞り値（🕮111、113）
5	露出補正値（🕮175）
6	ISO感度※（🕮187）

※撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

ハイライト表示

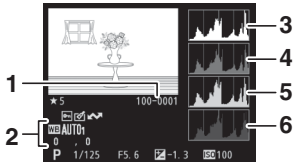
iメニューで［**RGB切り換え**］を選んで◀▶を押すと、ハイライト表示させる色を切り換えられます。



1	画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します。
2	フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字（🕮545）

RGBヒストグラム

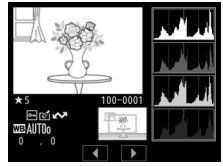
iメニューで［**RGB切り換え**］を選んで◀▶を押すと、ハイライト表示させる色を切り換えられます。



1	フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字（🕮545）
2	ホワイトバランス（🕮195） ホワイトバランス色温度（🕮204） プリセットマニュアル（🕮209） ホワイトバランス微調整（🕮200）
3	RGBのヒストグラム
4	赤色（R）のヒストグラム
5	緑色（G）のヒストグラム
6	青色（B）のヒストグラム

☑ 拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で🔍（**QUAL**）ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。🔍（📷）ボタンを押すと画像を縮小表示します。



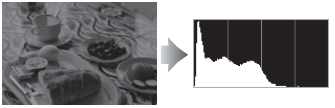
ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。



- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。



- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



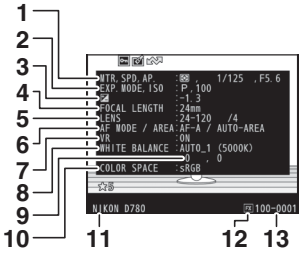
露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて画像モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

ヒストグラム表示について

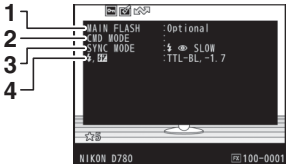
- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

撮影情報

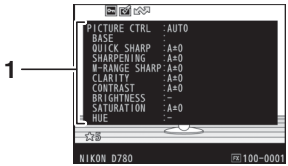
撮影時の設定の詳細を表示します。



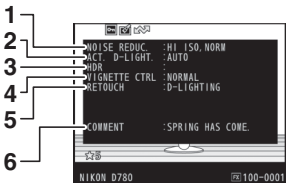
1	測光モード（🕮166） シャッタースピード（🕮110、113） 絞り値（🕮111、113）
2	撮影モード（🕮107） ISO感度※1（🕮187）
3	露出補正値（🕮175） 基準露出レベルの調節値※2（🕮604）
4	焦点距離※3
5	レンズ情報
6	AFモード（🕮140） AFエリアモード（🕮145）
7	レンズのVR（手ブレ補正）機能のON/OFF
8	ホワイトバランス※4（🕮195）
9	ホワイトバランス微調整（🕮200）
10	色空間（🕮554）
11	カメラ名
12	撮像範囲（🕮129）
13	フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字



1 フラッシュの種類※5
2 リモートフラッシュの制御方法※5
3 フラッシュモード※5（🕮465）
4 フラッシュ発光モード※5（🕮463）
調光補正値※5（🕮469）

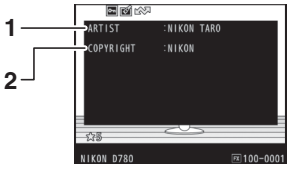


1 ピクチャーコントロール※6（🕮243）



1 高感度ノイズ低減（🕮557）
長秒時ノイズ低減（🕮556）

2 アクティブD-ライティング（🕮254）
3 HDR強度（🕮256）
4 ヴィネットコントロール（🕮558）
5 画像編集メニュー（🕮709）で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
6 画像コメント（🕮681）



1 撮影者名※7（🕮682）
2 著作権者名※7（🕮682）

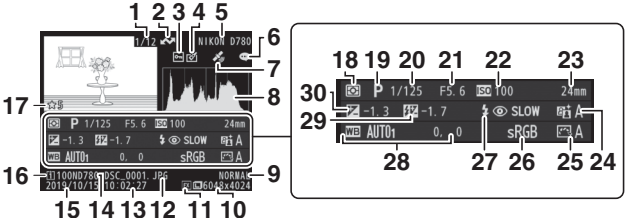
※1 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
※2 カスタムメニュー b5［**基準露出レベルの調節**］を0以外に設定している場合のみ表示します。
※3 テレコンバーターを使用して撮影した場合は、焦点距離のほかに拡大倍率も表示されます。
※4 **WB A**（［**オート**］）で撮影した場合は、撮影時の色温度が表示されます。
※5 別売のスピードライト使用時にのみ表示します（🕮459、477）。
※6 表示される項目は、撮影時に設定したピクチャーコントロールによって異なります。
※7 セットアップメニュー［**著作権情報**］を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

位置情報表示

緯度や経度など、スマートフォンで取得した位置情報（🕮687）を表示します。

- 表示される項目は、スマートフォンによって異なります。
- 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

統合表示

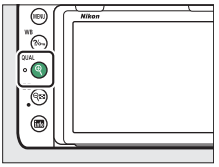


1	コマ番号/フォルダー内全画像数
2	送信指定の有無（🕮381）
3	プロテクト設定の有無（🕮378）
4	画像編集の有無（🕮709）
5	カメラ名
6	画像コメントの有無（🕮681）
7	位置情報の有無（🕮687）
8	画像のヒストグラム （🕮370）
9	画質モード（🕮134）
10	画像サイズ（🕮137）
11	撮像範囲（🕮129）
12	ファイル名（🕮550）
13	撮影時刻（🕮658）
14	フォルダー名（🕮545）
15	撮影日付（🕮658）
16	スロット（🕮279）
17	レーティング（🕮380）
18	測光モード（🕮166）
19	撮影モード（🕮107）
20	シャッタースピード（🕮110、113）
21	絞り値（🕮111、113）
22	ISO感度※1（🕮187）
23	焦点距離
24	アクティブD-ライティング（🕮254）

25 ピクチャーコントロール
(🕮243)
26 色空間（🕮554）
27 フラッシュモード※2（🕮465）
28 ホワイトバランス（🕮195）
ホワイトバランス色温度
(🕮204)
プリセットマニュアル（🕮209）
ホワイトバランス微調整
(🕮200)
29 調光補正値※2（🕮469）
コマンダーモードの有無※2
30 露出補正値（🕮175）

※1 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
※2 別売のスピードライト使用時にのみ表示します。

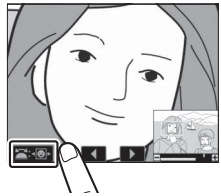
画像を拡大表示する



1コマ表示モードのときに🔍（**QUAL**）ボタンまたはⓄⓀボタンを押すか、画面を素早く2回タッチすると、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約24倍、**M** では約18倍、**S**では約12倍です（撮像範囲が［**FX (36×24)**］の場合）。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。

拡大表示中の操作方法

操作	内容	
拡大率を上げる/拡大率を下げる	• 🔍（**QUAL**）ボタンを押すか、画面で広げる操作をするごとに拡大率が上がります。 • 🔍（🖼）ボタンを押すか、画面でつまむ操作をするごとに拡大率が下がります。	 拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が100%の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。

操作	内容
画面をスクロール（移動）させる	マルチセレクターを押すか、画像モニターでスライド操作すると見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。
拡大表示部分を切り抜く※	**i**ボタンを押して表示されるメニューから［**簡易トリミング**］を選ぶと、画像の拡大表示された部分だけを切り抜きます。
人物の顔へ移動させる	拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すか、操作ガイドをタッチすると、認識した顔に順次移動します。 
前後の画像を見る	メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。画面下部に表示される◀▶をタッチしても画像を切り換えられます。
画像を保護する	**?**/**O-n**（**WB**）ボタンを押すと、表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（🕮378）。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しするか、▶ボタンを押すと、画像モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	**MENU**ボタンを押すと、メニューが表示されます。

※RGBヒストグラム表示（🕮369）では、**i**ボタンを押して表示されるメニューで［**簡易トリミング**］は選べません。

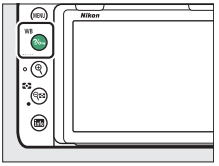
プロテクトで画像を削除できないように保護をする

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット：🕮656）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

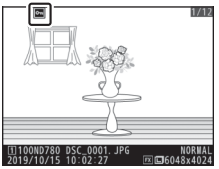
1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。
- サムネイル表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターで選びます。

2 ?/🔑（WB）ボタンを押す



- 🔑アイコン が表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、**?**/🔑（**WB**）ボタンを押します。

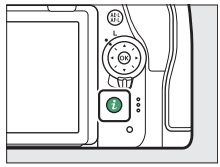


ヒント：プロテクトの一括解除について

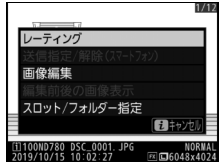
画像の再生中に、**?**/**O-n**（**WB**）ボタンと🗑（FORMAT）ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像にレーティングを設定する

1 マルチセレクターでレーティングを設定する画像を選んで**i**ボタンを押す

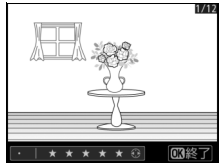


2 [レーティング] を選んでマルチセレクターの▶を押す



3 レーティングを設定する

◀▶を押してレーティングを選び、OKボタンを押します。レーティングは、★★★★★～★、星なし、🗑（削除候補）から選べます。



ヒント：レーティングについて

画像に設定したレーティングは、NX Studioにも反映されます。プロテクトした画像にはレーティングを設定できません。

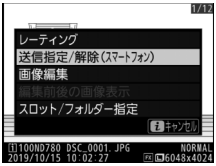
画像を選んで送信指定する

スマートフォンやパソコン、FTPサーバーに取り込みたい画像をカメラで選んで送信指定することができます。

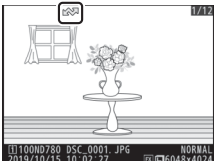
- **i**メニューに表示される項目は、現在カメラと接続している機器によって異なります。
  - カメラのBluetooth通信機能を使用して、セットアップメニュー［**スマートフォンと接続**］でスマートフォンと接続（🕮692）している場合：［**送信指定/解除（スマートフォン）**］
  - カメラのWi-Fi通信機能を使用して、セットアップメニュー［**PCと接続**］でパソコンと接続（🕮696）している場合：［**送信指定/解除（PC）**］
  - 別売のワイヤレストランスミッターWT-7を使用して、セットアップメニュー［**ワイヤレストランスミッター（WT-7）**］でパソコンまたはFTPサーバーに接続（🕮700）している場合：［**送信指定/解除（WT）**］
- SnapBridgeアプリを使用してスマートフォンと接続している場合、動画は送信指定できません。
- ファイル容量が4GBを超える動画は送信指定できません。

1 送信指定する画像を選んで i ボタンを押す

2 [送信指定/解除] を選んで Ⓚ ボタンを押す



アイコンが表示されます。



送信指定を解除するには

解除したい画像を選んで、手順1と2を行います。

画像を削除する

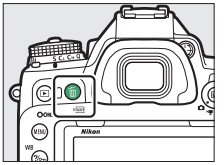
SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクトされている画像は削除できません。

ボタン操作で画像を削除する

🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

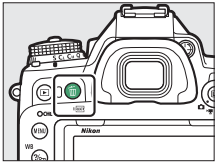
1 **マルチセレクターで削除する画像を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押す**

- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



2 **もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押す**

表示中の画像が削除されます。

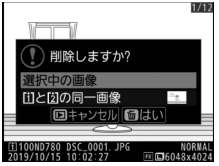


ヒント：カレンダー表示モードで選んだ日付の画像を削除するには

カレンダー表示モードのカレンダー表示時に、日付を選んで🗑（Fn/AEL）ボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。

ヒント：同時記録された画像の削除について

再生画面で🗑（Fn/AEL）ボタンを押したときに、選択した画像が静止画撮影メニューの［**スロット2の機能**］を［**バックアップ記録**］または［**RAW+JPEG分割記録**］に設定して同時記録された画像の場合は、再生しているスロットの画像だけを削除するか、もう一方のスロットの画像も削除するかを選択できます（🕮281）。



複数の画像をまとめて削除する

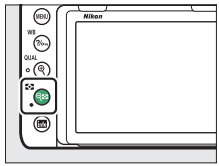
再生メニューの［**削除**］では、複数の画像を一括して削除できます。
たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

項目		内容
▪▫▫▫▪	［**選択画像削除**］	選んだ画像を削除します。
DATE	［**日付選択**］	選んだ日付に撮影した画像を一括で削除します（🕮387）。
ALL	［**全画像削除**］	選択したSDカードスロットのフォルダーに記録された全ての画像を削除します。削除対象のフォルダーは、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定します。

■■ 選択画像削除

1 削除する画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選び、Q（□）ボタンを押すと、🗑が表示されて削除設定されます。もう一度Q（□）ボタンを押すと解除されます。

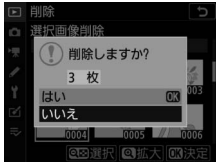




- 削除する画像全てに設定してください。
- 🔍（**QUAL**）ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

2 画像を削除する

- ⓚボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で［**はい**］を選んでⓚボタンを押すと、選んだ画像が全て削除されます。



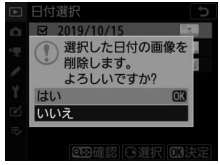
■■ 日付選択

1 日付を選ぶ



- マルチセレクターで日付を選んで▶を押すと、日付の横にチェック☑が入ります。もう一度▶を押すと解除されます。
- 削除する日付全てにチェックを入れてください。

2 画像を削除する

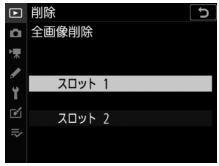


- ⓚボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で［**はい**］を選んでⓚボタンを押すと、選んだ日付の画像が全て削除されます。

■■ 全画像削除

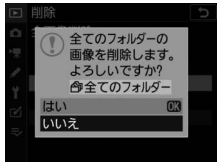
1 SDカードスロットを選ぶ

マルチセレクターの▲▼で、画像を削除するSDカードスロットを選んで⊛を押します。



2 画像を削除する

- 確認画面で[**はい**]を選んで⊛ボタンを押すと、再生メニュー［**再生フォルダー設定**］で設定したフォルダー内の画像が全て削除されます。
- たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。



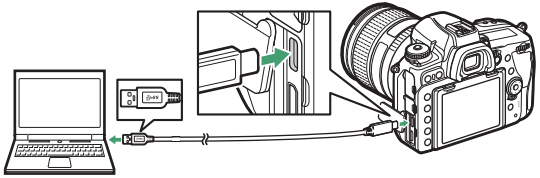
パソコンやテレビとの接続

パソコンと接続する

カメラをパソコンに接続すると、撮影した画像をパソコンに取り込めます。カメラとパソコンを接続するには、USBケーブルを使用する方法と無線LANで接続する方法があります。

USBケーブルで接続する

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続できます。ニコンのソフトウェアNX Studioをインストールすると、画像の転送、閲覧、および調整ができます。



■■ NX Studioをインストールする

NX Studioのインストールにはインターネットに接続できる環境が必要です。ソフトウェアの最新情報、動作環境は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

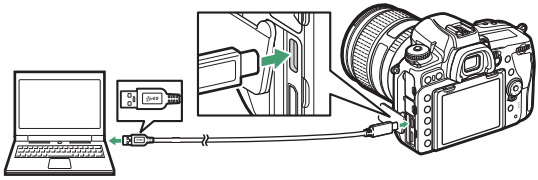
- 下記のホームページからNX Studioの最新のインストーラーをダウンロードし、画面の指示に従ってインストールしてください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/
- 最新のバージョンではない場合、カメラの画像が転送できないことがあります。

■ NX Studioを使ってパソコンに画像を取り込む

NX Studioの詳しい使い方はヘルプをご覧ください。

1 パソコンに接続する

メモリーカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続します。



ヒント：カードリーダーを使用する場合

市販のカードリーダーを使用して画像を転送することもできます。その場合、カードリーダーがお使いのメモリーカードに対応しているかご確認ください。

2 カメラの電源をONにする

- NX StudioのNikon Transfer 2が起動します。Nikon Transfer 2は、NX Studioをインストールすると一緒にインストールされる画像転送ソフトウェアです。
- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選んでください。
- 自動で起動しない場合、NX Studioを起動して「取り込む」アイコンをクリックしてください。

3 [転送開始] をクリックする

記録されている画像がパソコンに取り込まれます。



4 カメラの電源をOFFにする

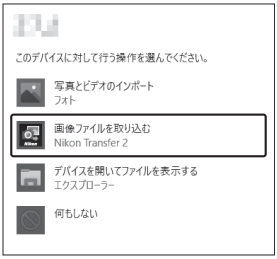
USBケーブルを抜いて接続を解除してください。

☑ Windows 10またはWindows 8.1をお使いの場合

パソコンの設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。



この場合は、表示されたダイアログをクリックしてから、［**画像ファイルを取り込む- Nikon Transfer 2**］をクリックしてNikon Transfer 2を選びます。



macOSをお使いの場合

Nikon Transfer 2が自動起動しないときは、カメラとパソコンを接続した状態で、macOS付属アプリケーションのイメージキャプチャを起動し、カメラを接続時に開くアプリケーションとしてNikon Transfer 2を設定してください。

動画を転送する場合のご注意

このカメラで使用したメモリーカードを他機種のカメラに入れて、そのカメラから動画を転送しないでください。動画が転送されないままファイルが削除されるおそれがあります。

パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- カメラとパソコンを接続するときは、充分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンに接続すると、正しく動作しないことがあります。カメラはパソコンに標準装備されたUSBポートへ接続してください。

無線LAN（Wi-Fi）で接続する

詳しい接続方法については、「ネットワークへ接続する」（🕮402）をご覧ください。

■■ カメラのWi-Fi通信機能を使用して接続する

セットアップメニュー［**PCと接続**］を使用すると、カメラとパソコンをWi-Fiで接続できます。アクセスポイントにカメラを接続してネットワーク上のパソコンに画像を送信したり、カメラとパソコンを直接Wi-Fiで接続できます。



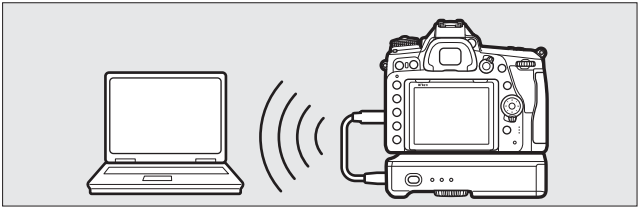
アクセスポイントを経由した
ネットワーク接続



パソコンと無線接続

■■ WT-7を使用して接続する

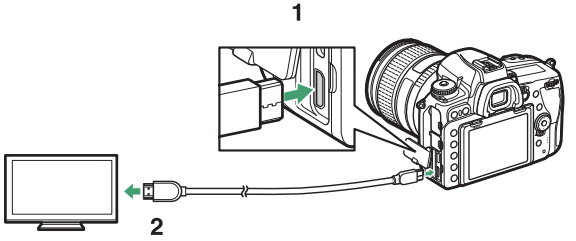
カメラに別売のワイヤレストランスミッター WT-7を接続すると、セットアップメニュー［**ワイヤレストランスミッター（WT-7）**］が使用できるようになります。別売のCamera Control Pro 2でカメラをコントロールしたり、撮影した画像をパソコンに保存することも可能です。



- WT-7を使用すると、パソコンまたはFTPサーバーに接続できます。
- 有線LANで接続することもできます。
- カメラのWi-Fi通信機能よりも安定した接続が可能です。

HDMI対応機器と接続する

カメラをHDMI端子のあるテレビや外部レコーダーなどと接続することができます。接続には、別売のHDMI端子用ケーブルまたは市販のHDMI端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。



1 HDMI端子（カメラ側）　2 HDMI端子※（外部機器側）

※使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

テレビと接続する

- テレビの入力をHDMI入力に切り換え、カメラの電源をONにして▶ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。
- カメラとSnapBridgeアプリをインストールしたスマートフォンをペアリングしておくと、テレビの画面に表示した画像の再生操作をスマートフォンで行うことができます。詳しくは、SnapBridgeアプリのヘルプをご覧ください。

外部レコーダーと接続する



HDMIに対応した外部レコーダーに接続すると、直接HDMI機器で録画することもできます。セットアップメニュー［**HDMI**］で、HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます。一部の外部レコーダーと接続した場合、カメラ側の操作に連動して外部レコーダーの録画の開始および終了を行うこともできます。

■■ 出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。［**オート**］を選んだ場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。

■■ 詳細設定

HDMI対応機器接続時の詳細設定を行えます。

項目	内容
［**出力レンジ**］	ビデオ信号の色階調の入力範囲（RGBレンジ）は、HDMI対応機器によって異なります。通常は、HDMI対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える［**オート**］をお使いください。HDMI対応機器のRGBレンジを識別できない場合は、次のいずれかを選んでください。 • ［**リミテッドレンジ**］：RGBレンジが16～235の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。 • ［**フルレンジ**］：RGBレンジが0～255の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。

項目	内容
[**外部記録制御**]	[**する**] に設定すると、Atomos Open Protocolに対応した市販の外部レコーダーとカメラをHDMIケーブルで接続したときに、カメラ側の操作に連動して外部レコーダーの動画記録の開始と終了を行えます。 • Atomos社製Monitor Recorder（SHOGUN、NINJA、SUMOシリーズ）に対応しています。機能や動作の詳細などについては、外部レコーダーの使用説明書をご覧になるか、Atomos社にお問い合わせください。 • カスタムメニュー c2 [**半押しタイマー**] で設定した時間が経過すると、画像モニターが自動的に消灯して外部レコーダーにも映像が送られなくなります。[**半押しタイマー**] の設定は、動画を撮影する時間よりも長い時間を設定するか、[**制限なし**] にすることをおすすめします。 • [**する**] に設定すると、カメラの画像モニターにアイコン（動画記録待機中：**⊖STBY**、動画記録中：**⊖REC**）が表示されます。動画を記録するときは、外部レコーダーの表示や、外部レコーダーで動画が記録されていることをご確認ください。 • [**する**] に設定すると、テレビなどに外部出力している場合に画像が乱れることがあります。
[**出力ビット数**]	HDMIの出力ビット数を設定できます。

項目	内容
［**N-Log/HDR出力設定**］	ハイライト側およびシャドー側の階調とびを抑えた色飽和の少ない動画を撮影できます。［**N-Log**］は、カラーグレーディングすることを前提とした映像素材に最適です。［**HDR（HLG）**］は、HDR放送などで使われているHLG方式で撮影するときに設定します。 • 動画は外部レコーダーにのみ記録されます。SDカードには記録されません。 • **EFCT**以外の撮影モードで、［**出力ビット数**］の設定を［**10ビット**］にした場合のみ選べます。 • 動画撮影メニュー［**ISO感度設定**］にある［**制御上限感度**］はISO 1600～51200、［**Mモード時のISO感度**］はISO 800～51200に制限されます。
［**ビューアシスト**］	［**する**］に設定すると、［**N-Log/HDR出力設定**］を［**N-Log**］または［**HDR（HLG）**］にして記録している動画に簡易的な階調補正を適用してカメラの画像モニターに表示します。実際に記録している動画には影響ありません。

HDMI出力できない場合

次の場合、撮影時のHDMI出力ができません。

- 動画の画像サイズを1920×1080 120p、1920×1080 100pまたは1920×1080スローに設定して撮影している場合
- Camera Control Pro 2と接続している場合

[出力ビット数]で[10ビット]を選んだ場合

- 接続している外部レコーダーが10ビットに対応している場合のみ、10ビットでの伝送が可能です。
- 動画の画像サイズを3840×2160に設定している場合、次の制限があります。
  - カメラ内のSDカードには動画は記録されません。
  - 画像モニターの文字やアイコンが粗く表示されます。
  - 画角が約90%になります。
- シャッターボタンを全押ししても、静止画は撮影できません。

HDR（HLG）出力について

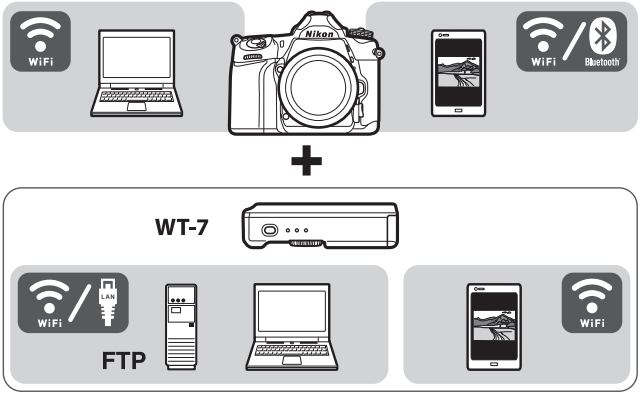
適切な色再現を行うには、記録機器、パソコンのOSやアプリケーション、モニターなど、HDR（HLG）に対応した環境が必要です。接続機器からHDR（HLG）に対応しているという信号を受信したときは、ガンマ：HLGという識別信号を送ります。

ネットワークへ接続する

カメラのネットワークシステム図

この章では、主にカメラの内蔵無線LAN（Wi-Fi）機能を使用してネットワークに無線接続する方法と、ネットワークに接続後の操作方法を説明しています。このカメラおよび別売アクセサリーを使用して、接続できるネットワークは次の通りです。

- 別売のワイヤレストランスミッター WT-7を使用したネットワーク接続の詳しい方法については、WT-7の使用説明書をご覧ください。



スマートフォンと接続する

SnapBridgeアプリについて

SnapBridgeアプリを使用すると、カメラとスマートフォンを無線で接続できます。

- SnapBridgeアプリはApple App Store®またはGoogle Play™でダウンロードできます。





- SnapBridgeアプリの最新情報については当社ホームページでご確認ください。

SnapBridgeアプリを使ってできること

SnapBridgeアプリを使用すると、次のようなことが行えます。詳しい使い方などは、アプリのヘルプをご覧ください。
https://nikonimglib.com/snbr/onlinehelp/ja/index.html

■■ スマートフォンに画像を転送する

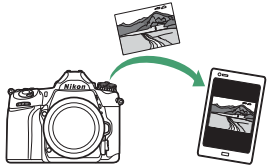
カメラで撮影した画像を、スマートフォンに転送できます。カメラで撮影するたびに自動で送信することもできます。

■■ スマートフォンからカメラを操作する（リモート撮影）

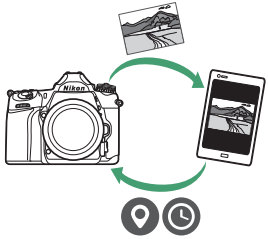
スマートフォンからカメラをリモート操作して撮影できます。

スマートフォンと無線接続するには

カメラとスマートフォンを無線接続するには、SnapBridgeアプリを使用します。接続方法には、Wi-Fiで接続する方法（🕮406）と、Bluetoothで接続する方法（🕮415）があります。SnapBridgeアプリを使用してカメラとスマートフォンを無線接続すると、スマートフォンの日時や、スマートフォンで取得した位置情報をカメラに同期できます。Bluetoothで無線接続した場合、撮影した画像を自動で転送することもできます。



Wi-Fiで接続



Bluetoothで接続

Wi-Fiモード（Wi-Fiで接続）

Wi-Fi接続する前に

- あらかじめスマートフォンのWi-Fi機能をONにしてください。詳しくはスマートフォンの使用説明書を参照してください。
- 途中で電源が切れないよう、スマートフォンとカメラのどちらも充分にバッテリー残量がある状態でご使用ください。
- カメラに残量のあるSDカードを入れてください。

1 スマートフォン：**SnapBridge**アプリを起動する

SnapBridgeアプリをダウンロード後、初めて起動する場合は、［**Skip**］をタップしてください。すでにSnapBridge を起動したことがある場合は、手順2に進んでください。



2 タブの ボタンをタップして［Wi-Fi mode］を選ぶ



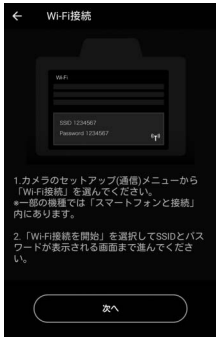


3 スマートフォン：表示されたダイアログで［Wi-Fi接続］をタップする

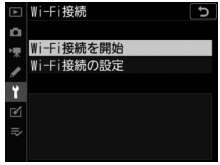


4 **カメラ/スマートフォン：スマートフォンにカメラ操作の説明画面が表示されたら、カメラの電源を[ON]にする**

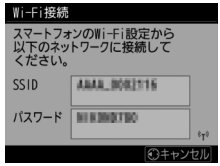
まだ［**次へ**］をタップしないでください。



5 **カメラ：セットアップメニュー［スマートフォンと接続］にある［Wi-Fi接続］で［Wi-Fi接続を開始］を選んでⓄⓀボタンを押す**

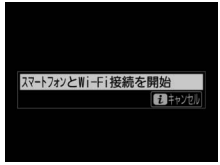


SSIDとパスワードが表示されます。

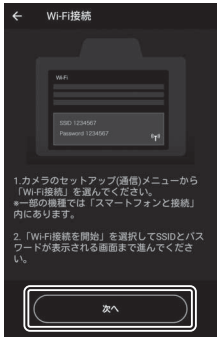


Wi-Fi接続について

撮影時のiメニューで［**Wi-Fi通信機能**］の［**スマートフォンとWi-Fi接続を開始**］を選んでもWi-Fi接続を開始できます。



6 スマートフォン：スマートフォンの操作に戻り、［次へ］をタップする



7 スマートフォン：スマートフォン操作の説明画面が表示されたら、内容をよくお読みの上、［OSの「設定」を開く］をタップする

• Androidの場合、スマートフォンのWi-Fi接続画面が表示されます。



• iOSの場合、設定アプリが表示されます。［**< 設定**］をタップして［**設定**］画面へ移動し、画面上部の［**Wi-Fi**］をタップします。



8 スマートフォン：手順5でカメラに表示されているSSIDを選び、パスワードを入力する

- 画面はお使いのスマートフォンの機種やOSによって異なります。
  - **Androidの例**：



- **iOSの例：**



- 2回目以降の接続時は、パスワードの入力は不要です。

9 スマートフォン：手動で SnapBridgeアプリに戻る

- カメラとのWi-Fi接続が完了すると、Wi-Fiモード画面が表示されます。
- 接続後の操作方法などはSnapBridgeアプリのヘルプをご覧ください。



Wi-Fiモードの解除方法

ボタンをタップしてWi-Fi接続を解除してください。表示が に切り替わったら、 ボタンをタップして［**Wi-Fi modeの解除**］をタップします。



Bluetooth接続

カメラとスマートフォンを初めてBluetoothで接続する場合、ペアリングを行う必要があります。ペアリングの手順はAndroidとiOSで多少異なります。

ペアリングの前に

- あらかじめスマートフォンのBluetooth機能をONにしてください。詳しくはスマートフォンの使用説明書を参照してください。
- 途中で電源が切れないよう、スマートフォンとカメラのどちらも充分にバッテリー残量がある状態でご使用ください。
- カメラに残量のあるSDカードを入れてください。

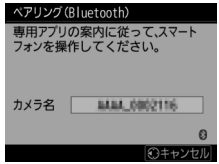
■■ Androidで初めて接続する場合（ペアリング）

iOSでの接続方法は「iOSで初めて接続する場合（ペアリング）」（🕮422）をご覧ください。

1 カメラ：セットアップメニュー［スマートフォンと接続］にある［ペアリング（**Bluetooth**）］で［ペアリング開始］を選んでⓄⓀボタンを押す



画像モニターにカメラ名が表示されます。



2 スマートフォン：**SnapBridge**アプリを起動する

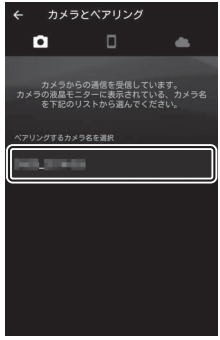
- SnapBridgeアプリをダウンロード後、初めて起動する場合は［**カメラと接続する**］をタップします。



• SnapBridgeアプリを起動したことがある場合は、タブの［**カメラと接続する**］をタップします。



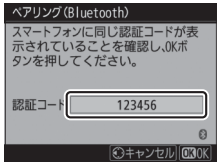
3 スマートフォン：カメラ名をタップする



4 カメラ/スマートフォン：スマートフォンとカメラに同じ番号が表示されていることを確認する

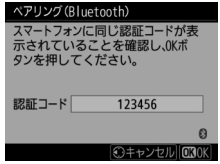
図の枠内の番号を確認してください。





5 カメラ/スマートフォン：カメラとスマートフォンを操作してペアリングする

- **カメラ**：Ⓚボタンを押します。



- **スマートフォン**：画面の枠内の箇所をタップしてください。スマートフォンの機種やOSのバージョンにより、［**ペア設定する**］の文言は異なる場合があります。



☑ ペアリング中にエラーが表示されたときは

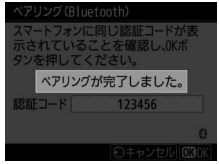
カメラまたはスマートフォンのボタンを押してから、もう片方のボタンを押すまでに時間が開きすぎるとペアリングできずにエラーが表示されます。

カメラ：Ⓚボタンを押して手順1に戻ります。

スマートフォン：表示されたダイアログで［**OK**］をタップして手順2に戻ります。

6 カメラ/スマートフォン：画面の指示に従ってペアリングを完了する

- **カメラ**：Ⓚボタンを押します。ペアリングに成功すると、図の画面が表示されます。



- **スマートフォン**：ペアリングが完了します。［**OK**］をタップすると●タブが表示されます。





SnapBridgeアプリのインストール後、初めてペアリングした場合

- ペアリング完了後、自動連携機能（カメラで撮影した画像の自動転送、日時情報の同期、位置情報の同期）の設定画面が表示されます。
- 2回目以降のペアリング時は表示されません。●タブの［**自動連携**］から設定してください。

Bluetooth機能をオフにするには

カメラのセットアップメニュー［**スマートフォンと接続**］>［**ペアリング（Bluetooth）**］>［**Bluetooth通信機能**］で［**無効**］を選ぶと、Bluetooth機能をオフにできます。

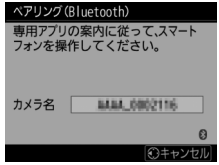
■■ iOSで初めて接続する場合（ペアリング）

Androidでの接続方法は「Androidで初めて接続する場合（ペアリング）」（🕮416）をご覧ください。

1 カメラ：セットアップメニュー［スマートフォンと接続］にある［ペアリング（**Bluetooth**）］で［ペアリング開始］を選んで⊛ボタンを押す



画像モニターにカメラ名が表示されます。



2 スマートフォン：**SnapBridge**アプリを起動する

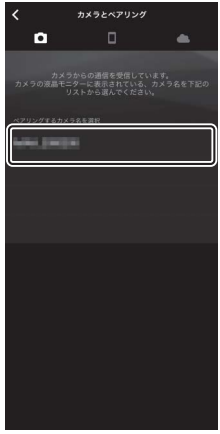
- SnapBridgeアプリをダウンロード後、初めて起動する場合は［**カメラと接続する**］をタップします。



• SnapBridgeアプリを起動したことがある場合は、タブの［**カメラと接続する**］をタップします。



3 スマートフォン：カメラ名をタップする



4 **スマートフォン：ペアリング方法を確認する**

ペアリング方法の説明画面が表示されます。内容をよくお読みになり、［**確認しました**］をタップします。



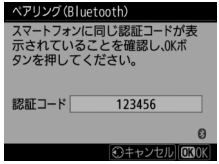
5 **スマートフォン：再度カメラ名をタップする**

カメラ名が表示されたダイアログが表示されます。カメラ名を再度タップしてください。



6 カメラ/スマートフォン：カメラとスマートフォンを操作してペアリングする

- **カメラ**：Ⓚボタンを押します。



- **スマートフォン**：画面の枠内の箇所をタップしてください。OSのバージョンにより、［**ペアリング**］の文言は異なる場合があります。



ペアリング中にエラーが表示されたときは

カメラまたはスマートフォンのボタンを押してから、もう片方のボタンを押すまでに時間が開きすぎるとペアリングできずにエラーが表示されます。

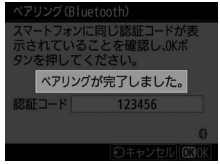
カメラ：Ⓚボタンを押して手順1に戻ります。

スマートフォン：SnapBridgeを完全に終了（バックグラウンドからも終了）してiOS上でデバイスの登録を解除し、手順2からやり直してください。デバイスの登録解除は、iOSの設定アプリで行います。



7 カメラ/スマートフォン：画面の指示に従ってペアリングを完了する

- **カメラ**：Ⓚボタンを押します。ペアリングに成功すると、図の画面が表示されます。



- **スマートフォン**：ペアリングが完了します。［**OK**］をタップすると●タブが表示されます。





SnapBridgeアプリのインストール後、初めてペアリングした場合

- ペアリング完了後、自動連携機能（カメラで撮影した画像の自動転送、日時情報の同期、位置情報の同期）の設定画面が表示されます。
- 2回目以降のペアリング時は表示されません。タブの［**自動連携**］から設定してください。

Bluetooth機能をオフにするには

カメラのセットアップメニュー［**スマートフォンと接続**］>［**ペアリング（Bluetooth）**］>［**Bluetooth通信機能**］で［**無効**］を選ぶと、Bluetooth機能をオフにできます。

■2回目以降に接続する場合

一度カメラとスマートフォンをペアリングしておくと、次の手順で簡単にBluetooth接続ができるようになります。

1 カメラ：セットアップメニュー［スマートフォンと接続］→［ペアリング（Bluetooth）］→［Bluetooth通信機能］→［有効］を選んでⓀボタンを押す



2 スマートフォン：SnapBridgeアプリを起動する

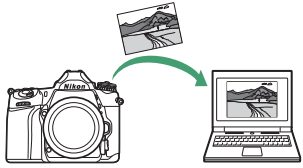
自動的にカメラとBluetoothで接続されます。



パソコンとWi-Fi接続する

Wi-Fi接続してできること

カメラの内蔵Wi-Fi機能を使用してパソコンと無線接続すると、選んだ画像をパソコンに転送できます。



Wireless Transmitter Utilityについて

カメラとパソコンをWi-Fi接続して画像を転送するには、パソコン用のニコンソフトウェアWireless Transmitter Utility（ワイヤレストランスミッターユーティリティー）を使用してペアリングする必要があります。

- ペアリングを行うと、パソコンがカメラの接続先として設定されます。
- Wireless Transmitter Utilityはニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアの最新情報や動作環境を確認し、必ず最新版をインストールしてください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/

カメラとパソコンの接続方法について

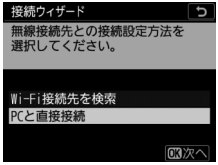
カメラとパソコンを無線接続するには、次の2通りの方法があります。

■■ パソコンと直接接続（アクセスポイントモード）



カメラとパソコンを直接無線接続します。カメラをアクセスポイントとして使用するため、野外など無線LAN環境がない場合でも無線接続ができ、複雑な設定も不要です。カメラと無線接続中は、パソコンはインターネットを使用できません。

- 接続設定を新規作成する場合に、接続ウィザードで［**PCと直接接続**］を選びます。

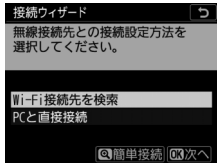


■■ 既存のネットワークに接続（インフラストラクチャーモード）



ご自宅などにすでに構築されているネットワークに、無線LANアクセスポイントを経由してパソコンと接続します。カメラと無線接続中でも、パソコンはインターネットを使用できます。

- 接続設定を新規作成する場合に、接続ウィザードで［**Wi-Fi接続先を検索**］を選びます。

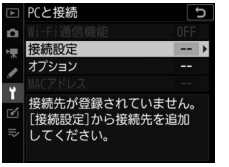


☑ インフラストラクチャーモードで接続する場合

- 本書はすでに無線LAN環境が設定されているお客様を対象としています。
- ルーターを越えて別のネットワークに接続することはできません。同じネットワーク内のパソコンとのみ接続できます。

アクセスポイントモードの接続設定

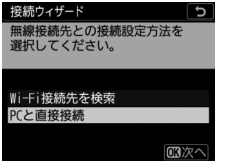
1 カメラのセットアップメニュー［PCと接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの㉂を押す



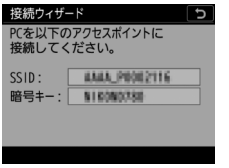
2 ［新規追加］を選び、㊀ボタンを押す



3 ［PCと直接接続］を選び、㊀ボタンを押す

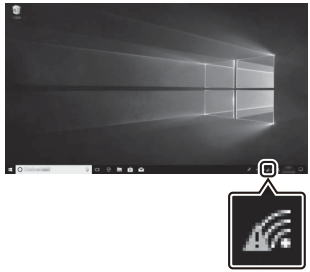


カメラのSSIDと暗号キーが表示されます。



4 パソコンをカメラに接続する

Windowsの場合：



- 画面の右下にある無線LANのアイコンをクリックしてください。
- 手順3でカメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、手順3で表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。

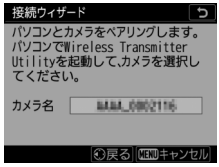
macOSの場合：



- 画面の右上にある無線LANのアイコンをクリックしてください。
- 手順3でカメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、手順3で表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。

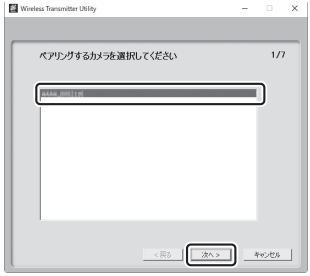
5 パソコンとのペアリングを開始する

カメラに図のような画面が表示されたら、パソコンでWireless Transmitter Utilityを起動してください。

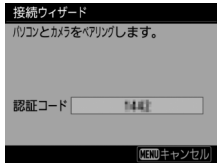


6 Wireless Transmitter Utilityでカメラ名を選ぶ

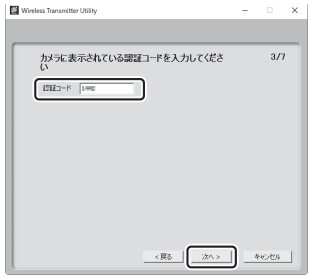
手順5でカメラに表示されているカメラ名を選択し、［**次へ**］をクリックします。



7 カメラに表示される認証コードを **Wireless Transmitter Utility**に入力する

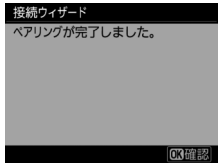


- カメラに認証コードが表示されます。
- Wireless Transmitter Utility に認証コードを入力し、［**次へ**］をクリックします。

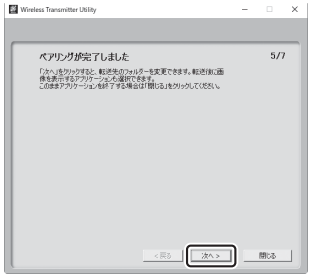


8 ペアリングを完了する

- カメラに図のような画面が表示されたらOKボタンを押してください。



- Wireless Transmitter Utilityは［**次へ**］をクリックすると画像を転送するフォルダーを設定する画面になります。詳しくはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。

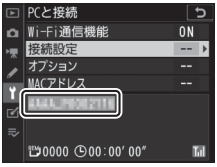


- ペアリング完了後に、カメラとパソコンの無線通信が開始されます。

9 カメラとパソコンの接続を確認する

カメラとパソコンが接続されると、［**PCと接続**］画面に接続中のSSIDが緑色で点灯します。

- カメラのSSIDが緑色で点灯していない場合は、パソコンの無線接続設定でカメラと接続し直してください。

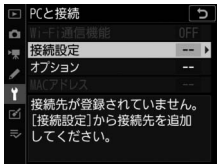


カメラとパソコンの無線接続が完了しました。

カメラで撮影した画像をパソコンに転送するには、「パソコンに画像を送信する」（🕮447）をご覧ください。

インフラストラクチャーモードの接続設定

1 カメラのセットアップメニュー［PCと接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの▶を押す

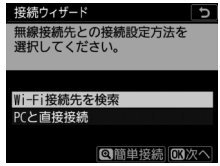


2 ［新規追加］を選び、Ⓚボタンを押す



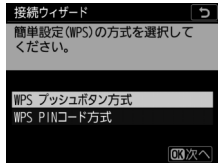
3 [Wi-Fi接続先を検索] を選び、Ⓚボタンを押す

カメラの周辺にある無線LANアクセスポイントを検索して、検出した接続先のSSIDを表示します。



☑ [簡単接続] で接続する

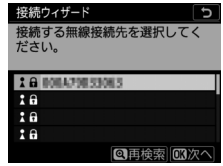
- 手順3で🔍（**QUAL**）ボタンを押すと、SSIDや暗号キーを入力せずに無線LANアクセスポイントに接続できます。Ⓚボタンを押して接続方法を選んでください。



接続方法	内容
[**WPSプッシュボタン方式**]	無線LANアクセスポイントにWPSプッシュボタンがある場合に使用できます。WPSプッシュボタンを押した後にカメラのⓀボタンを押すと、無線LANアクセスポイントに接続できます。
[**WPS PINコード方式**]	カメラにPINコードが表示されます。パソコンを使用して無線LANアクセスポイントにPINコードを入力します。無線LANアクセスポイントにPINコードを入力する方法については、お使いの無線LANアクセスポイントの使用説明書をご覧ください。

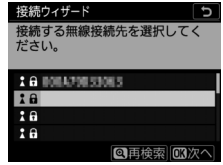
- 接続が完了したら、手順6に進んでください。

4 接続先のSSIDを選ぶ



- 接続先のSSIDを選んでⓀボタンを押します。
- 暗号ありのSSIDには🔒が表示されます。暗号あり🔒のSSIDを選んだ場合は、暗号キーの設定画面が表示されます。暗号なしの接続先を選んだ場合は手順6へお進みください。
- 🔍（**QUAL**）ボタンを押すと無線接続先を再検索します。

☑ SSIDが非公開に設定されている場合

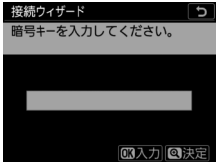


無線LANアクセスポイントがSSIDを非公開に設定している場合、検出されたSSID一覧にSSID名が表示されません。

- 非公開のSSIDに接続したい場合、空欄になっている項目を選択してⓀボタンを押してください。続いてⓀボタンを押すと、SSID入力画面になります。
- 接続したいSSID名を入力し、🔍（**QUAL**）ボタンを押してください。もう一度🔍（**QUAL**）ボタンを押すと、暗号キーの設定画面が表示されます。

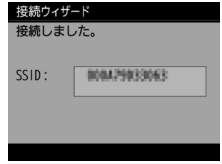
5 暗号キーを入力する

- ⓚボタンを押して、無線LANアクセスポイントで使用している暗号キーを入力します。

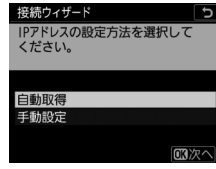




- 無線LANアクセスポイントの暗号キーについては、無線LANアクセスポイントの使用説明書などをご覧ください。
- ⊕（**QUAL**）ボタンを押して、暗号キーの入力を完了します。
- もう一度⊕（**QUAL**）を押すと、接続を開始します。接続に成功すると、図のような画面が数秒間表示されます。



6 IPアドレスの設定方法を選んで設定する



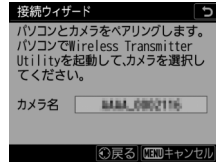
- IPアドレスの設定方法を選んでⓄⓀボタンを押します。

設定方法	内容
[**自動取得**]	カメラが自動でIPアドレスを取得します。IPアドレスを取得するとIPアドレス設定完了画面が表示されます。
[**手動設定**]	IPアドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • ⓄⓀボタンを押すと、IPアドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶を押して数値を変更し、ⓄⓀボタンを押します。 • 🔍（**QUAL**）ボタンを押すと、IPアドレス設定完了画面が表示されます。再度🔍（**QUAL**）ボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは▲▼を押して数値を変更し、ⓄⓀボタンを押して決定すると、IPアドレス設定完了画面が表示されます。

- IPアドレス設定完了画面が表示されたらⓄⓀボタンを押します。

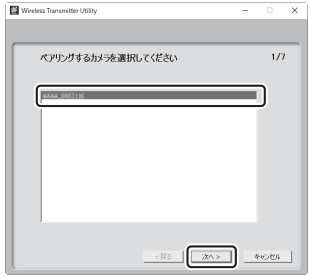
7 パソコンとのペアリングを開始する

カメラに図のような画面が表示されたら、パソコンでWireless Transmitter Utilityを起動してください。



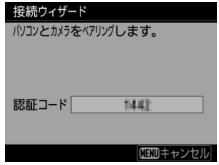
8 Wireless Transmitter Utilityでカメラ名を選ぶ

手順7でカメラに表示されているカメラ名を選択し、［**次へ**］をクリックします。

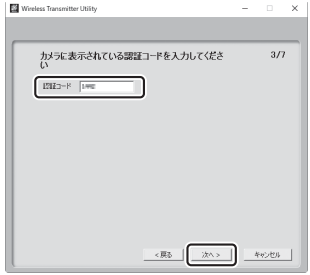


9 カメラに表示される認証コードをWireless Transmitter Utilityに入力する

- カメラに認証コードが表示されます。

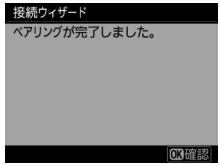


- Wireless Transmitter Utilityに認証コードを入力し、［**次へ**］をクリックします。

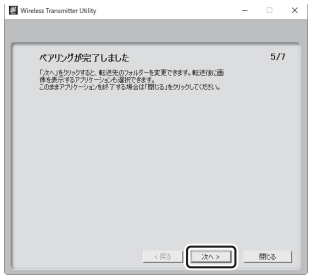


10 ペアリングを完了する

- カメラに図のような画面が表示されたらOKボタンを押してください。

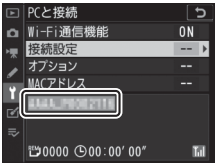


- Wireless Transmitter Utilityは［**次へ**］をクリックすると画像を転送するフォルダーを設定する画面になります。詳しくはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。



- ペアリング完了後に、カメラとパソコンの接続が開始されます。

11 カメラとパソコンの接続を確認する



カメラとパソコンが接続されると、［**PCと接続**］画面に接続中のSSIDが緑色で点灯します。

- カメラのSSIDが緑色で点灯していない場合は、パソコンの無線接続設定でカメラと接続し直してください。

カメラとパソコンの無線接続が完了しました。

カメラで撮影した画像をパソコンに転送するには、「パソコンに画像を送信する」（🕮447）をご覧ください。

パソコンに画像を送信する

再生画面で選んだ画像をパソコンに送信できます。カメラで撮影するたびに自動で送信することもできます。

保存先のフォルダーについて

送信された画像は、次のフォルダーに転送されます。

- Windows：\Users\"ユーザー名"\Pictures\Wireless Transmitter Utility
- macOS：/Users/"ユーザー名"/Pictures/Wireless Transmitter Utility

Wireless Transmitter Utilityを使うと、転送先のフォルダーを変更できます。詳しくはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。

アクセスポイントモードで接続時のご注意

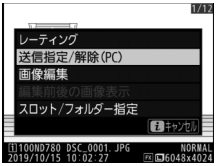
アクセスポイントモードでカメラとパソコンを接続している場合、パソコンはインターネットを使用できません。パソコンでインターネットを使用する場合は、カメラとの接続を解除し、インターネットに接続し直してください。

■■ 画像を選んで送信する

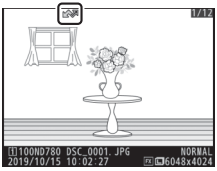
1 カメラの▶ボタンを押して1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードにする

2 送信したい画像を選んで*i*ボタンを押す

3 [送信指定/解除（PC）] を選んで ⓚ ボタンを押す



- 送信設定マーク（白色）が付加されます。ネットワークに接続済みの場合、すぐに送信が始まります（送信マークが緑色に変わります）。
- 送信指定した画像がある状態でネットワークに接続すると、自動的に送信が開始されます。

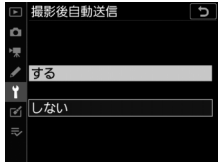


- 複数の画像を送信する場合は、手順2～3を繰り返してください。

送信指定を解除するには

- 解除したい画像を選んで、手順2と3を行います。
- セットアップメニュー［**PCと接続**］にある［**オプション**］の［**全送信マーク解除**］で一括削除できます。

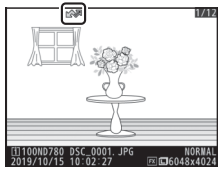
■■ 撮影した画像を自動で送信する



セットアップメニュー［**PCと接続**］にある［**オプション**］の［**撮影後自動送信**］を［**する**］に設定すると、静止画を撮影するたびにパソコンに転送します。

- 画像はSDカードに記録されてから自動的に送信設定が行われます。撮影する場合は必ずカメラにSDカードを挿入してください。
- 動画撮影時に撮影した静止画、および動画は自動送信されません。これらのファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください。

■■ マーク表示について



送信する画像には次のようなマークが表示されます。

（白）：送信予定の画像（送信設定マーク）

送信予定の画像の送信設定マークは白色で表示されます。

（緑）：送信中の画像（送信中マーク）

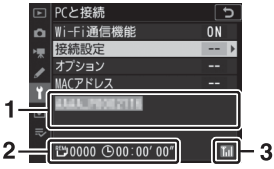
画像の送信中は送信設定マークが緑色で表示されます。

（青）：送信済みの画像（送信済みマーク）

画像が正常に送信された場合、送信設定マークが青色に変わります。

■■ 画像送信時の設定画面

［**PCと接続**］画面では、次の状態が確認できます。



1 接続状態
2 残り
3 電波状態

- **接続状態**：接続状態を表します。接続されたときは接続先名が緑色で表示されます。
  データを送信中の場合、接続先名の下に「(送信中のファイル名)」＋「送信中」と表示されます。エラーが発生した場合には、エラーの内容が表示されます。
- **残り**：送信予定のコマ数と、残りの送信予定時間を表示します。表示される時間は目安です。
- **電波状態**：電波の状態がアイコンで表示されます。

☑ 電波状態による送信の中断について

無線LAN接続時、電波状態によっては送信が一時中断されることがあります。この場合、電波状態が回復した後、カメラの電源をいったんOFFにして再度ONにすると、送信設定マークが表示された画像の送信を再開します。

ネットワーク接続を解除/再接続する

■■ ネットワーク接続を解除する

パソコンとのネットワーク接続を解除するには、次の方法があります。

- カメラの電源をOFFにする
- セットアップメニュー［**PCと接続**］の［**Wi-Fi通信機能**］で［**無効**］を選ぶ
- 撮影時のiメニューで［**Wi-Fi通信機能**］の［**Wi-Fi接続を停止**］を選ぶ
- スマートフォンとWi-Fi接続またはBluetooth接続を開始する

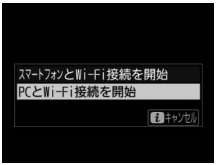
アクセスポイントモードで接続している場合

パソコンの無線接続を先に解除すると通信エラーになります。カメラのWi-Fi通信機能を先にオフにしてください。

■■ ネットワークに再度接続する

接続設定を行ったカメラをネットワークに再度接続するには、次の方法があります。

- セットアップメニュー［**PCと接続**］の［**Wi-Fi通信機能**］で［**有効**］を選ぶ
- 撮影時の**i**メニューで［**Wi-Fi通信機能**］の［**PCとWi-Fi接続を開始**］を選ぶ



☑ アクセスポイントモードで接続する場合

カメラのWi-Fi通信機能をオンにした後に、パソコンを無線接続してください。

☑ 複数の接続設定がある場合

カメラのWi-Fi通信機能をオンにすると、最後に接続していたネットワークに接続されます。接続設定を切り換えたい場合はセットアップメニュー［**PCと接続**］の［**接続設定**］で接続設定を選んでください。

WT-7を装着してネットワーク接続する

WT-7について

別売のワイヤレストランスミッター WT-7をカメラに装着すると、カメラをパソコンまたはFTPサーバーなどに有線LANまたは無線LANで接続できます。

WT-7を使用する前に

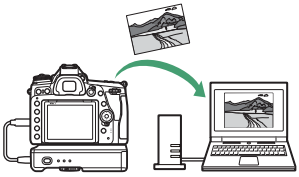
- カメラとWT-7のファームウェアバージョンが最新になっているかを確認してください。ファームウェアバージョンが古い場合はバージョンアップを行ってください。
- バージョンアップの方法については、当社ホームページをご覧ください。
  https://www.nikon-image.com/support/

WT-7を使ってできること

WT-7を使用すると、次のようなことが行えます。

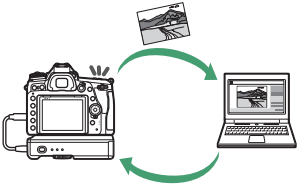
■■ FTPサーバーやパソコンに画像を送信する

画像をパソコンだけでなく、FTPサーバーにも送信できます。カメラで撮影するたびに自動で送信することもできます。



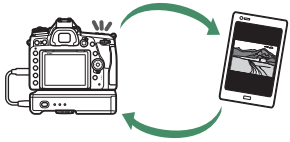
■■ パソコンからカメラを操作する

ネットワーク接続しているパソコンに、別売ソフトウェアのCamera Control Pro 2をインストールしていると、露出などの細かい設定をしながらカメラのリモート操作ができます（カメラコントロールモード）。



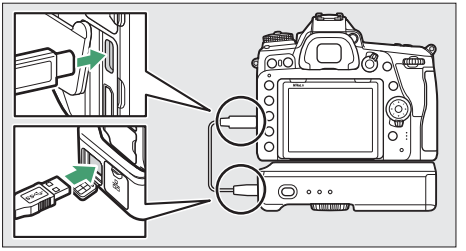
■■ Webブラウザーでカメラを操作する

ネットワーク接続しているスマートフォンやパソコンにインストールされているWebブラウザーを使用して、カメラをリモート操作できます（HTTPサーバーモード）。専用のアプリなどを使用せず、手軽にリモート操作を行えます。

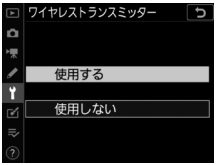


WT-7を使ってネットワーク接続するには

カメラに付属のUSBケーブルを使用して、WT-7をカメラに装着してください。



WT-7の電源をONにしたら、カメラのセットアップメニュー［**ワイヤレストランスミッター（WT-7）**］の［**ワイヤレストランスミッター**］で［**使用する**］を選びます。



ヒント：WT-7に関するメニューについて

WT-7を使用する場合に使用するメニューは、カメラのセットアップメニュー［**ワイヤレストランスミッター（WT-7）**］に全てまとめられています。各メニューの詳しい内容については、WT-7の使用説明書をご覧ください。

WT-7の詳しい使い方は、WT-7の使用説明書をご覧ください。

内蔵無線機能使用時のトラブルシューティング

次のような症状が発生した場合の対処法については、こちらをご覧ください。

- SnapBridgeアプリの動作や症状などについてはSnapBridgeアプリのオンラインヘルプをご覧ください。
  https://nikonimglib.com/snbr/onlinehelp/ja/index.html
- ワイヤレストランスミッター WT-7についてはWT-7の使用説明書をご覧ください。
- Wireless Transmitter UtilityおよびCamera Control Pro 2についてはそれぞれのヘルプをご覧ください。

こんなときは	対処方法
「TCP/IPエラーが発生しました」と表示される。	接続設定が正しくありません。無線LANアクセスポイントやパソコンの設定を確認し、カメラの設定をやり直してください（🕮696）。
「メモリーカードが入っていません」と表示される。	SDカードが入っていないか、正しくセットされていません。SDカードを正しくセットしてください（🕮27）。
途中で送信が中断して画像を送信できなかった。	カメラの電源をいったんOFFにして再度ONにすると送信設定マークが表示された画像の送信を再開します（🕮447）。
通信が不安定になる。	スマートフォンとの接続時に［**チャンネル**］の設定が［**オート**］になっている場合、［**マニュアル**］でチャンネルを設定してください（🕮695）。
	パソコンとの接続時にインフラストラクチャーモードで接続している場合、アクセスポイントのチャンネルの設定を、1～8chの間で設定してください（🕮696）。
［**スマートフォンと接続**］および［**PCと接続**］がグレーで表示されて選べない。	WT-7を使用している間は無効になります。WT-7の電源をOFFにしてください（🕮700）。

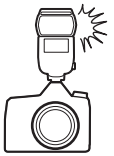
スピードライトをカメラに装着して撮影する

フラッシュ撮影の方法

このカメラで別売スピードライトを使用するには、次の方法があります。

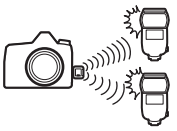
一灯撮影

カメラに装着した別売スピードライトを発光させて撮影します（🕮460）。



増灯撮影

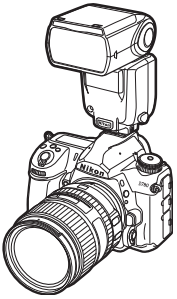
カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンストワイヤレスライティング（AWL））。詳しくは「複数のスピードライトをワイヤレスで制御する」（🕮477）をご覧ください。



別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影）

1 **カメラのアクセサリーシューにスピードライトを装着する**

スピードライトの装着方法については、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。



2 **カメラとスピードライトの電源をONにする**

スピードライトの充電が開始されて撮影ができる状態になると、ファインダー内表示に⚡（レディーライト）が点灯します。

3 **発光モード（🕮463）とフラッシュモード（🕮465）を設定する**

4 シャッタースピード、絞り値を設定する

5 撮影する

別売スピードライト使用時のシャッタースピード

別売のスピードライト使用時にカメラで設定できるシャッタースピードは次の通りです。

撮影モード	設定可能なシャッタースピード
AUTO、**P**、**A**、**EFCT**（、以外）	カメラが自動的に1/200～1/60秒にセット※
S	1/200～30秒
M	1/200～30秒、**Bulb**（バルブ）、**Time**（タイム）

※フラッシュモードをスローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモードに設定している場合は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

他社製フラッシュについてのご注意

カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるフラッシュや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうフラッシュを使用することはできません。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

☑ スピードライトの調光方式について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトをカメラに装着し、スピードライトの発光モードをTTLにセットすると、モニター発光を行う専用TTLモード（i-TTLモード）になり、i-TTL-BL調光などによるフラッシュ撮影ができます。ニコンクリエイティブライティングシステム非対応のスピードライトでは、i-TTLモードでの撮影はできません。i-TTLモード時は、次のような調光方式が利用できます。

調光方式	内容
i-TTL-BL調光	主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、シャッターの開く直前にスピードライトがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

- カメラの測光モードが［**スポット測光**］に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する



ユニファイドフラッシュコントロールに対応した別売スピードライトSB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合、スピードライトの発光モードや補正量などは、静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**発光モード**］で設定できます。選べる発光モードは装着したスピードライトによって異なります。選んだ項目によって［**発光モード**］の下に表示されるメニュー項目が変更されます。

- SB-5000、SB-500、SB-400、SB-300以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。
- SB-5000はスピードライト本体でも設定できます。

項目	内容
［**TTL調光**］	• スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。 • ［**TTL調光補正**］でスピードライトの調光補正値を設定します。SB-500、SB-400、またはSB-300を装着した場合は、（**ISO**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと設定できます。
［**外部自動調光**］	• スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。 • ［**外部自動調光補正**］でスピードライトの調光補正値を設定します。 • 「絞り連動外部自動調光」（A）と「外部自動調光」（A）があります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。

項目	内容
［**距離優先マニュアル発光**］	• スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。 • ［**距離優先マニュアル発光設定**］の［**距離**］で被写体までの距離を、［**調光補正**］でスピードライトの調光補正値を設定します。
［**マニュアル発光**］	• 指定した発光量でスピードライトが発光します。 • ［**マニュアル発光量**］でスピードライトの発光量を設定します。
［**リピーティング発光**］	• 1回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。 • ［**リピーティング発光設定**］の［**発光量**］でスピードライトの発光量を、［**回数**］で連続発光する回数を設定できます。［**周波数**］で発光周波数（1秒あたりの発光回数）をHz（ヘルツ）単位で設定できます。 • 最大連続発光回数は［**発光量**］と［**周波数**］の組み合わせにより異なります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。

☑ ユニファイドフラッシュコントロールについて

ユニファイドフラッシュコントロールは、フラッシュ発光に関する各種設定をスピードライトとカメラで共有できる機能です。カメラや別売のCamera Control Pro 2からスピードライトの設定を変更したり、スピードライトで変更した設定をカメラやCamera Control Pro 2に反映したりできます。カメラに装着するスピードライトは、ユニファイドフラッシュコントロールに対応している必要があります。

フラッシュモードを設定する

設定できるフラッシュモードは、撮影モードにより異なります。

項目		内容	撮影モード
ϟ	[**通常発光**] （先幕シンクロ）	通常のフラッシュ撮影の場合はこのモードに設定します。撮影モードを**P**または**A**にセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/200～1/60秒（オートFPハイスピードシンクロ時は1/8000～1/60秒）に自動的にセットします。	AUTO、**P**、**S**、**A**、**M**、**EFCT**（、以外）
ϟ◎	[**赤目軽減発光**] （赤目軽減）	人物撮影に適しています。撮影前にフラッシュが発光して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。 • 赤目軽減発光機能付きのスピードライトをご使用ください。 • シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。	AUTO、**P**、**S**、**A**、**M**、**EFCT**（、以外）

項目		内容	撮影モード
SLOW	［**通常発光+スローシャッター**］（スローシンクロ）	通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。	**P**、**A**
SLOW	［**赤目軽減+スローシャッター**］（赤目軽減スローシンクロ）	夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。	**P**、**A**

項目		内容	撮影モード
REAR	[**後幕発光**] (後幕シンクロ)	通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光しますが、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。 • 撮影モードを**P**または**A**に設定した場合、スローシンクロモードも自動的にセットされます。 • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。	**P**、**S**、**A**、**M**
	[**発光禁止**]	発光しません。	AUTO、**P**、**S**、**A**、**M**、**EFCT**

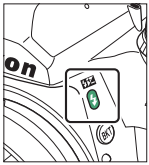
スタジオ用大型ストロボ使用時について

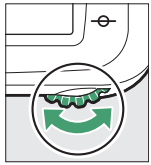
スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕発光は使用できません。

フラッシュモードの設定方法

（）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。

- 画像モニターにフラッシュモードが表示されます。







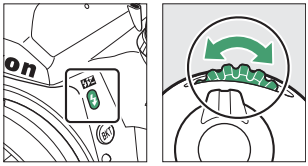
調光補正してフラッシュの発光量を変更する

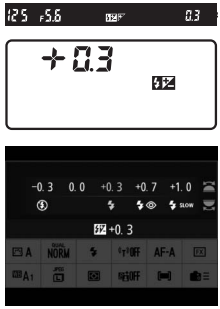
調光補正とはフラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

調光補正の設定方法

ϟ（ϟ±）ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回します。

- 画像モニター、表示パネル、およびファインダー内表示に、調光補正値が表示されます。





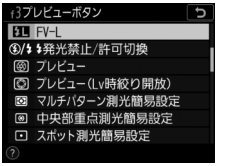
- 調光補正は、－3段～＋1段の範囲で設定できます。
- 補正ステップは、初期設定では1/3段ステップです。ステップ幅は、カスタムメニューb1［**露出設定ステップ幅**］で変更できます。
- 被写体をより明るく照らしたいときは＋側に、被写体に光が強く当たりすぎないようにしたいときは－側に補正してください。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFF にしても、補正量の設定は解除されません。

FVロックして調光量を固定する

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時は、調光量を固定（FVロック）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。
- 撮影モードが🅰およびEFCTの場合、FVロックはできません。

1 カスタムメニュー f3［カスタムボタンの機能］で任意のボタンに［FV-L］を割り当てる



2 FVロック対応スピードライトをカメラのアクセサリーシューに装着する

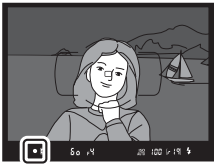
3 スピードライトの電源をONにし、発光モードをTTLまたは「モニター発光あり」の㊎AまたはAのいずれかにセットする

- SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合、静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**発光モード**］を［**TTL調光**］または［**外部自動調光**］に設定します。
- SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300以外のスピードライトをカメラに装着した場合の発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

4 被写体にピントを合わせる

発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



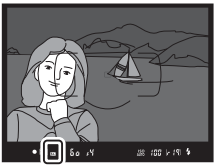


5 モニター発光を行う

- ファインダー内表示にϟが点灯していることを確認し、［**FV-L**］を割り当てたボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示にFVロックマーク（**FL**）が表示されます。



6 構図を変更する



7 シャッターボタンを全押しして撮影する

FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。必要に応じて手順6～7を繰り返してください。

8 FVロックを解除する

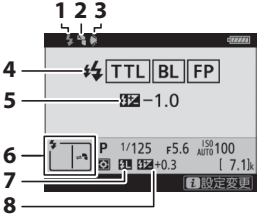
もう一度［**FV-L**］を割り当てたボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示のFVロックマーク（**FL**）が消灯します。

カメラに装着したスピードライトの設定を確認する

カメラのアクセサリーシューに、ユニファイドフラッシュコントロールに対応した別売スピードライトSB-5000、SB-500、SB-400、SB-300を取り付けた場合、スピードライトの設定内容をカメラのフラッシュインフォ画面で確認できます。フラッシュインフォ画面は、ファインダー撮影時にinfoボタンを押してインフォ画面（🕮68）を表示し、再度infoボタンを押すと表示されます。

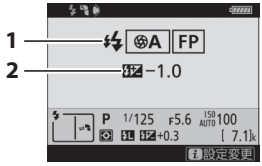
各発光モードの表示について

■■ TTL調光



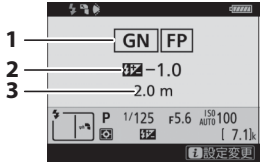
1	レディーライト（🕮460）
2	バウンスマーク（スピードライトのフラッシュヘッドを上または左右方向に設定している場合に表示されます）
3	照射角不適合マーク（照射角の設定が適切ではない場合に表示されます）
4	発光モード（🕮463） FP発光表示（🕮618）
5	TTL調光補正量（🕮469）
6	フラッシュモード（🕮465）
7	FVロックマーク（🕮471）
8	フラッシュ調光補正量（🕮469）

■■ 外部自動調光



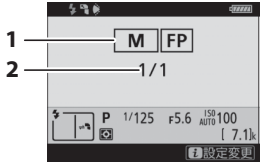
1 発光モード（🕮463）
FP発光表示（🕮618）
2 外部自動調光補正量（🕮469）

■■ 距離優先マニュアル発光



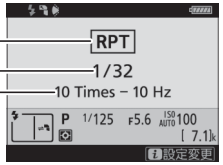
1 発光モード（🕮463）
FP発光表示（🕮618）
2 距離優先マニュアル発光調光補正量（🕮469）
3 距離（🕮463）

■■ マニュアル発光



1 発光モード（🕮463）
FP発光表示（🕮618）
2 発光量（🕮469）

■■ リピーティング発光



1 発光モード（🕮463）
2 発光量（🕮463）
3 回数（🕮463）
周波数（🕮463）

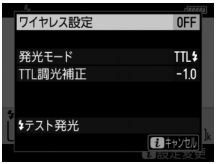
☑ フラッシュインフォ画面での撮影に関する情報について

フラッシュインフォ画面で、撮影モードやシャッタースピード、絞り値、ISO感度など、撮影に関する情報や設定の確認することもできます。



☑ 設定を変更する

フラッシュインフォ画面表示中に**i**ボタンを押すと、フラッシュの設定を変更できます。表示される項目は、接続しているスピードライトや設定によって異なります。テスト発光することもできます。



複数のスピードライトをワイヤレスで制御する

増灯撮影とは

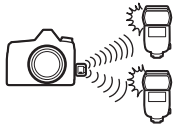
カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンストワイヤレスライティング（AWL））。カメラにスピードライトを装着して撮影する方法については、「スピードライトをカメラに装着して撮影する」（🕮459）をご覧ください。

この章では、カメラおよびカメラに装着している機器での操作を📷、リモートフラッシュとして使用するスピードライトでの操作を🔦で表しています。🔦の手順での詳しい設定方法などは、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

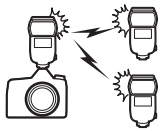
増灯撮影の方法について

増灯撮影には次の方法があります。

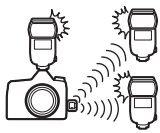
- **電波でリモートフラッシュを制御する※**（🕮479）



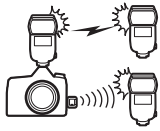
- **カメラに装着したスピードライトの光でリモートフラッシュを制御する**（🕮494）



- **電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる※**（🕮493）



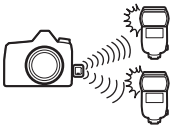
- **電波制御のリモートフラッシュと、光制御のリモートフラッシュを同時に使用する※**（🕮506）



※電波でリモートフラッシュを制御するには、カメラにWR-R10を装着する必要があります。

電波でリモートフラッシュを制御する

カメラに装着したWR-R10からの電波によって電波制御に対応したリモートフラッシュを制御することを電波制御アドバンストワイヤレスライティングと呼びます。電波制御に対応するスピードライトはSB-5000です。



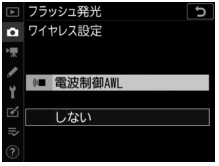
電波制御の準備をする

電波制御するには、カメラに装着したWR-R10とリモートフラッシュを無線接続する必要があります。

1 📷：WR-R10をカメラに装着する

装着方法については、WR-R10の使用説明書をご覧ください。

2 📷：静止画撮影メニュー［フラッシュ発光］の［ワイヤレス設定］で［電波制御AWL］を選ぶ

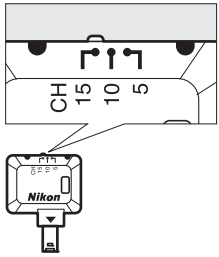


☑ ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10について

電波制御アドバンストワイヤレスライティングを行うためには、別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のファームウェアをVer.3.0以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

3 : WR-R10のチャンネルを設定する

WR-R10のチャンネル切り換えスイッチを任意のチャンネルに設定します。



4 : WR-R10のリンクモードを設定する

カメラのセットアップメニュー［**リモコン（WR）設定**］の［**リンクモード**］で次のどちらかを設定します。



項目	内容
［**ペアリング**］	ペアリングを実行した機器のみと通信を行うモードです。 • ペアリングを行っていない機材とは通信しないため、近くで他の機材を使用した撮影が行われていても混信しません。 • ペアリングの実行は1台ずつ行うため、使用する機材が多い場合はPINコードの使用をおすすめします。
［**PINコード**］	同一の4桁の数字（PINコード）が設定された機器同士で通信を行うモードです。 • 使用する機材が多い場合などにおすすめします。 • 同じPINコードに設定したカメラが複数台ある場合、最初にスピードライトと接続したカメラだけがそのスピードライトを制御できます（その他のカメラは未接続状態となり、WR-R10のLEDランプが点滅します）。

5 ：リモートフラッシュとWR-R10を接続する

- スピードライトを電波制御リモートモードにします。
- リモートフラッシュのチャンネルは必ず手順3で設定したWR-R10のチャンネルと同じものを設定してください。
- リモートフラッシュのリンクモードは手順4で設定したWR-R10のリンクモードと同じものを設定してください。
  - [**ペアリング**] を選んだ場合、リモートフラッシュでペアリングを開始すると同時にWR-R10のペアリングボタンを押します。ペアリングが完了すると、WR-R10とリモートフラッシュのLINKライトが緑とオレンジの点滅を行います。接続が完了すると、リモートフラッシュのLINKライトが緑色に点灯します。
  - [**PINコード**] を選んだ場合、カメラで入力したものと同じPINコードをリモートフラッシュで入力します。PINコードの入力が完了すると、自動で接続を開始します。接続が完了すると、リモートフラッシュのLINKライトが緑色に点灯します。

6 ：使用する全てのリモートフラッシュで手順5を繰り返す

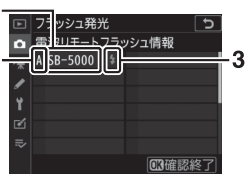
7 ：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認する

電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、ファインダー内表示やフラッシュインフォ画面にレディーライトが点灯します。

☑ 電波制御で接続しているスピードライトをカメラで一覧表示する

カメラの静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**電波リモートフラッシュ情報**］では、接続中のスピードライトを一覧表示できます。

- 一覧表示するときの識別用の名前は、スピードライト側で設定できます（リモートフラッシュネーム設定）。



1 接続しているスピードライト
2 グループ
3 レディーライト

☑ 一度接続したスピードライトと再度接続する場合

チャンネルやリンクモードの設定を変更していない場合、手順3～6を行わずにスピードライトをリモートモードにするだけでWR-R10と接続できます。接続が完了すると、スピードライトのLINKライトが緑色に点灯します。

増灯発光モードを設定して撮影する

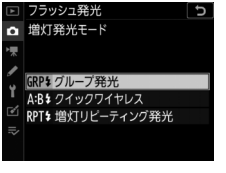
静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**増灯発光モード**］を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。



■■ グループ発光モードで撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

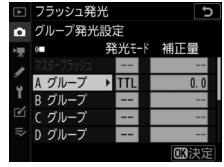
1 📷：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［グループ発光］を選ぶ



2 📷：［フラッシュ発光］画面で［グループ発光設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す



3 : 発光モードと調光補正量（または発光量）を設定する



- リモートフラッシュグループの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。

項目	内容
TTL	i-TTL調光を行います。
㊎A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
––（非発光）	リモートフラッシュは発光しません。［**補正量**］は設定できません。

4 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 **：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する**

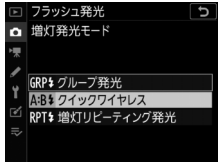
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で**i**ボタンを押し、[**テスト発光**]を選んでOKボタンを押します（🕮510）。

6 **：撮影する**

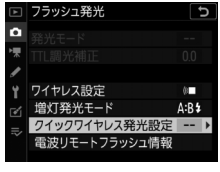
■ クイックワイヤレスモードで撮影する

リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

1 📷：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［クイックワイヤレス］を選ぶ



2 📷：［フラッシュ発光］画面で［クイックワイヤレス発光設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す



3 📷：クイックワイヤレスモードの設定をする

- **AグループとBグループの光量比を設定する**



- **AグループとBグループの調光補正量を設定する**



- **Cグループの設定をする**
  - [**M**] に設定すると発光し、[**---**] に設定すると発光しません。
  - [**M**] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



4 📡：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 📷/📱：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

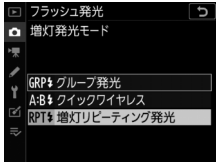
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で**i**ボタンを押し、[**テスト発光**]を選んでⓄⓀボタンを押します（🕮510）。

6 📷：撮影する

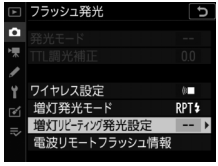
■■ 増灯リピーティング発光モードで撮影する

1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

1 📷：[フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [増灯リピーティング発光] を選ぶ



2 📷：[フラッシュ発光] 画面で [増灯リピーティング発光設定] を選んでマルチセレクターの▶を押す



3 📷：増灯リピーティング発光モードの設定をする

- **発光量、発光回数、周波数を設定する**



- **発光するかどうかをグループごとに設定する**
  - [**ON**] に設定すると発光し、[**---**] に設定すると発光しません。



4 🔦：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 **:構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する**

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で**i**ボタンを押し、[**テスト発光**]を選んでOKボタンを押します（🕮510）。

6 **:撮影する**

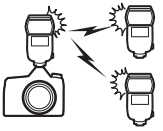
電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる



電波制御でワイヤレス増灯をした場合（🕮479）に、電波制御で接続したリモートフラッシュに加えてアクセサリーシューに装着したスピードライトも発光させることができます。

- SB-5000の場合、スピードライトで電波制御マスターモード（画面左上に🔁((▪が表示されている状態）に設定し、グループ発光または増灯リピーティング発光を選んで装着してください。装着したSB-5000の設定は、スピードライト本体またはカメラで行えます。カメラで行う場合、グループ発光は［**グループ発光設定**］の［**マスターフラッシュ**］、増灯リピーティング発光は［**増灯リピーティング発光設定**］の［**M**］（マスターフラッシュ）で設定してください。
- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600の場合、1灯で使用する設定にして装着してください。発光モードや補正量はスピードライト側で設定してください。
- SB-500、SB-400、SB-300の場合、そのまま装着してください。発光モードや補正量はカメラの［**グループ発光設定**］の［**マスターフラッシュ**］で設定してください。

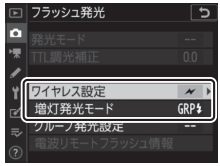
光でリモートフラッシュを制御する



カメラに装着したスピードライトをマスターフラッシュとして使用し、リモートフラッシュを光で制御することを光制御アドバンストワイヤレスライティングと呼びます。光制御に対応するスピードライトについては「使用できるスピードライト」(🕮798)をご覧ください。

- SB-5000またはSB-500をマスターフラッシュとして使用する場合は、スピードライトの設定をカメラ側で行います。詳しくは「SB-5000またはSB-500を使用して撮影する」(🕮495)をご覧ください。リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- SB-5000またはSB-500以外のスピードライトを使用する場合は、スピードライト側で設定を行う必要があります。詳しくは、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

SB-5000またはSB-500を使用して撮影する



SB-5000またはSB-500をカメラのアクセサリーシューに装着します。静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**ワイヤレス設定**］で［**光制御AWL**］を選び、増灯発光モード（SB-500は［**グループ発光**］のみ）を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。

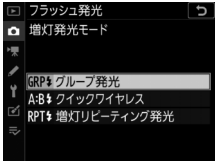
SB-5000装着時の設定について

SB-5000を装着している場合は、［**フラッシュ発光**］の設定をスピードライト側でも変更できます。

■■ グループ発光モードで撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

1 📷：[フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [グループ発光] を選ぶ



2 📷：[フラッシュ発光] 画面で [グループ発光設定] を選んでマルチセレクターの▶を押す

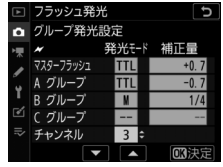


3 📷：発光モードと調光補正量（または発光量）、チャンネルを設定する



- マスターフラッシュおよびリモートフラッシュグループそれぞれの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。

項目	内容
TTL	i-TTL調光を行います。
㊎A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
--（非発光）	リモートフラッシュは発光しません。［**補正量**］は設定できません。



- ［**チャンネル**］で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを［**3**］に設定してください。

4 📱：リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順3の［**チャンネル**］で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 ：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- SB-500をマスターフラッシュにしている場合、設定できるグループはAとBのみになります。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 /：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

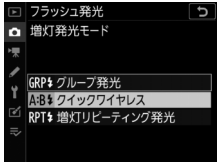
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面でボタンを押して［**テスト発光**］を選びます（🕮510）。

7 /：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

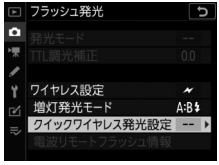
■ クイックワイヤレスモードで撮影する（SB-5000のみ）

リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定して撮影します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

1 📷：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［クイックワイヤレス］を選ぶ



2 📷：［フラッシュ発光］画面で［クイックワイヤレス発光設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す



3 : クイックワイヤレスモードの設定をする

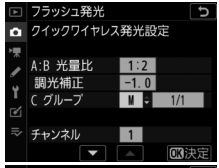
- **AグループとBグループの光量比を設定する**



- **AグループとBグループの調光補正量を設定する**



- **Cグループの設定をする**
  - [**M**] に設定すると発光し、[**---**] に設定すると発光しません。
  - [**M**] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



- **チャンネルを設定する**
  - [**チャンネル**] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
  - SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [**3**] に設定してください。



4 ：リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順3の［**チャンネル**］で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 ：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 /：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

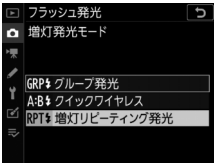
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面でiボタンを押して［**テスト発光**］を選びます（🕮510）。

7 /：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

■■ 増灯リピーティング発光モードで撮影する（SB-5000のみ）

1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

1 **📷**：[フラッシュ発光] 画面の［増灯発光モード］で［増灯リピーティング発光］を選ぶ



2 **📷**：[フラッシュ発光] 画面で［増灯リピーティング発光設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す



3 : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- **発光量、発光回数、周波数を設定する**



- **発光するかどうかをグループごとに設定する**
  - [**ON**] に設定すると発光し、[**---**] に設定すると発光しません。



- **チャンネルを設定する**
  - [**チャンネル**] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
  - SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [**3**] に設定してください。



4 ：リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順3の［**チャンネル**］で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 ：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 /：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

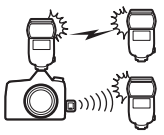
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で**i**ボタンを押して［**テスト発光**］を選びます（🕮510）。

7 📷/📱：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

光制御で増灯撮影する場合のご注意

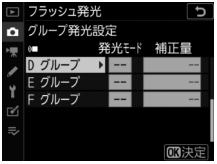
- リモートフラッシュは、マスターフラッシュの光がセンサー窓に入る位置に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、マスターフラッシュの光が確実にセンサー窓に入るようにしてください。
- リモートフラッシュの直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（[**TTL**]設定時）や他のリモートフラッシュの外部自動調光用受光窓（[**A**]設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- [**マスターフラッシュ**]の[**発光モード**]を[**---**]にした場合でも、リモートフラッシュの発光タイミングを合わせるため、撮影中にマスターフラッシュが微小発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

電波制御のリモートフラッシュと、光制御のリモートフラッシュを同時に使用する



WR-R10と、光制御でマスターフラッシュとして使うスピードライト（SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-500）またはSU-800をカメラに装着すると、光制御と電波制御のリモートフラッシュを併用できます。

- 電波で制御するリモートフラッシュは、全てWR-R10と接続してください（凸479）。
- SB-500を装着した場合は、［**ワイヤレス設定**］で［**光制御/電波制御AWL**］を選んでください。SB-500以外のスピードライトまたはSU-800を装着した場合、［**ワイヤレス設定**］は［**光制御/電波制御AWL**］に設定されます。
- ［**増灯発光モード**］は［**グループ発光**］のみ使用できます。
- リモートフラッシュのグループは、A～Fの最大6グループまで構成できます。光で制御するリモートフラッシュにはA～C、電波で制御するリモートフラッシュにはD～Fが設定できます。D～Fグループの設定画面を表示するには、［**グループ発光設定**］画面でマルチセレクターの▲▼を押します。

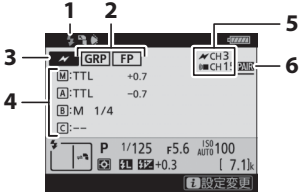


フラッシュインフォ画面で増灯撮影時のスピードライトの設定を確認する

カメラのアクセサリーシューにSB-5000またはSB-500を取り付けて光制御でマスターフラッシュとして使う場合、またはWR-R10を使用して電波でリモートフラッシュを制御している場合、スピードライトの設定内容をカメラのフラッシュインフォ画面で確認できます。フラッシュインフォ画面は、ファインダー撮影時にinfoボタンを押してインフォ画面（🕮68）を表示し、再度infoボタンを押すと表示されます。

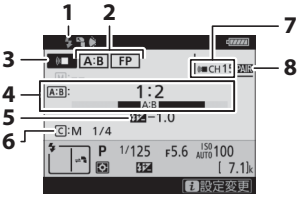
各発光モードの表示について

■■ グループ発光



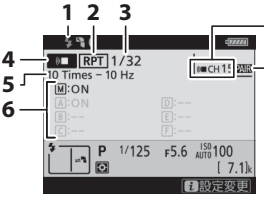
1	レディーライト※1
2	増灯発光モード（🕮566） FP発光表示（🕮618）
3	リモートフラッシュの制御方法※2（🕮566）
4	各グループの制御方法※3 各グループの発光モード（🕮484、496） 調光補正量（または発光量）（🕮484、496）
5	チャンネル※2（🕮479、496）
6	リンクモード※4（🕮689）

■■ クイックワイヤレス



1	レディーライト※1
2	増灯発光モード（🕮566） FP発光表示（🕮618）
3	リモートフラッシュの制御方法※2（🕮566）
4	AグループとBグループの光量比（🕮487、499）
5	調光補正量（🕮487、499）
6	Cグループの発光の有無と発光量（🕮487、499）
7	チャンネル※2（🕮479、499）
8	リンクモード※4（🕮689）

■■ 増灯リピーティング発光



1	レディーライト※1
2	増灯発光モード（🕮566）
3	発光量（🕮490、502）
4	リモートフラッシュの制御方法※2（🕮566）
5	回数（🕮490、502） 周波数（🕮490、502）
6	各グループの発光の有無（🕮490、502）
7	チャンネル※2（🕮479、502）
8	リンクモード※4（🕮689）

※1 電波制御時、レディーライトは全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると表示されます。

※2 光制御時は↙、電波制御時は((■、併用時は両方のアイコンが表示されます。併用時に光制御のチャンネルが表示されるのは、SB-500をマスターフラッシュとして使用している場合のみです。

※3 光制御と電波制御を併用している場合のみ、各グループの制御方法がアイコンで表示されます。

※4 電波制御時、または光制御と電波制御を併用している場合のみ表示されます。

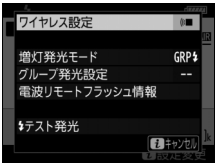
☑ フラッシュインフォ画面での撮影に関する情報について

フラッシュインフォ画面で、撮影モードやシャッタースピード、絞り値、ISO感度など、撮影に関する情報や設定の確認をすることもできます。



☑ フラッシュインフォ画面表示中にiボタンで設定を変更する

フラッシュインフォ画面表示中にiボタンを押すと、フラッシュの設定を変更できます。表示される項目は、接続しているスピードライトや設定によって異なります。テスト発光することもできます。



メニューガイド

初期設定一覧

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。

再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
［削除］	—
［再生フォルダー設定］	全てのフォルダー
［再生画面設定］	
［フォーカスポイント］	□
［露出情報］	□
［ハイライト］	□
［RGBヒストグラム］	□
［撮影情報］	□
［統合表示］	□
［画像のみ］	□
［画像コピー］	—
［撮影直後の画像確認］	しない
［削除後の次再生画像］	後ろのコマ
［縦位置自動回転］	する
［スライドショー］	
［再生画像の種類］	静止画と動画
［インターバル設定］	2秒
［レーティング］	—

静止画撮影メニューの初期設定

静止画撮影メニュー項目	初期設定
［静止画撮影メニューのリセット］	—
［記録フォルダー設定］	
［フォルダーグループ名変更］	ND780
［フォルダー番号指定］	100
［既存フォルダーから選択］	—
［ファイル名設定］	DSC
［スロット2の機能］	順次記録
［撮像範囲］	
［撮像範囲設定］	FX（36×24）
［DX自動切り換え］	する
［ファインダーのマスク表示］	しない
［画質モード］	NORMAL
［画像サイズ］	サイズL
［RAW記録］	
［圧縮方式］	ロスレス圧縮RAW
［記録ビットモード］	14ビット記録
［ISO感度設定］	
［ISO感度］	
AUTO、EFCT	オート
P、S、A、M	100
［感度自動制御］	する
［制御上限感度］	51200
［ϟ使用時の制御上限感度］	フラッシュなしの設定と同じ
［低速限界設定］	オート

静止画撮影メニュー項目	初期設定
［ホワイトバランス］	オート：雰囲気を残す
［微調整値］	A-B: 0、G-M: 0
［色温度設定］	5000K
［プリセットマニュアル］	d-1
［ピクチャーコントロール］	オート
［カスタムピクチャーコントロール］	—
［色空間］	sRGB
［アクティブ**D**-ライティング］	しない
［長秒時ノイズ低減］	しない
［高感度ノイズ低減］	標準
［ヴィネットコントロール］	標準
［回折補正］	する
［自動ゆがみ補正］	しない
［フリッカー低減］	
［フリッカー低減機能］	無効
［フリッカー検出の表示］	する
［フラッシュ発光］	
［発光モード］	TTL調光
［ワイヤレス設定］	しない
［増灯発光モード］	グループ発光
［オートブラケティング］	
［オートブラケティングのセット］	AE・フラッシュブラケティング
［コマ数］	0F
［補正ステップ］	1.0

静止画撮影メニュー項目	初期設定
［多重露出］※	
［多重露出モード］	しない
［コマ数］	2
［合成モード］	加算平均
［合成前の画像を保存（RAW）］	する
［確認撮影］	する
［1コマ目の画像（RAW）の指定］	—
［HDR（ハイダイナミックレンジ）］	
［HDRモード］	しない
［HDR強度］	オート
［合成前の画像を保存（RAW）］	しない
［インターバルタイマー撮影］	
［開始日時の設定］	即時
［撮影間隔］	1分
［撮影回数×1回のコマ数］	0001×1
［露出平滑化］	する
［サイレント撮影］	する
［撮影間隔優先］	しない
［撮影間隔毎のAF駆動］	しない
［オプション］	しない
［撮影開始時の記録フォルダー］	
［新規フォルダー作成］	□
［ファイル番号リセット］	□

静止画撮影メニュー項目	初期設定
［タイムラプス動画］	
［撮影間隔］	5秒
［撮影時間］	25分
［露出平滑化］	する
［サイレント撮影］	する
［撮像範囲］	
［撮像範囲設定］	FX
［DX自動切り換え］	する
［画像サイズ/フレームレート］	1920×1080 60p
［撮影間隔優先］	しない
［撮影間隔毎のAF駆動］	しない
［動画記録先］	スロット1
［フォーカスシフト撮影］	
［撮影回数］	100
［フォーカスステップ幅］	5
［待機時間］	0
［露出固定］	する
［サイレント撮影］	する
［撮影開始時の記録フォルダー］	
［新規フォルダー作成］	□
［ファイル番号リセット］	□
［サイレント撮影（静止画Lv）］	しない

※多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから設定したコマ数分撮影し終えるまで静止画撮影メニューはリセットできません。

動画撮影メニューの初期設定

動画撮影メニュー項目	初期設定
[動画撮影メニューのリセット]	—
[ファイル名設定]	DSC
[動画記録先]	スロット1
[撮像範囲]	
[撮像範囲設定]	FX
[DX自動切り換え]	する
[画像サイズ/フレームレート]	1920×1080 60p
[動画の画質]	高画質
[動画記録ファイル形式]	MOV
[ISO感度設定]	
[制御上限感度]	51200
[Mモード時の感度自動制御]	する
[Mモード時のISO感度]	100
[ホワイトバランス]	静止画の設定と同じ
[微調整値]	A-B: 0、G-M: 0
[色温度設定]	5000K
[プリセットマニュアル]	d-1
[ピクチャーコントロール]	静止画の設定と同じ
[カスタムピクチャーコントロール]	—
[アクティブD-ライティング]	しない
[高感度ノイズ低減]	標準

動画撮影メニュー項目	初期設定
［回折補正］	する
［フリッカー低減］	オート
［電子手ブレ補正］	しない
［マイク感度］	オート
［アッテネーター］	無効
［録音帯域］	広帯域
［風切り音低減］	しない
［ヘッドホン音量］	15
［タイムコード］	
［タイムコード記録］	しない
［カウントアップ方式］	レックラン
［タイムコードの起点］	—
［ドロップフレーム］	する

カスタムメニューの初期設定

カスタムメニュー項目		初期設定
［カスタムメニューのリセット］		—
a1	［**AF-C**モード時の優先］	レリーズ
a2	［**AF-S**モード時の優先］	フォーカス
a3	［**AF**ロックオン］	3
a4	［**3D-**トラッキング時の顔認識］	する
a5	［オートエリア**AF**時の顔と瞳認識］	顔認識と瞳認識する
a6	［**AF**点数］	全点
a7	［縦/横位置フォーカスポイント切換］	しない
a8	［半押し**AF**レンズ駆動］	する
a9	［フォーカスポイント循環選択］	しない
a10	［フォーカスポイント表示の設定］	
	［フォーカスポイント照明］	オート
	［マニュアルフォーカス時の表示］	する
	［ダイナミック**AF**時のアシスト表示］	する
a11	［ローライト**AF**］	しない
a12	［**AF**設定時のフォーカスリング操作］	有効
b1	［露出設定ステップ幅］	1/3段
b2	［露出補正簡易設定］	しない
b3	［マルチパターン測光］	顔認識する
b4	［中央部重点測光範囲］	φ12 mm
b5	［基準露出レベルの調節］	
	［マルチパターン測光］	0
	［中央部重点測光］	0
	［スポット測光］	0
	［ハイライト重点測光］	0

カスタムメニュー項目		初期設定
c1	[シャッターボタンAEロック]	しない
c2	[半押しタイマー]	6秒
c3	[セルフタイマー]	
	[時間]	10秒
	[撮影コマ数]	1
	[連続撮影間隔]	0.5秒
c4	[モニターのパワーオフ時間]	
	[画像の再生]	10秒
	[メニュー表示]	1分
	[インフォ画面表示]	10秒
	[撮影直後の画像確認]	4秒
	[ライブビュー表示]	10分
d1	[低速連続撮影速度]	3コマ/秒
d2	[連続撮影コマ数]	100
d3	[連動レリーズモード設定]	連動する
d4	[露出ディレーモード]	しない
d5	[電子先幕シャッター]	無効
d6	[Mモード時のシャッタースピード延長]	しない
d7	[連番モード]	する
d8	[EFFECTS時の元画像保存]	しない
d9	[露出プレビュー（Lv）]	しない
d10	[格子線表示]	しない

	カスタムメニュー項目	初期設定
d11	[**ピーキング表示**]	
	[**ピーキングの検出**]	しない
	[**ピーキング表示色**]	赤
d12	[**イルミネーター点灯**]	しない
d13	[**連続撮影中の表示（Lv）**]	する
d14	[**光学手ブレ補正**]	する
e1	[**フラッシュ撮影同調速度**]	1/200秒
e2	[**フラッシュ時シャッタースピード制限**]	1/60秒
e3	[**フラッシュ使用時の露出補正**]	全体を補正
e4	[**ϟ使用時の感度自動制御**]	被写体と背景
e5	[**モデリング発光**]	する
e6	[**BKTの順序**]	[0] → [−] → [+]
f1	[**iメニューのカスタマイズ**]	ピクチャーコントロール、 画質モード、 フラッシュモード、 Wi-Fi通信機能、 AFモード、 撮像範囲設定、 ホワイトバランス、 画像サイズ、 測光モード、 アクティブD-ライティング、 AFエリアモード、 カスタムボタンの機能

カスタムメニュー項目			初期設定
f2	[**z メニューのカスタマイズ（Lv）**]		ピクチャーコントロール、 画質モード、 フラッシュモード、 Wi-Fi通信機能、 AFモード、 ネガフィルムデジタイズ、 ホワイトバランス、 画像サイズ、 測光モード、 アクティブD-ライティング、 AFエリアモード、 露出プレビュー
f3	[**カスタムボタンの機能**]		
	[**プレビューボタン**]		プレビュー
	[**Fnボタン**]		撮像範囲選択
	[**AE/AFロックボタン**]		AE-L/AF-L
	[**AF-ONボタン**]		AF-ON
	[**BKTボタン**]		オートブラケティング
	[**動画撮影ボタン**]		設定しない
f4	[**OKボタンの機能**]		
	[**ファインダー撮影時**]		フォーカスポイント 中央リセット
	[**ライブビュー撮影時**]		フォーカスポイント 中央リセット
	[**再生時**]		拡大画面との切り換え
		[**拡大画面との切り換え**]	等倍（100%）

	カスタムメニュー項目	初期設定
f5	[コマンドダイヤルの設定]	
	[回転方向の変更]	露出補正の設定時：□、 シャッタースピード/ 絞り値 設定時：□
	[メインとサブの入れ換え]	露出設定：しない、 AF設定：しない
	[絞り値の設定方法]	サブコマンドダイヤル
	[再生/メニュー画面で使用]	しない
	[サブコマンドダイヤルで画像送り]	10コマ
f6	[ボタンのホールド設定]	しない
f7	[インジケーターの+/−方向]	
f8	[:スイッチの機能]	:の点灯/消灯
g1	[iメニューのカスタマイズ]	ピクチャーコントロール、 画像サイズ/ フレームレート/ 画質、 風切り音低減、 Wi-Fi通信機能、 AFモード、 動画記録先、 ホワイトバランス、 マイク感度、 測光モード、 アクティブD-ライティング、 AFエリアモード、 電子手ブレ補正

	カスタムメニュー項目	初期設定
g2	[カスタムボタンの機能]	
	[プレビューボタン]	設定しない
	[Fnボタン]	設定しない
	[AE/AFロックボタン]	AE-L/AF-L
	[AF-ONボタン]	AF-ON
	[シャッターボタン]	静止画撮影
g3	[AF速度]	0
	[作動条件]	常時有効
g4	[AF追従感度]	4
g5	[ハイライト表示]	
	[表示パターン]	しない
	[ハイライト表示のしきい値]	248

セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目	初期設定
［カードの初期化（フォーマット）］	—
［ユーザーセッティングの登録］	—
［ユーザーセッティングのリセット］	—
［言語（**Language**）］	（国や地域により異なります）
［地域と日時］	
［現在地の設定］	（国や地域により異なります）
［日時の設定］	—
［日付の表示順］	（国や地域により異なります）
［夏時間の設定］	しない
［モニターの明るさ］	0
［モニターのカラーカスタマイズ］	A-B: 0、G-M: 0
［水準器表示］	—
［インフォ画面の表示設定］	自動
［手動］	黒文字
［**AF**微調節の設定］	
［**AF**微調節の適用］	しない
［レンズの調節と登録］	—
［未登録レンズの調節］	—
［登録済みレンズリスト］	—
［レンズ情報手動設定］	
［レンズ**No.**］	1
［焦点距離（**mm**）］	—
［開放絞り値］	—

セットアップメニュー項目	初期設定
［イメージセンサークリーニング］	
［電源スイッチに連動］	電源ONとOFFで実行
［クリーニングミラーアップ］	—
［イメージダストオフデータ取得］	—
［ピクセルマッピング］	—
［画像コメント］	
［コメント添付］	□
［著作権情報］	
［著作権情報添付］	□
［電子音］	
［電子音設定］	無効
［音量］	2
［音の高さ］	低音
［タッチ操作］	
［タッチ操作の設定］	有効
［1コマ送り時のフリック操作］	左→右

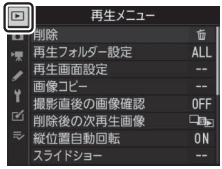
セットアップメニュー項目	初期設定
［**HDMI**］	
［出力解像度］	オート
［詳細設定］	
［出力レンジ］	オート
［外部記録制御］	しない
［出力ビット数］	8ビット
［**N-Log/HDR**出力設定］	しない
［ビューアシスト］	しない
［位置情報］	
［半押しタイマー］	有効
［情報表示］	—
［衛星による日時合わせ］	する
［リモコン（**WR**）設定］	
［**LED**ランプの点灯］	する
［リンクモード］	ペアリング
［リモコン（**WR**）の**Fn**ボタンの機能］	設定しない
［機内モード］	無効
［スマートフォンと接続］	
［ペアリング（**Bluetooth**）］	
［**Bluetooth**通信機能］	無効
［送信指定（**Bluetooth**）］	
［撮影後自動送信指定］	しない
［**Wi-Fi**接続］	—
［電源**OFF**中の通信］	する

セットアップメニュー項目	初期設定
［**PCと接続**］	
［**Wi-Fi通信機能**］	無効
［**接続設定**］	—
［**オプション**］	
［**撮影後自動送信**］	しない
［**送信後ファイル削除**］	しない
［**RAW+JPEG送信設定**］	RAW+JPEG
［**全送信マーク解除**］	—
［**MACアドレス**］	—

セットアップメニュー項目	初期設定
［ワイヤレストランスミッター（**WT-7**）］	
［ワイヤレストランスミッター］	使用しない
［ハードウェアの選択］	有線LAN
［接続設定］	—
［オプション］	
［撮影後自動送信］	しない
［送信後ファイル削除］	しない
［**RAW+JPEG**送信設定］	RAW+JPEG
［同名ファイルの上書き］	しない
［未送信画像プロテクト］	しない
［送信記録の保存］	しない
［フォルダー送信］	—
［全送信マーク解除］	—
［**HTTP**ログイン設定］	—
［電池チェック］	—
［省電力設定］	通信速度優先
［オートパワーオフ時間］	—
［**MAC**アドレス］	—
［ファームウェアバージョン］	—
［認証マークの表示］	—
［電池チェック］	—
［カードなし時レリーズ］	レリーズ許可
［メニュー設定の保存と読み込み］	—
［カメラの初期化］	—
［ファームウェアバージョン］	—

▶再生メニュー：再生で使える便利な機能

メニュー画面で▶タブを選ぶと、再生メニューが表示されます。



再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	🕮
[**削除**]	530
[**再生フォルダー設定**]	530
[**再生画面設定**]	531
[**画像コピー**]	532
[**撮影直後の画像確認**]	538

メニュー項目	🕮
[**削除後の次再生画像**]	538
[**縦位置自動回転**]	540
[**スライドショー**]	540
[**レーティング**]	543

削除

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

複数の画像を一括して削除できます。詳しくは、「複数の画像をまとめて削除する」（🕮385）をご覧ください。

項目		内容
▪▫▫ ▫▫▪	［**選択画像削除**］	選んだ画像を削除します。
DATE	［**日付選択**］	選択した日付に撮影した画像を一括で削除します。
ALL	［**全画像削除**］	再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。 • SDカードを2枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。

再生フォルダー設定

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

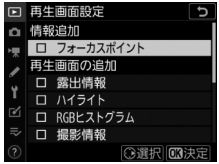
画像の再生時に表示するフォルダーを設定します。

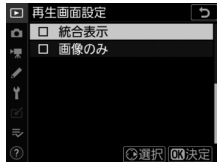
項目	内容
（フォルダーグループ名）	表示されているフォルダーグループ名のフォルダー内の画像を再生します。フォルダーグループ名は静止画撮影メニュー［**記録フォルダー設定**］の［**フォルダーグループ名変更**］で変更できます。
［**全てのフォルダー**］	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
［**記録中のフォルダー**］	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

再生画面設定

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

撮影時に使用したフォーカスポイントを再生画面の1コマ表示モードで表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示の種類を追加します。





- 追加したい項目を選び、マルチセレクターの▶を押すとオン☑とオフ☐を切り換えられます。
- ⓄⓀボタンを押すと、設定を完了します。

画像コピー

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

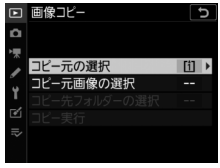
SDカードを2枚使用しているときに、SDカード内の画像をもう一方のSDカードにコピーできます。

項目	内容
［**コピー元の選択**］	コピーしたい画像があるスロットを選びます。
［**コピー元画像の選択**］	コピーしたい画像を選びます。
［**コピー先フォルダーの選択**］	［**コピー元の選択**］で選ばなかったスロットにあるフォルダーを画像のコピー先として選びます。
［**コピー実行**］	コピーを実行します。

画像のコピー方法

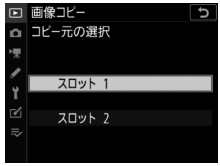
1 [コピー元の選択] を選ぶ

[**コピー元の選択**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[**コピー元の選択**] 画面が表示されます。



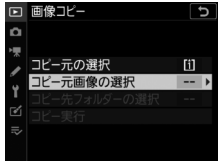
2 コピー元画像があるスロットを選ぶ

コピーしたい画像が入っているカードのスロットを選んでOKボタンを押すと、[**画像コピー**] 画面に戻ります。



3 [コピー元画像の選択] を選ぶ

[**コピー元画像の選択**] を選んで▶を押すと、[**コピー元画像の選択**] 画面が表示されます。



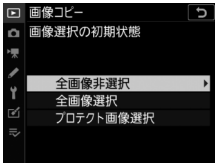
4 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ



- コピー元画像のあるフォルダーを選んで⊛を押すと、［**画像選択の初期状態**］画面が表示されます。
- スロットにある全ての画像をコピーする場合は、［**スロット内の全画像**］を選んでⓄⓀボタンを押し、手順10に進んでください。

5 画像の選択方式を選ぶ

コピー画像の選び方は、次の3通りがあります。



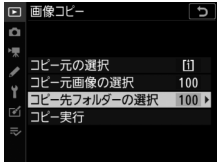
項目	内容
［**全画像非選択**］	フォルダー内の全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 • コピーする画像を1枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
［**全画像選択**］	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 • フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
［**プロテクト画像選択**］	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

6 コピーする画像を選ぶ



- マルチセレクターで画像を選んで（）ボタンを押すと、✔が表示されます。もう一度（）ボタンを押すと、✔が消えます。
- （**QUAL**）ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✔を入れてからボタンを押すと、［**画像コピー**］画面に戻ります。

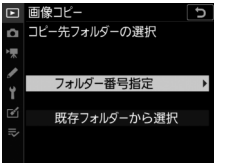
7 ［コピー先フォルダーの選択］を選ぶ



［**コピー先フォルダーの選択**］を選んでを押すと、［**コピー先フォルダーの選択**］画面が表示されます。

8 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

コピー先フォルダーの選択方法を選んで㊨を押します。



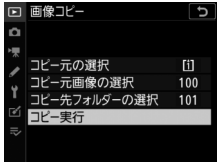
項目	内容
［**フォルダー番号指定**］	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します（🕮546）。指定したフォルダー番号のフォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成します。 
［**既存フォルダーから選択**］	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選びます。 

9 コピー先フォルダーを選ぶ

それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選んで㊎ボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して［**画像コピー**］画面に戻ります。

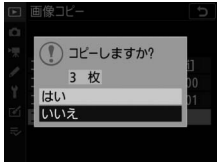
10 [コピー実行] を選ぶ

［**コピー実行**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、コピーの確認画面が表示されます。

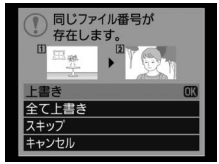


11 [はい] を選ぶ

- ［**コピーしますか？**］というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- ［**はい**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度ⓄⓀボタンを押してコピーを完了します。



画像コピーについてのご注意



- コピー先SDカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、図のような画面が表示されます。このとき、［**上書き**］または［**全て上書き**］を選ぶと、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトが設定されている場合は、上書きできません。［**スキップ**］を選ぶと、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。［**キャンセル**］を選ぶと、コピーを中止します。
- プロテクトおよびレーティングの設定はコピー先の画像に引き継がれます。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いください。

撮影直後の画像確認

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。［**しない**］を選んだ場合に撮影画像を表示確認するには、▶ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

項目		内容
	［**後ろのコマ**］	• 削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 • 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
	［**前のコマ**］	• 削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 • 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
	［**直前コマ送り方向に従う**］	• 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、［**後ろのコマ**］と同じ動作になります。 • 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、［**前のコマ**］と同じ動作になります。

縦位置自動回転

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

［**する**］のときは、縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示します。

☑ 縦位置自動回転についてのご注意

［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

スライドショー

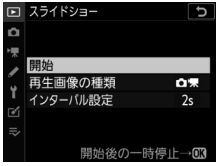
MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。［**再生フォルダー設定**］（🕮530）で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。

項目	内容
［**開始**］	スライドショーを開始します。
［**再生画像の種類**］	• スライドショーで再生する画像の種類を選べます。 • ［**レーティングの選択**］を選ぶと、特定のレーティングの画像のみを再生します。再生したいレーティングを選んでマルチセレクターの▶を押すと、オン☑とオフ☐を切り換えられます。
［**インターバル設定**］	1コマの静止画を表示する時間を設定します。

スライドショーを再生する

［**開始**］を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが始まります。



スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。

操作	内容
1コマ進む/戻る	マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える	再生メニュー［**再生画面設定**］で、1コマ表示時の画像情報表示の種類を追加した場合は、▲▼を押して静止画再生時に画像情報の切り換えができます。
一時停止する	OKボタンを押すと、スライドショーが一時停止します。［**再開**］を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが再開します。
動画再生中に音量を調節する	（**QUAL**）ボタンを押すと音量が大きくなり、（）ボタンを押すと小さくなります。
再生メニューに戻る	MENUボタンを押すと、スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶ボタンを押すと、スライドショーを中止して、再生画面に戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

再生が終わると、メニューが表示されます。［**再開**］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが再開します。［**終了**］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが終了します。



レーティング

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

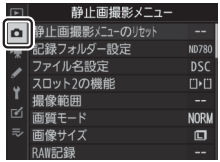


画像にレーティングを設定できます。

- マルチセレクターでレーティングを設定したい画像を選びます。
- ⊖（🖼）ボタンを押しながら▲▼を押して、★5～★1、なし、🗑（削除候補）から選びます。
- ⊕（**QUAL**）ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
- ⊛ボタンを押して設定を完了します。

静止画撮影メニュー：静止画撮影で使える便利な機能

メニュー画面で静止画タブを選ぶと、静止画撮影メニューが表示されます。



静止画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
[静止画撮影メニューのリセット]	545
[記録フォルダー設定]	545
[ファイル名設定]	550
[スロット2の機能]	551
[撮像範囲]	551
[画質モード]	551
[画像サイズ]	551
[RAW記録]	552
[ISO感度設定]	553
[ホワイトバランス]	553
[ピクチャーコントロール]	553
[カスタムピクチャーコントロール]	554
[色空間]	554
[アクティブD-ライティング]	555

メニュー項目	🕮
[長秒時ノイズ低減]	556
[高感度ノイズ低減]	557
[ヴィネットコントロール]	558
[回折補正]	559
[自動ゆがみ補正]	560
[フリッカー低減]	561
[フラッシュ発光]	563
[オートブラケティング]	567
[多重露出]	569
[HDR（ハイダイナミックレンジ）]	569
[インターバルタイマー撮影]	569
[タイムラプス動画]	570
[フォーカスシフト撮影]	570
[サイレント撮影（静止画Lv）]	570

静止画撮影メニューのリセット

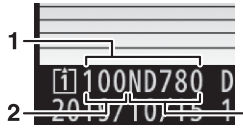
MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

静止画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します（🕮512）。

記録フォルダー設定

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

撮影した画像を保存するフォルダーについての設定を行います。



1 フォルダー名
2 フォルダー番号
3 フォルダーグループ名

フォルダーグループ名変更

このカメラのフォルダーには、末尾に「ND780」というフォルダーグループ名が付きます。［**フォルダーグループ名変更**］では、新規フォルダーを作成する場合の「ND780」の5文字を任意に変更できます。

- 既存のフォルダー名は変更できません。
- 文字入力画面で🗑（FORMAT）ボタンを長押しすると、フォルダーグループ名を初期設定に戻せます。

フォルダー番号指定

画像を保存するフォルダーを、フォルダー番号を指定して変更します。指定したフォルダーが存在しない場合、新規フォルダーを作成します。

1 [フォルダー番号指定] を選ぶ



- [**フォルダー番号指定**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[**フォルダー番号指定**] 画面が表示されます。
- [**フォルダー番号指定**] 画面の右上には、フォルダーを作成するスロットが下線で強調されて表示されます。フォルダーを作成するスロットは、静止画撮影メニュー [**スロット2の機能**] の設定によって異なります。

2 フォルダー番号の桁を選び、番号を変更する

- ◀▶を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。
- ▲▼を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

3 フォルダー番号を設定する

- 既存のフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク（🗀、🗁、🗎）が表示されます。🗀または🗁が表示されたフォルダーを選んでⓄⓀボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定してメニューに戻ります。
- 既存のフォルダー番号以外の数値を入力してⓄⓀボタンを押すと、入力したフォルダー番号で新規フォルダーを作成します。
- 次に撮影する画像は、指定したフォルダーまたは作成した新規フォルダーに保存されます。
- キャンセルしたい場合は、**MENU**ボタンを押してください。

フォルダーマークについて

［**フォルダー番号指定**］画面では、画像の入っていないフォルダーのときは🗀、フォルダー内のファイル数が5000個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは🗎、その他のフォルダーのときは🗁のフォルダーマークが表示されます。🗎が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

既存フォルダーから選択

既存のフォルダーの一覧から選びます。

1 [既存フォルダーから選択] を選ぶ

[**既存フォルダーから選択**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[**既存フォルダーから選択**] 画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

▲▼を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- ⓚボタンを押すと、設定が有効になりメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存されます。

フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

- フォルダー番号が999になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
  - フォルダー内のファイル数が5000個に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が5000個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
  - ファイル番号が9999に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が9999を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
- ただし次の場合、SDカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。
  - フォルダー番号が999未満のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合
  - 動画撮影時に、動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］および［**動画の画質**］の設定を変更した場合

多数のフォルダーや画像が記録された SD カードを使用する場合

SDカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。［**ファイル名設定**］では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮61）をご覧ください。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
  - NEF：RAWの場合
  - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
  - MOV：MOV形式の動画の場合
  - MP4：MP4形式の動画の場合
  - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 静止画撮影メニュー［**色空間**］で［**Adobe RGB**］を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

スロット2の機能

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

2つあるSDカードスロットの両方を使って画像を記録するときの、スロット2の機能を設定できます。詳しくは、「2枚のSDカードに記録する（スロット2の機能）」（🕮279）をご覧ください。

撮像範囲

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

撮像範囲についての設定ができます。詳しくは、「撮像範囲に関する設定を変更する」（🕮129）をご覧ください。

画質モード

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画質モードを設定できます。詳しくは、「画質モードを変更する」（🕮134）をご覧ください。

画像サイズ

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画像サイズ（大きさ）を設定できます。詳しくは、「画像サイズを変更する」（🕮137）をご覧ください。

RAW記録

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

RAW画像を記録するときの圧縮方式および記録ビットモードを設定できます。

圧縮方式

項目		内容
ON	［**ロスレス圧縮RAW**］	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。非圧縮時のファイルサイズに対して、約60～80%に圧縮して記録します。
ON	［**圧縮RAW**］	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。非圧縮時のファイルサイズに対して、約45～65%に圧縮して記録します。

記録ビットモード

項目		内容
12-bit	［**12ビット記録**］	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit	［**14ビット記録**］	RAW画像を14ビットで記録します。［**12ビット記録**］の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは［**12ビット記録**］よりも大きくなります。

ISO感度設定

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

静止画撮影時のISO感度に関する設定ができます。詳しくは、「光に対する感度を設定する（ISO感度）」（🕮187）をご覧ください。

ホワイトバランス

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

光源の種類に合わせてホワイトバランスを設定します。詳しくは、「光源に合わせて見た目に近い色で撮影する（ホワイトバランス）」（🕮195）をご覧ください。

ピクチャーコントロール

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。詳しくは、「画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）」（🕮243）をご覧ください。

カスタムピクチャーコントロール

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。詳しくは、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」（🕮250）をご覧ください。

色空間

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。［**sRGB**］色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。［**Adobe RGB**］色空間は［**sRGB**］色空間に比べて色域が広いため、商業印刷などの業務用途に適しています。

☑ 色空間についてのご注意

他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、このカメラで設定した色空間と異なる設定の色空間に置き換えられることがあります。NX Studioをお使いになると、このカメラで設定した色空間で画像を開くことができます。

☑ Adobe RGB色空間について

適切な色再現には、カラーマネージメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。

アクティブD-ライティング

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます。詳しくは、「アクティブD-ライティングで撮影する」（📖254）をご覧ください。

長秒時ノイズ低減

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（むら、輝点）を低減します。

項目	内容
［**する**］	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
［**しない**］	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

- 長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内表示に**job nr**が点滅します。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。



長秒時ノイズ低減についてのご注意

処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。

高感度ノイズ低減

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

静止画撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。

項目	内容
［**強め**］	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。ノイズ低減の効果は、強い順に［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
［**標準**］	
［**弱め**］	
［**しない**］	ノイズが発生しやすい条件で撮影する場合のみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は［**弱め**］に設定したときよりもさらに弱くなります。

ヴィネットコントロール

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着しているときのみ機能します（PCレンズを除く）。

項目		内容
▢H	[**強め**]	効果が強い順に、[**強め**]、[**標準**]、[**弱め**] になります。
▢N	[**標準**]	
▢L	[**弱め**]	
[**しない**]		周辺光量の低下を補正しません

☑ ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次の場合、ヴィネットコントロールの効果は適用されません。
  - 静止画撮影メニューの［**多重露出**］を設定しているとき
  - 動画撮影時
- JPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選ぶことをおすすめします。

回折補正

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

［**する**］にすると、レンズの絞りを絞り込んだときに画像の解像感が低下する、回折現象を補正します。

- 非CPUレンズをお使いの場合は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］で使用するレンズを登録すると、回折補正の効果が適用されます。

自動ゆがみ補正

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

［**する**］にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- ［**自動ゆがみ補正**］は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

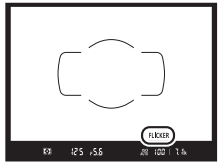
自動ゆがみ補正についてのご注意

- ［**する**］の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着している場合は、自動ゆがみ補正を行う前に、［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］を［**する**］に設定するか、［**撮像範囲設定**］を［**DX（24×16）**］に設定してください。その他の撮像範囲で撮影すると、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

フリッカー低減

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で発生する、照明の明滅による明るさのちらつき（フリッカー現象）の影響を低減できます。フリッカー現象が発生している場合、撮影した画像の一部に露出むらが生じたり、連続撮影時に露出や色味にばらつきが生じることがあります。

項目	内容
［**フリッカー低減機能**］	［**有効**］にすると、「フリッカー現象」の影響が少ないタイミングで撮影できます。 • ［**有効**］に設定した場合、連続撮影時に撮影速度が遅くなったり、撮影間隔が一定ではなくなることがあります。
［**フリッカー検出の表示**］	［**フリッカー低減機能**］を［**有効**］にしたときに、ファインダー内または画像モニターに**FLICKER**アイコンを表示するかどうかを設定できます。［**する**］にしたときの**FLICKER**アイコンの表示は、ファインダー撮影時とライブビュー撮影時で異なります。それぞれ次のように表示されます。 • ファインダー撮影の場合、フリッカー検出時にシャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に**FLICKER**アイコンが表示されます。  • ライブビュー撮影の場合、フリッカーが検出されているかどうかにかかわらず、画像モニターに**FLICKER**アイコンが表示されます。

☑ フリッカー低減の制限について

次の場合など、静止画撮影メニュー［**フリッカー低減**］が無効になります。

- レリーズモードが**MUP**の場合
- ライブビュー撮影時にレリーズモードが**CH**の場合
- ライブビュー撮影時に静止画撮影メニュー［**サイレント撮影（静止画Lv）**］が［**する**］の場合
- インターバルタイマー撮影、タイムラプス動画、またはフォーカスシフト撮影を行うときに、それぞれの機能の［**サイレント撮影**］を［**する**］にしている場合
- HDRモードに設定している場合
- 露出ディレーモードが有効の場合
- シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合

☑ フリッカー低減についてのご注意

- 撮影の前に、試し撮りをすることをおすすめします。
- フリッカー低減機能を使うと、光源によってシャッターのきれるタイミングが少し遅れることがあります。また、連続撮影時は撮影速度が遅くなったり、撮影間隔が一定ではなくなることがあります。
- 電源周波数が50Hzの場合は100Hzの点滅周期を、また電源周波数が60Hzの場合は120Hzの点滅周期を検出します。連続撮影中に光源の点滅周期が変化した場合、フリッカーの影響は低減できません。
- 背景が暗い場合や輝度が高い光源が含まれる場合など光源や撮影条件によっては、フリッカーが検出できなかったり、フリッカー低減の効果が得られないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカー低減機能の効果が得られないことがあります。

フラッシュ発光

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー



別売のスピードライトを取り付けた場合の発光モードや補正量などを設定したり、ワイヤレス増灯撮影時の設定を行います。

- 別売スピードライトをカメラに取り付けた場合の撮影については「スピードライトをカメラに装着して撮影する」（🕮459）を併せてご覧ください。
- 別売スピードライトをワイヤレスで制御した場合の撮影については「複数のスピードライトを同時に発光させる（ワイヤレス増灯撮影）」（🕮477）を併せてご覧ください。

発光モード

SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合のスピードライトの発光モードを設定できます。

- 選んだ項目によって［**発光モード**］の下に表示されるメニュー項目が変更されます。
- SB-5000、SB-500、SB-400、SB-300以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。
- SB-5000はスピードライト本体でも設定できます。

項目		内容
TTL↯	［**TTL調光**］	スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
A↯	［**外部自動調光**］	スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。
GN↯	［**距離優先マニュアル発光**］	スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。
M↯	［**マニュアル発光**］	指定した発光量でスピードライトが発光します。
RPT↯	［**リピーティング発光**］	1回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

ワイヤレス設定

複数のスピードライトを同時に発光させて撮影（ワイヤレス増灯撮影）する場合に、制御方法を選びます。カメラにSB-5000、SB-500、またはWR-R10を装着したときのみ表示されます。

項目		内容
⚡	［**光制御AWL**］	マスターフラッシュの微小発光で、リモートフラッシュを制御します（🕮494）。
⚡/((■	［**光制御/電波制御AWL**］	光で制御するリモートフラッシュと、電波で制御するリモートフラッシュを併用してフラッシュ撮影を行います（🕮506）。
((■	［**電波制御AWL**］	カメラに装着したWR-R10を使用して、電波によってリモートフラッシュを制御します（🕮479）。
［**しない**］		リモートフラッシュの制御を行いません。

増灯発光モード

フラッシュの増灯発光モードを設定できます。選んだ項目によって［**増灯発光モード**］の下に表示されるメニュー項目が変更され、それぞれの増灯発光モードでの設定が変更できます。

項目		内容
GRP	［**グループ発光**］	グループごとに発光モードを設定できます（🕮484、496）。
A:B	［**クイックワイヤレス**］	リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定します（🕮487、499）。
RPT	［**増灯リピーティング発光**］	1回の露光中に、増灯したスピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます（🕮490、502）。

電波リモートフラッシュ情報

電波制御で接続されているスピードライトの情報を表示します。



オートブラケティング

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。詳しくは、「明るさやWBなどを変えながら撮影する（オートブラケティング）」（🕮224）をご覧ください。

項目	内容
［**オートブラケティングのセット**］	オートブラケティングの種類を設定できます。 • **AE・フラッシュブラケティング**：露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。 • **AEブラケティング**：露出値（AE）を変えながら撮影します。 • **フラッシュブラケティング**：フラッシュの発光量を変えながら撮影します。 • **WBブラケティング**：ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。 • **ADLブラケティング**：アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。
［**コマ数**］	オートブラケティングで撮影するコマ数を設定できます。
［**補正ステップ**］	［**オートブラケティングのセット**］が［**ADLブラケティング**］以外の場合、ブラケティングの変化の度合いを設定できます。
［**効果の度合い**］	［**オートブラケティングのセット**］が［**ADLブラケティング**］の場合、アクティブD-ライティングの効果の度合いを設定できます。

多重露出

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

2～10コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。詳しくは、「複数の画像を重ねて1枚の画像として写し込む（多重露出）」（🕮287）をご覧ください。

HDR（ハイダイナミックレンジ）

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。詳しくは、「HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う」（🕮256）をご覧ください。

インターバルタイマー撮影

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます。詳しくは、「設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）」（🕮298）をご覧ください。

タイムラプス動画

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。詳しくは、「静止画をつないで動画にする（タイムラプス動画）」（🕮315）をご覧ください。

フォーカスシフト撮影

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ピント位置を変えながら自動的に連続撮影を行います。ピント面の異なる複数の画像を合成して被写界深度の深い画像を作成する、深度合成の素材を撮影できます。詳しくは、「ピント位置を変えながら連続撮影する（フォーカスシフト撮影）」（🕮328）をご覧ください。

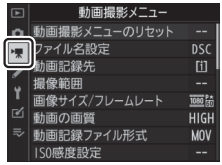
サイレント撮影（静止画Lv）

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ライブビュー撮影時に電子シャッターを使用して、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。詳しくは、「電子シャッターを使って撮影する（サイレント撮影（静止画Lv））」（🕮340）をご覧ください。

動画撮影メニュー：動画撮影で使える便利な機能

メニュー画面で動タブを選ぶと、動画撮影メニューが表示されます。



動画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
[動画撮影メニューのリセット]	572
[ファイル名設定]	572
[動画記録先]	572
[撮像範囲]	573
[画像サイズ/フレームレート]	573
[動画の画質]	574
[動画記録ファイル形式]	574
[ISO感度設定]	575
[ホワイトバランス]	576
[ピクチャーコントロール]	577
[カスタムピクチャーコントロール]	577

メニュー項目	🕮
[アクティブD-ライティング]	577
[高感度ノイズ低減]	578
[回折補正]	578
[フリッカー低減]	579
[電子手ブレ補正]	580
[マイク感度]	581
[アッテネーター]	582
[録音帯域]	582
[風切り音低減]	583
[ヘッドホン音量]	583
[タイムコード]	584

動画撮影メニューのリセット

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します（🕮516）。

ファイル名設定

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

このカメラで撮影した動画のファイル名DSC_nnnn.movの「DSC」の3文字を任意に変更できます（🕮550）。

動画記録先

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

SDカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。

- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだファイル記録先のSDカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。

撮像範囲

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時の撮像範囲を変更できます。

DX自動切り換え

DXレンズを装着したときに、自動的に撮像範囲を［**DX**］に切り換えるかどうかを設定できます。

画像サイズ/フレームレート

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画を撮影するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。詳しくは、「画像サイズ/フレームレートおよび動画の画質について」（🕮264）をご覧ください。

動画の画質

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画の画質を［**高画質**］と［**標準**］から選べます。詳しくは、「画像サイズ/フレームレートおよび動画の画質について」（🕮264）をご覧ください。

動画記録ファイル形式

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画のファイル形式をMOVとMP4から選べます。

ISO感度設定

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時のISO感度に関する設定ができます。



項目	内容
［**制御上限感度**］	• 感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 2）を設定できます。 • 撮影モードが**P**、**S**、または**A**の場合と、撮影モード**M**で［**Mモード時の感度自動制御**］が［**する**］の場合は、ここで設定した感度が自動制御の上限になります。
［**Mモード時の感度自動制御**］	• **する**：撮影モードが**M**のときもカメラが自動的に動画撮影時のISO感度を変更します。 • **しない**：撮影モードが**M**のときに、［**Mモード時のISO感度**］で設定したISO感度に固定されます。 • 撮影モードが**M**以外の場合は常に感度自動制御が動作します。
［**Mモード時のISO感度**］	撮影モード**M**での動画撮影時のISO感度（100～Hi 2）を設定できます。

感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が上がると、被写体によっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生することがあります。
- ISO感度が上がると、ピントが合いにくくなることがあります。
- 上記の現象が発生する場合は、［**ISO感度設定**］の［**制御上限感度**］を下げて撮影してください。

ホワイトバランス

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

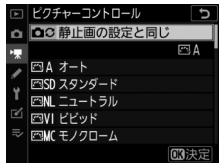
動画撮影時のホワイトバランスを設定できます。［**静止画の設定と同じ**］を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります（🕮553）。



ピクチャーコントロール

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時のピクチャーコントロールを設定できます。［**静止画の設定と同じ**］を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります（🕮553）。



カスタムピクチャーコントロール

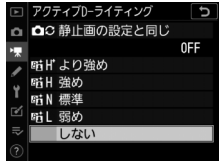
MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます（🕮554）。

アクティブD-ライティング

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時のアクティブD-ライティングを設定できます。［**静止画の設定と同じ**］を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります（🕮555）。



高感度ノイズ低減

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時に、ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します（🕮557）。

回折補正

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時の回折補正を設定できます（🕮559）。

フリッカー低減

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

ライブビュー表示中や動画記録中に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で画面に生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ［**オート**］をお使いください。［**オート**］にしていても、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、［**50 Hz**］と［**60 Hz**］から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では［**50 Hz**］を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では［**60 Hz**］を選んでください。

フリッカー低減についてのご注意

- ［**オート**］に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをすることをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 撮影モードが**M**以外の場合、フリッカー低減効果が得られないことがあります。そのような場合は、撮影モードを**M**に設定し、シャッタースピードを次の値にすることで、フリッカー現象を低減できます。
  - 電源周波数が50Hzの場合：1/100秒、1/50秒、1/25秒
  - 電源周波数が60Hzの場合：1/125秒、1/60秒、1/30秒

電子手ブレ補正

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時に電子手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。

項目	内容
［**する**］	• 動画撮影時に電子手ブレ補正を行います。 • 動画の画像サイズを1920×1080 120p、1920×1080 100pまたは1920×1080スローに設定している場合、および撮影モードが**EFCT**の場合は電子手ブレ補正は機能しません。 • ［**する**］に設定すると、画角が小さくなり表示が少し拡大されます。 • 動画のISO感度の上限は51200に制限されます。
［**しない**］	電子手ブレ補正を行いません。

マイク感度

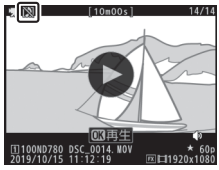
MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイクの感度の程度を設定します。

項目	内容
［**オート**］	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
［**マニュアル**］	マイク感度を手動調整します。［1］～［20］の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。 
［**録音しない**］	音声は記録しません。

音声が記録されていない動画の表示について

［**マイク感度**］を［**録音しない**］にして撮影した動画の場合、🔇（音声なしマーク）が表示されます。



アッテネーター

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**有効**］を選ぶと、大音量の環境下で動画撮影をするときに、マイク感度を減衰させて音割れを抑えます。

録音帯域

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイクの周波数特性を設定します。

項目		内容
WIDE	［**広帯域**］	低音域から高音域まで録音します。楽器演奏や街のざわめきの録音など、幅広いシーンに適しています。
VOICE	［**音声帯域**］	主に人の声を録音したいときに適しています。

風切り音低減

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**する**］を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなることがあります。

別売のステレオマイクロホンをお使いの場合は、カメラ側で［**風切り音低減**］を［**する**］に設定しても風切り音は低減されません。風切り音低減機能のあるステレオマイクロホンをお使いの場合は、ステレオマイクロホン側で設定してください。

ヘッドホン音量

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

ヘッドホン音量を、▲▼を押して調整できます。

タイムコード

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

フレームごとに「時・分・秒・フレーム」の情報（タイムコード）を記録した動画を撮影できます。タイムコードはファイル形式がMOVの動画にのみ記録できます。

項目	内容
［**タイムコード記録**］	• ［**する**］：動画にタイムコードを記録します。画像モニターにタイムコードが表示されます。 • ［**する（HDMI外部出力あり）**］：カメラと外部レコーダーをHDMIケーブルで接続している場合、外部レコーダーに記録される動画にタイムコードを記録します。外部レコーダーはAtomos社製Monitor Recorder（SHOGUN、NINJA、SUMOシリーズ）に対応しています。 • ［**しない**］：タイムコードを記録しません。
［**カウントアップ方式**］	• ［**レックラン**］：動画記録中のみタイムコードをカウントアップします。 • ［**フリーラン**］：常にタイムコードをカウントアップします。カメラの電源がOFFになっている場合もカウントアップしています。

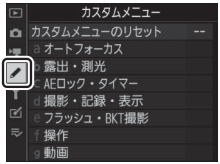
項目	内容
［**タイムコードの起点**］	• ［**リセット**］：現在表示されているタイムコードをリセットして「00:00:00.00」に戻します。 • ［**手動入力**］：時、分、秒、フレームをそれぞれ手動で設定できます。 • ［**現時刻**］：カメラに設定されている現在の時刻をそのままタイムコードとして使用します。あらかじめセットアップメニュー［**地域と日時**］で日時が正確に設定されていることを確認してください。
［**ドロップフレーム**］	［**する**］に設定すると、動画のフレームレートが30fpsまたは60fpsの場合に生じる実時間とタイムコードのずれを補正します。

HDMI接続時のご注意

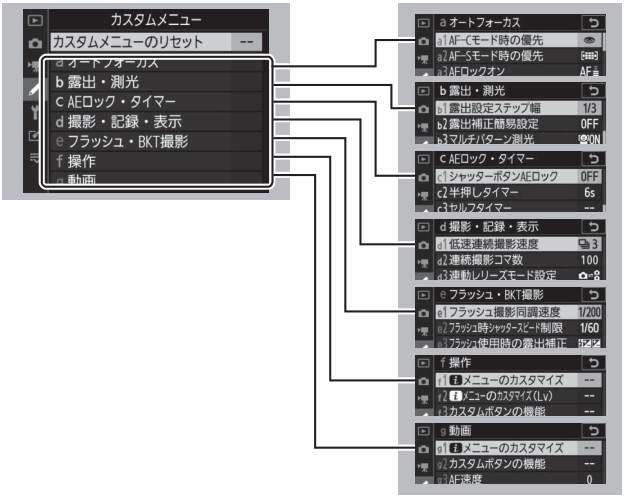
HDMI接続でテレビなどに外部出力している場合に、［**タイムコード記録**］が［**する（HDMI外部出力あり）**］に設定されていると、画像が乱れることがあります。

✎カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定

メニュー画面で✎タブを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。



カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。



カスタムメニューの項目は次の通りです。※1

メニュー項目			🕮
［カスタムメニューのリセット］			590
a［オートフォーカス］			
	a1	［**AF-C**モード時の優先］	590
	a2	［**AF-S**モード時の優先］	591
	a3	［**AF**ロックオン］	592
	a4	［**3D-**トラッキング時の顔認識］	592
	a5	［オートエリア**AF**時の顔と瞳認識］	593
	a6	［**AF**点数］	594
	a7	［縦/横位置フォーカスポイント切換］	595
	a8	［半押し**AF**レンズ駆動］	597
	a9	［フォーカスポイント循環選択］	597
	a10	［フォーカスポイント表示の設定］	598
	a11	［ローライト**AF**］	599
	a12	［**AF**設定時のフォーカスリング操作］※2	600

メニュー項目			🕮
b［露出・測光］			
	b1	［露出設定ステップ幅］	601
	b2	［露出補正簡易設定］	602
	b3	［マルチパターン測光］	603
	b4	［中央部重点測光範囲］	603
	b5	［基準露出レベルの調節］	604
c［**AE**ロック・タイマー］			
	c1	［シャッターボタン**AE**ロック］	605
	c2	［半押しタイマー］	605
	c3	［セルフタイマー］	606
	c4	［モニターのパワーオフ時間］	606

メニュー項目			🕮
d［撮影・記録・表示］			
	d1	［低速連続撮影速度］	607
	d2	［連続撮影コマ数］	607
	d3	［連動レリーズモード設定］	608
	d4	［露出ディレーモード］	608
	d5	［電子先幕シャッター］	609
	d6	［**M**モード時のシャッタースピード延長］	610
	d7	［連番モード］	611
	d8	［**EFFECTS**時の元画像保存］	613
	d9	［露出プレビュー（**Lv**）］	614
	d10	［格子線表示］	615
	d11	［ピーキング表示］	615
	d12	［イルミネーター点灯］	616
	d13	［連続撮影中の表示（**Lv**）］	616
	d14	［光学手ブレ補正］※3	617

メニュー項目			🕮
e［フラッシュ・**BKT**撮影］			
	e1	［フラッシュ撮影同調速度］	618
	e2	［フラッシュ時シャッタースピード制限］	620
	e3	［フラッシュ使用時の露出補正］	620
	e4	［ϟ使用時の感度自動制御］	621
	e5	［モデリング発光］	621
	e6	［**BKT**の順序］	622
f［操作］			
	f1	［?メニューのカスタマイズ］	623
	f2	［?メニューのカスタマイズ（**Lv**）］	626
	f3	［カスタムボタンの機能］	628
	f4	［**OK**ボタンの機能］	635
	f5	［コマンドダイヤルの設定］	637
	f6	［ボタンのホールド設定］	641
	f7	［インジケーターの＋/－方向］	642
	f8	[☀スイッチの機能]	642

メニュー項目			🕮
g［**動画**］			
	g1	［**メニューのカスタマイズ**］	643
	g2	［**カスタムボタンの機能**］	645
	g3	［**AF速度**］	650
	g4	［**AF追従感度**］	652
	g5	［**ハイライト表示**］	653

※1 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク（✱）を表示します。
※2 このメニューに対応した一部のレンズを装着したときのみ表示されます。
※3 手ブレ補正スイッチのない一部のAF-Pレンズを装着したときのみ表示されます。

カスタムメニューのリセット

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

カスタムメニューをリセットして初期設定に戻します（🕮518）。

a：オートフォーカス

a1：AF-Cモード時の優先

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFモードが**AF-C**のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

項目		内容
◉	［**レリーズ**］	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
▦	［**フォーカス**］	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

a2：AF-Sモード時の優先

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFモードが**AF-S**のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

項目		内容
	［**レリーズ**］	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
	［**フォーカス**］	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

a3：AFロックオン

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー



AFモードを**AF-C**に設定しているとき、または**AF-A**に設定していて**AF-C**で撮影しているときに、カメラと被写体の間を障害物や別の被写体が横切った場合のピント動作を設定できます。

- ［**5（鈍感）**］に設定すると、元の被写体からピントが外れにくくなります。
- ［**1（敏感）**］に設定すると、横切った被写体にピントが合いやすくなります。
- AFエリアモードが［**3D-トラッキング**］または［**オートエリアAF**］の場合、［**2**］、［**1（敏感）**］に設定していても、［**3**］を選んだときと同じ動作になります。

a4：3D-トラッキング時の顔認識

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ファインダー撮影時にAFエリアモードが［**3D-トラッキング**］の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔にピントを合わせるかどうかを選べます。

a5：オートエリアAF時の顔と瞳認識

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFエリアモードが［**オートエリアAF**］の場合、カメラが人物の顔や瞳を認識して顔や瞳にピントを合わせるかどうかを選べます。

項目	内容
［**顔認識と瞳認識する**］	ライブビュー撮影で静止画を撮影するときにカメラが人物の顔を認識すると、自動的に左右どちらかの瞳にピントを合わせます。瞳を認識できない場合、ファインダー撮影時、および動画撮影時は顔にピントを合わせます。
［**顔認識する**］	人物の顔を認識した場合、人物の顔にピントを合わせます。
［**しない**］	顔認識および瞳認識を行いません。

a6：AF点数

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFエリアモードを［**オートエリアAF**］以外にしているときの、手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

項目		内容
ALL	［**全点**］	全てのフォーカスポイントを選べます。選べるフォーカスポイントの数はAFエリアモードにより異なります。
1/2	［**スキップ**］	［**全点**］に比べて約1/4のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置を素早く動かせます。 • ライブビュー撮影時、AFエリアモードが［**ピンポイントAF**］または［**ワイドエリアAF（L）**］の場合は、選べるフォーカスポイントの数は変化しません。

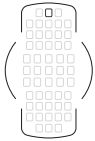
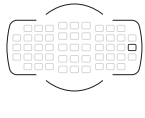
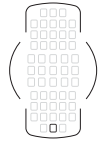
a7：縦/横位置フォーカスポイント切換

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

カメラを正位置（横位置）にしたときと、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントを設定できます。フォーカスポイントの位置は、ファインダー撮影時とライブビュー撮影時のそれぞれで設定できます（図はファインダー撮影時の例です）。

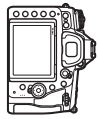
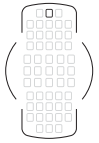
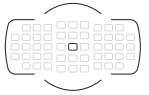
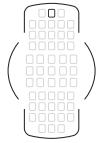
- ［**しない**］に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントを使います。



縦位置反時計回りに90°回転	横位置	縦位置時計回りに90°回転

- ［**する**］に設定すると、横位置と縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。

		
		
縦位置反時計回りに90°回転	横位置	縦位置時計回りに90°回転

a8：半押しAFレンズ駆動

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときに、ピント合わせをするかどうかを設定できます。［**しない**］を選んだ場合は、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。ピントを合わせるには、**AF-ON**ボタンまたはカスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］でAF-ON機能を割り当てたボタンを押してください。

a9：フォーカスポイント循環選択

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

［**する**］を選んだ場合、たとえば右端のフォーカスポイントを選んでいるときにマルチセレクターの▶を押すと、フォーカスポイントが左端に移動します。

a10：フォーカスポイント表示の設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

フォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

フォーカスポイント照明

ファインダー内のフォーカスポイントの照明方法を設定できます。

項目	内容
［**オート**］	被写体または背景が暗いときは、自動的にフォーカスポイントを赤色に照明します。
［**する**］	被写体または背景の明るさにかかわらず常にフォーカスポイントが赤色に照明します。背景が明るいときは、照明が見えづらい場合があります。
［**しない**］	フォーカスポイントを照明しません。

マニュアルフォーカス時の表示

項目	内容
［**する**］	マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。
［**しない**］	フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

ダイナミックAFモード時のアシスト表示

ダイナミックAFモード時に、自分で選んだフォーカスポイントの周辺のフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。

項目	内容
［**する**］	周辺のフォーカスポイントも同時に表示します。
［**しない**］	自分で選んだフォーカスポイントのみ表示します。

a11：ローライトAF

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

［**する**］に設定すると、ライブビュー撮影でAFモードが**AF-S**の場合または**AF-A**に設定していて**AF-S**で撮影している場合に、暗い場所でもピントが合いやすくなります。

- 静止画撮影時のみ有効になります。
- 撮影モードがAUTOまたは**EFCT**の場合は無効になります。
- インターバルタイマー撮影およびタイムラプス動画撮影時は無効になります。
- ［**する**］に設定している場合、ピント合わせの動作に時間がかかることがあります。
- ローライトAF実行中は画像モニターに「Low-light」が表示されます。また、画像モニターの表示がコマ落ちしたようになることがあります。

a12：AF設定時のフォーカスリング操作

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

このメニューに対応した一部のレンズを装着したときのみ表示されます。レンズのフォーカスリングの操作を有効にするかどうかを設定できます。

項目	内容
［**有効**］	オートフォーカス時にレンズのフォーカスリングを回すとマニュアルフォーカスに切り替わります（M/A（マニュアル優先オートフォーカスモード））。オートフォーカス時にシャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。
［**無効**］	フォーカスリングを回しても、オートフォーカスからマニュアルフォーカスに切り替わりません。

b：露出・測光

b1：露出設定ステップ幅

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、ISO感度、オートブラケティング補正値、露出補正値、およびフラッシュ調光補正量のステップ幅を設定できます。

b2：露出補正簡易設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

⊠ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

項目	内容
［**する（自動リセット）**］	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
［**する**］	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。電源をOFFにしても、半押しタイマーがオフになっても、設定した露出補正値はリセットされません。
［**しない**］	⊠ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

- 撮影モード**P**、**S**、**A**の場合に有効です。その他の撮影モードの場合、露出補正簡易設定は機能しません。
- 露出補正値を設定できるコマンドダイヤルは、撮影モードによって異なります。

b3：マルチパターン測光

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

測光モードが［**マルチパターン測光**］の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔の明るさに合わせて露出を決定するかどうかを選べます。この設定は、ファインダー撮影時のみ有効です。

項目		内容
ON	［**顔認識する**］	カメラが認識した顔を優先して測光を行います。
OFF	［**顔認識しない**］	カメラが顔を認識した場合も顔を優先した測光を行いません。

b4：中央部重点測光範囲

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

測光モードを［**中央部重点測光**］にすると、ファインダー中央部を重点的に測光して露出値を決定します。b4［**中央部重点測光範囲**］では、［**中央部重点測光**］設定時の測光範囲を変更できます。

- 非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E EDを装着しているときの測光範囲は、φ12 mm相当になります。

b5：基準露出レベルの調節

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（＋側）または暗め（－側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。

☑ 基準露出レベルの調節について

- カスタムメニュー b5［**基準露出レベルの調節**］を0以外に設定しても、±マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b5の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

c：AEロック・タイマー

c1：シャッターボタンAEロック

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

シャッターボタンを押してAEロックを行うかどうかを設定できます。

項目		内容
ON	［**する（半押し）**］	シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行います。
ON	［**する（連続撮影時）**］	シャッターボタンを半押ししたときにはAEロックを行わず、全押ししたときにAEロックを行います。
［**しない**］		シャッターボタンを押してもAEロックを行いません。

c2：半押しタイマー

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。

c3：セルフタイマー

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

項目	内容
［**時間**］	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
［**撮影コマ数**］	マルチセレクターの◔◒を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。
［**連続撮影間隔**］	［**撮影コマ数**］を2コマ以上に設定した場合に連続撮影するときの撮影間隔を選べます。

c4：モニターのパワーオフ時間

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

画像モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

- ［**画像の再生**］、［**メニュー表示**］、［**インフォ画面表示**］、［**撮影直後の画像確認**］、［**ライブビュー表示**］で画像モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 初期設定は、［**画像の再生**］と［**インフォ画面表示**］の場合は10 秒、［**メニュー表示**］は1分、［**撮影直後の画像確認**］は4秒、［**ライブビュー表示**］は10分です。
- 画像モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

d：撮影・記録・表示

d1：低速連続撮影速度

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

CL時の連続撮影速度を、［**6コマ/秒**］～［**1コマ/秒**］の間で設定できます。

d2：連続撮影コマ数

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるか1コマ～100コマの間で設定します。

- 撮影モードが**S**または**M**のときにシャッタースピードが4秒または4秒よりも遅い場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。

☑ 連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d2［**連続撮影コマ数**］で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります。このコマ数を超えると「**r00**」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d3：連動レリーズモード設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

別売のワイヤレスリモートコントローラーを接続した場合に、マスターカメラのレリーズに連動してリモートカメラをレリーズさせるかどうかを設定できます。

d4：露出ディレーモード

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約0.2～3秒後にシャッターがきれるように変更できます。

d5：電子先幕シャッター

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます。電子先幕シャッターで撮影することにより、カメラブレを低減できます。電子先幕シャッターで撮影するには、レリーズモードを**Q**、**Qc**、または**MUP**に設定してください。

項目	内容
［**有効**］	電子先幕シャッターで撮影します。
［**無効**］	メカニカルシャッターで撮影します。

☑ 電子先幕シャッターについて

- Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のレンズを装着していると、むら、すじなどが発生する場合があります。その場合は、［**無効**］に設定して撮影してください。
- **Q**、**Qc**、および**MUP**以外のレリーズモードの場合は、常にメカニカルシャッターで撮影します。
- 電子先幕シャッター使用時は、シャッタースピードの上限が1/2000秒、ISO感度の上限が51200に制限されます。

d6：Mモード時のシャッタースピード延長

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

［**する**］を選ぶと、撮影モード**M**で撮影するときのシャッタースピードを、最長900秒（15分）まで延長できます。天体撮影時など、長時間シャッターを開いて撮影したい場合に便利です。

- ［**する**］を選んでシャッタースピードを60秒または60秒よりも遅く設定した場合は、設定したシャッタースピードの表示と同じ秒時でシャッターがきれます。

d7：連番モード

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

項目	内容
［**する**］	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
［**しない**］	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。連番モードを［**する**］から［**しない**］に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に［**する**］に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
［**リセット**］	［**する**］に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
  - フォルダー内のファイル数が5000個に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が5000個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
  - ファイル番号が9999に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が9999を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）

  この場合は、カスタムメニュー d7［**連番モード**］を［**リセット**］した後、SDカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 記録フォルダー内に5000個のファイルが記録された後またはファイル番号が9999となった後に撮影すると、フォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 自動で作成されるフォルダーの番号は、使用中のフォルダー番号+1になります。ただし、既存フォルダーの番号と重複する場合、重複しない数字の中で最も若い数字になります。

d8：EFFECTS時の元画像保存

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

撮影モードがVI、POP、、、、または✐のときに、特殊効果をつけて撮影したJPEG画像だけを保存するか、JPEG画像のほかに特殊効果をつける前の元画像としてRAW画像も保存するかを設定できます。

項目	内容
［**する**］	特殊効果をつけて撮影したJPEG画像のほかに、RAW画像を保存します。
［**しない**］	特殊効果をつけて撮影したJPEG画像だけを保存します。

d9：露出プレビュー（Lv）

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**時に［**する**］を選ぶと、設定したシャッタースピード、絞り値、ISO感度での撮影で、どのような露出（明るさ）になるのかを画像モニターで確認しながら静止画撮影できます。

ヒント：露出プレビューについて

- シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合、露出プレビューには切り替わりません。また、次の場合は、露出プレビューの表示が実際に撮影される画像と異なります。
  - カスタムメニュー d6［**Mモード時のシャッタースピード延長**］を［**する**］にして、シャッタースピードを60秒以上に設定している場合
  - 別売スピードライト装着時
  - ［**アクティブD-ライティング**］または［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］を設定した場合
  - シャッタースピードを**x 200**に設定した場合
  - オートブラケティング撮影時
- 被写体が極端に明るい場合や暗い場合には、画像の明るさを正しく表示できないことがあります（露出インジケーターが点滅します）。
- 露出補正は通常と同じ±5段まで設定できますが、画像モニターで確認できるのは±3段までです。

d10：格子線表示

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

撮影時に構図用格子線を表示するかどうかを設定できます。

d11：ピーキング表示

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ライブビュー撮影でマニュアルフォーカスするときに、ピントが合っている部分の輪郭を色付きで表示するかどうかを設定できます。色の変更も可能です。

項目	内容
［**ピーキングの検出**］	ピーキングの感度を［**3（高感度）**］、［**2（標準）**］、［**1（低感度）**］、または［**しない**］から選びます。感度を高くするとピントが合っていると判断される範囲が広くなり、感度を低くすると範囲が狭くなります。撮影モードがスペシャルエフェクトモードのときは、ピーキングの検出を行いません。
［**ピーキング表示色**］	ピーキング表示で強調する部分の色を［**赤**］、［**黄**］、［**青**］、［**白**］から変更できます。

d12：イルミネーター点灯

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

表示パネルのイルミネーター（照明）点灯の設定を変更できます。

- ［**しない**］に設定すると、電源スイッチを☀に合わせたときだけイルミネーターを点灯します。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯します。
- ［**する**］に設定すると、半押しタイマーの作動中にイルミネーターが点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯しますが、シャッターボタンを放すと再度点灯します。

d13：連続撮影中の表示（Lv）

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ライブビュー撮影で連続撮影をしているときに、画像モニターを点灯するかどうかを設定します。［**しない**］を選んだときは、露光中の画像モニターのバックライトも消灯します。

d14：光学手ブレ補正

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

手ブレ補正スイッチのない一部のAF-Pレンズを装着したときのみ表示されます。［**する**］を選ぶと、手ブレ補正機能がONになり、シャッターボタンを半押ししたときに手ブレを補正します。［**しない**］を選ぶと手ブレ補正機能がOFFになります。

e：フラッシュ・BKT撮影

e1：フラッシュ撮影同調速度

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

項目	内容
［**1/200秒（オートFP）**］	フラッシュ撮影時の同調する最高速度を1/200秒に設定しますが、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時は1/200秒より速いシャッタースピードになると自動的にFP発光に切り替わります。 • 撮影モードが**P**または**A**で、表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードが1/200秒を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが1/200秒よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。オートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。 • 撮影モードが**S**または**M**でオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードを1/8000秒まで設定できます。
［**1/200秒**］	フラッシュ撮影時の同調する最高速度を、1/200～1/60秒の範囲で設定できます。
［**1/160秒**］	
［**1/125秒**］	
［**1/100秒**］	
［**1/80秒**］	
［**1/60秒**］	

シャッタースピードの同調速度を固定するには

撮影モードが**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニュー e1［**フラッシュ撮影同調速度**］で設定した値に固定するには、最も低速側（30秒または**- -**）の次の位置を選んでください。表示パネルまたはファインダー内表示に**X**（フラッシュシンクロマーク）と設定した同調速度が表示されます。

FP発光について

- フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます。［**1/200秒（オートFP）**］に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。
- ［**1/200秒（オートFP）**］に設定すると、フラッシュインフォ画面に「FP」が表示されます。

e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

撮影モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を設定できます。

スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や撮影モードが**S**、**M**の場合には、e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。

e3：フラッシュ使用時の露出補正

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

項目		内容
±▣	［**全体を補正**］	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
▣	［**背景のみ補正**］	背景の露出だけを補正します。

e4：ϟ使用時の感度自動制御

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に感度自動制御を行う場合の、露出を合わせる対象を設定できます。

項目		内容
	［**被写体と背景**］	主な被写体以外の背景も適切な露出となるように、感度自動制御を行います。
	［**被写体のみ**］	主な被写体が適切な露出となるように、感度自動制御を行います。

e5：モデリング発光

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

［**する**］の場合、別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時にカメラの**Pv**ボタンを押して、モデリング発光ができます。

e6：BKTの順序

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

項目		内容
N	[0] → [−] → [+]	「補正なし」→「−側に補正」→「+側に補正」の順になります。
−→+	[−] → [0] → [+]	「−側に補正」→「補正なし」→「+側に補正」の順になります。

- 静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］の［**オートブラケティングのセット**］が［**ADLブラケティング**］の場合、e6［**BKTの順序**］の設定を変更しても補正順序は変わりません。

f：操作

f1：iメニューのカスタマイズ

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

ファインダー撮影時にiボタンを押して表示されるiメニューの割り当てを、次の機能から選んで変更できます。iメニュー項目の設定方法については、「iメニューの項目を変更する（iメニューのカスタマイズ）」（🕮347）をご覧ください。

項目		🕮
	［撮像範囲設定］	129
QUAL	［画質モード］	134
SIZE	［画像サイズ］	137
	［メモリーカード情報表示］	624
	［露出補正］	175
ISO	［ISO感度設定］	187
WB	［ホワイトバランス］	195
	［ピクチャーコントロール］	243
RGB	［色空間］	554

項目		🕮
	［アクティブD-ライティング］	254
NR	［長秒時ノイズ低減］	556
ISO NR	［高感度ノイズ低減］	557
	［測光モード］	166
	［フラッシュモード］	465
	［フラッシュ調光補正］	469
AF	［AFモード］	140
	［AFエリアモード］	145
BKT	［オートブラケティング］	224
	［多重露出］	287
HDR	［HDR（ハイダイナミックレンジ）］	256

項目		🕮
	［**インターバルタイマー撮影**］	298
	［**タイムラプス動画**］	315
FOCUS	［**フォーカスシフト撮影**］	328
	［**レリーズモード情報表示**］	624

項目		🕮
	［**カスタムボタンの機能**］	628
DLY	［**露出ディレーモード**］	608
	［**Bluetooth通信機能**］	625
	［**Wi-Fi通信機能**］	625

メモリーカード情報表示

画像を記録するときに使用するSDカードスロットや、SDカードを2枚使用しているときの記録方法を確認できます。この項目は表示のみで、設定を変更することはできません。

- SDカードを2枚使用しているときの記録方法は、静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］（🕮279）で設定できます。

レリーズモード情報表示

レリーズモードの設定を表示します。この項目は表示のみで、設定を変更することはできません。

Bluetooth通信機能

Bluetooth通信機能のオン/オフを切り換えられます。

Wi-Fi通信機能

Wi-Fi通信機能のオン/オフを切り換えられます。

- Wi-Fi通信機能をオンにすると、パソコンやSnapBridgeアプリをインストールしたスマートフォンと無線接続することができます。
- Wi-Fi通信機能がオンの場合に**i**メニュー画面で［**Wi-Fi通信機能**］を選び、㊗ボタンを押すと［**Wi-Fi接続を停止**］が表示されます。㊗ボタンを押すと、無線通信を終了します。

f2：iメニューのカスタマイズ（Lv）

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ライブビュー時にiボタンを押して表示されるiメニューの割り当てを、次の機能から選んで変更できます。iメニュー項目の設定方法については、「iメニューの項目を変更する（iメニューのカスタマイズ）」（🕮347）をご覧ください。

項目		🕮
FX	[撮像範囲設定]	129
QUAL	[画質モード]	95
SIZE	[画像サイズ]	97
	[メモリーカード情報表示]	624
	[露出補正]	175
ISO	[ISO感度設定]	187
WB	[ホワイトバランス]	195
	[ピクチャーコントロール]	243
RGB	[色空間]	554

項目		🕮
	[アクティブD-ライティング]	254
	[長秒時ノイズ低減]	556
ISONR	[高感度ノイズ低減]	557
	[測光モード]	166
	[フラッシュモード]	465
	[フラッシュ調光補正]	469
AF	[AFモード]	142
	[AFエリアモード]	150
BKT	[オートブラケティング]	224
	[多重露出]	287
HDR	[HDR（ハイダイナミックレンジ）]	256

項目		🕮
	［インターバルタイマー撮影］	298
	［タイムラプス動画］	315
FOCUS	［フォーカスシフト撮影］	328
SL	［サイレント撮影（静止画**Lv**）］	570
	［レリーズモード情報表示］	624
	［カスタムボタンの機能］	628

項目		🕮
DLY	［露出ディレーモード］	608
Exp	［露出プレビュー］	614
PEAK	［ピーキング表示］	615
☼	［モニターの明るさ］	658
	［**Bluetooth**通信機能］	625
	［**Wi-Fi**通信機能］	625
	［ネガフィルムデジタイズ］	343

f3：カスタムボタンの機能

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

静止画撮影時にカメラのボタンを押したとき、またはボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、⊛ボタンを押してください。



項目	
Pv	[**プレビューボタン**]
Fn	[**Fnボタン**]
AE/AF	[**AE/AFロックボタン**]
AF-ON	[**AF-ONボタン**]
BKT	[**BKTボタン**]
🎥	[**動画撮影ボタン**]

- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。

項目		Pv	Fn	AE/AF	AF-ON	BKT	🎥
AF-ON	[**AF-ON**]	●	●	●	●	—	—
AF	[**AF-L**]	●	●	●	●	—	—
AF	[**AE-L（ホールド）**]	●	●	●	●	—	—
AF	[**AE-L（レリーズでリセット）**]	●	●	●	●	—	—
AF	[**AE-L**]	●	●	●	●	—	—
AF	[**AE-L/AF-L**]	●	●	●	●	—	—
FL	[**FV-L**]	●	●	●	—	—	—

項目		PV	PL	AEL AFL	AF-ON	BKT	🌞
⚡/⚡	[⚡発光禁止/許可切換]	●	●	—	—	—	—
	[プレビュー]	●	●	—	—	—	—
	[プレビュー（Lv時絞り開放）]	●	●	—	—	—	—
	[マルチパターン測光簡易設定]	●	●	—	—	—	—
	[中央部重点測光簡易設定]	●	●	—	—	—	—
	[スポット測光簡易設定]	●	●	—	—	—	—
*	[ハイライト重点測光簡易設定]	●	●	—	—	—	—
BKT	[BKT自動連写]	●	●	—	—	—	—
+RAW	[プラスRAW記録]	●	●	—	—	—	—
	[格子線表示]	●	●	—	—	—	—
	[ファインダー内水準器]	●	●	—	—	—	—
	[マイメニュー]	●	●	—	—	—	—
	[マイメニューのトップ項目へジャンプ]	●	●	—	—	—	—
	[再生]	●	●	—	—	—	—
	[撮像範囲選択]	●	●	—	—	—	●
	[アクティブD-ライティング設定]	●	●	—	—	—	—
	[測光モード]	—	—	—	—	—	●
BKT	[オートブラケティング]	—	—	—	—	●	—
	[多重露出]	—	—	—	—	●	—
HDR	[HDR（ハイダイナミックレンジ）]	—	—	—	—	●	—
DLY	[露出ディレーモード]	●	●	—	—	—	—
	[シャッター・絞り値1段選択]	●	●	—	—	—	—
Non-CPU	[手動設定済みレンズの選択]	●	●	—	—	—	—
[設定しない]		●	●	●	●	●	●

• 割り当てられる機能は次の通りです。

割り当てられる機能		内容
AF-ON	[**AF-ON**]	ボタンを押すと、**AF-ON**ボタンを押したときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
AF	[**AF-L**]	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
AE	[**AE-L（ホールド）**]	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AE	[**AE-L（レリーズでリセット）**]	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AE	[**AE-L**]	ボタンを押している間、AEロックを行います。
AF	[**AE-L/AF-L**]	ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
FL	[**FV-L**]	別売のスピードライト使用時は、FVロックを行い、もう一度ボタンを押すと解除します。

割り当てられる機能		内容
⚡/⚡	[**⚡発光禁止/許可切換**]	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。
	[**プレビュー**]	ファインダー撮影時にボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、ボタンを押している間、被写界深度が確認できます。ライブビュー撮影時にボタンを押すと、設定した絞り値に絞り込まれます。
	[**プレビュー(Lv時絞り開放)**]	ライブビューを使って静止画を撮影するときに、ボタンを押すと絞りが開放になり、ピント位置が確認しやすくなります。
	[**マルチパターン測光簡易設定**]	ボタンを押している間、測光モードが[**マルチパターン測光**]になります。
	[**中央部重点測光簡易設定**]	ボタンを押している間、測光モードが[**中央部重点測光**]になります。
⊡	[**スポット測光簡易設定**]	ボタンを押している間、測光モードが[**スポット測光**]になります。
⊡*	[**ハイライト重点測光簡易設定**]	ボタンを押している間、測光モードが[**ハイライト重点測光**]になります。

割り当てられる機能		内容
BKT	［**BKT自動連写**］	• 静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］の［**オートブラケティングのセット**］が［**WBブラケティング**］以外の場合でレリーズモードが**CH**、**CL**、または**Qc**のときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケティング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きオートブラケティング撮影をします。また、レリーズモードが**S**または**Q**のときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケティング設定コマ数を連続撮影します。 • ［**オートブラケティングのセット**］が［**WBブラケティング**］の場合は、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対してWBブラケティングを行います。
+RAW	［**プラスRAW記録**］	• 画質モードがJPEG形式に設定されている場合、ボタンを押すと画像モニターの画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度ボタンを押すと［**プラスRAW記録**］を解除します。 • RAW画像は静止画撮影メニュー［**RAW記録**］の設定で記録されます。

割り当てられる機能		内容
	［**格子線表示**］	ボタンを1回押すと、ファインダーや画像モニターに構図用格子線を表示します。もう一度ボタンを押すと、格子線の表示を終了します。
	［**ファインダー内水準器**］	ボタンを1回押すと、ファインダーに水準器インジケーターを表示します。もう一度ボタンを押すと、水準器表示を終了します。
	［**マイメニュー**］	ボタンを押すと、マイメニューを表示します。
	［**マイメニューのトップ項目へジャンプ**］	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
	［**再生**］	ボタンを押すと再生画面を表示します。
	［**撮像範囲選択**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮像範囲の設定を変更できます。
	［**アクティブD-ライティング設定**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブD-ライティングの設定を変更できます。
	［**測光モード**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、測光モードの設定を変更できます。
BKT	［**オートブラケティング**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップまたはアクティブD-ライティングの度合いを変更できます。

割り当てられる機能		内容
▣	［**多重露出**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと多重露出モード、サブコマンドダイヤルを回すと、多重露出のコマ数の設定を変更できます。
HDR	［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとHDRモード、サブコマンドダイヤルを回すとHDR強度の設定を変更できます。
DLY	［**露出ディレーモード**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、露出ディレーモードの設定を変更できます。
	［**シャッター・絞り値1段選択**］	カスタムメニューb1［**露出設定ステップ幅**］の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を1段ステップで設定できます。 • 撮影モードが**S**または**M**のとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを1段ステップで設定します。 • 撮影モードが**A**または**M**のとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を1段ステップで設定します。
Non-CPU	［**手動設定済みレンズの選択**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニュー［**レンズ情報手動設定**］で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
［**設定しない**］		ボタンは機能しません。

f4：OKボタンの機能

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

静止画撮影時または再生時にOKボタンを押したときの機能を設定できます。

ファインダー撮影時

割り当てられる機能		内容
RESET	［**フォーカスポイント中央リセット**］	OKボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
⁘	［**選択フォーカスポイント表示**］	OKボタンを押すと、選択中のフォーカスポイントが点灯します。
［**設定しない**］		OKボタンは機能しません。

ライブビュー撮影時

割り当てられる機能		内容
RESET	［**フォーカスポイント中央リセット**］	OKボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
🔍	［**拡大画面との切り換え**］	撮影時にOKボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度OKボタンを押すと、元の表示に戻ります。 ［**拡大画面との切り換え**］を選んでOKを押すと、拡大率を選べます。
［**設定しない**］		OKボタンは機能しません。

再生時

1コマ表示している画像が動画の場合、設定にかかわらずⓄⓀボタンを押すと動画を再生します。

割り当てられる機能		内容
	［**1コマとサムネイルの切り換え**］	ⓄⓀボタンを押すごとに、1コマ表示モードとサムネイル表示モード（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
	［**ヒストグラム表示**］	ⓄⓀボタンを押している間、ヒストグラムを表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
	［**拡大画面との切り換え**］	ⓄⓀボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度ⓄⓀボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • ［**拡大画面との切り換え**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、拡大率を選べます。 • サムネイル表示時も拡大表示できます。
	［**スロット/フォルダー指定**］	ⓄⓀボタンを押すと、［**スロット/フォルダー指定**］画面が表示され、画像を再生するスロットとフォルダーを指定できます。

f5：コマンドダイヤルの設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができます。

回転方向の変更

露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- ［**露出補正の設定時**］または［**シャッタースピード/絞り値 設定時**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、オン☑とオフ☐を切り換えられます。
- ⓚボタンを押すと、設定が完了します。

メインとサブの入れ換え

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。

項目	内容
［**露出設定**］	［**する**］を選ぶと、メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。［**する（Aモード）**］を選ぶと、撮影モード**A**のときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
［**AF設定**］	［**する**］を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してAFエリアモードを、サブコマンドダイヤルを回してAFモードを設定します。

絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に撮影モードが**A**または**M**の場合、レンズの絞りリングで絞り値を設定できるように変更できます。

項目	内容
［**サブコマンドダイヤル**］	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします（［**メインとサブの入れ換え**］の［**露出設定**］を［**する**］に設定した場合は、メインコマンドダイヤルで絞り値をセットします）。
［**絞りリング**］	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ（Gタイプ、Eタイプレンズ）を装着時に絞り値を設定する場合は、［**絞り値の設定方法**］での設定にかかわらず、サブコマンドダイヤルで設定します。
- 非CPUレンズ装着時に絞り値を設定する場合は、セットアップメニュー［**レンズ情報手動設定**］（🕮349）の項目を設定してから、レンズの絞りリングで設定します。

再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセレクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

項目	内容
［**する**］	**再生時**： • 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルを回すと、［**サブコマンドダイヤルで画像送り**］で設定した方法でコマ送りします。 • サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、ページを切り換えます。 **メニュー画面表示時**※： メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。
ON［**する（撮影後確認を除く）**］	［**する**］と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
［**しない**］	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセレクターで行います。

※サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、OKボタンかマルチセレクターの▶を押してください。

サブコマンドダイヤルで画像送り

1コマ表示時にサブコマンドダイヤルを回したときのコマ送りの方法を設定できます。この設定を有効にするには、［**再生/メニュー画面で使用**］を［**する**］または［**する（撮影後確認を除く）**］にします。

項目		内容
［**10コマ**］		10コマずつコマ送りします。
［**50コマ**］		50コマずつコマ送りします。
★	［**レーティング**］	レーティングが設定された画像だけをコマ送りして表示します。［**レーティング**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、表示するレーティングを限定できます。
🔑	［**プロテクト**］	プロテクト（保護）した撮影画像だけをコマ送りして表示します。
📷	［**静止画のみ**］	静止画だけをコマ送りして表示します。
🎬	［**動画のみ**］	動画だけをコマ送りして表示します。
🗀	［**フォルダー**］	再生フォルダーを切り換えます。

f6：ボタンのホールド設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

［**する**］に設定すると、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するときに、指を放してもコマンドダイヤル単独で設定できる状態が維持できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。

- ［**ボタンのホールド設定**］の対象ボタンは、ボタン、**ISO**（FORMAT）ボタン、**BKT**ボタン、（ボタン）、**?**/（**WB**）ボタン、（**QUAL**）ボタン、（）ボタン、AFモードボタンです。
- f3またはg2［**カスタムボタンの機能**］で［**撮像範囲選択**］、［**アクティブD-ライティング設定**］、［**測光モード**］、［**オートブラケティング**］、［**多重露出**］、［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］、［**露出ディレーモード**］、［**シャッター・絞り値1段選択**］、［**手動設定済みレンズの選択**］を割り当てたボタンも、［**ボタンのホールド設定**］の対象になります。

f7：インジケーターの+/−方向

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ファインダー内表示、表示パネル、およびインフォ画面に表示される、インジケーターの+と−方向を入れ換えることができます。

項目		内容
+0−		インジケーターの+側を左に、−側を右に表示します。
−0+		インジケーターの−側を左に、+側を右に表示します。

f8：☀スイッチの機能

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

電源スイッチを☀マークの方向に回したときに、表示パネルのイルミネーター（照明）のみ点灯するか、イルミネーターとインフォ画面を点灯するかを設定できます。

g：動画

g1：iメニューのカスタマイズ

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

動画撮影時にiボタンを押して表示されるiメニューの割り当てを、次の機能から選んで変更できます。iメニュー項目の設定方法については、「iメニューの項目を変更する（iメニューのカスタマイズ）」（🕮347）をご覧ください。

項目		🕮
FX	［撮像範囲設定］	129
QUAL	［画像サイズ/フレームレート/画質］	264
	［動画記録先］	572
	［露出補正］	175
ISO	［ISO感度設定］	187
WB	［ホワイトバランス］	195
	［ピクチャーコントロール］	243
	［アクティブD-ライティング］	254
	［測光モード］	166

項目		🕮
AF	［AFモード］	142
	［AFエリアモード］	150
	［電子手ブレ補正］	580
	［マイク感度］	581
ATT	［アッテネーター］	582
	［録音帯域］	582
	［風切り音低減］	583
	［ヘッドホン音量］	583
	［カスタムボタンの機能］	628

項目		🕮
PEAK	[**ピーキング表示**]	615
▨	[**ハイライト表示**]	653
☼	[**モニターの明るさ**]	658
ᛒ	[**Bluetooth通信機能**]	625

項目		🕮
(ᵀ)	[**Wi-Fi通信機能**]	625
⊛	[**マルチセレクターによるパワー絞り**]	644
⊡	[**マルチセレクターによる露出補正**]	644

マルチセレクターによるパワー絞り

マルチセレクターによるパワー絞りを有効にするかどうかを設定できます。[**有効**] に設定すると、▲を押している間、開放絞り側に絞りが動きます。また、▼を押している間、最小絞り側に絞りが動きます。

マルチセレクターによる露出補正

マルチセレクターによる露出補正を有効にするかどうかを設定できます。[**有効**] に設定すると、▲▼を押して露出補正を設定できます。

g2：カスタムボタンの機能

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

動画撮影時にカメラのボタンを押したとき、またはボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、Ⓚボタンを押してください。



項目	
Pv	［**プレビューボタン**］
Fn	［**Fnボタン**］
AE-L/AF-L	［**AE/AFロックボタン**］
AF-ON	［**AF-ONボタン**］
●	［**シャッターボタン**］

- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。

項目		Pv	Fn	AE-L/AF-L	AF-ON	●
◎	［**パワー絞り（開放絞り側）**］	●	—	—	—	—
◎	［**パワー絞り（最小絞り側）**］	—	●	—	—	—
±	［**露出補正（＋側）**］	●	—	—	—	—
±	［**露出補正（－側）**］	—	●	—	—	—
▦	［**格子線表示**］	●	●	—	—	—

項目	Pv	Fn	AF-L	AF-ON	
［撮像範囲選択］	●	●	—	—	—
［アクティブD-ライティング設定］	●	●	—	—	—
［AF-ON］	—	—	●	●	—
［AF-L］	—	—	●	●	—
［AE-L（ホールド）］	—	—	●	●	—
［AE-L］	—	—	●	●	—
［AE-L/AF-L］	—	—	●	●	—
［静止画撮影］	—	—	—	—	●
［動画撮影］	—	—	—	—	●
［設定しない］	●	●	●	●	—

- 割り当てられる機能は次の通りです。

割り当てられる機能	内容
［パワー絞り（開放絞り側）］	**Pv**ボタンを押している間、開放絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］の［**Fnボタン**］が［**パワー絞り（最小絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
［パワー絞り（最小絞り側）］	**Fn**ボタンを押している間、最小絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］の［**プレビューボタン**］が［**パワー絞り（開放絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。

割り当てられる機能		内容
	［**露出補正（＋側）**］	**Pv**ボタンを押している間、＋側に露出補正を行います。カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］の［**Fnボタン**］が［**露出補正（－側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**露出補正（－側）**］	**Fn**ボタンを押している間、－側に露出補正を行います。カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］の［**プレビューボタン**］が［**露出補正（＋側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**格子線表示**］	ボタンを1回押すと、画像モニターに構図用格子線を表示します。もう一度ボタンを押すと、格子線の表示を終了します。
	［**撮像範囲選択**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画撮影時の撮像範囲の設定を切り換えられます。動画記録中は、撮像範囲の切り換えはできません。
	［**アクティブD-ライティング設定**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画のアクティブD-ライティングの設定を変更できます。
AF-ON	［**AF-ON**］	ボタンを押すと、**AF-ON**ボタンを押したときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

割り当てられる機能		内容
AF	[**AF-L**]	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
AE	[**AE-L（ホールド）**]	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AE	[**AE-L**]	ボタンを押している間、AEロックを行います。
AF AE	[**AE-L/AF-L**]	ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
📷	[**静止画撮影**]	シャッターボタンを全押しすると、アスペクト比16：9の静止画を撮影します。

割り当てられる機能		内容
🎥	[**動画撮影**]	シャッターボタンを半押しすると、ライブビューを開始します。フォーカスモードセレクターが**AF**の場合、ライブビュー中にシャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われます。また、全押しすると、動画記録を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画記録を終了します。 • [**動画撮影**] に設定すると、動画撮影以外にシャッターボタンを使う操作は行えません。 • ライブビューを終了するには、LVボタンを押してください。 • 別売のワイヤレスリモートコントローラーまたはリモートコード使用時には、ワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。
[**設定しない**]		ボタンは機能しません。

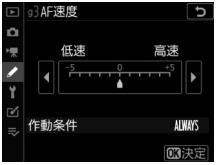
☑ パワー絞りについて

- 撮影モード**A**または**M**のときのみ動作します。
- 🚫マークが画像モニターに表示されているときは、パワー絞りは動作しません。
- パワー絞りの動作中は画面にちらつきが発生します。

g3：AF速度

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

このメニューに対応したレンズを装着したときに、動画撮影時のピント合わせの速度を設定できます。



設定したAF速度が有効な条件を［**作動条件**］で設定します。

項目		内容
ALWAYS	［**常時有効**］	ライブビューセレクターを🎥に合わせているときは、常に設定したAF速度で動作します。
REC	［**記録中のみ有効**］	動画を記録しているときだけ設定したAF速度で動作します。それ以外は最高速（+5）でピントを合わせます。

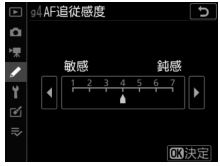
このメニューに対応しているレンズ

［**AF速度**］で設定した内容は、AF-Pレンズおよび下記レンズの装着時のみ有効になります。その他のレンズの場合、［**AF速度**］の設定にかかわらずピント合わせの速度は常に高速となります。

- AF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E ED
- AF-S DX NIKKOR 16–80mm f/2.8–4E ED VR
- AF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR II
- AF-S DX NIKKOR 18–140mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–6.3G ED VR
- AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED
- AF-S NIKKOR 24mm f/1.8G ED
- AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8E ED VR
- AF-S NIKKOR 28mm f/1.4E ED
- AF-S NIKKOR 35mm f/1.8G ED
- AF-S DX NIKKOR 55–200mm f/4–5.6G ED VR II
- AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 105mm f/1.4E ED
- AF-S NIKKOR 120–300mm f/2.8E FL ED SR VR
- AF-S NIKKOR 180–400mm f/4E TC1.4 FL ED VR
- AF-S NIKKOR 200–500mm f/5.6E ED VR
- AF-S NIKKOR 300mm f/4E PF ED VR
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/5.6E PF ED VR
- AF-S NIKKOR 600mm f/4E FL ED VR

g4：AF追従感度

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー



動画撮影時の被写体にピントを合わせる感度を1～7の範囲で設定できます。

- [**7（鈍感）**] に設定すると、元の被写体からピントが外れにくくなります。
- [**1（敏感）**] に設定すると、被写体がフォーカスポイントから外れた場合、フォーカスポイントの範囲内にある他の被写体にすぐにピントを合わせます。

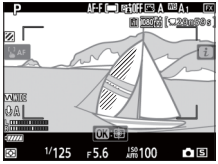
g5：ハイライト表示

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

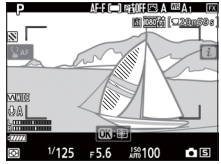
動画撮影時に、ハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示できます。

表示パターン

［**パターン1**］または［**パターン2**］を選ぶと、動画撮影時にハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示できます。



パターン1



パターン2

ハイライト表示のしきい値

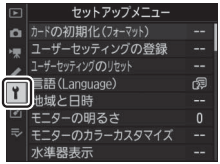
ハイライト表示時に、どの程度の明るさをハイライトとして扱うかを設定できます。値が小さいほど暗い部分もハイライトとして表示します。［**255**］を選ぶと白とびする部分だけがハイライトされます。

☑ ハイライト表示について

マニュアルフォーカスで撮影するときに、ハイライト表示およびピーキング表示の両方を有効にしているとピーキング表示のみ表示されます。マニュアルフォーカス時にハイライト表示したい場合は、カスタムメニュー d11［**ピーキング表示**］の［**ピーキングの検出**］を［**しない**］に設定してください。

セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定

メニュー画面でタブを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。



セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
［**カードの初期化（フォーマット）**］	656
［**ユーザーセッティングの登録**］	657
［**ユーザーセッティングのリセット**］	657
［**言語（Language）**］	657
［**地域と日時**］	658
［**モニターの明るさ**］	658
［**モニターのカラーカスタマイズ**］	659
［**水準器表示**］	661
［**インフォ画面の表示設定**］	662
［**AF微調節の設定**］	663
［**レンズ情報手動設定**］	672

メニュー項目	🕮
［**イメージセンサークリーニング**］	673
［**クリーニングミラーアップ**］※	674
［**イメージダストオフデータ取得**］	675
［**ピクセルマッピング**］	679
［**画像コメント**］	681
［**著作権情報**］	682
［**電子音**］	684
［**タッチ操作**］	686
［**HDMI**］	686
［**位置情報**］	687

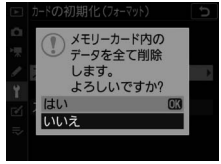
メニュー項目	🕮
［リモコン（WR）設定］	688
［リモコン（WR）のFnボタンの機能］	691
［機内モード］	691
［スマートフォンと接続］	692
［PCと接続］	696
［ワイヤレストランスミッター（WT-7）］	700

メニュー項目	🕮
［認証マークの表示］	700
［電池チェック］	701
［カードなし時レリーズ］	702
［メニュー設定の保存と読み込み］	703
［カメラの初期化］	708
［ファームウェアバージョン］	708

※バッテリー残量表示が  以下のときは選べません。

カードの初期化（フォーマット）

MENUボタン ➡ セットアップメニュー



SDカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで［**はい**］を選ぶと、選んだスロットのSDカードを初期化します。**初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。

カードの初期化についてのご注意

［**カードの初期化（フォーマット）中です。**］のメッセージが画像モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、SDカードを取り出さないでください。

ヒント：ボタン操作による初期化

- 🗑（FORMAT）ボタンと**ISO**（FORMAT）ボタンを同時に2秒以上押し、表示パネルとファインダー内表示に**For**が点滅している間に、もう一度🗑（FORMAT）ボタンと**ISO**（FORMAT）ボタンを同時に押すと、表示パネルで点滅しているSDカードを初期化します。
- SDカードが2枚入っている場合は、表示パネルで点滅している側のSDカードを初期化します。**For**が点滅しているときにメインコマンドダイヤルを回すと、初期化するスロットを切り換えられます。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。

ユーザーセッティングの登録

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

よく使う機能（ユーザーセッティング）を、あらかじめ撮影モードダイヤル**U1**と**U2**に登録できます（🕮115）。

ユーザーセッティングのリセット

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

登録したユーザーセッティングをリセットします（🕮118）。

言語（Language）

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を設定できます。お買い上げの国や地域によって、表示される言語は異なります。

地域と日時

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

項目	内容
［**現在地の設定**］	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、［**日時の設定**］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
［**日時の設定**］	［**現在地の設定**］で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
［**日付の表示順**］	日付の年、月、日の表示順を選びます。
［**夏時間の設定**］	現在地で夏時間が実施されている場合は［**する**］に、そうでない場合は［**しない**］に設定します。［**する**］にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は［**しない**］です。

カメラの内蔵時計の設定が初期化されている場合は、表示パネルにCLOCKマーク、インフォ画面に⏲マークをそれぞれ点滅表示して警告します。

モニターの明るさ

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

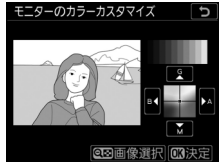
画像モニターの明るさをマルチセレクターの▲▼を押して調整できます。+にすると明るく、−にすると暗くなります。

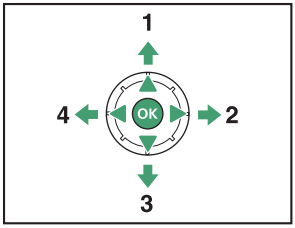
モニターのカラーカスタマイズ

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

画像モニターの色調を好みに合わせて変更できます。

- マルチセレクターで画像モニターの色味を調整できます。▲▼◀▶を押すたびに、画像モニターの色味が次のように変わります。⊛ボタンを押すと決定します。





1 グリーンが強くなる
2 アンバーが強くなる
3 マゼンタが強くなる
4 ブルーが強くなる

- 画像モニターの色味を調整すると、メニュー表示や画像再生時、ライブビュー中の表示全てに反映されますが、撮影した画像または動画には反映されません。
- 最後に撮影した画像または最後に再生した画像がサンプルとして表示されます。撮影した画像がSDカード内にない場合、グレーで表示されます。

- （）ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。画像を選んでボタンを押すと、選んだ画像がサンプルとして表示されます。
- 画像の選択画面で（**QUAL**）ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



水準器表示

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、画像モニターにローリング方向とピッチング方向の水準器を表示します。

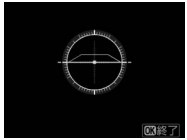
- カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、ローリング方向の場合は水準器表示の基準線が緑色に変わります。ピッチング方向の場合は中央の●が緑色に変わります。
- 水準器の1目盛は、5°を表します。



カメラがローリング方向、ピッチング方向とも正位置の場合



カメラがローリング方向に傾いている場合



カメラがピッチング方向に傾いている場合

水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

インフォ画面の表示設定

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

明るい場所や暗い場所で画像モニターが見づらいときにインフォ画面の見え方を設定できます。



黒文字表示

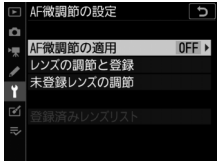


白文字表示

項目	内容
［**自動**］	インフォ画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。
［**手動**］	手動でインフォ画面の表示を切り換えます。 **B**［**黒文字**］：明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターが点灯し、文字を黒く表示します。 **W**［**白文字**］：暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。

AF微調節の設定

MENUボタン ➡ セットアップメニュー



装着したレンズのピント位置を、好みなどに合わせて微調節できます。

- 必要な場合のみAF微調節を行ってください。
- AF微調節は、普段の撮影でよく使用する撮影距離で行うことをおすすめします。たとえば、近い距離でAF微調節を行った場合、遠い被写体に対してはAF微調節の効果が低下することがあります。

項目	内容
[**AF微調節の適用**]	• [**する**]：AF微調節の設定が有効になります。 • [**しない**]：AF微調節を行いません。
[**レンズの調節と登録**]	装着しているCPUレンズの微調節値を、ファインダー撮影用とライブビュー撮影用で個別に登録できます（🕮665）。 • 最大20種類のレンズを登録できます。 • 非CPUレンズは登録できません。 • すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズを登録すると微調節値が上書きされます。ただし、登録済みのレンズでも、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。
[**未登録レンズの調節**]	[**レンズの調節と登録**] で登録していないレンズを装着したときに一律で微調節する値を、ファインダー撮影用とライブビュー撮影用で個別に設定できます（🕮667）。

項目	内容
［**登録済みレンズリスト**］	［**レンズの調節と登録**］で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで㊙を押すと、［**識別番号入力**］画面が表示されます。 • ［**識別番号入力**］画面では、レンズの識別番号を変更できます。㊚㊛を押して識別番号を選んで、㊙ボタンを押します。［**レンズの調節と登録**］は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号などを設定しておくと、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。



☑ 登録したレンズを削除するには

［**レンズの調節と登録**］で登録したレンズを削除するには、［**登録済みレンズリスト**］画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、🗑（RAW）ボタンを押します。

AF微調節の設定と微調節値の登録方法

1 AF微調節の設定を行うレンズをカメラに装着する

2 セットアップメニューの［AF微調節の設定］で［レンズの調節と登録］を選んでを押す

3 ［ファインダー撮影用］または［ライブビュー撮影用］を選んでマルチセレクターのを押す

AF微調節の設定画面が表示されます。設定画面はズームレンズを装着した場合と単焦点レンズを装着した場合で異なります。



ズームレンズの場合



単焦点レンズの場合

4 ◀▶を押して微調節値を変更する

- ＋20～－20の範囲で調節できます。
- 今回の微調節値は▮で、前回設定した微調節値は△で表示されます。
- ズームレンズを装着している場合は、広角側（WIDE）と望遠側（TELE）で個別に調節できます。広角側と望遠側を切り換えるには▲▼を押します。
- ピントの合う位置は、微調節値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調節値が小さいほどカメラに近づきます。

5 ⊛ボタンを押して設定を登録する

ヒント：AF微調節の自動設定について

ライブビュー画面を見ながらピント合わせを行い、AF微調節の値を自動で設定することができます。ライブビュー時に手順3の［**ファインダー撮影用**］の設定画面で🔍（📷）ボタンを押すと、「**AF微調節の自動設定**」（🕮668）の手順2の画面に移動します。

未登録レンズ装着時の微調整値の設定方法

1 セットアップメニューの［**AF微調節の設定**］で［**未登録レンズの調節**］を選んで㊨を押す

2 ［ファインダー撮影用］または［ライブビュー撮影用］を選んでマルチセレクターの㊨を押す

AF微調節の設定画面が表示されます。

3 ㊧㊨を押して微調節値を変更する

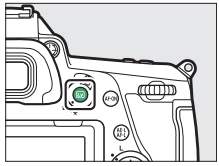
- ＋20～－20の範囲で調節できます。
- 今回の微調節値は▮で、前回設定した微調節値は△で表示されます。
- ピントの合う位置は、微調節値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調節値が小さいほどカメラに近づきます。

4 ㊫ボタンを押して設定を登録する

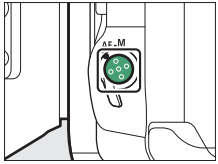
AF微調節の自動設定

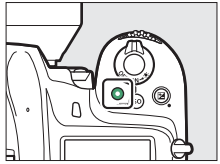
AF微調節を自動で行う方法は次の通りです。

1 ライブビューセレクターを📷に合わせてLvボタンを押す



2 AFモードボタンと動画撮影ボタンを2秒以上同時に押す





ズームレンズの場合

- 広角側と望遠側を個別に設定するためのメニューが表示されます。



- [**WIDE**]（広角側）または［**TELE**］（望遠側）を選んでⓀボタンを押すと、AF微調節の自動設定画面に切り替わり、フォーカスポイントが画面中央に表示されます。

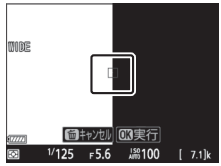


単焦点レンズの場合

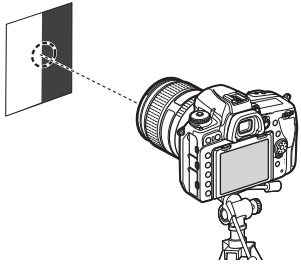
- AF微調節の自動設定画面に切り替わり、フォーカスポイントが画面中央に表示されます。



3 シャッターボタンを半押ししてピント合わせを行う



- ズームレンズの場合は、あらかじめレンズのズームリングを回してワイド端またはテレ端に合わせてから、ピント合わせを行ってください。
- ピント合わせをするときは、カメラを三脚に固定し、コントラストの高い平面を被写体として選んでください。



- 絞りを開放にすることをおすすめします。
- ピント合わせの後に拡大表示をしてピントが正確に合っているか確認してください。必要に応じてマニュアルフォーカスでお好みのピント位置に調節してください。
- 暗い環境では、ライブビューでのオートフォーカスや、AF微調節の自動設定ができない場合があります。

4 ⓚボタンを押す

- AF微調節の自動設定が実行され、装着しているCPUレンズの微調節値が［**登録済みレンズリスト**］に登録されます。
- 自動設定が成功すると、［**AF微調節の適用**］が［**する**］に変更され、AF微調節が有効になります。
- ズームレンズの場合、広角側と望遠側のどちらかの設定が終わったら、もう一方の設定を行います。🔍（**QUAL**）ボタンを押してから、手順2～4と同じ手順で自動設定を行ってください。
- 同一モデルのレンズは複数登録できません。

5 ⓚボタンを押して設定を終了する

AF微調節の自動設定に失敗したときは

AF微調節の自動設定に失敗したときは、画像モニターにメッセージが表示されます。再度自動設定を行うには🔍（**QUAL**）ボタンを、自動設定を中止するにはⓚボタンを押します。🔍（**QUAL**）ボタンを押した場合は、手順2の状態に戻ります。

レンズ情報手動設定

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

非CPUレンズの情報を登録します。非CPUレンズの焦点距離と開放絞り値をカメラに登録することにより、CPUレンズ装着時と同じ機能が一部使えるようになります。

項目	内容
［**レンズNo.**］	レンズ情報を登録するレンズNo.を選びます。
［**焦点距離（mm）**］	レンズの焦点距離を選びます。
［**開放絞り値**］	レンズの開放絞り値を選びます。

イメージセンサークリーニング

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

項目	内容
[**実行**]	イメージセンサークリーニングを実行します。
[**電源スイッチに連動**]	• [**電源ONで実行**]：電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 • [**電源OFFで実行**]：電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 • [**電源ONとOFFで実行**]：電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 • [**実行しない**]：電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

クリーニングミラーアップ

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

イメージセンサークリーニングでゴミやほこりを取りきれないときは、［**クリーニングミラーアップ**］を選ぶと、ミラーが上った状態で固定され、ローパスフィルターを市販のブロアーでクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。ローパスフィルターのクリーニング方法については、「ローパスフィルターをブロアーで掃除する」（凹827）をご覧ください。

イメージダストオフデータ取得

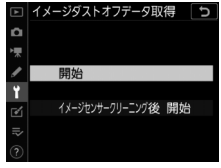
MENUボタン ➡ セットアップメニュー

NX Studioの「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、NX Studioのヘルプをご覧ください。

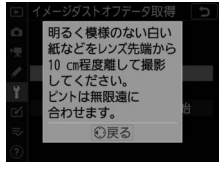
イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

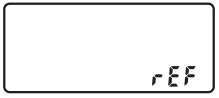
- [**開始**] を選んでOKボタンを押すと、[**イメージダストオフデータ取得**] 画面が表示されます。



- [**イメージセンサークリーニング後開始**] を選んでOKボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、[**イメージダストオフデータ取得**] 画面が表示されます。



• 表示パネルとファインダー内表示には、**rEF**が表示されます。



• データ取得を取り消したいときは、**MENU**ボタンを押してください。

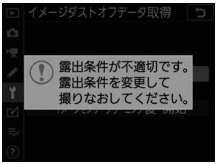
2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

• オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。

• マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押ししてイメージダストオフデータを取得する

- シャッターボタンを押すと、画像モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、画像モニターにメッセージが表示されて手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、NX Studioのイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選択後に撮影することをおすすめします。

イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、［**イメージダストオフデータ取得**］を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、FXフォーマットで焦点距離が50mm以上のレンズをおすすめします。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、図のように表示されます。



ピクセルマッピング

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

撮像素子のチェックと最適化を行います。撮影した画像に予期しない輝点が記録されて気になる場合は、次の手順でピクセルマッピングを行ってください。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いください。
- レンズにレンズキャップ（フロントキャップ）を取り付け、ファインダーに付属のアイピースキャップを取り付けた状態でピクセルマッピングを行ってください。

1 セットアップメニューの［ピクセルマッピング］を選ぶ

カメラの電源をONにして、**MENU**ボタンを押し、セットアップメニューの［**ピクセルマッピング**］を選びます。

2 ［実行］を選ぶ

ピクセルマッピングを開始します。実行中は、表示パネルに**buSY**が点滅します。

3 ピクセルマッピングが終了したら、カメラの電源を**OFF**にする

ピクセルマッピングについてのご注意

- ピクセルマッピング中は、カメラの操作はできません。カメラの電源をOFFにしたり、バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- カメラ内部の温度が高くなっているときは、ピクセルマッピングを実行できない場合があります。

画像コメント

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、NX Studioの［**情報**］タブで確認できます。

コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。［**コメント入力**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮61）をご覧ください。

コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、［**コメント添付**］を選んで▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。⊛ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。



☑ 画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます。

著作権情報

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、NX Studioの［**情報**］タブで確認できます。

撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。［**撮影者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと名前の入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮61）をご覧ください。

著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、［**著作権情報添付**］を選んで▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。OKボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



☑ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、［**著作権情報添付**］の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- ［**著作権情報**］の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

☑ 画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます。

電子音

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

電子音設定

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。

- [**電子音設定**] を [**有効**] に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
  - セルフタイマー作動中
  - ミラーアップ撮影で2回目にシャッターボタンを全押ししたとき
  - インターバルタイマー撮影、タイムラプス動画撮影、およびフォーカスシフト撮影終了時
  - オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、AFモードを**AF-C**に設定している場合または**AF-A**に設定していて**AF-C**で撮影している場合、およびカスタムメニュー a2 [**AF-Sモード時の優先**] が [**レリーズ**] の場合は、電子音は鳴りません）
  - タッチパネル操作時
  - 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとしたとき

- ［**タッチ音無効**］を選ぶと、タッチパネル操作時の電子音のみ鳴らないようにできます。
- 静止画撮影メニュー［**サイレント撮影（静止画Lv）**］が［**する**］の場合、動画撮影時、およびレリーズモードが**Q**または**Qc**の場合は、［**電子音**］の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

音量

電子音の音量を設定できます。

音の高さ

電子音の音の高さを［**高音**］と［**低音**］から選べます。

タッチ操作

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

画像モニターのタッチ操作の機能を設定できます。

タッチ操作の設定

タッチ操作の有効または無効を切り換えられます。[**再生時のみ有効**]を選ぶと、再生画面でのみタッチ操作ができます。

1コマ送り時のフリック操作

1コマ表示モードで、次の画像を表示するフリック操作を設定できます。

項目		内容
⬅	[**左←右**]	画像モニターの右側から左側にフリックすると、次の画像が表示されます。
➡	[**左→右**]	画像モニターの左側から右側にフリックすると、次の画像が表示されます。

HDMI

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます（🕮396）。

位置情報

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

SnapBridgeアプリを使用してスマートフォンから位置情報を取得したときや、GPS機器と接続して位置情報を取得したときの設定を変更できます。スマートフォンからの位置情報の取得方法については、詳しくはSnapBridgeアプリのヘルプをご覧ください。

項目	内容
［**半押しタイマー**］	GPS機器を接続しているときに［**有効**］を選ぶと、カメラを操作していないとき、カスタムメニュー c2の［**半押しタイマー**］で設定された時間で半押しタイマーがオフになります。カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。
［**情報表示**］	スマートフォンまたはGPS機器から取得した情報を表示します。表示される項目は、接続した機器によって異なります。
［**衛星による日時合わせ**］	［**する**］を選ぶと、GPS機器から取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。

リモコン（WR）設定

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を装着している場合に、LEDランプの点灯とリンクモードを設定できます。また、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応した別売スピードライトとワイヤレス接続する場合にも使用できます。

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を使用するには

WR-R10のファームウェアをVer.3.0以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

LEDランプの点灯

カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10の動作状態を表すLEDランプを点灯させるかどうかを設定できます。LEDランプが表す動作状態については、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書をご覧ください。

リンクモード

他のカメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10や、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応したスピードライトと接続する方法を選べます。接続する機器も、必ず同じ設定を選んでください。

項目	内容
［**ペアリング**］	ペアリングを実行した機器のみと通信を行うモードです。カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のペアリングボタンを押して、接続する機器とペアリングを行います。 • ペアリングを行っていない機材とは通信しないため、近くで他の機材を使用した撮影が行われていても混信しません。 • ペアリングの実行は1台ずつ行うため、使用する機材が多い場合はPINコードの使用をおすすめします。

項目	内容
［**PINコード**］	同一の4桁の数字（PINコード）が設定された機器同士で通信を行うモードです。任意の数字4桁のPINコードを入力できます。 • マルチセレクターの◀▶で桁を選んで、▲▼で数値を変更します。Ⓚボタンを押すと設定が変更され、画面に設定したPINコードが表示されます。 • 使用する機材が多い場合などにおすすめします。 • 同じPINコードに設定したカメラが複数台ある場合、最初にスピードライトと接続したカメラだけがそのスピードライトを制御できます（その他のカメラは未接続状態となり、WR-R10のLEDランプが点滅します）。



• ペアリング済みのワイヤレスリモートコントローラーからの電波は、［**リンクモード**］の設定にかかわらずWR-R10で受信できます。ワイヤレスリモートコントローラー WR-1をご使用の場合、WR-1のリンクモードをペアリングモードに設定してください。

リモコン（WR）のFnボタンの機能

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

Fnボタンのある別売のワイヤレスリモートコントローラーで、**Fn**ボタンを押したときの機能を以下の項目から設定できます。各項目についての詳しい説明は、カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］をご覧ください。

項目	
AF-ON	［**AF-ON**］
AF	［**AF-L**］
AE	［**AE-L（レリーズでリセット）**］
AE	［**AE-L**］
AF	［**AE-L/AF-L**］
FL	［**FV-L**］

項目	
⚡/⚡	［**発光禁止/許可切換**］
	［**プレビュー**］
	［**プレビュー（Lv時絞り開放）**］
+RAW	［**プラスRAW記録**］
Lv	［**ライブビュー**］※
［**設定しない**］	

※カメラのLvボタンと同じ機能になります。

機内モード

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

［**有効**］にすると、BluetoothおよびWi-Fiを使った無線通信をOFFにすることができます。

- 内蔵無線機能以外の無線通信機器との接続を無効にする場合は、カメラから無線通信機器を取り外してください。

スマートフォンと接続

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラとスマートフォンの接続設定などを行えます。

ペアリング（Bluetooth）

スマートフォンとBluetooth接続します。

項目	内容
［**ペアリング開始**］	スマートフォンとのペアリングを開始します（🕮415）。
［**ペアリング済み機器**］	カメラとペアリングしたことのあるスマートフォンを表示しています。接続するスマートフォンを切り換えたい場合、ここでスマートフォンを選びます。
［**Bluetooth通信機能**］	［**有効**］を選ぶと、Bluetooth接続を開始します。

送信指定（Bluetooth）

スマートフォンに送信する静止画を指定できます。カメラで撮影後すぐにスマートフォンに送信することもできます。

項目	内容
［**撮影後自動送信指定**］	［**する**］に設定すると、カメラで撮影した画像をスマートフォンに自動で送信します。カメラでの設定にかかわらず、ファイルは常に2MサイズのJPEG画像として送信されます。動画撮影時に撮影した静止画は自動送信されません。手動で送信指定を行ってください。
［**選択送信指定**］	画像を選んでスマートフォンに送信できます。選んだ画像には送信指定のマークがつきます。
［**送信指定の一括解除**］	送信設定マークを全て削除します。

Wi-Fi接続

スマートフォンとWi-Fi接続します。

■■ Wi-Fi接続を開始

Wi-Fi接続を開始します。

- カメラのSSIDとパスワードが表示されます。スマートフォンでSSIDを選び、パスワードを入力して接続してください（🕮406）。
- Wi-Fi接続中は［**Wi-Fi接続を停止**］に変更されます。
- ［**Wi-Fi接続を停止**］を選ぶとカメラとのWi-Fi接続を停止します。

■■ Wi-Fi接続の設定

Wi-Fi関連の情報を設定できます。

項目	内容
[**SSID**]	カメラのSSIDを変更できます。
[**認証/暗号**]	Wi-Fiの認証方式を［**OPEN**］または［**WPA2-PSK-AES**］から選びます。
[**パスワード**]	カメラのパスワードを変更できます。
[**チャンネル**]	通信で使用するチャンネルを設定します。 • ［**オート**］を選ぶとカメラが自動でチャンネルを選びます。 • ［**マニュアル**］を選ぶとチャンネルを手動で設定できます。
[**現在の設定**]	現在のWi-Fi関連の設定を確認できます。
[**接続設定の初期化**]	［**はい**］を選ぶとWi-Fiの接続設定を初期化します。

■■ 電源OFF中の通信

［**する**］に設定すると、カメラとスマートフォンをBluetooth接続している場合、カメラの電源をOFFにしてもスマートフォンとの通信を継続して画像を送信できます。

PCと接続

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラに内蔵されたWi-Fi機能を使用してパソコンと接続するときの設定ができます。

Wi-Fi通信機能

接続設定を行った後で［**有効**］を選ぶと、現在［**接続設定**］で選ばれている設定でWi-Fi接続を開始します。

接続設定

［**新規追加**］を選ぶと、接続設定を作成できます（🕮433、439）。

- 作成済みの接続設定が複数ある場合、㊎ボタンを押して使用する接続設定を変更して無線接続を開始します。
- 接続設定を選んでマルチセレクターの▶を押すと、接続設定の内容を変更できます。

項目	内容
［**全般**］	• ［**接続設定名**］：接続設定名を変更できます。初期設定では接続するネットワークのSSIDが設定されています。 • ［**パスワードによる保護**］：［**有効**］に設定すると、接続設定の内容を変更する場合にパスワード入力が必要になります。［**有効**］を選んで▶を押すと、パスワードが設定できます。

項目	内容
［**無線**］	• **インフラストラクチャーモードの接続設定の場合**：接続するネットワークに合わせて、無線接続の設定を行います。 - ［**SSID**］：接続するネットワークのSSIDを設定します。 - ［**チャンネル**］：自動的に設定されます。 - ［**認証/暗号**］：［**OPEN**］または［**WPA2-PSK-AES**］から選びます。 - ［**パスワード**］：接続するネットワークのパスワードを入力します。 • **アクセスポイントモードの接続設定の場合**：カメラの設定を変更できます。 - ［**SSID**］：カメラのSSIDを変更できます。 - ［**チャンネル**］：無線チャンネルを［**オート**］または［**マニュアル**］で設定できます。 - ［**認証/暗号**］：［**OPEN**］または［**WPA2-PSK-AES**］から選びます。 - ［**パスワード**］：［**認証/暗号**］を［**WPA2-PSK-AES**］に設定した場合、カメラのパスワードを変更できます。
［**TCP/IP**］	インフラストラクチャーモードの接続設定の場合、TCP/IPの情報を設定できます。IPアドレスは必ず入力してください。 • ［**自動取得**］を［**有効**］に設定すると、IPアドレスとサブネットマスクをDHCPサーバーまたは自動プライベートIPアドレッシングによって取得します。 • ［**無効**］に設定した場合は［**アドレス**］（IPアドレス）と［**マスク**］（サブネットマスク）を手動で入力してください。

オプション

カメラの通信機能を設定できます。

■■ 撮影後自動送信

［**する**］に設定すると、撮影と同時に画像を自動送信します。

- 撮影された画像はいったんSDカードに記録され、自動的に送信設定が行われます。撮影する場合は必ずカメラにSDカードを挿入してください。
- 動画および動画撮影時に撮影した静止画は自動送信されません。これらのファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください（🕮447）。

■■ 送信後ファイル削除

［**する**］に設定すると、送信終了後にSDカード内のファイルが自動的に削除されます。

- ［**する**］に設定するよりも前に送信設定されたファイルは、送信が終了しても削除されません。
- カメラの状態によっては、ファイルの削除を一時停止する場合があります。

■■ RAW＋JPEG送信設定

RAWとJPEGを同時に記録する画質モードで撮影された画像を送信する場合に、RAW画像とJPEG画像の両方を送信するか、JPEG画像のみを送信するかを選べます。

■■ 全送信マーク解除

［**する**］を選ぶと、SDカード内の全ての画像送信マークを解除します。画像送信中の場合は、送信を中断します。

MACアドレス

MACアドレスが表示されます。

ワイヤレストランスミッター（WT-7）

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

別売のワイヤレストランスミッター WT-7を装着して有線LANまたは無線LANでパソコンやFTPサーバーと通信する場合の設定を行います。このメニュー項目は、WT-7を装着したときのみ設定できます。

- WT-7を装着して電源をONにすると、［**スマートフォンと接続**］および［**PCと接続**］は無効になります。
- ［**ワイヤレストランスミッター**］以外の［**ハードウェアの選択**］、［**接続設定**］、［**オプション**］の設定については、WT-7の使用説明書をご覧ください。

ワイヤレストランスミッター

装着したWT-7を使用するには［**使用する**］を選びます。

認証マークの表示

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。

電池チェック

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。



項目	内容
［**残容量**］	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
［**撮影回数**］	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
［**劣化度**］	バッテリーの劣化度合いが5段階のバーグラフで表示されます。 • バーグラフが「0」（NEW）のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」（）のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

［**撮影回数**］に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がSDカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、［**電池チェック**］で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

カードなし時レリーズ

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラにSDカードを入れていないときのレリーズ操作を設定できます。

項目		内容
LOCK	［**レリーズ禁止**］	SDカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK	［**レリーズ許可**］	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には［デモモード］と表示され、画像は記録できません。

メニュー設定の保存と読み込み

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

メニューの設定データをSDカードに保存できます。また、SDカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数の同一機種を同じ設定で使う場合などに便利です。

- SDカードを2枚使用している場合、スロット1に保存されます。
- 設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

メニュー設定の保存と読み込みができる機能	
再生メニュー	[**再生画面設定**]
	[**撮影直後の画像確認**]
	[**削除後の次再生画像**]
	[**縦位置自動回転**]

メニュー設定の保存と読み込みができる機能	
静止画撮影メニュー	［**ファイル名設定**］
	［**スロット2の機能**］
	［**撮像範囲**］
	［**画質モード**］
	［**画像サイズ**］
	［**RAW記録**］
	［**ISO感度設定**］
	［**ホワイトバランス**］
	［**ピクチャーコントロール**］（登録されたカスタムピクチャーコントロールは［**オート**］で保存します）
	［**色空間**］
	［**アクティブD-ライティング**］
	［**長秒時ノイズ低減**］
	［**高感度ノイズ低減**］
	［**ヴィネットコントロール**］
	［**回折補正**］
	［**自動ゆがみ補正**］
	［**フリッカー低減**］
	［**フラッシュ発光**］
	［**オートブラケティング**］
	［**サイレント撮影（静止画Lv）**］

メニュー設定の保存と読み込みができる機能	
動画撮影メニュー	［**ファイル名設定**］
	［**動画記録先**］
	［**撮像範囲**］
	［**画像サイズ/フレームレート**］
	［**動画の画質**］
	［**動画記録ファイル形式**］
	［**ISO感度設定**］
	［**ホワイトバランス**］
	［**ピクチャーコントロール**］（登録されたカスタムピクチャーコントロールは［**オート**］で保存します）
	［**アクティブD-ライティング**］
	［**高感度ノイズ低減**］
	［**回折補正**］
	［**フリッカー低減**］
	［**電子手ブレ補正**］
	［**マイク感度**］
	［**アッテネーター**］
	［**録音帯域**］
	［**風切り音低減**］
	［**ヘッドホン音量**］
	［**タイムコード**］（［**タイムコードの起点**］を除く）
カスタムメニュー	全メニュー

メニュー設定の保存と読み込みができる機能	
セットアップメニュー	［**ユーザーセッティングの登録**］
	［**言語（Language）**］
	［**地域と日時**］（［**日時の設定**］を除く）
	［**インフォ画面の表示設定**］
	［**レンズ情報手動設定**］
	［**イメージセンサークリーニング**］
	［**画像コメント**］
	［**著作権情報**］
	［**電子音**］
	［**タッチ操作**］
	［**HDMI**］
	［**位置情報**］（［**情報表示**］を除く）
	［**リモコン（WR）設定**］
	［**リモコン（WR）のFnボタンの機能**］
	［**カードなし時レリーズ**］

保存

カメラの設定データをSDカードに保存します。SDカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

読み込み

SDカードからカメラの設定データを読み込みます。SDカードが装着されていないときや、SDカードに設定データが記録されていないときは、［**読み込み**］は選べません。

設定データについてのご注意

SDカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSET***」です。「***」に入る文字はカメラの機種によって異なります。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

カメラの初期化

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

セットアップメニュー［**言語（Language）**］と［**地域と日時**］を除く、全ての設定をリセットして初期設定に戻します。著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元には戻せないのでご注意ください。

あらかじめセットアップメニュー［**メニュー設定の保存と読み込み**］で設定データを保存しておくことをおすすめします。

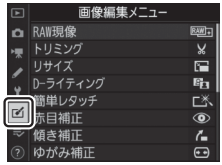
ファームウェアバージョン

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能

メニュー画面で画像編集タブを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



画像編集メニューでは、SDカード内の撮影済み画像を編集することができます。

- カメラにSDカードが入っていない場合やSDカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選択できません。
- 編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてSDカードに記録されます。
- 画像編集メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目		🕮
RAW	[**RAW現像**]	713
✂	[**トリミング**]	719
▣	[**リサイズ**]	720
D-Lighting	[**D-ライティング**]	726
✎	[**簡単レタッチ**]	727
👁	[**赤目補正**]	728

メニュー項目		🕮
📐	[**傾き補正**]	729
⊞	[**ゆがみ補正**]	730
▲	[**アオリ効果**]	732
◧	[**モノトーン**]	733
⧉	[**画像合成**] ※	734
🎞	[**動画編集（始点/終点設定）**]	743

※再生時のiメニューで［**画像編集**］を選んだ場合は表示されません。

画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

マルチセレクターの▲▼でメニュー項目を選び、▶を押します。



2 画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選びます。
- 🔍（**QUAL**）ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- 画像を選んでⓄⓀボタンを押すと、編集画面が表示されます。

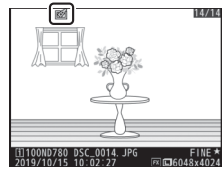


3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、**MENU**ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- ⓚボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には🖻が付きます。



🗹 選んだ画像を編集する

編集したい画像を再生し、**i**ボタンを押して［**画像編集**］を選ぶと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。

🗹 画像編集についてのご注意

- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらくすると、画像モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニュー c4［**モニターのパワーオフ時間**］の［**メニュー表示**］の時間を長く設定することをおすすめします。

🗹 繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、褪色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません（［**動画編集（始点/終点設定）**］を除く）。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

☑ 画質モードについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、［**画質モード**］が［**FINE★**］のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- RAW画像とJPEG画像を1枚のSDカードに同時に記録した場合は、RAW画像が画像編集の対象になります。

☑ 画像サイズについて

画像編集した画像は、元画像と同じ画像サイズで記録されます（［**RAW現像**］、［**トリミング**］および［**リサイズ**］を除く）。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

RAW画像をJPEG画像など他のファイル形式に変換することを「RAW現像」と呼びます。カメラでRAW画像をJPEG画像に変換する手順は次の通りです。

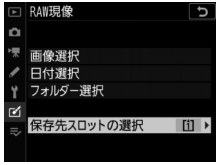
1 画像編集メニュー画面で［RAW現像］を選ぶ

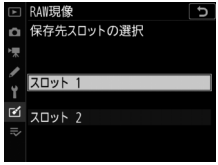
［**RAW現像**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。



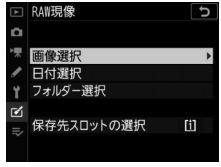
2 保存先のスロットを選ぶ

- SDカードを2枚使用している場合は、［**保存先スロットの選択**］を選んで㉂を押します。
- SDカードが1枚しか入っていない場合は、［**保存先スロットの選択**］を選べません。手順3に進んでください。
- ㊤㊦でスロットを選び、㊎ボタンを押します。





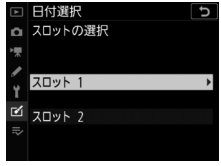
3 画像の選択方法を選ぶ



項目	内容
［**画像選択**］	選んだRAW画像をRAW現像します。複数のRAW画像を選んで一括でRAW現像することもできます。
［**日付選択**］	選択した日付に撮影したRAW画像を一括でRAW現像します。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内のRAW画像を一括でRAW現像します。

- ［**画像選択**］を選んだ場合は手順5にお進みください。

4 スロットを選択する



- RAW現像したい画像が記録されているスロットを選んで⊛を押します。
- SDカードが1枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

5 RAW現像する画像を選ぶ



［画像選択］を選んだ場合：

- マルチセレクターでRAW現像する画像を選びます。
- Q（**QUAL**）ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ⊖（📷）ボタンを押して設定します。設定すると✔が表示されます。もう一度⊖（📷）ボタンを押すと、✔が消えます。選んだ全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。
- ⊛ボタンを押して決定します。

［日付選択］を選んだ場合：



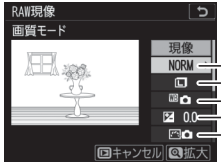
- 日付を選んで▶を押すと、チェックボックスのオン☑とオフ☐を切り換えられます。
- チェックボックスがオン☑になった日付の全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。
- ⊛ボタンを押して決定します。

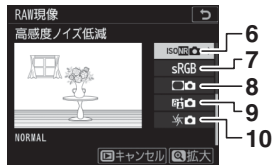
［フォルダー選択］を選んだ場合：

フォルダーを選んで⊛ボタンを押すと、選んだフォルダー内の全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。

6 表示されている項目をそれぞれ設定する

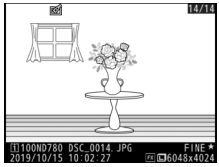
- プレビュー画像の下には、撮影時の設定が表示されています。
- [**撮影時設定**] を選ぶと（項目によっては選べないことがあります）、それぞれのRAW画像の撮影時の設定でRAW現像します。





1	画質モード（🕮134）
2	画像サイズ（🕮137）
3	ホワイトバランス（🕮195）
4	露出補正（🕮175）
5	ピクチャーコントロール（🕮243）
6	高感度ノイズ低減（🕮557）
7	色空間（🕮554）
8	ヴィネットコントロール（🕮558）
9	アクティブD-ライティング（🕮254）
10	回折補正（🕮559）

7 RAW現像する



- [**現像**] を選んでⓄⓀボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- 複数の画像を一度に処理する場合、[**現像**] を選んでⓄⓀボタンを押し、確認画面で [**はい**] を選んでⓄⓀボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU**ボタンを押してください。

☑ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やCamera Control Pro 2を使用して撮影したRAW画像、RAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- [**露出補正**] で設定できる明るさ（−2〜+2）は、通常の露出補正の段数とは異なります。

トリミング

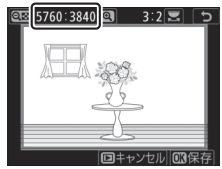
MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

操作	内容
切り抜く範囲を変更する	（**QUAL**）ボタンまたは（**⊡**）ボタンを押して切り抜く範囲を変更できます。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する	メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する	マルチセレクターを押してトリミングで切り抜く範囲を移動します。
トリミングを実行して画像を保存する	⊛ボタンを押すと、トリミングした画像が記録されます。

☑ トリミング画像についてのご注意

- トリミング後の画像サイズによっては、拡大表示できなくなります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲とアスペクト比（横：縦）により変わります。



リサイズ

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。SDカードを2枚使用している場合は、記録先のスロットも指定できます。

複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

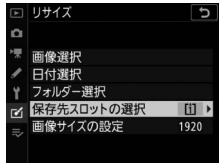
1 画像編集メニュー画面で［リサイズ］を選ぶ

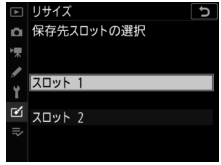
［**リサイズ**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。



2 保存先のスロットを選ぶ

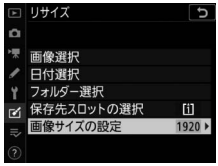
- SDカードを2枚使用している場合は、［**保存先スロットの選択**］を選んで▶を押します。
- SDカードが1枚しか入っていない場合は、［**保存先スロットの選択**］を選べません。手順3に進んでください。
- ▲▼でスロットを選び、OKボタンを押します。





3 画像サイズを設定する

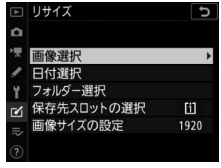
- [**画像サイズの設定**] を選んで㊐を押します。



- ㊊㊋で画像サイズ（長辺のピクセル数）を選び、㊎ボタンを押します。



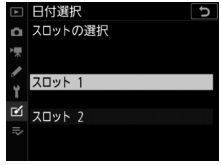
4 画像の選択方法を選ぶ



項目	内容
［**画像選択**］	選んだ画像のリサイズ画像を作成します。複数の画像を選んで一括でリサイズすることもできます。
［**日付選択**］	選択した日付に撮影した画像を一括でリサイズします。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内の全ての画像を一括でリサイズします。

［**画像選択**］を選んだ場合は手順6にお進みください。

5 スロットを選択する



- リサイズしたい画像が記録されているスロットを選んで▶を押します。
- SDカードが1枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

6 リサイズする画像を選ぶ

［画像選択］を選んだ場合：



- マルチセレクターでリサイズする画像を選びます。
- （**QUAL**）ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- （）ボタンを押して設定します。設定すると✓が表示されます。もう一度（）ボタンを押すと、✓が消えます。選んだ全ての画像を、手順3で設定した画像サイズにリサイズします。
- 画像を選択後、Ⓚボタンを押します。

［日付選択］を選んだ場合：



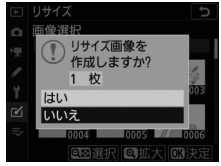
- 日付を選んで▶を押すと、チェックボックスのオン☑とオフ☐を切り換えられます。
- チェックボックスがオン☑になった日付の全ての画像を手順3で設定した画像サイズにリサイズします。
- 日付を選択後、⊛ボタンを押します。

［フォルダー選択］を選んだ場合：

- フォルダーを選んで⊛ボタンを押すと、選んだフォルダー内の全ての画像を手順3で設定した画像サイズにリサイズします。

7 リサイズ画像を作成する

確認画面で［**はい**］を選んで⊛ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



☑ リサイズ画像についてのご注意

リサイズ後の画像サイズによっては、拡大表示できなくなります。

D-ライティング

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後

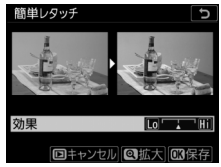
編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクターの◀▶を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



簡単レタッチ

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー



コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

- マルチセレクターの◀▶を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

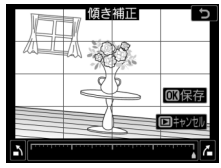
- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正についてのご注意

- 赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。
  - 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
  - ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。
- 赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

傾き補正

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

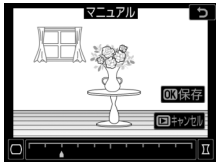


画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの◀▶を押すと、傾きを補正できます。
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

ゆがみ補正

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー



広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。［**オート**］を選ぶと画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。［**マニュアル**］を選ぶと自分でゆがみを補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- ［**オート**］は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。

- [**オート**] で補正を行った画像または静止画撮影メニュー [**自動ゆがみ補正**] で補正を行った画像の場合、[**マニュアル**] のみ選べます。一度 [**マニュアル**] で補正を行った画像を再度補正することはできません。
- マルチセレクターの◀を押すと糸巻き型のゆがみを、▶を押すとたる型のゆがみを補正できます。
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

ゆがみ補正についてのご注意

- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着し、撮像範囲を [**DX（24×16）**] 以外に設定して撮影した画像の場合、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。

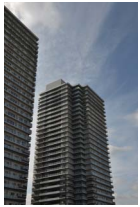
アオリ効果

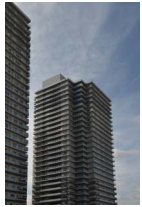
MENUボタン ➡ 画像編集メニュー



高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの◎◎◎◎でアオリの効果を調節できます。
- ㊗ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。


アオリ効果処理前

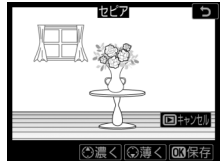

アオリ効果処理後

モノトーン

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。［**モノトーン**］を選ぶと色調を選ぶことができます。

項目	内容
［**白黒**］	モノクロになります。
［**セピア**］	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
［**クール**］	ブルー系のモノトーンになります。



- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- ［**セピア**］または［**クール**］を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

画像合成

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

SDカードに記録されている画像を重ね合わせて、1コマの画像に合成できます。RAW画像2コマを重ねる［**加算**］と、複数の画像の最も明るい部分または暗い部分を重ねる［**比較明合成**］と［**比較暗合成**］から選べます。

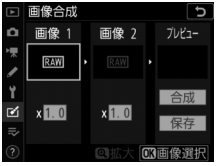
加算

RAW画像2コマを重ね合わせて1コマのJPEG画像に合成できます。



1 画像編集メニュー画面で［画像合成］を選ぶ

［**画像合成**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。



2 ［加算］を選ぶ

［**加算**］を選んで▶を押すと、画像編集画面が表示され、［**画像1**］欄がハイライト表示されます。

3 合成する画像の1コマ目を選ぶ

- ⓚボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
- ⍰（**QUAL**）ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



4 1コマ目の画像を決定する

ⓚボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、［**画像1**］欄にプレビューが表示されます。

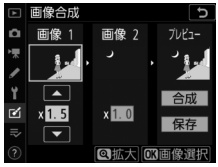


5 2コマ目の画像を選ぶ

⍟を押して［**画像2**］を選び、手順3～4と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



6 ゲインを調節する



- プレビュー欄に［**画像1**］と［**画像2**］を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、［**画像1**］または［**画像2**］を選んでから▲▼を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。

7 プレビュー欄に移動する



- ◀▶を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、［**保存**］を選んでⓀボタンを押してください。

8 合成画像を確認する



- ［**合成**］を選び、Ⓚボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、Q（⌧）ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。

9 合成画像を保存する

もう一度Ⓚボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



［加算］についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像は［**画質モード**］が［**FINE★**］のJPEG画像になります。
- 次の項目の設定が同じRAW画像のみ合成できます。
  - ［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］
  - ［**RAW記録**］の［**記録ビットモード**］
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、［**画像1**］で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

比較明合成、比較暗合成

複数の画像の最も明るい部分または暗い部分を重ね合わせて1コマのJPEG画像に合成できます。

1 [比較明合成] または [比較暗合成] を選ぶ

画像編集メニュー［**画像合成**］で［**比較明合成**］または［**比較暗合成**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

- 比較明合成：選んだ画像を比較し、最も明るい部分を選択して合成します。



- 比較暗合成：選んだ画像を比較し、最も暗い部分を選択して合成します。



2 画像の選択方法を選ぶ

項目	内容
［**画像選択（個別指定）**］	個別に選んだ画像を合成します。
［**画像選択（範囲指定）**］	2枚の画像を選択し、その間にある全ての画像を撮影時間順に合成します。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内の全ての画像を合成します。

3 スロットを選択する

- 合成したい画像が記録されているスロットを選んで⊛を押します。
- SDカードが1枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

4 合成する画像を選ぶ

[画像選択（個別指定）] を選んだ場合：

- マルチセレクターで合成する画像を選びます。
- （**QUAL**）ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- （）ボタンを押して設定します。設定すると☑が表示されます。もう一度（）ボタンを押すと、☑が消えます。選んだ全ての画像を手順1の内容で合成します。
- 画像を選択後、㊗ボタンを押します。

[画像選択（範囲指定）] を選んだ場合：

- マルチセレクターで合成する画像の範囲を設定すると、範囲内の全ての画像が手順1の内容で合成されます。
  - 範囲の始点および終点は、（）ボタンを押して設定します。
  - 始点および終点の画像には☑が表示され、その間の画像には☑が表示されます。
  - 範囲を変更する場合は、マルチセレクターを操作して始点および終点を設定し直します。**?**/（**WB**）ボタンを押すと、範囲の始点と終点を移動できます。
- （**QUAL**）ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- 合成する画像の範囲を設定後、ボタンを押します。

[フォルダー選択] を選んだ場合：

フォルダーを選んでボタンを押すと、選んだフォルダー内の全ての画像を手順1の内容で合成します。

5 合成画像を保存する

- 確認画面で［**はい**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。
- 画像合成の処理中にMENUボタンを押すと、画像合成を中止します。

［比較明合成］および［比較暗合成］についてのご注意

- 合成できる画像は、このカメラで撮影した画像だけです。機種の異なるカメラで撮影した画像は選べません。
- 次の項目の設定が同じ画像のみ合成できます。
  - ［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］
  - ［**画像サイズ**］
- 異なる画質モードで撮影した画像を合成した場合、合成画像の画質モードは一番高い画質で撮影された画像と同じになります。
- 合成する画像にRAW画像が含まれる場合、合成画像の画質モードは［**FINE★**］になります。
- RAW画像とJPEG画像を合成する場合、画像サイズはJPEG画像と同じになります。

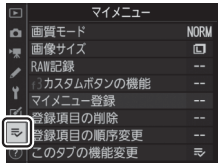
動画編集（始点/終点設定）

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

撮影した動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残すことができます（🕮271）。

マイメニュー /最近設定した項目

メニュー画面でタブを選ぶと、［**マイメニュー**］画面が表示されます。



☰マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

■ マイメニューを登録する

1 [☰マイメニュー] 画面で［マイメニュー登録］を選ぶ

［**マイメニュー登録**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。



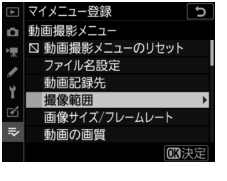
2 登録したいメニューを選ぶ

登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

マイメニューに登録する項目を選んでⓄⓀボタンを押します。

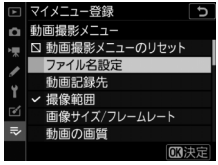


4 登録する項目の表示位置を選ぶ



▲▼で登録する項目の表示位置を選んで、Ⓚボタンを押します。

5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する



- ✔が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に☒が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録します。

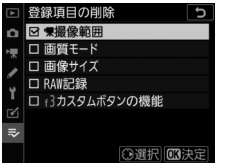
■ 登録した項目を削除する

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の削除] を選ぶ

[**登録項目の削除**] を選び、マルチセレクターの▶を押します。

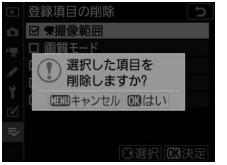
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- ▶を押すと、項目のチェックボックスが☑になります。
- 削除したい全ての項目に✔を入れます。



3 選んだ項目を削除する

OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度OKボタンを押すと、選んだ項目が削除されます。



☑ 登録した項目をボタン操作で削除するには

[**マイメニュー**] 画面で削除したい項目を選んでQUAL（🗑）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度QUAL（🗑）ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

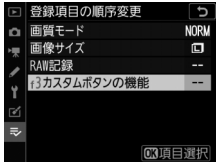
■■ 登録した項目の表示順序を変える

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の順序変更] を選ぶ

[**登録項目の順序変更**] を選び、マルチセレクターの▶を押します。

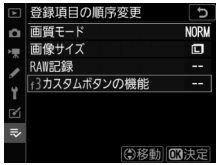
2 順番を変えたい項目を選ぶ

順番を変えたい項目を選んで、OKボタンを押します。



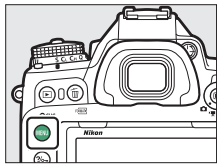
3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

- ▲▼で移動したい位置を選んで、OKボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。



4 [マイメニュー] 画面に戻る

MENUボタンを押すと、[**マイメニュー**] 画面に戻ります。





■ マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する

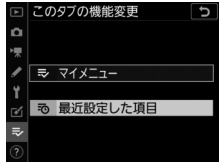
1 [マイメニュー] 画面で [このタブの機能変更] を選ぶ

[**このタブの機能変更**] を選び、マルチセレクターの▶を押します。



2 [最近設定した項目] を選ぶ

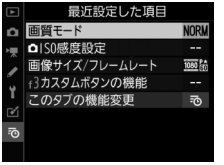
- [**このタブの機能変更**] 画面で [**最近設定した項目**] を選んで、Ⓚボタンを押します。
- [**マイメニュー**] が [**最近設定した項目**] に切り替わります。



最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

■「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。



☑ 最近設定した項目を削除するには

［**最近設定した項目**］画面で削除したい項目を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

☑「最近設定した項目」からマイメニューに戻すには

「最近設定した項目」の［**このタブの機能変更**］を選ぶと、「マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する」（🕮749）の手順2と同じ画面が表示されます。［**マイメニュー**］を選んでOKボタンを押すと、マイメニューに切り替わります。

困ったときは

お問い合わせになる前に

カメラの動作がおかしいときは、次の手順を行うことで問題が解決する場合があります。ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前にお試しください。

STEP 1	**カメラの動作がおかしいときの対処方法を確認して、カメラを点検する。** 次のページで対処方法が確認できます。 • 故障かな？と思ったら（🕮753） • 警告表示と警告メッセージ（🕮765）
STEP 2	**電源をOFFにしてバッテリーを取り出し、約1分後に再度バッテリーを入れてカメラの電源をONにする。** ☑ 撮影直後はSDカードに画像の記録を行っている場合があります。バッテリーを取り出すまで、撮影後は1分以上お待ちください。
STEP 3	**ニコンのホームページを確認する。** • サポートサイトのQ&Aなどで解決方法を探すことができます。 https://www.nikon-image.com/support/ • ニコンダウンロードセンターで、カメラの最新のファームウェアを確認してください。 https://downloadcenter.nikonimglib.com/
STEP 4	**ニコンサービス機関に問い合わせる。**

カメラの初期化について

- 機能の組み合わせによって、使用したい機能（メニュー項目）が設定できない場合があります。使用したいメニュー項目がグレーアウトしているときなどにセットアップメニュー［**カメラの初期化**］を実行すると、メニューが選べるようになることがあります。
- カメラを初期化すると、無線接続設定や著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元に戻せないのでご注意ください。

故障かな？と思ったら

次のような症状が発生した場合の対処法については、こちらをご覧ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態で、カメラの操作ができない

- 画像の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
  - 記録中であったデータは保存されません。
  - 保存済みのデータはバッテリーやAC アダプターの取り外しでは失われません。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ダイヤルを回して調節できます。
- 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、AFモードを**AF-S**、AFエリアモードを［**シングルポイントAF**］に設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節の範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします。

● ファインダー内が暗い

バッテリー残量は充分ですか？バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量がない場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります。

● **ファインダー内や表示パネル、画像モニターの表示が、すぐに消えてしまう**
カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］やc4［**モニターのパワーオフ時間**］で、表示が消えるまでの時間を設定できます。

● **表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い**
低温や高温のときは表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

● **ファインダー内に模様が見える**
液晶の特性上、フォーカスポイントを照明するときにファインダー内が赤くなることがありますが、故障ではありません。

撮影関連

● **電源を ON にしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる**
SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるSDカードが入っていますか？
- SDカードがロックされていませんか？
- ピント表示（●）は点灯していますか？
- Gタイプ、Eタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。表示パネルに**FE E**と表示されている場合、カスタムメニューf5［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます。
- 撮影モード**M**でシャッタースピードを**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）に設定し、そのまま撮影モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。
- セットアップメニュー［**カードなし時レリーズ**］が［**レリーズ禁止**］になっていませんか？

● シャッターがきれるのが遅い

カスタムメニュー d4［**露出ディレーモード**］を［**しない**］にしてください。

● 連続撮影できない

HDR撮影時は、連続撮影できません。

● **ピントが合わない**

- マニュアルフォーカスになっていませんか？オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせてください。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください。明暗差がはっきりしない/遠くのものと近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい

● **電子音が鳴らない**

- AFモードを**AF-C**に設定している場合または**AF-A**に設定していて**AF-C**で撮影している場合、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。
- セットアップメニュー［**電子音**］の［**電子音設定**］を［**無効**］以外に設定すると電子音が鳴ります。

● **設定できるシャッタースピードの範囲が狭い**

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニュー e1［**フラッシュ撮影同調速度**］で、1/200～ 1/60秒の範囲で設定できます。［**1/200秒（オート FP）**］に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFP ハイスピードシンクロが可能です。

● **シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない**

AFモードを**AF-C**に設定している場合または**AF-A**に設定していて**AF-C**で撮影している場合、AF-ONボタンを押してフォーカスをロックしてください。

● フォーカスポイントを選べない

- フォーカスポイントロックレバーが**L**（ロック）の位置になっていませんか？
- AFエリアモードが［**オートエリアAF**］のときは、選べません。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選択できません。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選ぶには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください。

● 画像サイズを変更できない

［**画質モード**］が［**RAW**］のときは、画像サイズを変更できません。

● 画像の記録に時間がかかる

静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］が［**する**］になっていませんか？

● 画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ISO感度やシャッタースピード、アクティブD-ライティングなどのカメラの設定を変更してください。
- 長時間露出撮影や、カメラが高温になるような環境で撮影をする場合、ISO感度を高く設定しているとノイズが強調されることがあります。

● ライブビュー表示中の画像モニターに表示された明るさと、撮影した画像の明るさ（露出）が違う

ライブビュー時に画像モニターの明るさを調整しても、撮影した画像には反映されません。

● 動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる

動画撮影メニュー［**フリッカー低減**］の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください。

● ライブビューで横帯状の明るい部分が生じる

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください。

● ゴースト、フレアが目立つ

太陽や高輝度の照明などの明るい光源が含まれるなどのシーンを撮影したときに、画像上にゴーストやフレアが目立つ場合があります。レンズにフードを付ける、あるいは光源を画角から大きく外すことで目立ちにくくなります。また、レンズからフィルターを外す、シャッタースピードを変更する、サイレント撮影するなどを試していただくと目立ちにくくなることがあります。

● ライブビューが開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
  - 連続撮影を行った直後など
- カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

● **ライブビューで画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する**

- ライブビューで長時間カメラを使用すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ざらつき、むら、輝点が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- ライブビュー時、🔍（**QUAL**）ボタンで画面を拡大すると、ざらつき、むら、すじや色の変化が発生しやすくなります。
- 動画撮影メニューの［**画像サイズ/フレームレート**］の設定によっては、撮影した動画のざらつき、むら、輝点の見え方が異なります。
- 撮影した画像に発生するノイズは、画像モニターで表示されたノイズと見え方が異なることがあります。

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない**

被写体が明るすぎるか、暗すぎます。

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある**

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません。

● ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない

- RAWを含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出またはHDR（ハイダイナミックレンジ）による撮影を同時に行うことはできません。

● ［ピクチャーコントロール］の効果が安定しない

［**ピクチャーコントロール**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］が［**オート**］に設定されているか、それぞれの調整画面で［**クイックシャープ**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください。

● 測光モードが変更できない

AEロック中は、測光モードを変更できません。

● 露出補正ができない

撮影モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません。

● 長時間露出撮影時に色むらが発生する

シャッタースピードを**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像に色むらが発生することがあります。この現象は、静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで低減できます。

● 動画に音声が録音されない

動画撮影メニュー［**マイク感度**］が［**録音しない**］になっていませんか？

再生関連

● **RAW画像が表示されない**

［**画質モード**］を［**RAW＋FINE★**］、［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL★**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC★**］、［**RAW＋BASIC**］にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません。

● **他のカメラで撮影した画像が表示されない**

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● **全ての画像が表示されない**

再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。

● **画像の縦位置・横位置が正しく表示されない**

- 再生メニュー［**縦位置自動回転**］が［**しない**］になっていませんか？
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

● **画像が削除できない**

画像にプロテクトが設定されていませんか？

● **画像が編集できない**

- このカメラでは編集できない画像です。
- SDカードの残量は充分にありますか？

● **画像を記録したのに［撮影画像がありません］と表示される**
再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。

● **画像が HDMI対応機器で再生できない**
HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください。

● **NX Studioでイメージダストオフ機能が動作しない**
次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。
- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき

● **［ピクチャーコントロール］、［アクティブD-ライティング］、［ヴィネットコントロール］の効果がパソコンで確認できない**
RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はNX Studioをお使いください。

● **画像をパソコンに転送できない**
お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります。カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに保存してください。

Wi-Fi（無線LAN）およびBluetooth関連

● **スマートフォンにカメラの SSID（ネットワーク名）が表示されない**

- セットアップメニューの［**機内モード**］が［**無効**］になっていること、および［**スマートフォンと接続**］にある［**ペアリング（Bluetooth）**］の［**Bluetooth通信機能**］が［**有効**］になっていることを確認してください。
- スマートフォンの無線機能をOFFにしてからONにし直してください。

● **プリンターなどの無線通信機器と接続できない**

このカメラは、スマートフォンやパソコン以外の機器とは無線接続できません。

その他

● **撮影日時が正しく表示されない**

カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

● **表示されているメニュー項目が選べない**

- 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。
- セットアップメニュー［**電池チェック**］は電源に別売のパワーコネクターとACアダプターを使用している場合は選べません。

警告表示と警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、画像モニターに表示される警告表示と警告メッセージの意味は次の通りです。

警告表示

表示パネルおよびファインダーに次の警告が表示されます。

表示		原因と対処方法
表示パネル	ファインダー内表示	
FE E（点滅）	FE E（点滅）	**レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。** レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。
		バッテリー残量は残りわずかです。 バッテリー交換の準備をしてください。
（点滅）	（点滅）	**バッテリーが消耗しています。** • バッテリーを交換してください。 • バッテリーを充電してください。
		バッテリーとの情報通信ができません。 • このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。
		カメラと通信できないバッテリーを使用しています カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。
		バッテリーの温度が高くなっています。 バッテリーをカメラから取り出して、バッテリーの温度が下がるまでお待ちください。

表示		原因と対処方法
表示パネル	ファインダー内表示	
⊿F	⊿F	**開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。** レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。
—	▶◀ （点滅）	**オートフォーカスでピント合わせができません。** 構図を変えるか、マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。
buLb （点滅）	buLb （点滅）	**撮影モードがSのときにシャッタースピードがbuLb（バルブ）にセットされています。** • シャッタースピードを変えてください。 • 撮影モード**M**で撮影してください。
-- （点滅）	-- （点滅）	**撮影モードがSのときにシャッタースピードが- -（タイム）にセットされています。** • シャッタースピードを変えてください。 • 撮影モード**M**で撮影してください。
buSY （点滅）	bSY （点滅）	**カメラが処理を行っています。** カメラが処理を終えるまでお待ちください。
—	ϟ （点滅）	**スピードライトがフル発光しました。** 撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO 感度などをご確認ください。

表示		原因と対処方法
表示パネル	ファインダー内表示	
（シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかと、露出インジケーターが点滅）		**被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。** • ISO感度を低くしてください。 • 撮影モードが**P**のときは市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください（**S**、**A**のときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 撮影モードが**S**のときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 撮影モードが**A**のときは絞りを絞り込んでください（より大きい数値）。
		被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。 • ISO感度を高くしてください。 • 撮影モードが**P**のときは別売スピードライトを使用してください（**S**、**A**のときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 撮影モードが**S**のときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 撮影モードが**A**のときは絞りを開いてください（より小さい数値）。

表示		原因と対処方法
表示パネル	ファインダー内表示	
◉（点滅）	—	**赤目軽減モードまたは赤目軽減スローシンクロモードが設定され、赤目軽減発光機能に対応していないスピードライトが装着されています。** • 赤目軽減発光機能が可能な専用スピードライトをお使いください。 • フラッシュモードの設定を変更してください。
FuLL（点滅）	Ful（点滅）	**画像を記録する空き容量がありません。** • SDカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいSDカードに交換してください。
		カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。 • SDカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいSDカードに交換してください。
Err（点滅）	Err（点滅）	**撮影中に何らかの異常を検出しました。** もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。

警告メッセージ

画像モニターおよび表示パネルに次のメッセージが表示されます。

メッセージ		原因と対処方法
画像モニター	表示パネル	
メモリーカードが入っていません。	[- E -]	**SDカードが入っていないか、正しくセットされていません。** SDカードを正しくセットしてください。
このメモリーカードにアクセスできません。 カードを交換してください。	[CArd]、[Err]（点滅）	**SDカードへのアクセス異常です。** • このカメラ用のSDカードであるかどうかを確認してください。 • 繰り返し抜き差ししてもエラーが解消しない場合は、SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。
		新規フォルダーが作成できません。 • SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいSDカードに交換してください。

メッセージ		原因と対処方法
画像モニター	表示パネル	
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	「Prd」、----（点滅）	**SDカードの書き込み禁止スイッチがロックされています** SDカードのロックを解除してください。
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	「For」（点滅）	**SDカードが正しく初期化されていません。** • SDカードを初期化してください。 • 正しく初期化されたSDカードに交換してください。
ライブビューを開始できません。しばらくお待ちください。 カメラが高温になっています。温度がさがるまで使用できません。しばらくおまちください。	—	**カメラ内部の温度が高くなっています。** カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止してください。

メッセージ		原因と対処方法
画像モニター	表示パネル	
撮影画像がありません。	—	**撮影画像がありません。** 画像が記録されているSDカードを入れてください。
		再生するフォルダーの指定に問題があります。 再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。
このファイルは表示できません。	—	**アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。** アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。
		画像ファイルに異常があるため再生できません。 アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。
このファイルは選択できません。	—	**編集できない画像です。** このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。

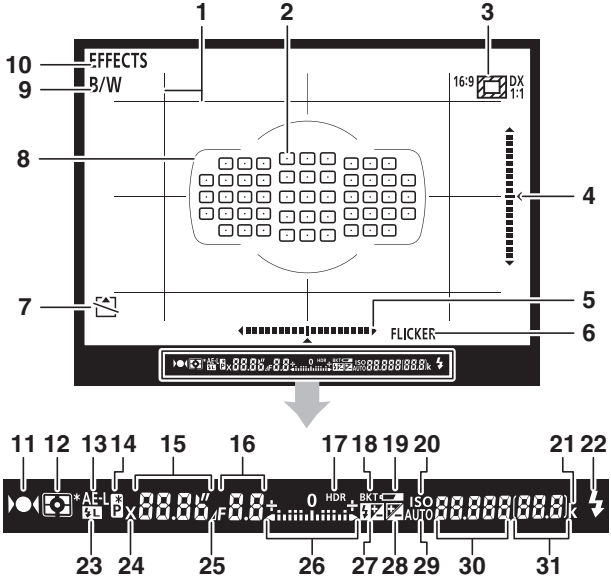
メッセージ		原因と対処方法
画像モニター	表示パネル	
この動画は編集できません。	—	**編集できない動画です。** • このカメラで撮影した動画しか編集できません。 • 2秒未満の動画は編集できません。
このファイルは保存先のメモリーカードには保存できません。詳しくは使用説明書をご覧ください。	—	**ファイルサイズが4GB以上の場合、exFATでフォーマットされたメモリーカードにのみ保存できます。FAT32など、exFAT以外でフォーマットされたカードには保存できません。** このカメラで初期化した32GBを超えるカードを使用するか、保存する画像のファイルサイズが4GB未満になるようにしてください。

資 料

全画面表示

説明のため、全ての表示を点灯させています。

ファインダー

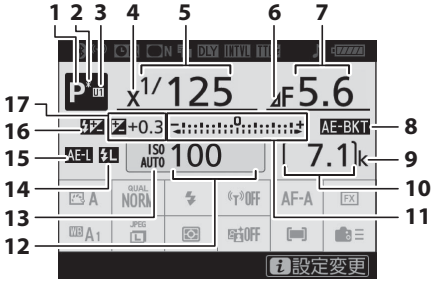


1 構図用格子線※1（🕮615）
2 フォーカスポイント表示（🕮36、145）
3 撮像範囲表示（🕮129）
4 ピッチング方向の水準器※2、3（🕮628）
5 ローリング方向の水準器※2、4（🕮628）
6 フリッカー検出（🕮561）
7 カードなしマーク（🕮28）
8 AFエリアフレーム（🕮36）
9 白黒マーク※5（🕮119、243）
10 スペシャルエフェクトモードマーク（🕮119）
11 ピント表示（🕮36）
12 測光モード（🕮166）
13 AEロックマーク（🕮173）
14 プログラムシフトマーク（🕮109）
15 シャッタースピード（🕮110、113）
AFモード（🕮140）
16 絞り値（🕮111、113）
絞り込み段数（🕮112、795）
17 HDRマーク（🕮256）
18 AE・フラッシュブラケティングマーク（🕮226）
WBブラケティングマーク（🕮232）
ADLブラケティングマーク（🕮238）
19 バッテリー警告表示（🕮33）
20 ISO感度マーク（🕮187）
21 1000コマ以上補助表示（🕮34）
22 レディーライト※6（🕮460）
23 FVロックマーク（🕮471）
24 フラッシュシンクロマーク（🕮619）
25 絞り込み段数マーク（🕮112、795）
26 インジケーター
露出（🕮114）
露出補正（🕮175）
AE・フラッシュブラケティング（🕮226）
WBブラケティング（🕮232）
ADLブラケティング（🕮238）
27 調光補正マーク（🕮469）

28 露出補正マーク（🕮175）
29 ISO-AUTOマーク（🕮190）
30 ISO感度（🕮187）
ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示（🕮210）
アクティブD-ライティング度合い表示（🕮254）
31 記録可能コマ数（🕮34、861）
連続撮影可能コマ数（🕮181、861）
露出補正値（🕮175）
調光補正量（🕮469）
PC接続中マーク（🕮819）

※1 カスタムメニュー d10［**格子線表示**］を［**する**］に設定している場合のみ表示されます。
※2 カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で、［**ファインダー内水準器**］を割り当てたボタンを押したときに水準器インジケーターを表示します。
※3 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ローリング方向の水準器になります。
※4 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ピッチング方向の水準器になります。
※5 撮影モードが🅼の場合、ピクチャーコントロールが［**モノクローム**］の場合または［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合にのみ表示されます。
※6 別売のスピードライト使用時のみ点灯します。スピードライトの充電が完了してフラッシュ撮影できることを示します。

インフォ画面



1	撮影モード（🕮107）
2	プログラムシフトマーク（🕮109）
3	ユーザーセッティングモード（🕮115）
4	フラッシュシンクロマーク（🕮619）
5	シャッタースピード（🕮110、113）
6	絞り込み段数マーク（🕮112、795）
7	絞り値（🕮111、113） 絞り込み段数（🕮112、795）
8	AE・フラッシュブラケティングマーク（🕮226） WBブラケティングマーク（🕮232） ADLブラケティングマーク（🕮238） HDRマーク（🕮256） 多重露出マーク（🕮287）
9	1000コマ以上補助表示（🕮34）
10	記録可能コマ数（🕮34、861） PC接続中マーク（🕮819）

11 インジケーター
露出（🕮114）
露出補正（🕮175）
AE・フラッシュブラケティング（🕮226）
WBブラケティング（🕮232）
ADLブラケティング（🕮238）

12 ISO感度（🕮187）

13 ISO感度マーク（🕮187）
ISO-AUTOマーク（🕮190）

14 FVロックマーク（🕮471）

15 AEロックマーク（🕮173）

16 調光補正マーク（🕮469）

17 露出補正マーク（🕮175）
露出補正値（🕮175）



1	Bluetooth通信マーク（🕮692） 機内モード（🕮691）
2	Wi-Fi通信マーク（🕮696）
3	長秒時ノイズ低減マーク （🕮556）
4	ヴィネットコントロールマーク （🕮558）
5	電子先幕シャッターマーク （🕮609）
6	露出ディレーモード（🕮608）
7	インターバルタイマー設定マーク （🕮298） マーク（🕮779）
8	発光モード（🕮463）
9	電子音マーク（🕮684）
10	バッテリー残量表示（🕮33）
11	iメニュー表示領域（🕮63）
12	操作ガイド

✓ ㋮マークについて

㋮が点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー［**地域と日時**］の［**日時の設定**］で日時設定をしてください。

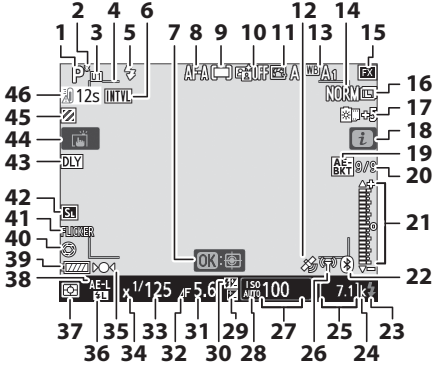
ヒント：インフォ画面から i メニューを設定する

インフォ画面表示時に i ボタンを押すか、操作ガイドをタッチすると i メニューが設定できるようになります。再度 i ボタンを押すか、Info ボタンを押すとインフォ画面に戻ります。



ライブビュー画面（静止画/動画）

■■ 静止画撮影時



1	撮影モード（🕮107）
2	プログラムシフトマーク（🕮109）
3	ユーザーセッティングモード（🕮115）
4	AFエリアフレーム（🕮40）
5	フラッシュモード（🕮101、465）
6	インターバルタイマー設定マーク（🕮298） ⏲マーク（🕮779） カードなしマーク（🕮28）
7	ターゲット追尾AF（🕮158）
8	AFモード（🕮142）
9	AFエリアモード（🕮150）
10	アクティブD-ライティング（🕮254）
11	ピクチャーコントロール（🕮243）
12	位置情報マーク（🕮687）
13	ホワイトバランス（🕮195）
14	画質モード（🕮134）

15 撮像範囲（🕮129）

16 画像サイズ（🕮137）

17 ネガフィルムデジタイズの明るさ補正表示（🕮343）

18 **i**メニュー（🕮63）

19 AE・フラッシュブラケティングマーク（🕮226）
WBブラケティングマーク（🕮232）
ADLブラケティングマーク（🕮238）
HDRマーク（🕮256）
多重露出マーク（🕮287）

20 AE・フラッシュブラケティング撮影コマ数表示（🕮226）
WBブラケティング撮影コマ数表示（🕮232）
ADLブラケティング撮影コマ数表示（🕮238）
多重露出撮影コマ数（🕮287）

21 インジケーター
露出（🕮114）
露出補正（🕮175）
オートブラケティング（🕮224）

22 Bluetooth通信マーク（🕮692）
機内モード（🕮691）

23 レディーライト※（🕮460）

24 1000コマ以上補助表示（🕮34）

25 記録可能コマ数（🕮34、861）

26 Wi-Fi通信マーク（🕮696）

27 ISO感度（🕮187）

28 ISO感度マーク（🕮187）
ISO-AUTOマーク（🕮190）

29 露出補正マーク（🕮175）

30 調光補正マーク（🕮469）

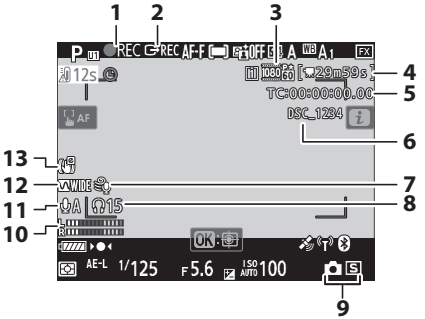
31 絞り値（🕮111、113）
絞り込み段数（🕮112、795）
32 絞り込み段数マーク（🕮112、795）
33 シャッタースピード（🕮110、113）
34 フラッシュシンクロマーク（🕮619）
35 ピント表示（🕮164）
36 FVロックマーク（🕮471）
37 測光モード（🕮166）
38 AEロックマーク（🕮173）
39 バッテリー残量表示（🕮33）
40 絞り開放マーク（🕮628）
41 **FLICKER**アイコン（🕮561）
42 サイレント撮影（🕮340）
電子先幕シャッター（🕮609）
43 露出ディレーモード（🕮608）
44 タッチ撮影機能（🕮14）
45 ハイライト表示マーク（🕮653）
46 温度上昇警告（🕮44）
Lv残り時間表示（🕮44）

※別売のスピードライト使用時のみ点灯します。スピードライトの充電が完了してフラッシュ撮影できることを示します。

温度上昇警告について

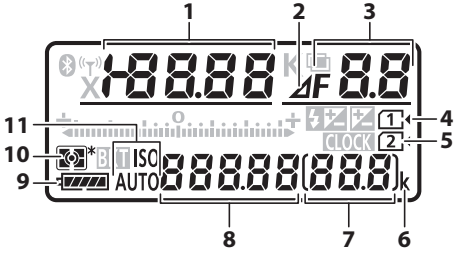
- カメラ内部の温度が上昇すると、温度上昇警告が表示され、カウントダウンが表示されます。カウントダウンが0になると、画像モニターの表示が消灯します。
- 消灯する30秒前から赤字で表示されます。撮影条件によっては、電源をONにした後すぐにカウントダウンが始まることがあります。

■■ 動画撮影時

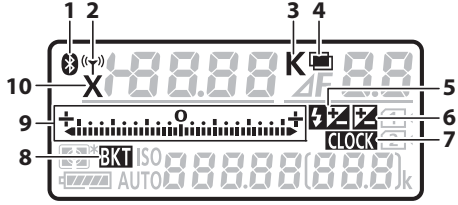


1	録画中マーク（🕮45） 動画記録禁止マーク（🕮268）
2	外部記録制御（🕮397） N-Logマーク（🕮397）
3	画像サイズ/フレームレート/画質（🕮264）
4	動画記録残り時間（🕮45）
5	タイムコード（🕮584）
6	ファイル名（🕮550）
7	風切り音低減マーク（🕮583）
8	ヘッドホン音量（🕮583）
9	静止画撮影のレリーズモード（🕮50）
10	音声レベルインジケーター（🕮45）
11	マイク感度（🕮581）
12	録音帯域（🕮582）
13	電子手ブレ補正マーク（🕮580）

表示パネル



1	シャッタースピード（🕮110、113）
2	絞り込み段数マーク（🕮112、795）
3	絞り値（🕮111、113）
4	SDカードマーク（スロット1）（🕮34）
5	SDカードマーク（スロット2）（🕮34）
6	1000コマ以上補助表示（🕮34）
7	記録可能コマ数（🕮34、861） PC接続中マーク（🕮819）
8	ISO感度（🕮187） AFモード（🕮140）
9	バッテリー残量表示（🕮33）
10	測光モード（🕮166）
11	ISO感度マーク（🕮187） ISO-AUTOマーク（🕮190）



1	Bluetooth通信マーク（🕮692）
2	Wi-Fi通信マーク（🕮696）
3	ホワイトバランス色温度表示（🕮204）
4	多重露出マーク（🕮287）
5	調光補正マーク（🕮469）
6	露出補正マーク（🕮175）
7	CLOCK マーク（🕮32）
8	オートブラケティングマーク（🕮224）
9	インジケーター 露出（🕮114） 露出補正（🕮175） AE・フラッシュブラケティング（🕮226） WBブラケティング（🕮232） ADLブラケティング（🕮238）
10	フラッシュシンクロマーク（🕮619）

使用できるFマウントレンズ

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。特にGタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

CPUレンズ

レンズ※1/レンズ用アクセサリー	オートフォーカス※2	撮影モード		測光モード			
		P S	A M	3D-RGB	RGB		
Gタイプレンズ※3、Eタイプレンズ※3、Dタイプレンズ※3、AF-Sレンズ、AF-Pレンズ、AF-Iレンズ	○	○	○	○	×	○※4	○
PC NIKKOR 19mm f/4E ED※6	×	○※5	○※5	○※5	×	○※4、5	○※5
PC-E NIKKORシリーズ※6	×	○※5	○※5	○※5	×	○※4、5	○※5
PCマイクロ 85mm F2.8D※6、7	×	×	○※8	○※5	×	○※4、5	○※5
AF-S/AF-Iテレコンバーター※9	○	○	○	○	×	○※4	○
Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○※10	○	○	×	○	○※4	×
AI-Pニッコール	×	○	○	×	○	○※4	×

※1　IXレンズは装着できません。
※2　**M**（マニュアルフォーカス）は全てのレンズで使用可能です。
※3　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※4　フォーカスポイントの選択により、測光モードを［**スポット測光**］にしたときの測光エリアの移動が可能。
※5　アオリ操作をしていない場合のみ可能。
※6　電子先幕シャッター使用時は、むら、すじなどが発生することがあります。その場合は、カスタムメニュー d5［**電子先幕シャッター**］を［**無効**］に設定して撮影してください。
※7　カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作（シフトまたはティルト）をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
※8　撮影モードは**M**で使用可能。
※9　オートフォーカスとフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントについては、「AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて」（凹790）をご覧ください。
※10　AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

- 高感度撮影時には、オートフォーカス作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。また、動画撮影時やライブビュー表示中にISO感度が高い場合は、絞り作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。

レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5–5.6」などと記されています。

VRレンズ装着時のご注意

次のVRレンズは、高感度や長時間露出で撮影する場合に装着するとVR制御システムの特性により画像にむらが出ることがあるため、このような条件でお使いになることはおすすめしません。

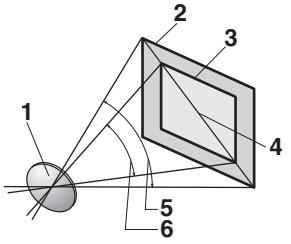
- AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–200mm f/2.8G IF-ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–300mm f/4.5–5.6G IF-ED
- AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED
- AF-S VR Nikkor 300mm f/2.8G IF-ED
- AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR
- AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18–200mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II
- AF-S DX Micro NIKKOR 85mm f/3.5G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 55–300mm f/4.5–5.6G ED VR

その他のVRレンズをお使いの場合、画像への影響を避けるためにVRはOFFにしてください。

レンズの画角と焦点距離について

このカメラでは、さまざまな当社製35mm判カメラ用レンズが使用できます。35mm判カメラのレンズおよびFXフォーマット対応レンズを装着すると、35mm判カメラと同じ画角（フィルム面に写し込む範囲）で撮影できます。

- 静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］にある［**撮像範囲設定**］の設定を変更すると、使用しているレンズと異なる画角で撮影することもできます。たとえば35mm判カメラのレンズまたはFXフォーマット対応レンズを装着していても、［**DX（24×16）**］に設定すると、画角を狭くできます。

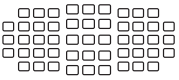
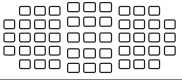
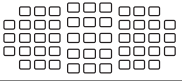


1	レンズ
2	［**FX（36×24）**］（35mm判カメラに準じた撮影画面サイズ相当 35.9×23.9 mm）
3	［**DX（24×16）**］時の撮影画面サイズ（23.5×15.7 mm）
4	画面対角線
5	［**FX（36×24）**］（35mm判カメラ）時の画角
6	［**DX（24×16）**］時の画角

- 対角線の長さで［**DX（24×16）**］のときの約1.5倍です。したがって、このカメラに35mm判カメラのレンズを装着したときのレンズに表記されている焦点距離は、［**DX（24×16）**］のときが約1.5倍に相当します。たとえば、焦点距離50 mmのレンズを装着したときは、［**DX（24×16）**］では約75 mmの焦点距離に相当する画角になります。

AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて

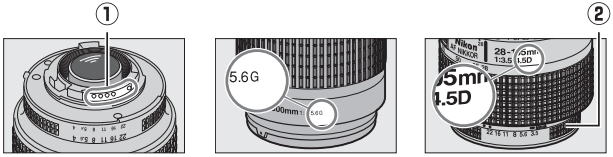
- AF-S/AF-Iテレコンバーターを装着してファインダー撮影を行う場合、オートフォーカスとフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです（合成絞り値がF5.6より暗い場合は、コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピントが合わないことがあります）。

テレコンバーター	装着レンズの開放F値	フォーカスポイント
TC-14E/TC-14E II/ TC-14E III	F4まで	
	F5.6	 ※1
TC-17E II	F2.8まで	
	F4	 ※1
	F5.6	—※2
TC-20E/TC-20E II/ TC-20E III	F2.8まで	
	F4	 ※3
	F5.6	—※2
TC-800-1.25E ED	F5.6	 ※1

※1 AFエリアモードが3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合、シングルポイントAFに変更されます。
※2 この組み合わせの場合、オートフォーカス撮影はできません。
※3 中央のフォーカスポイント以外はラインセンサーによってピント情報を取得します。
- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDをお使いの場合、オートフォーカス撮影はできません。

ヒント：CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU信号接点（①）があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリング（②）がありません。



CPUレンズ　G/Eタイプレンズ　Dタイプレンズ

非CPUレンズなど

レンズ※1/レンズ用アクセサリー	撮影モード		測光モード			
	P S	A M	3D-RGB	RGB	⊡	⊡*
AI-S、AI、AI改造レンズ、シリーズEレンズ※2	×	○※3	×	○※4	○※5	×
メディカル120mm f/4	×	○※6	×	×	×	×
レフレックスレンズ	×	○※3	×	×	○※5	×
PCニッコール	×	○※7	×	×	○	×
AI-S、AIテレコンバーター※8	×	○※3	×	○※4	○※5	×
ベローズアタッチメントPB-6※9	×	○※10	×	×	○	×
オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○※3	×	×	○	×

※1　一部装着不可能なレンズ（🕮794）があります。

※2　AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。

※3　セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。

※4　セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても充分な精度が得られない場合があります。この場合は［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］を選んで撮影してください。

※5　セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。

※6　撮影モードが**M**でフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。

※7　絞り込み測光で使用します。撮影モードが**A**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。撮影モードが**M**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。

※8　AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。

※9　オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。

※10 絞り込み測光で使用可能、撮影モードが**A**の場合はベローズアタッチメント側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。

- 動画撮影時やライブビュー表示中にISO感度が高い場合は、絞り作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。

☑ 使用できないレンズ

次の非CPUレンズおよびアクセサリーは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360–1200mm f/11（製品No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

ヒント：非CPUレンズを使用する場合は

- 非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などの機能が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、測光モードを［**マルチパターン測光**］に設定しても、自動的に［**中央部重点測光**］になります。
- 絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値を設定しない場合、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。

フォーカスエイドの制限について

使用するレンズによってフォーカスエイドができる条件が異なります。

■■ CPUレンズ

レンズ/レンズ用アクセサリー	ファインダー撮影時	ライブビュー撮影時
Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズ、AF-Sレンズ、AF-Pレンズ、AF-Iレンズ	○	○
PC NIKKOR 19mm f/4E ED	○※1	×
PC-E NIKKORシリーズ	○※1	×
PCマイクロ 85mm F2.8D	○※1	×
AF-S/AF-Iテレコンバーター	○	○
Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○※2	○
AI-Pニッコール	○※3	○

※1 アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※2 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

※3 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

■■非CPUレンズなど

レンズ/レンズ用アクセサリー	ファインダー撮影時	ライブビュー撮影時
AI-S、AI、AI改造レンズ、シリーズEレンズ	○※1	×
メディカル120mm f/4	○	×
レフレックスレンズ	×	×
PCニッコール	○※2	×
AI-S、AIテレコンバーター	○※3	×
ベローズアタッチメントPB-6	○※3	×
オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	○※3	×

※1 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
※2 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
※3 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。

使用できるスピードライト

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）はニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、さまざまな機能を提供します。

■■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

使用できる機能			スピードライト									
			SB-5000	SB-910 SB-900 SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	○	—	—	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○※2	○※2	○	○※2	○	—	—	○	○
	㊎A	絞り連動外部自動調光	○	○※3	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	—	○※3	—	—	—	—	—	—	—
	GN	距離優先マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○※4	—	—	○※4	○※4
	RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—

使用できる機能			スピードライト									
			SB-5000	SB-910 SB-900 SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
光制御アドバンストワイヤレスライティング	マスターフラッシュ	リモートフラッシュへの発光指示	○	○	○	—	○ ※4	○	—	—	—
		i-TTL i-TTL調光	○	○	○	—	○ ※4	—	—	—	—
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	○	—	○	—	—	○ ※5	—	—	—
		㊎A 絞り連動外部自動調光	○	○	—	—	—	—	—	—	—
		A 外部自動調光	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		M マニュアル発光	○	○	○	—	○ ※4	—	—	—	—
		RPT リピーティングフラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—
	リモートフラッシュ	**i-TTL** i-TTL調光	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		㊎A/A 絞り連動外部自動調光/外部自動調光	○ ※6	○※6	—	—	—	—	—	—	—
		M マニュアル発光	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		RPT リピーティングフラッシュ	○	○	○	○	○	—	—	—	—

使用できる機能	スピードライト									
	SB-5000	SB-910 SB-900 SB-800		SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
電波制御アドバンスト ワイヤレスライティング	○ ※7	—		—	—	—	—	—	—	—
発光色温度情報伝達（フラッシュ）	○	○		○	○	○	—	—	○	○
発光色温度情報伝達（LEDライト）	—	—		—	—	○	—	—	—	—
オートFPハイスピード シンクロ※8	○	○		○	○	○	○	○	—	—
FVロック※9	○	○		○	○	○	○	○	○	○
赤目軽減発光	○	○		○	○	○	—	—	○	—
カメラ起動モデリング発光	○	○		○	○	○	○	○	—	—
ユニファイドフラッシュ コントロール	○	—		—	—	○	—	—	○	○
カメラからのスピードライト ファームアップ	○	○※10		○	—	○	—	—	—	○

※1　スポット測光時は設定できません。
※2　スピードライト側でも設定できます。
※3　㊙AとAの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。
※4　カメラの［**フラッシュ発光**］で設定できます。
※5　クローズアップ撮影時のみ設定できます。
※6　㊙AとAの選択は、マスターフラッシュの設定に準じます。
※7　使用できる機能は、光制御アドバンストワイヤレスライティングのリモートフラッシュと同じです。
※8　発光モードがi-TTL、㊙A、A、GN、Mの場合のみ動作します。
※9　発光モードがi-TTL、「モニター発光あり」の㊙Aまたは「モニター発光あり」のAの場合のみ動作します。
※10 SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

■■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、ワイヤレスで SB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて光制御できます。SU-800には発光機能はありません。

☑ その他のスピードライトとの組み合わせで使用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

使用できる機能		スピードライト				
		SB-80DX **SB-28DX**	**SB-50DX**	**SB-28** **SB-26** **SB-25** **SB-24**	**SB-30** **SB-27**※1 **SB-22S** **SB-22** **SB-20** **SB-16B** **SB-15**	**SB-23** **SB-29** **SB-21B** **SB-29S**
A	外部自動調光	○	—	○	○	—
M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
▒	マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
REAR※2	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 このカメラとSB-27を組み合わせると自動的に**TTL**モードになりますが、**TTL**モードでは使えません。SB-27を**A**モードに設定し直してください。

※2 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

スピードライトのFVロック時の測光エリアについて

スピードライトを使用したFVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央φ6 mm相当
	絞り連動外部自動調光（㊎A）	スピードライトの外部測光エリア
アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光（㊎A）	スピードライトの外部測光エリア
	外部自動調光（A）	

スピードライト使用時のご注意

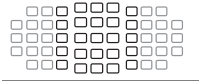
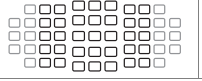
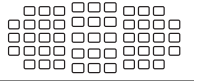
- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後に⚡（レディーライト）が約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100～12800相当です。
- ISO感度を12800よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。

- 撮影モードが**P**の場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）							
100	**200**	**400**	**800**	**1600**	**3200**	**6400**	**12800**
4	5	5.6	7.1	8	10	11	13

※制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

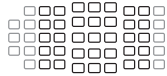
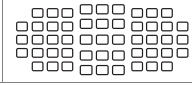
- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- パワーアシストパックSD-8AまたはSD-9をカメラに固定した状態でフラッシュ撮影をすると、筋状のノイズが写り込むことがあります。その場合は、ISO感度を下げるか、SD-8AまたはSD-9をカメラから離してお使いください。
- ファインダー撮影でスピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800を使用する場合、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライトのAF補助光を自動的に照射します。
- スピードライトSB-5000のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。ファインダー撮影時にAF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント		
焦点距離が24mmから30mmの場合	**焦点距離が31mmから48mmの場合**	**焦点距離が49mmから135mmの場合**
		

- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。ファインダー撮影時にAF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント


- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。ファインダー撮影時にAF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント	
焦点距離が24mmから31mmの場合	**焦点距離が32mmから105mmの場合**
	

- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。ファインダー撮影時にAF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント



- 使用するレンズや撮影シーンによっては、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯してシャッターがきれることがあります。
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

☑ 別売スピードライトの調光補正について

i-TTL調光時および絞り連動外部自動調光（㊎A）時は、ϟ（**⊡⊿**）ボタンを押して設定した調光補正と、スピードライト本体または静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］で設定した調光補正を同時に行う場合、両方の補正値を加算します。

ヒント：モデリング発光について

- 別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト装着時には、**Pv**ボタンを押すとモデリング発光が行われます。
- アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時には、使用する全てのスピードライトのモデリング発光が行われ、照射光の効果を簡単に確認できます。
- プレビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニューe5［**モデリング発光**］を［**しない**］に設定してください。

使用できるアクセサリー

このカメラには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。

● 電源

- **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b**：ニコンデジタルカメラD780用のバッテリーです。
  - EN-EL15bの代わりにEN-EL15c/EN-EL15a/EN-EL15も使えます。ただし、EN-EL15を使用したときはEN-EL15c/EN-EL15b/EN-EL15aを使用したときよりも、撮影可能コマ数（電池寿命）が減少する場合があります（🕮867）。
- **バッテリーチャージャー MH-25a**：Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15b用のチャージャーです。
  - MH-25aの代わりにバッテリーチャージャー MH-25も使えます。
- **本体充電ACアダプター EH-7P**：バッテリーを挿入したカメラ本体に接続して、バッテリーを充電できます。
  - カメラの電源がONの場合は充電できません。
  - EN-EL15aまたはEN-EL15を使用している場合は、本体充電ACアダプターでの充電はできません。
- **パワーコネクター EP-5B、ACアダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b**※：ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。
  - このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクター EP-5Bが必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」（🕮814）をご覧ください。

※日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。

● アクセサリーシューカバー

アクセサリーシューカバー BS-3、BS-1：スピードライトを取り付けるアクセサリーシューを保護するためのカバーです。

● ボディーキャップ

ボディーキャップBF-1B、BF-1A：レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

● ファインダー用アクセサリー

- **接眼補助レンズDK-20C**：遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。−5、−4、−3、−2、0、+0.5、+1、+2、+3m^{-1}の9種類が用意されていますが、いずれもこのカメラの視度調節ダイヤルが基準位置（−1m^{-1}）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能がついています（−3〜+1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。
- **マグニファイングアイピースDK-21M**：このカメラのファインダー倍率を約1.17倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・−1.0 m^{-1}のとき）に拡大します。
- **マグニファイヤー DG-2**：ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。
- **アイピースアダプター DK-22**：上記DG-2を取り付けるためのアダプターです。
- **角窓用変倍アングルファインダー DR-6**：カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。

● フィルター

- フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、ニュートラルカラー NCをお使いください。
- カメラ測光系の特性上、偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL、C-PL Ⅱ）をお使いください。
- 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。
- 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを［**中央部重点測光**］に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。
- 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。

● ワイヤレストランスミッター

ワイヤレストランスミッター WT-7※：カメラで撮影した画像をワイヤレスで転送したり、別売のCamera Control Pro 2を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。さらに、パソコンやスマートフォンのWebブラウザーから画像の閲覧やリモート撮影ができます。

※ワイヤレストランスミッターをお使いいただく場合は、LANの知識および環境が必要です。ワイヤレストランスミッターで使用するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

● ワイヤレスリモートコントローラー

- **ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10**：WR-R10をカメラのアクセサリーターミナルに装着すると、ワイヤレスリモートコントローラーWR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。
  - WR-R10を使用して、電波制御に対応したスピードライトを制御することもできます。
  - WR-R10を装着したカメラを複数台用意してWR-R10をペアリングすると、複数のカメラを連動してシャッターをきる連動レリーズを行えます。

※WR-R10を装着するときは、USB/HDMI/アクセサリーターミナル端子カバーを全て開けてください。

- **ワイヤレスリモートコントローラー WR-1**：WR-1は、他のWR-1やWR-R10またはWR-T10と組み合わせて、送信機または受信機として使います。WR-R10または受信機に設定したWR-1をカメラのアクセサリーターミナルに取り付けると、WR-T10または送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影することができます。また、送信機に設定したWR-1からカメラの設定を変更したりすることができます。

※ワイヤレスリモートコントローラーをお使いいただく場合は、WR-R10のファームウェアをVer.3.0以降、WR-1のファームウェアをVer.1.0.1以降の最新版にバージョンアップしてください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。WR-R10のファームウェアをVer.2.0以前からVer.3.0以降にバージョンアップする場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

● リモートコード

リモートコードMC-DC2（長さ：約1m）：リモートコードMC-DC2をカメラのアクセサリーターミナルに接続すると、カメラから離れてレリーズ操作ができます。

● **USBケーブル**

- **USBケーブルUC-E24**：カメラ側がType-C、USB機器側がType-AのUSBケーブルです。
- **USBケーブルUC-E25**：両端がType-CのUSBケーブルです。

● **HDMIケーブル**

HDMIケーブルHC-E1：カメラ側がType C、HDMI機器側がType AのHDMIケーブルです。

● **外部マイク**

- **ステレオマイクロホンME-1**：ステレオマイクロホンME-1を外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。また、動画記録中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録音されるのを軽減できます。
- **ワイヤレスマイクロホンME-W1**：Bluetooth無線通信技術を搭載したワイヤレスマイクロホンです。カメラの動画撮影時に離れた場所の音声を収音できます。

● **フィルムデジタイズアダプター**

フィルムデジタイズアダプター ES-2：フィルムデジタイズアダプター ES-2は、35mm 判のフィルムを固定して撮影するためのアダプターです。ニコン一眼レフカメラに装着したニコン製レンズに取り付けて使用します。ES-2を取り付けられるレンズについては、ES-2の説明書をご覧ください。

● アクセサリーターミナル

アクセサリーターミナルに次のアクセサリーを接続することができます。

- **ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10**
- **ワイヤレスリモートコントローラー WR-1**
- **リモートコードMC-DC2**

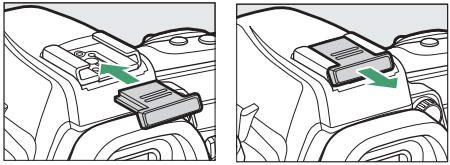
使用しないときは、カメラの端子カバーを必ず閉じてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。

☑ 使用できるアクセサリーについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリーの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

☑ アクセサリーシューカバーの取り付けおよび取り外し方

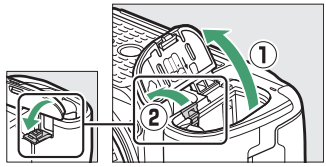
別売のアクセサリーシューカバーを取り付けるには、カバーを図のようにカメラのアクセサリーシューに差し込みます。取り外すときは、カメラをしっかりと支えて、カバー全体を親指で押さえながら矢印の方向にスライドさせます。



カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法

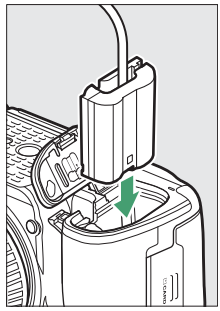
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

1 カメラのバッテリー室カバー（①）とパワーコネクターカバー（②）を開ける



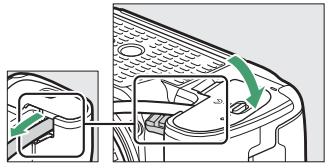
2 パワーコネクター EP-5Bを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがパワーコネクターに掛かり、パワーコネクターがロックされます。



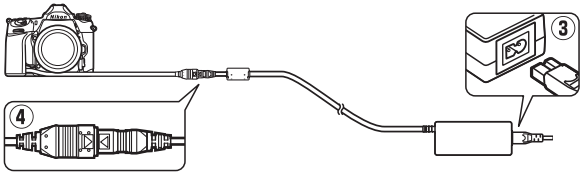
3 カメラのバッテリー室カバーを閉じる

パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプター EH-5d/EH-5c/EH-5bを接続する

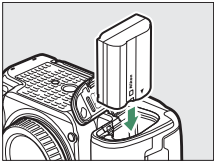
- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます（③）。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます（④）。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、画像モニターのバッテリー残量表示が⬅に変わります。



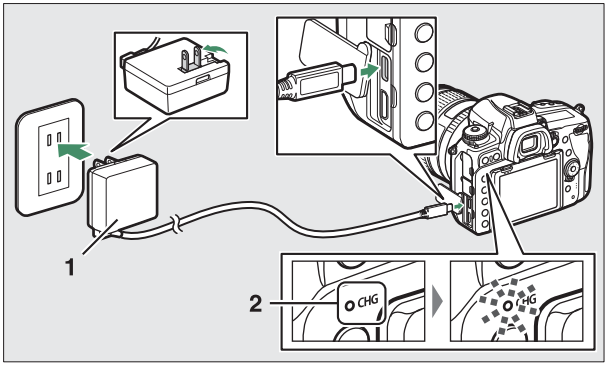
本体充電ACアダプターを使用して充電する

- 別売の本体充電ACアダプター EH-7Pを使用すると、カメラにLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15c/EN-EL15bを入れた状態で充電できます。
- EN-EL15aまたはEN-EL15を使用している場合は、本体充電ACアダプターでの充電はできません。バッテリーチャージャー MH-25aをご使用ください。
- フル充電するには約2時間35分かかります（残量のないバッテリーの場合）。

1 EN-EL15c/EN-EL15bをカメラに入れる（🕮24）



2 本体充電ACアダプターをカメラに接続し、カメラの電源がOFFの状態で家庭用コンセントにつなぐ



1 本体充電ACアダプター EH-7P　　2 チャージLED

- プラグはまっすぐに抜き差ししてください。
- 充電中はチャージLEDがオレンジ色で点灯します。充電が終わると、チャージLEDが消灯します。
- カメラの電源がONのときは充電しません。
- ケーブルを接続したままでも電源をONにして操作できますが、本体充電ACアダプターからカメラへの電源の供給はできません。

3 充電が終わったら本体充電ACアダプターをコンセントから外す

カメラからケーブルを外してください。

本体充電ACアダプターを使用した充電時のご注意

本体充電ACアダプターでの充電に対応していないバッテリーを使用している場合や、カメラが高温になった場合など、バッテリーを充電できない場合はチャージLEDが30秒間素早く点滅してから消灯します。チャージLEDが消灯していても、充分に充電されているかどうかを確認してください。

ソフトウェア/アプリケーション

このカメラで使用できるニコン純正ソフトウェアは次の通りです。

● パソコン用ソフトウェア

- **Camera Control Pro 2**（有料）：パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。Camera Control Pro 2で画像の記録先の設定が［**PC**］になっている場合、カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、表示パネルにPC接続中マークが表示されます。
- **NX Tether**：パソコンとカメラを接続して撮影する「テザー撮影」ができるソフトウェアです。パソコンの画面上から露出やホワイトバランスなどのカメラの設定をリモート操作で変更することもできます。
- **NX Studio**※：ニコンデジタルカメラで撮影した静止画や動画の閲覧と編集を行うソフトウェアです。ニコン独自のRAW（NEF/NRW）ファイルを調整したり、JPEG またはTIFF 形式のファイルに変換（RAW現像）することができます。RAW画像だけでなく、ニコン製デジタルカメラで撮影したJPEG、TIFFの画像についても明るさやコントラスト、トーンカーブなどの豊富な機能を使った調整ができます。

  ※最新のバージョンではない場合、カメラの画像が転送できないことや、RAW画像が開けないことがあります。

- **Wireless Transmitter Utility**：カメラをネットワークに接続する場合に必要なアプリケーションです。カメラとパソコンをWi-Fi接続し、Wireless Transmitter Utilityを使用してペアリングすると、画像の転送ができるようになります。

パソコン用ソフトウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアの最新情報や動作環境を確認し、必ず最新版をインストールしてください。
https://downloadcenter.nikonimglib.com/

● スマートフォン用アプリ

SnapBridge：カメラとスマートフォンを無線接続すると、画像や動画をスマートフォンへ送信できます。

- SnapBridgeアプリはApple App Store®またはGoogle Play™でダウンロードできます。
- SnapBridge アプリの最新情報については当社ホームページでご確認ください。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

クリーニングする部分によって方法が異なります。次の方法で行ってください。

- クリーニングするときは、アルコールやシンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

■■ カメラ本体

ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、真水で湿らせた布で砂や塩を軽く拭き取り、よく乾かします。

ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

■■ レンズ・ミラー・ファインダー

ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。

■■ 画像モニター

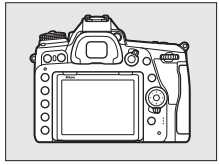
ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

ローパスフィルターのお手入れについて

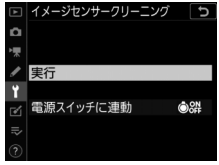
レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■■ メニューから操作する



- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（横位置で構えるときの向き）にしてください。



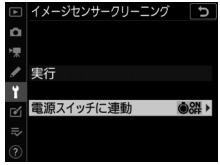
- セットアップメニューの［**イメージセンサークリーニング**］を選び、［**実行**］を選んでⓄKボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。
- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。

■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

項目		内容
ON	［**電源ONで実行**］	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
OFF	［**電源OFFで実行**］	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
ON OFF	［**電源ONとOFFで実行**］	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
［**実行しない**］		電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

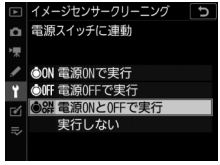
1 ［イメージセンサークリーニング］画面で［電源スイッチに連動］を選ぶ

［**電源スイッチに連動**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［**電源スイッチに連動**］画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

Ⓚボタンを押して設定します。



イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のブロアーで掃除する（🕮827）か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

ローパスフィルターをブロアーで掃除する

イメージセンサークリーニング（🕮823）でゴミやほこりを取りきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

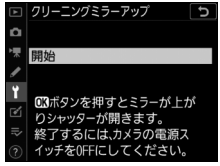
- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせてお使いください。
- セットアップメニューの［**クリーニングミラーアップ**］を使用します。Bluetoothを使ってスマートフォンと接続しているとき、USBケーブルで外部機器と接続しているとき、またはバッテリー残量表示が以下の場合、［**クリーニングミラーアップ**］は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

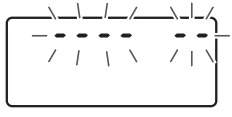
2 セットアップメニューで［クリーニングミラーアップ］を選んでマルチセレクターの▶を押す

クリーニングミラーアップの待機状態になります。

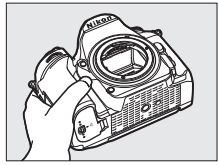


3 Ⓚボタンを押す

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。

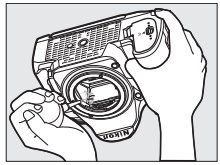


4 **カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する**



ゴミやほこりが付いていない場合は、手順6にお進みください。

5 **ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払う**



- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

6 **カメラの電源をOFFにして、レンズを取り付ける**

ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次のことにご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

ローパスフィルターに付着するゴミなどについて

ローパスフィルターには、カメラからレンズまたはボディーキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によってはローパスフィルターに付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディーキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディーキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。ローパスフィルターに付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング（🕮823）で取り除ききれないときは、「ローパスフィルターをブロアーで掃除する」（🕮827）の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの使用上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない
カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない
カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない
極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、静電気が発生する環境では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない
太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● レーザー光などの光線について
レーザー光などの強い光線がレンズに向けて照射されると、撮像素子が破損を起こすおそれがあります。

● カメラ本体のお手入れについて
カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について
ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について
撮像素子の前面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については「ローパスフィルターのお手入れについて」（🕮823）および「ローパスフィルターをブロアーで掃除する」（🕮827）をご覧ください。

● レンズの信号接点について
レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

- シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。
- シャッター幕に色むらが見える場合がありますが、異常ではありません。また、撮影した画像には影響ありません。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態で、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 画像モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で画像モニターが見えにくい場合があります。
- 画像モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。画像モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、画像モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● 線状のノイズについて

逆光撮影や輝度の高い光源に向けて撮影する場合、まれに撮影した画像上に線状のノイズが発生することがあります。

バッテリーの使用上のご注意

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
  - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
  - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
  - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
  - 必ず指定のバッテリーを使う。
  - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
  - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。

- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの［**電池チェック**］で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。バッテリーの取り出しの際はご注意ください。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する
撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する
撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する
低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について
- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 充分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない
バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル
不要になった充電式電池は、接点部をビニールテープなどで絶縁しリサイクル協力店へお持ちください。
詳しくは一般社団法人JBRCホームページ
（https://www.jbrc.com）をご覧ください。
※数字の有無と数値は、電池によって異なります。



チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-25aに対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャー MH-25aで充電しないでください。
- 落下などによる破損で内部が露出していたり、内部から異音がするような場合は、使用しないでください。

本体充電ACアダプターの使用上のご注意

- 充電中にカメラをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはカメラを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- 本体充電AC アダプターの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- 本体充電AC アダプターを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 落下などによる破損で内部が露出していたり、内部から異音がするような場合は、使用しないでください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D780

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
実撮影画角	ニコンFXフォーマット

有効画素数	
有効画素数	2450万画素

撮像素子	
方式	35.9×23.9 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	2528万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（NX Studioが必要）

記録形式	
記録画素数	• **撮像範囲［FX（36×24）］の場合**： - 6048×4024ピクセル（サイズL：24.3 M） - 4528×3016ピクセル（サイズM：13.7 M） - 3024×2016ピクセル（サイズS：6.1 M） • **撮像範囲［DX（24×16）］の場合**： - 3936×2624ピクセル（サイズL：10.3 M） - 2944×1968ピクセル（サイズM：5.8 M） - 1968×1312ピクセル（サイズS：2.6 M） • **撮像範囲［1:1（24×24）］の場合**： - 4016×4016ピクセル（サイズL：16.1 M） - 3008×3008ピクセル（サイズM：9.0 M） - 2000×2000ピクセル（サイズS：4.0 M） • **撮像範囲［16:9（36×20）］の場合**： - 6048×3400ピクセル（サイズL：20.6 M） - 4528×2544ピクセル（サイズM：11.5 M） - 3024×1696ピクセル（サイズS：5.1 M） • **動画の画像サイズを3840×2160に設定し、動画撮影時に静止画撮影した場合**： 3840×2160ピクセル • **動画の画像サイズを3840×2160以外に設定し、動画撮影時に静止画撮影した場合**： 1920×1080ピクセル
ファイル形式（画質モード）	• **NEF（RAW）**：12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮） • **JPEG**：JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先または画質優先選択可能 • **NEF（RAW）+JPEG**：RAWとJPEGの同時記録可能

記録形式	
ピクチャーコントロールシステム	オート、スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、フラット、Creative Picture Control（ドリーム、モーニング、ポップ、サンデー、ソンバー、ドラマ、サイレンス、ブリーチ、メランコリック、ピュア、デニム、トイ、セピア、ブルー、レッド、ピンク、チャコール、グラファイト、バイナリー、カーボン）、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード（SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-II規格に対応）
ダブルスロット	SDカードの順次記録、バックアップ記録、RAW＋JPEG分割記録ならびにカード間コピー可能
対応規格	DCF 2.0、Exif 2.31

ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	• **FX**：上下左右とも約100%（対実画面） • **DX**：上下左右とも約97%（対実画面） • **1:1**：上下約100%、左右約97%（対実画面） • **16:9**：上下約97%、左右約100%（対実画面）
倍率	約0.7倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、−1.0 m^{-1}のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から21 mm（−1.0 m^{-1}のとき）
視度調節範囲	−3〜＋1 m^{-1}

ファインダー	
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンⅧ（AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能）
ミラー	クイックリターン式
被写界深度プレビュー	**Pv**ボタンによる絞り込み可能、撮影モード**A**、**M**では設定絞り値まで絞り込み可能、**P**、**S**では制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ	
交換レンズ	• **G**、**E**または**D**タイプレンズ（PCレンズ一部制限あり） • **G**、**E**または**D**タイプ以外の**AF**レンズ（IX用レンズ、F3AF用レンズ使用不可） • **P**タイプレンズ • **DX**レンズ（撮像範囲は［**DX（24×16）**］） • **非CPU**レンズ（ただし、非AIレンズは使用不可）：撮影モード**A**、**M**で使用可能 • ファインダー撮影時は、開放F値がF5.6以上明るいレンズでフォーカスエイド可能。ただしフォーカスポイント11点は、F8以上明るいレンズで、フォーカスエイド可能。

シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター、電子先幕シャッター、電子シャッター
シャッタースピード	1/8000～30秒（ステップ幅：1/3、1/2ステップに変更可能、撮影モード**M**では900秒まで延長可能）、Bulb、Time、X200
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/200秒、1/200秒以下の低速シャッタースピードで同調 • オートFPハイスピードシンクロ可能

レリーズ機能	
レリーズモード	**S**（1コマ撮影）、**CL**（低速連続撮影）、**CH**（高速連続撮影）、**Q**（静音撮影）、**QC**（静音連続撮影）、⏲（セルフタイマー撮影）、**MUP**（ミラーアップ撮影）
連続撮影速度	• **CL**：ファインダー撮影時は約1～6コマ/秒、ライブビュー撮影時は約1～3コマ/秒 • **CH**：約7コマ/秒（サイレント撮影の場合は、14ビットRAW設定時に約8コマ/秒、12ビットRAW設定時に約12コマ/秒） • **QC**：約3コマ/秒
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ、連続撮影間隔：0.5、1、2、3秒

露出制御	
測光方式	• **ファインダー撮影時**：180Kピクセル（約180,000ピクセル）RGBセンサーによるTTL開放測光方式 • **ライブビュー撮影時**：撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	• **マルチパターン測光**：3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ（G、EまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光Ⅲ（その他のCPUレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光（非CPUレンズのレンズ情報手動設定時） • **中央部重点測光**：φ12 mm相当を測光（中央部重点度約75%）、φ8 mm、φ15 mm、φ20 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能（非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E ED使用時はφ12 mm） • **スポット測光**：約φ4 mm相当（全画面の約1.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動（非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E ED使用時は中央に固定） • **ハイライト重点測光**：G、EまたはDタイプレンズ使用時のみ
測光範囲※	• **マルチパターン測光、中央部重点測光**：－3～20 EV • **スポット測光**：2～20 EV • **ハイライト重点測光**：0～20 EV ※ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃

露出制御	
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
撮影モード	• AUTO：オート、**P**：プログラムオート（プログラムシフト可能）、**S**：シャッター優先オート、**A**：絞り優先オート、**M**：マニュアル • **EFCT**：スペシャルエフェクトモード（：ナイトビジョン、**VI**：極彩色、**POP**：ポップ、：フォトイラスト、：トイカメラ風、：ミニチュア効果、：セレクトカラー、：シルエット、：ハイキー、：ローキー） • ユーザーセッティング**U1**、**U2**に登録可能
露出補正	**P**、**S**、**A**、**M**、**EFCT**時に設定可能、範囲：±5段（動画撮影時は±3段）、補正ステップ：1/3、1/2ステップに変更可能
AEロック	輝度値ロック方式
ISO感度（推奨露光指数）	ISO 100～51200（ステップ幅：1/3、1/2ステップに変更可能）、ISO 100に対し約0.3、0.5、0.7、1段（ISO 50相当）の減感、ISO 51200に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段（ISO 204800相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブD-ライティング	オート、より強め、強め、標準、弱め、しない

オートフォーカス	
方式	• **ファインダー撮影時**：アドバンストマルチCAM3500 ⅡオートフォーカスセンサーモジュールによるTTL位相差検出方式（フォーカスポイント51点（うち、15点はクロスタイプセンサー、11点はF8対応）、AF微調節可能） • **ライブビュー撮影時**：撮像素子によるハイブリッドAF（位相差AF/コントラストAF、AF微調節可能）
検出範囲	• **ファインダー撮影時**※1：–3～+19 EV • **ライブビュー撮影時**※2：–5～+19 EV、ローライトAF時–7～+19 EV ※1 ISO 100、常温20℃ ※2 静止画撮影、シングルAFサーボ（**AF-S**）、低輝度側：絞りf/1.4設定時、高輝度側：絞りf/5.6設定時、ISO 100、常温20℃
レンズサーボ	• **オートフォーカス（AF）**：シングルAFサーボ（**AF-S**）、コンティニュアスAFサーボ（**AF-C**）、AFサーボモード自動切り換え（**AF-A**）（静止画撮影時のみ）、常時AFサーボ（**AF-F**）（動画撮影時のみ）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • **マニュアルフォーカス（M）**：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	• **ファインダー撮影時**：カスタムメニュー a6［**AF点数**］を［**全点**］に設定時は51点、［**スキップ**］に設定時は11点のフォーカスポイントから選択可能 • **ライブビュー撮影時**※：カスタムメニュー a6［**AF点数**］を［**全点**］に設定時は273点、［**スキップ**］に設定時は77点のフォーカスポイントから選択可能 ※静止画撮影、撮像範囲［**FX（36×24）**］、シングルポイントAF時

オートフォーカス	
AFエリアモード	• **ファインダー撮影時**：シングルポイントAFモード、ダイナミックAFモード（9点、21点、51点）、3D-トラッキング、グループエリアAFモード、オートエリアAFモード • **ライブビュー撮影時**：ピンポイントAF（静止画撮影、シングルAFサーボ（**AF-S**）時のみ）、シングルポイントAF、ダイナミックAF（静止画撮影、コンティニュアスAFサーボ（**AF-C**）時のみ）、ワイドエリアAF（S）、ワイドエリアAF（L）、オートエリアAF
フォーカスロック	AE-Lボタン、またはシングルAFサーボ（**AF-S**）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ	
調光方式	• **ファインダー撮影時**：180Kピクセル（約180,000ピクセル）RGBセンサーによるTTL調光制御 • **ライブビュー撮影時**：撮像素子によるTTL調光制御 • i-TTL-BL調光（マルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	先幕シンクロ、赤目軽減、スローシンクロ、赤目軽減スローシンクロ、後幕シンクロ、発光禁止
調光補正	**P**、**S**、**A**、**M**時に設定可能、範囲：−3〜+1段、補正ステップ：1/3、1/2ステップに変更可能

フラッシュ	
レディーライト	別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリーシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	i-TTL調光、電波制御アドバンストワイヤレスライティング、光制御アドバンストワイヤレスライティング、モデリング発光、FVロック、発光色温度情報伝達、オートFPハイスピードシンクロ、マルチポイントAF補助光（ファインダー撮影時）、ユニファイドフラッシュコントロール
シンクロターミナル	ホットシューアダプター AS-15（別売）

ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート（3種）、自然光オート、晴天、曇天、晴天日陰、電球、蛍光灯（7種）、フラッシュ、色温度設定（2500K～10000K）、プリセットマニュアル（6件登録可、ライブビュー撮影時にスポットホワイトバランス取得可能）、色温度設定以外は微調整可能

ブラケティング	
ブラケティング	AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング、ホワイトバランスブラケティング、アクティブD-ライティングブラケティング

ライブビュー機能	
撮影モード	📷（静止画ライブビュー）モード、🎥（動画ライブビュー）モード

動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光
記録画素数/フレームレート	• 3840×2160（4K UHD）：30p/25p/24p • 1920×1080：120p/100p/60p/50p/30p/25p/24p • 1920×1080スロー：30p（4倍）/25p（4倍）/24p（5倍） ※120p：119.88fps、100p：100fps、60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※標準/★高画質選択可能（3840×2160、1920×1080 120p/100p、1920×1080スローは★高画質のみ）
ファイル形式	MOV、MP4
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM、AAC
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能、マイク感度設定可能、アッテネーター機能

動画機能	
ISO感度（推奨露光指数）	ISO 100～51200（ステップ幅：1/3、1/2ステップに変更可能）、ISO 51200に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段（ISO 204800相当）の増感、感度自動制御（ISO 100～Hi 2）が可能、制御上限感度が設定可能
アクティブD-ライティング	静止画の設定と同じ、より強め、強め、標準、弱め、しない
その他の機能	タイムラプス動画、電子手ブレ補正、タイムコード、動画Log（N-Log）出力、HDR（HLG）動画出力

画像モニター	
画像モニター	チルト式3.2型TFT液晶モニター（タッチパネル）、約236万ドット（XGA）、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能（マニュアル11段階）、カラーカスタマイズ可能

再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割またはカレンダーモード）、拡大再生、拡大再生中のトリミング、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の縦位置自動回転、レーティング、インデックスマーク

インターフェース	
USB	Type-C端子（SuperSpeed USB）（標準装備されたUSBポートへの接続を推奨）
HDMI出力	HDMI端子（Type C）装備
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5 mm）、プラグインパワーマイク対応
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック（φ3.5 mm）
アクセサリーターミナル	あり（別売リモートコードMC-DC2など使用可能）

Wi-Fi（無線LAN）・Bluetooth	
Wi-Fi	• **準拠規格**：IEEE802.11b/g/n/a/ac • **周波数範囲（中心周波数）**：2412～2472 MHz（13ch）、5180～5700 MHz • **出力（EIRP）**： - 2.4 GHz：2.90 dBm - 5 GHz：8.70 dBm • **認証方式**：オープンシステム、WPA2-PSK

Wi-Fi（無線LAN）・Bluetooth	
Bluetooth	• **通信方式**：Bluetooth標準規格 Ver.4.2 • **周波数範囲（中心周波数）**： - Bluetooth：2402～2480 MHz - Bluetooth Low Energy：2402～2480 MHz • **出力（EIRP）**： - Bluetooth：–2.60 dBm - Bluetooth Low Energy：–4.10 dBm
通信距離（見通し）	約10 m※ ※電波干渉がない場合。通信距離は遮蔽物や電波状態などにより影響されます。

電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b※1個使用 ※EN-EL15bの代わりにEN-EL15c/EN-EL15a/EN-EL15も使えます。ただし、EN-EL15を使用したときはEN-EL15c/EN-EL15b/EN-EL15aを使用したときよりも、撮影可能コマ数（電池寿命）が減少する場合があります。本体充電ACアダプター EH-7Pを使用した充電はEN-EL15c/EN-EL15b使用時のみ可能。
ACアダプター	ACアダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b（パワーコネクター EP-5Bと組み合わせて使用）（別売）

三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）

寸法・質量	
寸法（W×H×D）	約143.5×115.5×76 mm
質量	約840 g（バッテリーおよびSDメモリーカードを含む、ボディーキャップを除く）、約755 g（本体のみ）

動作環境	
温度	0℃～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA（カメラ映像機器工業会）規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- カメラに表示されるサンプル画像、および説明書内の画像やイラストは、機能を説明するためのイメージです。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

■■ バッテリーチャージャー MH-25a

電源	AC 100–240 V、50/60 Hz、0.23–0.12 A
定格入力容量	21–28VA
充電出力	DC 8.4 V、1.2 A
適応充電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15c/EN-EL15b/EN-EL15a/EN-EL15
充電時間	約2時間35分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約95×33.5×71 mm（突起部除く）
質量	約115 g（電源プラグ（直付け型）を除く）

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。
～ AC（交流）、⎓ DC（直流）、⧈ クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.0 V、1900 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約40×56×20.5 mm
質量	約80 g（端子カバーを除く）

☑ カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にSDカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに充分ご注意ください。

本製品を譲渡/廃棄する際は、使用者によって本製品内に登録または設定された、無線LAN接続設定などの個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー［**カメラの初期化**］を行って削除してください。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system（DCF）Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **Exif Version 2.31**：（Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **HDMI（High-Definition Multimedia Interface）**：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

使用できるSDカード

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードが使用できます。
- UHS-IおよびUHS-IIに対応しています。
- 動画の撮影および再生には、UHSスピードクラス3以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の記録および再生が途中で終了することがあります。
- カードリーダーなどをお使いの場合は、お使いのSDカードに対応していることをご確認ください。
- SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮像範囲、画質モード、画像サイズの組み合わせによって、64GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

撮像範囲が［FX（36×24）］の場合

静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］が［**FX（36×24）**］のときの、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は次の通りです。

- ［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］が［**する**］でDXレンズ以外のレンズを装着した場合を含みます。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	—	約21.7 MB	1400コマ	100コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）	—	約27.7 MB	1200コマ	68コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	—	約19.4 MB	1800コマ	100コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）	—	約24.1 MB	1500コマ	100コマ

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
FINE※4	L	約9.8 MB	3600コマ	100コマ
	M	約6.7 MB	6000コマ	100コマ
	S	約4.1 MB	11200コマ	100コマ
NORMAL※4	L	約6.6 MB	7000コマ	100コマ
	M	約4.0 MB	11700コマ	100コマ
	S	約2.2 MB	21900コマ	100コマ
BASIC※4	L	約2.3 MB	13700コマ	100コマ
	M	約1.7 MB	21900コマ	100コマ
	S	約1.2 MB	40100コマ	100コマ

撮像範囲が［DX（24×16）］の場合

静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］が［**DX（24×16）**］のときの、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は次の通りです。

- ［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］が［**する**］でDXレンズを装着した場合を含みます。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	—	約9.9 MB	3000コマ	100コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）	—	約12.5 MB	2600コマ	100コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	—	約8.8 MB	3800コマ	100コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）	—	約10.8 MB	3300コマ	100コマ

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
FINE※4	L	約4.8 MB	7600コマ	100コマ
	M	約3.5 MB	11700コマ	100コマ
	S	約2.4 MB	19200コマ	100コマ
NORMAL※4	L	約3.2 MB	14600コマ	100コマ
	M	約2.1 MB	21900コマ	100コマ
	S	約1.3 MB	34400コマ	100コマ
BASIC※4	L	約1.2 MB	26700コマ	100コマ
	M	約1.0 MB	40100コマ	100コマ
	S	約0.7 MB	60200コマ	100コマ

※1 SanDisk社製64GBのSDSDXPK-064G-JNJIPのSD UHS-IIカードを使用した場合（2019年9月現在）
※2 撮影条件により、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は、増減することがあります。
※3 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。
- ［**画質モード**］で画質を優先した（［★］が付いた）項目に設定してJPEG画像を撮影した場合
- ［**自動ゆがみ補正**］を［**する**］に設定した場合

※4 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、［**画質モード**］でサイズを優先した（［★］が付いていない）項目に設定されている場合です。画質を優先した（［★］が付いた）項目に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。

☑ 連続撮影時の連続撮影コマ数について

連続撮影時の連続撮影コマ数は、カスタムメニュー d2［**連続撮影コマ数**］で1～100コマの範囲で設定できます。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

フル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b（1900 mAh）※1使用時の電池寿命は次の通りです。電池寿命は、バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって異なります。

- 撮影可能コマ数（1コマ撮影モード）：約2260コマ（CIPA基準準拠※2）
- 撮影可能コマ数（連続撮影モード）：約4570コマ（当社試験条件※3）
- 動画撮影可能時間：約95分※4

次の場合などは、バッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで画像モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- BluetoothおよびWi-Fi（無線LAN）機能を使用した場合
- アクセサリーを装着して使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
- AF-Pレンズ使用時にズーム操作を繰り返した場合
- 低温環境で撮影した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15bの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

※1 EN-EL15bの代わりにEN-EL15c/EN-EL15a/EN-EL15も使えます。ただし、EN-EL15を使用したときはEN-EL15c/EN-EL15b/EN-EL15aを使用したときよりも、撮影可能コマ数（電池寿命）が減少する場合があります。

※2 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。装着レンズ AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR 、温度23（±2）℃。SanDisk社製32GBのSDSDXPK-032G-JNJIP - 32GBのSD UHS-IIカードを使用した場合（2019年9月現在）。

※3 画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続レリーズした後、画像モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズ AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8E FL ED VR（VR機能OFF）、温度23（±2）℃。SanDisk社製32GBのSDSDXPK-032G-JNJIP - 32GBのSD UHS-IIカードを使用した場合（2019年9月現在）。

※4 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格による実撮影電池寿命です。装着レンズ AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR、温度23（±2）℃。SanDisk社製32GBのSDSDXPK-032G-JNJIP - 32GBのSD UHS-IIカードを使用した場合（2019年9月現在）。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は29分59秒です。
- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画撮影が終了することがあります。

商標およびソフトウェアの著作権とライセンスについて

- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple®、App Store®、Appleロゴ、iPhone®、iPad®、iPod touch®、Mac、macOSおよびOS Xは米国およびその他の国々で登録された、Apple Inc.の商標です。
- iPhoneの商標は、アイホン株式会社（https://www.aiphone.co.jp/）のライセンスに基づき使用しています。
- AndroidとGoogle PlayおよびGoogle Playロゴは、Google LLCの商標です。Androidロボットは、Googleが作成および提供している作品から複製または変更したものであり、Creative Commons 3.0 Attributionライセンスに記載された条件に従って使用しています。
- IOSの商標は、米国およびその他の国におけるCiscoのライセンスに基づき使用しています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社ニコンはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Wi-FiおよびWi-Fiロゴは、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

Use of the Made for Apple badge means that an accessory has been designed to connect specifically to the Apple products identified in the badge, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with an Apple product may affect wireless performance.

FreeType License（FreeType2）

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project（https://www.freetype.org）のものです。全ての権利はその所有者に帰属します。

MIT License（HarfBuzz）

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2018 The HarfBuzz Project（https://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz）のものです。全ての権利はその所有者に帰属します。

☑ Unicode® Character Database License（Unicode® Character Database）

本製品のソフトウェアは、オープンソースソフトウェア（Unicode® Character Database）を利用しています。本オープンソースソフトウェアのライセンス条件は以下のとおりです。

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2019 Unicode, Inc. All rights reserved.

Distributed under the Terms of Use in

https://www.unicode.org/copyright.html.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that either

(i) this copyright and permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, or

(ii) this copyright and permission notice appear in associated Documentation.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.
Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。
詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。
https://www.mpegla.com をご参照ください。

キットレンズの説明書

レンズキットのレンズについて

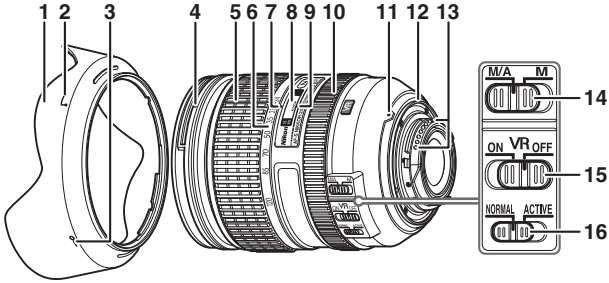
AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR説明書

このカメラとAF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VRをレンズキットでご購入の場合は、こちらをレンズの使用説明書としてお使いください。

- 国または地域によっては、レンズキットを販売していない場合があります。

■ 各部名称

AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VRの各部名称は次の通りです。



1	フード（🕮882）
2	フード取り付け指標（🕮882）
3	フードセット指標（🕮882）
4	フード着脱指標（🕮882）
5	ズームリング
6	焦点距離目盛
7	焦点距離目盛指標
8	距離目盛
9	距離目盛基準線
10	フォーカスリング（🕮162）
11	レンズ着脱指標（🕮25）
12	レンズマウントゴムリング
13	CPU信号接点（🕮791）
14	フォーカスモード切り換えスイッチ（🕮162）
15	手ブレ補正スイッチ（🕮880）
16	手ブレ補正モード切り換えスイッチ

■■ ピント合わせの方法

ご使用のカメラや撮影目的によって、下表のようなピント合わせが選択できます。

カメラのフォーカスモード	レンズのフォーカスモード	
	M/A	**M**
AF（A/S/C）	マニュアル優先オートフォーカス	マニュアルフォーカス（フォーカスエイド可）
MF	マニュアルフォーカス（フォーカスエイド可）	

カメラのフォーカスモードについては、カメラの使用説明書をご覧ください。

M/A（マニュアル優先オートフォーカスモード）の使い方

1 **レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを［M/A］にセットします。**

2 **AF（オートフォーカス）撮影時、カメラのシャッターボタンを半押ししたまま、あるいはAF作動（AF-ON）ボタンを保持したまま、フォーカスリングを手で回転させると、瞬時にMF（マニュアルフォーカス）撮影が行えます。**

3 **カメラのシャッターボタンの半押しやAF作動ボタンを再度操作するとAF（オートフォーカス）で撮影が可能となります。**

■■ ズーミングと被写界深度

撮影を行う場合は、ズームリングを回転させ（焦点距離が変化します）構図を決めてから、ピント合わせを行ってください。プレビュー（絞り込み）機構を持つカメラでは、撮影前に被写界深度を確認できます。

- このレンズはIF（ニコン内焦）方式を採用しています。IF方式は、撮影距離が短くなるにしたがって焦点距離が短くなります。
- 距離目盛は目安であり、被写体までの距離を保証するものではありません。また、遠景撮影でも被写界深度などの影響により∞マークに届かない位置でピントが合う場合があります。

■■ 絞り値の設定

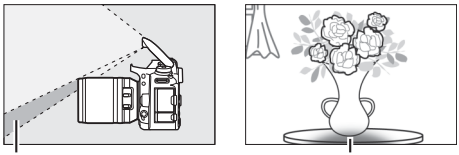
絞り値は、カメラ側で設定してください。

■■ 内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときのご注意

このレンズの装着時にカメラの内蔵フラッシュを使用する場合は、次のことにご注意ください。

- 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は約0.6mです。
- ケラレを防止するために、レンズのフードは取り外して使用してください。

※カメラの内蔵フラッシュのケラレとは、フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に写り込む現象です。



1 影
2 ケラレ

• 次のカメラに装着するとケラレが発生する可能性があるため、下記の焦点距離や撮影距離で使用してください。

デジタル一眼レフカメラ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D750（FXフォーマット時）/ D610（FXフォーマット時）/ D600（FXフォーマット時）	• 焦点距離24mmでは撮影距離2.0m以上 • 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 • 焦点距離50mm以上は制約なし
D810（FXフォーマット時）/ D800シリーズ（FXフォーマット時）	• 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
D700（FXフォーマット時）	• 焦点距離24mmでは撮影距離3.0m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
D300シリーズ/D200/D100	• 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
D90/D80/D70シリーズ/D50	• 焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
D5600/D5500/D5300/D5200/ D5100/D3300/D3200	• 焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離28mm以上は制約なし
D5000/D3100/D3000/D60/ D40シリーズ	• 焦点距離24mmでは撮影距離2.5m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
D3400	• 焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし

■■ 手ブレ補正機能

手ブレ補正スイッチの使い方

ON：シャッターボタンを半押しすると、手ブレを補正します。ファインダー像のブレも補正するため、ピント合わせが容易で、フレーミングしやすくなります。

OFF：手ブレを補正しません。

手ブレ補正モード切り換えスイッチの使い方

手ブレ補正スイッチを［**ON**］にし、手ブレ補正モード切り換えスイッチを設定します。

NORMAL：主に、通常の手ブレを補正します。流し撮りでも手ブレを補正します。

ACTIVE：乗り物に乗っている等、揺れの激しい条件でのブレから通常の手ブレまで補正します。このモードでは流し撮り自動検出は行いません。

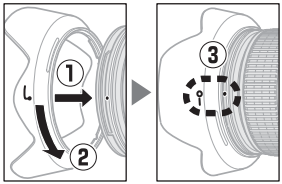
手ブレ補正使用時のご注意

- シャッターボタンを半押し後、ファインダー像が安定してから撮影することをおすすめします。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターレリーズ後にファインダー像がわずかに動くことがありますが、異常ではありません。
- 流し撮りする場合は、必ずNORMALモードにしてください。NORMALモードでは、流し撮りなどでカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。たとえば、横方向に流し撮りすると、縦方向の手ブレだけが補正されます。
- 手ブレ補正中にカメラの電源をOFFにしたり、レンズを取り外したりしないでください。その状態でレンズを振るとカタカタ音がすることがありますが、故障ではありません。カメラの電源を再度ONにすれば、音は消えます。
- 内蔵フラッシュ搭載のカメラで、内蔵フラッシュ充電中は、手ブレ補正は行いません。
- AF作動（AF-ON）ボタンのあるカメラで、AF作動ボタンを押しても、手ブレ補正は作動しません。
- 三脚を使用するときは、手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ただし、三脚を使っても雲台を固定しないときや、一脚を使用するときには、スイッチをONにすることをおすすめします。

■■ フードの使い方

画像に悪影響を及ぼす光線をカットし、レンズ面の保護にも役立ちます。

取り付け方



- フード脱着指標（●）とフードセット指標（—○）が合っていることを確認してください（③）。
- フードの先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標（▲）付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと撮影画面にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。

▮▮ 付属アクセサリー

- レンズキャップ LC-77（フロントキャップ）
- レンズキャップ LF-4（リアキャップ）※
- レンズフード HB-53
- ソフトケース CL-1218

※レンズキットでは異なるレンズキャップ（リアキャップ）が付属する場合があります。

▮▮ 別売アクセサリー

- 77 mmネジ込み式フィルター

■■ 仕様

型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-Sレンズ
焦点距離	24 mm–120 mm
最大口径比	1：4
レンズ構成	13群17枚（EDレンズ2枚、非球面レンズ3枚、ナノクリスタルコート）
画角	84º– 20º 20′（FXフォーマットのデジタル一眼レフカメラ） 61º– 13º 20′（DXフォーマットのデジタル一眼レフカメラ）
焦点距離目盛	24、28、35、50、70、85、120 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	IF（ニコン内焦）方式、超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
撮影距離目盛	∞～0.45 m
最短撮影距離	撮像面から0.45 m（ズーム全域）

絞り羽根枚数	9枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲	f/4–22
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	77 mm（P=0.75 mm）
寸法	約84 mm（最大径）×103.5 mm（レンズマウント基準面からレンズ先端まで）
質量	約710 g

- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

レンズのお手入れと取り扱い上のご注意

- CPU信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズマウントゴムリングが破損した場合は、そのまま使用せず販売店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- レンズ面の清掃は、ほこりを拭う程度にしてください。指紋がついたときは、柔らかい清潔な木綿の布に無水アルコール（エタノール）または市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、レンズの中心から外周へ渦巻き状に、拭きむら、拭き残りのないように注意して拭いてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズ表面の汚れや傷を防ぐためには、ニュートラルカラー NCをお使いいただけます。また、レンズのフードも役立ちます。
- レンズをケースに入れるときは、必ずレンズキャップを取り付けてください。
- フードをレンズに装着した状態で、フードだけを持たないでください。
- レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。また、直射日光の当たるところ、防虫剤のあるところも避けてください。
- レンズを水にぬらすと、部品がサビつくなどして故障の原因となりますのでご注意ください。
- ストーブの前など、高温になるところに置かないでください。極端に温度が高くなると、外観の一部に使用している強化プラスチックが変形することがあります。

索 引

マーク・英数字

AUTO（オート）.....36
P（プログラムオート）.....109
S（シャッター優先オート）.....110
A（絞り優先オート）.....111
M（マニュアル）.....113
EFCT（スペシャルエフェクト）.....119
U1、**U2**（ユーザーセッティングモード）.....115
（ナイトビジョン）.....119
VI（極彩色）.....119
POP（ポップ）.....119
（フォトイラスト）.....119, 122
（トイカメラ風）.....120, 123
（ミニチュア効果）.....120, 124
（セレクトカラー）.....120, 126
（シルエット）.....120
（ハイキー）.....120
（ローキー）.....120
S（1コマ撮影）.....73, 179
CL（低速連続撮影）.....73, 179
CH（高速連続撮影）.....74, 179
Qc（静音連続撮影）.....74, 180
Q（静音撮影）.....74, 180
（セルフタイマー撮影）74, 180, 183
MUP（ミラーアップ撮影）74, 180, 185
（ピンポイントAF）.....80, 150
[ ]（シングルポイントAF）.....78, 80, 145, 150
（ワイドエリアAF（S））.....80, 150
（ワイドエリアAF（L））.....80, 150
[ ]（ダイナミックAF）.....78, 80, 145, 151
[3D]（3D-トラッキング）.....79, 146
（グループエリアAF）.....79, 146
（オートエリアAF）.....79, 81, 147, 151
（マルチパターン測光）.....100, 166, 603
（中央部重点測光）.....100, 166
（スポット測光）.....100, 167
*（ハイライト重点測光）.....100, 167
Pv（プレビュー）ボタン.....105, 112
（ヘルプあり表示）.....62
Infoボタン.....68, 69, 474
Fnボタン.....82
?/（**WB**）ボタン.....86, 198, 378
（露出補正）ボタン.....94
（**QUAL**）ボタン.....95, 376
（ ）ボタン.....99, 282, 376
（ ）ボタン.....101, 103
*i*ボタン.....63, 361
*i*メニュー.....63, 347
iメニューのカスタマイズ...347, 623, 626, 643
使用時の感度自動制御.....621
（連続撮影可能コマ数）.....181
スイッチの機能.....642
1:1（24×24）（撮像範囲設定）.....130
16:9（36×20）（撮像範囲設定）.....130
1コマ撮影.....178
1コマ表示.....353
3D-トラッキング.....79, 146
3D-トラッキング時の顔認識.....592
ACアダプター.....808, 814
ADLブラケティング（オートブラケティングのセット）.....238

AE-Lマーク 84, 173
AE・フラッシュブラケティング（オートブラケティングのセット） 226
AEブラケティング（オートブラケティングのセット） 226
AEロック 83, 173
AF-A（AFモード自動切り換え） 77, 140, 142
AF-C（コンティニュアスAF） 77, 140, 142
AF-Cモード時の優先 590
AF-F（フルタイムAF） 77, 143
AF-ONボタン 82
AF-S（シングルAF） 77, 140, 142
AF-Sモード時の優先 591
AFエリアモード 78, 145
AF設定時のフォーカスリング操作 600
AF速度 650
AF追従感度 652
AF点数 594
AF微調節の設定 663
AFモード 77, 140
AFモード自動切り換え 77, 140, 142
AFモードボタン 76, 144, 154
AFロックオン 592
BKTの順序 622
BKTボタン 104, 226, 232, 238
Bluetooth 415
Bulb（バルブ撮影） 170
CPUレンズ 786, 791
Creative Picture Control（クリエイティブピクチャーコントロール） 244
DX（24×16）（撮像範囲設定） 130
DX自動切り換え（撮像範囲設定） 133
DXフォーマット 130
DXベースの（動画）フォーマット 263
Dタイプレンズ 791
D-ライティング 726
EFFECTS時の元画像保存 613
Eタイプレンズ 791
Fnボタン 106
FTPサーバー 454
FVロック 471
FX（36×24）（撮像範囲設定） 130
FXフォーマット 130
FXベースの（動画）フォーマット 263
Gタイプレンズ 791
HDMI 396
HDR（ハイダイナミックレンジ） 256
Hi（ISO感度） 189
H.264 850
IPアドレス 443
ISO（WB）ボタン 91, 93, 656
ISO感度 91, 187, 190
ISO感度設定 553, 575
Lo（ISO感度） 189
L（画像サイズ） 97, 137
MACアドレス 699
MENUボタン 57
M（画像サイズ） 97, 137
M（マニュアルフォーカス） 162
Mモード時のシャッタースピード延長 610
OKボタンの機能 635
PCと接続 696
PCと直接接続 433
PRE（プリセットマニュアル） 209
Pv（プレビュー）ボタン 105, 112
RAW+JPEG分割記録（スロット2の機能） 279
RAW記録 552
RAW現像 713
RGBヒストグラム 369
SDカード 27, 860
SnapBridge 403
SSID 433, 441
S（画像サイズ） 97, 137
USBケーブル ii

WBブラケティング（オートブラケティングのセット）.....232
Wi-Fi接続.....694
Wi-Fi接続先を検索.....440
Wi-Fi通信機能.....625, 696
Wi-Fiモード.....406
Wireless Transmitter Utility.....430
WPS PIN コード方式.....440
WPSプッシュ ボタン方式.....440
WR-R10.....479, 688
WT-7.....453, 810

ア

アイピースキャップ.....10
アオリ効果.....732
赤目軽減発光.....102, 465
赤目補正.....728
明るさ（ピクチャーコントロール）247
アクセスポイントモード.....431, 433
アクティブD-ライティング.....254
アクティブD-ライティングブラケティング.....238
アッテネーター.....582
後幕発光.....102, 467
暗号キー.....433, 442
位置情報.....687
位置情報表示.....373
一灯撮影.....460
イメージセンサークリーニング.....673, 823
イメージダストオフデータ取得.....675
イルミネーター点灯.....616
色合い（色相）（ピクチャーコントロール）.....247
色温度.....204, 206, 208
色温度設定（ホワイトバランス）.....89, 197
色空間.....554
色の濃さ（彩度）（ピクチャーコントロール）.....247
色の濃淡（ピクチャーコントロール）.....247
インジケーターの＋/－方向.....642
インターバルタイマー撮影.....298
インフォ画面の表示設定.....662
インフラストラクチャーモード.....432, 439
ヴィネットコントロール.....558
オート（ピクチャーコントロール）243
オート（ホワイトバランス）.....88, 195
オートエリアAF.....79, 81, 147, 151
オートエリアAF時の顔と瞳認識.....593
オートブラケティング.....104, 224, 567
オートブラケティングのセット.....224

カ

カードなし時レリーズ.....702
カードの初期化（フォーマット）.....656
回折補正.....559, 578
外部マイク.....49, 812
開放F値.....349, 788
開放絞り.....349, 788
顔認識AF.....155
画角.....789
拡大表示.....376
風切り音低減.....583
画質モード.....95, 134
カスタムピクチャーコントロール.250
カスタムボタンの機能.....628, 645
カスタムメニュー.....586
カスタムメニューのリセット.....590
画像合成.....734
画像コピー.....532
画像コメント.....681
画像サイズ.....97, 137
画像サイズ/フレームレート.....264

画像情報 366
画像編集メニュー 709
傾き補正 729
カメラの初期化 708
カレンダー表示 355
簡易トリミング 362, 377
簡単接続 440
簡単レタッチ 727
感度自動制御機能 93, 190
基準露出レベルの調節 604
機内モード 691
距離基準マーク 165
記録可能コマ数 861
記録フォルダー設定 545
クール（モノトーン） 733
クイックシャープ（ピクチャーコントロール） 247
クリーニングミラーアップ 827
グループエリアAF 79, 146
蛍光灯（ホワイトバランス） 89, 196
言語（Language） 657
光学手ブレ補正 617
高感度（Hi） 189
高感度ノイズ低減 557, 578
格子線表示 615
高速連続撮影 74, 179
極彩色（スペシャルエフェクト） 119
コマンドダイヤルの設定 637
コンティニュアスAF 77, 140, 142
コントラスト（ピクチャーコントロール） 247

サ

最近設定した項目 744, 750
最小絞り 108
再生 51, 53, 353
再生画面設定 531
再生フォルダー設定 530
再生メニュー 529
サイレント撮影（静止画Lv） 340
削除 56, 383, 530
削除後の次再生画像 539
撮影画面サイズ 789
撮影後自動送信 449
撮影情報 371
撮影直後の画像確認 357, 538
撮影モードダイヤル 36, 71
撮影モードダイヤルロックボタン 72
撮像範囲 129, 262
撮像範囲設定 262
サムネイル表示 354
自然光オート（ホワイトバランス） 88, 196
始点/終点の設定 273
自動ゆがみ補正 560
視度調節ダイヤル 11
絞り値 111, 113, 638
絞り優先オート 111
シャッタースピード 110, 113
シャッターボタンAEロック 605
シャッター優先オート 110
順次記録（スロット2の機能） 279
焦点距離の設定 349
シルエット（スペシャルエフェクト） 120
白黒（モノトーン） 733
シングルAF 77, 140, 142
シングルポイントAF 78, 80, 145, 150
水準器 69, 70, 661
水準器表示 661
スタンダード（ピクチャーコントロール） 243
スポット測光 100, 167
スポットホワイトバランス 216
スマートフォンと接続 409, 416, 422, 429, 692
スライドショー 540

スローシャッター.....102, 466
スローモーション動画.....266
スロット2の機能.....279
静音撮影.....74, 180
静音連続撮影.....74, 180
制御上限感度（感度自動制御）.....191
静止画撮影メニュー.....544
静止画撮影メニューのリセット.....545
晴天（ホワイトバランス）.....88, 196
晴天日陰（ホワイトバランス）88, 196
接続設定.....433, 439, 696
セットアップメニュー.....654
セピア（モノトーン）.....733
セルフタイマー.....183, 606
セレクトカラー（スペシャルエフェクト）.....120, 126
全押し（シャッターボタン）.....39
全画像削除.....388
選択画像削除.....386
送信指定（Bluetooth）.....693
送信指定/解除.....381
送信指定/解除（PC）.....448
増灯撮影.....477
測光モード.....99, 166

タ

ターゲット追尾AF.....158
ダイナミックAF.....78, 80, 145, 151
タイマー（セルフタイマー）.....183
タイムコード.....584
タイム撮影（長時間露出）.....170
タイムラプス動画.....315
多重露出.....287
タッチ操作.....358, 686
タッチパネル.....14
縦/横位置フォーカスポイント切換595
縦位置自動回転.....540
地域と日時.....658
チャージャー.....23
中央部重点測光.....100, 166
中央部重点測光範囲.....603
調光補正.....469
長時間露出.....170
調色（ピクチャーコントロール）.....247
長秒時ノイズ低減.....556
著作権情報.....682
ツーボタンリセット.....282
通常発光.....102, 465
低感度（Lo）.....189
低速限界設定（感度自動制御）.....192
低速連続撮影.....73, 179
低速連続撮影速度.....607
適用度（ピクチャーコントロール）247
電球（ホワイトバランス）.....88, 196
電源OFF中の通信.....695
電子音.....684
電子先幕シャッター.....609
電子手ブレ補正.....580
電池チェック.....701
トイカメラ風（スペシャルエフェクト）.....120, 123
動画.....45, 53, 271
動画記録先.....572
動画記録ファイル形式.....574
動画撮影メニュー.....571
動画撮影メニューのリセット.....572
動画の画質.....264, 574
動画編集.....271, 277
動画編集（始点/終点設定）.....743
統合表示.....374
トリミング.....719
曇天（ホワイトバランス）.....88, 196

ナ

ナイトビジョン（スペシャルエフェクト）.....119

ニュートラル（ピクチャーコントロール）243
認証マークの表示700
ネガフィルムデジタイズ343

ハ

ハイキー（スペシャルエフェクト）120
ハイダイナミックレンジ256
ハイライト重点測光100, 167
ハイライト表示368, 653
バックアップ記録（スロット2の機能）279
発光禁止102, 467
発光モード463
バッテリー22, 24
バッテリーチャージャー22
バルブ撮影（長時間露出）170
パワーコネクター808, 814
半押しAFレンズ駆動597
半押しタイマー39, 605
非CPUレンズ349, 792, 795
ピーキング表示（フォーカスピーキング）615
ピクセルマッピング679
ピクチャーコントロール243
被写界深度111, 112
ヒストグラム69, 70
日付選択（削除）387
ピッチング661
瞳AF155
ビビッド（ピクチャーコントロール）243
標準表示367
ピンポイントAF80, 150
ファームウェアバージョン708
ファイル名設定550, 572
ファインダーのマスク表示133
フィルター効果（ピクチャーコントロール）247
風景（ピクチャーコントロール）244
フォーカスエイド164
フォーカスシフト撮影328
フォーカスポイント145, 159
フォーカスポイント循環選択597
フォーカスポイント表示の設定598
フォーカスモード139, 162
フォーカスモードセレクター139, 162
フォーカスリング162, 875
フォーカスロック83
フォトイラスト（スペシャルエフェクト）119, 122
ブラケティング226, 232, 238
フラッシュ（ホワイトバランス）89, 197
フラッシュインフォ画面474, 507
フラッシュ撮影同調速度618
フラッシュ時シャッタースピード制限620
フラッシュ使用時の露出補正620
フラッシュ調光補正469
フラッシュ発光563
フラッシュブラケティング（オートブラケティングのセット）226
フラッシュモード101, 465
フラット（ピクチャーコントロール）244
プリセットマニュアル（ホワイトバランス）89, 197, 209
フリッカー低減561, 579
フルタイムAF77, 143
フレームレート264
プログラムオート109
プログラムシフト109
プロテクト378
ペアリング（Bluetooth）692
ヘッドホン音量583

ポートレート（ピクチャーコントロール）....244
ボタンのホールド設定....641
ポップ（スペシャルエフェクト）....119
ホワイトバランス....86, 195
ホワイトバランスブラケティング（WBブラケティング）....232
本体充電ACアダプター....816

マ

マイク感度....581
マイメニュー....744
マニュアル（撮影モード）....113
マニュアルフォーカス....162
マルチパターン測光....100, 166, 603
ミドルレンジシャープ（ピクチャーコントロール）....247
ミニチュア効果（スペシャルエフェクト）....120, 124
ミラーアップ撮影....74, 180, 185
ミレッド....203
明瞭度（ピクチャーコントロール）247
メニュー設定の保存と読み込み....703
モデリング発光....621
モニターの明るさ....658
モニターのカラーカスタマイズ....659
モニターのパワーオフ時間....606
モノクローム（ピクチャーコントロール）....244
モノトーン....733

ヤ

ユーザーセッティングの登録....115
ユーザーセッティングのリセット.118
ユーザーセッティングモード....115
ゆがみ補正....730
予測駆動フォーカス....141

ラ

ライブビューセレクター....40, 45
リサイズ....720
リセット....282
リモート撮影....404
リモコン（WR）設定....688
リモコン（WR）のFnボタンの機能....691
輪郭強調（ピクチャーコントロール）..247
レーティング....380, 543
レディーライト....849
レリーズモード....73, 178
レリーズモードダイヤル....73
レリーズモードダイヤルロックボタン 73
レンズ（使用できるレンズ）....786
レンズ情報手動設定....349, 351, 672
レンズの取り付け....25
レンズの取り外し....26
連続撮影....178
連続撮影コマ数....607
連続撮影中の表示（Lv）....616
連動レリーズモード設定....608
連番モード....611
ローキー（スペシャルエフェクト）120
ローパスフィルター....823
ローライトAF....599
録音帯域....582
露出インジケーター....114
露出設定ステップ幅....601
露出ディレーモード....608
露出プレビュー（Lv）....614
露出補正....94, 175
露出補正簡易設定....602

ワ

ワイドエリアAF（L）.....80, 150
ワイドエリアAF（S）.....80, 150
ワイヤレストランスミッター.....700
ワイヤレストランスミッター（WT-7）
700





製品の使い方に関するお問い合わせ先

■インターネットでのお問い合わせ
https://www.nikon-image.com/support/contact/

■お電話でのお問い合わせ
お電話でお問い合わせいただく前に本説明書の「困ったときは」をご参照ください。

ニコンカスタマーサポートセンター　ナビダイヤル
0570-02-8000

- 営業時間などの詳細については、上記のホームページをご覧ください。
- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター (03) 6702-0577 におかけください。

ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。ご登録いただいた製品に関するファームアップ情報や重要なお知らせなどをメールでご案内いたします。ニコンイメージング会員登録および製品登録は以下ニコンホームページからお手続きください。

ニコンイメージング会員のご案内
https://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/

ニコンイメージングサポートページのご案内

https://www.nikon-image.com/support/
最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧いただけます。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

© 2020 Nikon Corporation

SB2F05(10)
6MB45910-05